朝酌川広域河川改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第13冊

島根県松江市西川津町所在

西川津遺跡 Ⅷ

2001年3月

島根県土木部河川課
島根県教育委員会

朝酌川広域河川改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第13冊

島根県松江市西川津町所在

西川津遺跡 Ⅷ

2001年3月

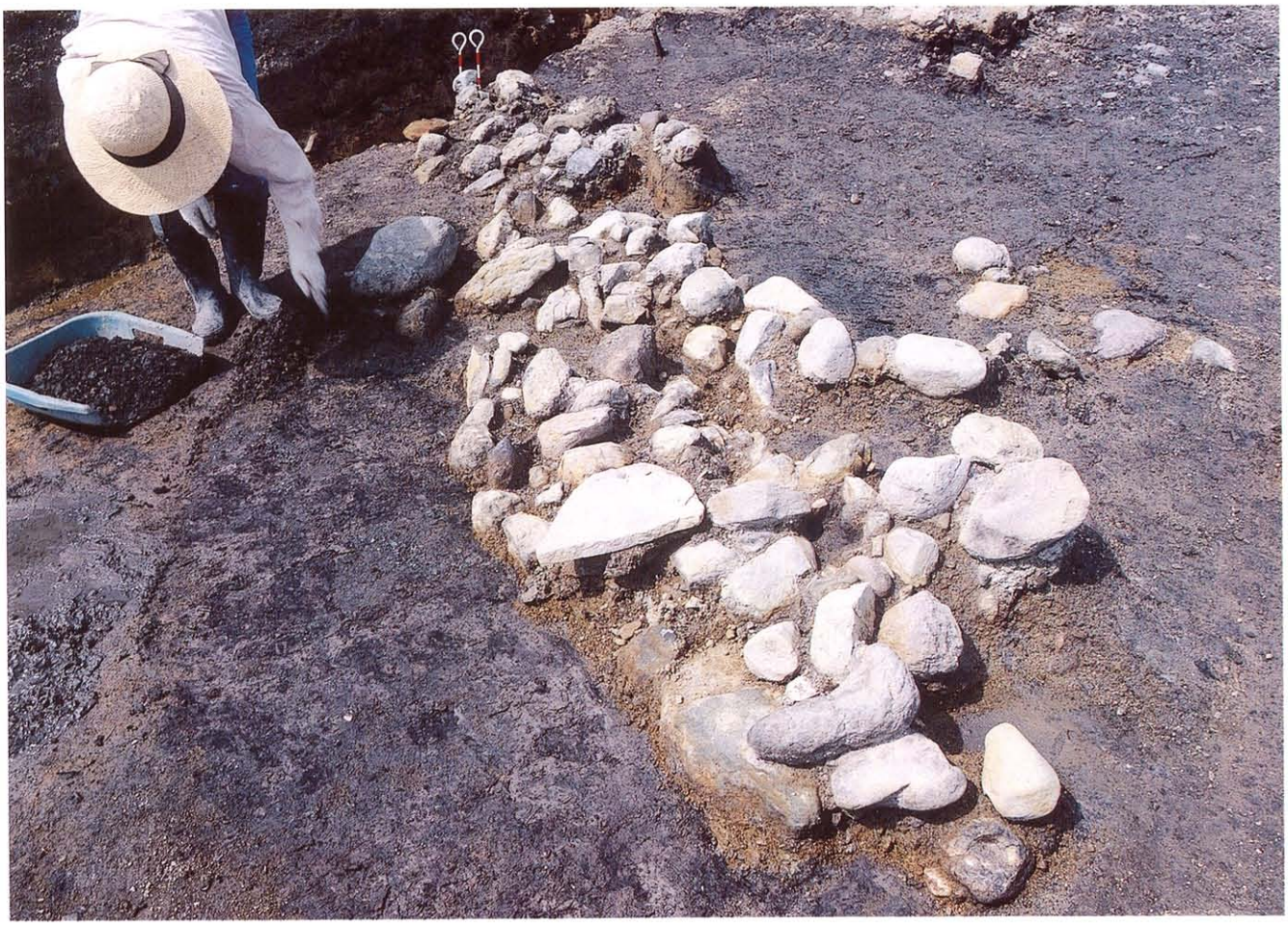
島根県土木部河川課
島根県教育委員会

人面付土器

調査区遠景（東方上空より）

調査区遠景（南西上空より）

遺物出土状況



護岸石組SX01

流水痕跡

Ⅴ－4区全景

Ⅴ－4－1区・噴砂断面

弥生時代・石器

古墳時代中期土器群

序

本報告書は、島根県教育委員会が島根県土木部から委託を受けて、平成10年度と11年度の２か年で実施した松江市西川津町の朝酌川広域河川改修事業予定地内に所在する西川津遺跡Ｖ区の発掘調査の成果を収録したものです。

この調査では今から1600年前～昭和初期までの朝酌川の旧河川を検出するとともに、堆積していた土砂の中から当時の人々が使用していた土器や石器、木製品などを多量に発見しました。これらの遺構・遺物は、朝酌川流域の集落の変遷と当時の生活を知るうえで貴重な資料となるものです。

本書がこの地域の自然環境の変化と歴史に触れる契機となり、私達の周りに残されている文化財への理解に少なからず寄与することが出来れば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査と報告書作成にあたって、御協力いただきました地元の皆様をはじめ、関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成13年３月

島根県教育委員会

教育長　**山　崎　悠　雄**

例　　言

1　本書は、島根県土木部河川課の委託を受けて、島根県教育委員会が平成10（1998）年度と平成11（1999）年度に実施した、朝酌川広域河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。

2　発掘調査を行った遺跡と地番は次の通りである。

西川津遺跡Ⅴ区　島根県松江市西川津町600番地（1998・1999年）

3　調査組織は次のとおりである。

［平成10（1998）年度］

［事務局］　勝部　昭（文化財課長）・宍道正年（埋蔵文化財調査センター長）
島地徳郎（課長補佐）・秋山　実（課長補佐）・丹羽野裕（調査第5係長）
川崎　崇（企画調整係主事）

［調査員］　岩橋孝典（調査第5係主事）・岩田和郷（同臨時職員）・鹿野孝博（同臨時職員）
内藤大司郎（同臨時職員）

［調査指導者］　徳岡隆夫（島根大学総合理工学部教授）・田中義昭（同法文学部教授）
酒井龍一（奈良大学文学部教授）

［平成11（1999）年度］

［事務局］　宍道正年（埋蔵文化財調査センター所長）・秋山　実（同総務課長）
松本岩雄（同調査課長）・西尾克己（同主幹）・今岡　宏（同総務係長）
川崎　崇（同総務係主事）

［調査員］　岩橋孝典（同調査第2係主事）・鹿野孝博（同臨時職員）
南目芙美子（同臨時職員）

［調査指導者］　徳岡隆夫（島根大学総合理工学部教授）・林　正久（同教育学部教授）
竹広文明（同汽水域研究ｾﾝﾀｰ助手）・田中義昭（島根県文化財保護審議会委員）

［平成12（2000）年度］

［事務局］　宍道正年（埋蔵文化財調査センター所長）・内田　融（同務総課長）
松本岩雄（同調査課長）・今岡　宏（同総務係長）・広江耕史（同調査第6係長）
川崎　崇（同総務係主事）

［調査員］　岩橋孝典（同調査第6係主事）・鹿野孝博（同臨時職員）

4　自然遺物及び自然科学分析は、次の方々の協力を頂き、その結果を収録した。

樹種同定：財団法人元興寺文化財研究所
渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

花粉分析：渡辺正巳

放射性炭素同位体年代測定：株式会社地球科学研究所

石材鑑定：中村唯史（島根大学汽水域研究センター客員研究員・現島根県景観自然課）

地質調査：渡辺正巳、中村唯史

動物遺存体鑑定：井上貴央（鳥取大学医学部教授）

5　挿図中の方位は国土測量法による第Ⅲ系座標X軸の方向を示す。従って磁北より7°12′（真北より0°32′）東の方向を示す。レベルは海抜高である。

6　本報告書に掲載した第1・2図は「松江圏都市計画図」を使用した。また、第3図下段・4図は国土地理院発行の1/25,000図「松江」（昭和31年、昭和50年、平成9年1月発行）を使用した。第3図上段は陸軍測地部測量図（大正4年）を使用した。

7　調査にあたり協力及び従事していただいた方々・機関は以下のとおりである。（敬称略）

【調査協力】

石田弘至・石飛重義・中村浩士・堀内時雄（土木部河川課）・中島秀夫・布村　隆・矢野　進
新田国善・中村伸二（松江土木建築事務所）・佐藤正好（茨城県立歴史館）
穴澤義功（たたら研究会）・井上智博（財団法人大阪府埋蔵文化財調査研究センター）
奥井哲秀（大阪府茨木市立文化財資料館）・濱野俊一（茨木市教育委員会）
設楽博己（国立歴史民俗博物館）・武末純一（福岡大学）・下條信行（愛媛大学）
石川日出志（明治大学）・山内靖喜（島根大学）・松江市川津公民館

【発掘調査作業】

安達多津子・足立利美・石川　稔・井上節夫・井上三重・岩本太平・遠藤　繁・大筒　肇・小川吉子・小草美代子・佐々木一夫・佐藤光男・角　亮太・須山卓郎・仙田照子・高木正雄・高倉重夫・田部　茂・田部千重子・谷洋一郎・永島雄三・野津昭江・野津千俊・原　唯雄・平江功・福田美代江・藤原嘉弘・古川　隼・細木澄子・宮廻　恭・持田京子・山蔭　猛・山本嘉男・余村広美・和田隆徳

【遺物整理・報告書作成作業】

板垣見知子・内海紀子・岸 美佐子・佐竹啓子・瀬川恭子・渡部哲子・吉田典子

8　本報告書の作成は以下の者が行った。

［遺物・遺構の実測、製図］板垣・岩田・岩橋・内海・鹿野・清水初美・瀬川・内藤・中川寧・南目・丹羽野・渡部

［遺物・遺構の写真撮影］　岩橋・鹿野・広江

一部の遺物写真については牛嶋　茂氏（奈良国立文化財研究所）
杉本和樹氏（西大寺フォト）に撮影していただいたものである。

9　本報告書の執筆・編集は文化財課・埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て岩橋が行い、第5章・自然科学的分析については渡辺正巳・中村唯史が執筆した。また、第3章の文章中に掲載したC14同位体年代測定結果は地球科学研究所の報告を抜粋して掲載したものである。

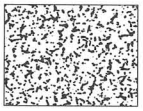
10　出土遺物及び実測図、写真は島根県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管している。なお、本報告書では型式分類を優先したため、図化掲載できた遺物は少ないが、遺物は各型式ごとに整理して保管しているので広範な活用を期待したい。

11　掲載している遺物のスケールは土器・土製品1/4、石製品1/2、木製品1/6、金属器1/2を基本としているが、図版のサイズに規制される場合は、さらに縮小している場合がある。スケールは各図版に明示しているので確認願いたい。

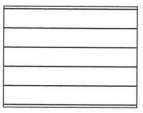
12　遺構挿図におけるスクリーントーン等の凡例は以下のとおりである。

なお、この凡例にないものは、各挿図中に別途凡例を設けている。

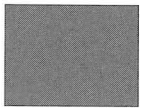
砂レキ（粒径が２㎜を越えるものを砂レキとした）



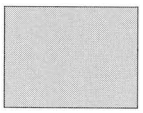
粗砂・細砂（粒径0.2㎜～２㎜までのもの）



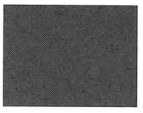
泥層（河川堆積内に流失した地山ブロックは白抜き）



粘土層・粘質土層



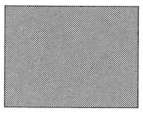
シルト層・砂質土層



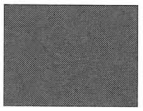
試掘トレンチ跡

遺物挿図におけるスクリーントーン等の凡例は以下のとおりである。

赤彩部分



漆塗り部分



炭素吸着部分

本 文 目 次

序

例　　言

第1章　調査に至る経緯と経過 …… 1
　第1節　経　　緯 …… 1
　第2節　経　　過 …… 3

第2章　遺跡を取り巻く環境 …… 7

第3章　調査の概要・V区の土層と遺構 …… 9
　第1節　土　　層 …… 9
　第2節　遺構とそれに伴う遺物 …… 10

第4章　遺物の概要・V区河道の遺物について …… 13
　第1節　縄 文 土 器 …… 13
　第2節　弥 生 土 器 …… 14
　第3節　古墳時代～奈良時代の土師器 …… 17
　第4節　須　恵　器 …… 18
　第5節　奈良時代～中世の供膳土師器 …… 19
　第6節　陶　磁　器 …… 20
　第7節　金属関係遺物 …… 20
　第8節　石　製　品 …… 20
　第9節　木　製　品 …… 22

第5章　自然科学的分析 …… 25
　第1節　西川津遺跡における花粉組成変遷と周辺地域の環境変遷 …… 25
　第2節　西川津遺跡の地下層序 …… 44

第6章　ま　と　め …… 47

表　目　次

第１表　西川津遺跡Ｖ区（平成10年度調査）・旧河道内遺物出土状況セリエーション
第２表　西川津遺跡Ｖ区（平成11年度調査）・旧河道内遺物出土状況セリエーション
第３表　西川津遺跡Ｖ区出土土器総合統計表
第４表　西川津遺跡Ｖ－１－２区・貝塚出土土器統計表
第５表　西川津遺跡Ｖ区出土・縄文土器統計表（１）
第６表　西川津遺跡Ｖ区出土・縄文土器統計表（２）
第７表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期無文甕）統計表〔１〕
第８表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期無文甕）統計表〔２〕
第９表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期１～２条沈線甕）統計表〔１〕
第10表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期１～２条沈線甕）統計表〔２〕
第11表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期３～５条沈線甕）統計表〔１〕
第12表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期３～５条沈線甕）統計表〔２〕
第13表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期６～10条以上沈線甕）統計表
第14表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期多条沈線・刺突文甕）統計表
第15表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期壺・頸胴部）の統計表〔１〕
第16表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期壺・頸胴部）の統計表〔２〕
第17表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期加飾壺）の統計表
第18表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期壺・口縁部）の統計表
第19表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期・その他器種）の統計表
第20表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器底部の統計表
第21表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（Ⅱ期）の統計表
第22表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（Ⅲ・Ⅳ期甕）の統計表〔１〕
第23表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（Ⅲ・Ⅳ期甕）の統計表〔２〕
第24表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（Ⅲ・Ⅳ期壺）の統計表〔１〕
第25表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（Ⅲ・Ⅳ期壺）の統計表〔２〕
第26表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（Ⅲ・Ⅳ期鉢、無頸壺）の統計表
第27表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（Ⅲ・Ⅳ期高杯）の統計表
第28表　西川津遺跡Ｖ区出土・弥生後期土器の統計表
第29表　西川津遺跡Ｖ区出土・古墳時代前期土器の統計表〔１〕
第30表　西川津遺跡Ｖ区出土・古墳時代前期土器の統計表〔２〕
第31表　西川津遺跡Ｖ区出土・古墳時代中期土器の統計表〔１〕
第32表　西川津遺跡Ｖ区出土・古墳時代中期土器の統計表〔２〕
第33表　西川津遺跡Ｖ区出土・古墳時代後期～古代煮沸具の統計表
第34表　西川津遺跡Ｖ区出土・須恵器統計表
第35表　西川津遺跡Ｖ区出土・古代～中世土師器・中近世陶磁器の統計表
第36表　西川津遺跡Ｖ区出土・漁労具系土製品の統計表
第37表　西川津遺跡Ｖ区出土・近世陶磁器の統計表
第38表　西川津遺跡Ｖ－１－２区・貝塚出土遺物観察表
第39表　西川津遺跡Ｖ区出土・縄文土器観察表〔１〕
第40表　西川津遺跡Ｖ区出土・縄文土器観察表〔２〕
第41表　西川津遺跡Ｖ区出土・縄文土器観察表〔３〕
第42表　西川津遺跡Ｖ区出土・縄文土器観察表〔４〕

第43表　西川津遺跡Ⅴ区出土・縄文土器観察表〔5〕
第44表　西川津遺跡Ⅴ区出土・縄文土器観察表〔6〕
第45表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔1〕
第46表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔2〕
第47表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔3〕
第48表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔4〕
第49表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔5〕
第50表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔6〕
第51表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔7〕
第52表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔8〕
第53表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔9〕
第54表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔10〕
第55表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔11〕
第56表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔12〕
第57表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔13〕
第58表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔14〕
第59表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔15〕
第60表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔16〕
第61表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔17〕
第62表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔18〕
第63表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔19〕
第64表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔20〕
第65表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔21—1〕
第66表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔21—2〕
第67表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔21—3〕
第68表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔22—1〕
第69表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔22—2〕
第70表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔22—3〕
第71表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔23〕
第72表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔24〕
第73表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔25—1〕
第74表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔25—2〕
第75表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔26〕
第76表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔27〕
第77表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔28〕
第78表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔29〕
第79表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔30〕
第80表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔31〕
第81表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔32〕
第82表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔33〕
第83表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔34〕
第84表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔35〕
第85表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔36〕
第86表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔37〕
第87表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔38〕

第88表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔39〕
第89表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔40〕
第90表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔41－1〕
第91表　西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表〔41－2〕
第92表　西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔1〕
第93表　西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔2〕
第94表　西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔3〕
第95表　西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔4〕
第96表　西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔5〕
第97表　西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔6〕
第98表　西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔7〕
第99表　西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔8〕
第100表 西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔9〕
第101表 西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔10〕
第102表 西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔11〕
第103表 西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔12〕
第104表 西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔13〕
第105表 西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔14〕
第106表 西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔15〕
第107表 西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔16〕
第108表 西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔17〕
第109表 西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表〔18〕
第110表 西川津遺跡Ⅴ区出土・須恵器観察表〔1〕
第111表 西川津遺跡Ⅴ区出土・須恵器観察表〔2〕
第112表 西川津遺跡Ⅴ区出土・須恵器観察表〔3〕
第113表 西川津遺跡Ⅴ区出土・須恵器観察表〔4〕
第114表 西川津遺跡Ⅴ区出土・須恵器観察表〔5〕
第115表 西川津遺跡Ⅴ区出土・須恵器観察表〔6〕
第116表 西川津遺跡Ⅴ区出土・須恵器観察表〔7〕　西川津遺跡Ⅴ区出土・須恵器観察表〔8〕
第117表 西川津遺跡Ⅴ区出土・古代～中世土師器観察表〔1〕
第118表 西川津遺跡Ⅴ区出土・古代～中世土師器観察表〔2〕
第119表 西川津遺跡Ⅴ区出土・古代～中世土師器観察表〔3〕
第120表 西川津遺跡Ⅴ区出土・中近世陶磁器観察表〔1〕
第121表 西川津遺跡Ⅴ区出土・中近世陶磁器観察表〔2〕
第122表 西川津遺跡Ⅴ区出土・土錘観察表
第123表 西川津遺跡Ⅴ区出土・青銅滓、羽口観察表
第124表 西川津遺跡Ⅴ区出土・鉄斧観察表
第125表 西川津遺跡Ⅴ区出土・短刀観察表
第126表 西川津遺跡Ⅴ区出土・銭貨観察表
第127表 西川津遺跡Ⅴ区出土・石器観察表〔1〕
第128表 西川津遺跡Ⅴ区出土・石器観察表〔2〕
第129表 西川津遺跡Ⅴ区出土・石器観察表〔3〕
第130表 西川津遺跡Ⅴ区出土・石器観察表〔4〕
第131表 西川津遺跡Ⅴ区出土・黒曜石統計表
第132表 西川津遺跡Ⅴ区出土・木製品観察表

挿　図　目　次

第Ａ図　試料採集地点
第Ｂ図　Ｖ区深掘の花粉ダイアグラム
第Ｃ図　Ｖ－１－２区東壁の花粉ダイアグラム
第Ｄ図　Ｖ区深掘の珪藻ダイアグラム
第Ｅ図　Ｖ区深掘の珪藻総合ダイアグラム
第Ｆ図　Ｖ区深掘のプラント・オパールダイアグラム
第Ｇ図　Ｖ区－Ａの花粉ダイアグラム（渡辺・1999を改）
第Ｈ図　Ｖ－４区推定断面図
第Ｉ図　西川津遺跡の推定断面図
第１図　西川津遺跡と周辺の遺跡（Ｓ＝1/900）
第２図　西川津遺跡・調査地周辺図（Ｓ＝1/3,000）
第３図　松江市北部変遷図１（Ｓ＝1/50,000）
第４図　松江市北部変遷図２（Ｓ＝1/50,000）
第５図　調査区配置図（Ｓ＝1/400）
第６図　調査後地形図（Ｓ＝1/400）
第７図　SR01平面図（Ｓ＝1/160）
第８図　SR01断面図（Ｓ＝1/100）
第９図　Ｖ－１－１・２・３区西壁実測図（Ｓ＝1/80）
第10図　Ｖ－１－１・２・３区東壁実測図（Ｓ＝1/80）
第11図　Ｖ－４－１・２・３区東壁実測図（Ｓ＝1/80）
第12図　Ｖ－４－４区東・南壁実測図（Ｓ＝1/80）
第13図　Ｖ－１－３・Ｖ－４－２区北壁実測図（Ｓ＝1/80）
第14図　Ｖ－１－２・Ｖ－４－１区北壁実測図（Ｓ＝1/80）
第15図　Ｖ－１－１区北壁・Ｖ－４－１区南壁実測図（Ｓ＝1/80）
第16図　Ｖ－１－１区南壁実測図（Ｓ＝1/80）
第17図　Ｖ－１－２区貝塚関連実測図（Ｓ＝1/40）
第18図　Ｖ－１－２区貝塚遺物出土状況図（Ｓ＝1/40：遺物1/6）
第19図　Ｖ－４－２区遺構配置図（Ｓ＝1/60：拡大図1/30）
第20図　Ｖ－４－２区石組（SX01）実測図（Ｓ＝1/30）
第21図　Ｖ－４－２区石組（SX01）出土遺物実測図（Ｓ＝1/2）
第22図　Ｖ－４－２区砂レキJ分布図（Ｓ＝1/200：遺物1/8）
第23図　Ｖ－１－３区砂レキE、Ｖ－４－２区砂レキF分布図（Ｓ＝1/200：遺物1/8）
第24図　Ｖ－１－３区砂レキC・D、Ｖ－４－１・２区砂レキD・E分布図（Ｓ＝1/200：遺物1/8）
第25図　Ｖ－４－１・３区砂レキB分布図（Ｓ＝1/200：遺物1/8）
第26図　Ｖ－１－１・２区砂レキ２、Ｖ－４－１区砂レキA分布図（Ｓ＝1/200：遺物1/8）
第27図　Ｖ－１－２区貝塚出土遺物実測図（Ｓ＝1/4）
第28図　縄文土器実測図（１）（Ｓ＝1/4）
第29図　縄文土器実測図（２）（Ｓ＝1/4）
第30図　縄文土器実測図（３）（Ｓ＝1/4）
第31図　縄文土器実測図（４）（Ｓ＝1/4）
第32図　縄文土器実測図（５）（Ｓ＝1/4）
第33図　弥生土器実測図（１）（Ｓ＝1/4）

第34図　弥生土器実測図（２）（S＝1/4）
第35図　弥生土器実測図（３）（S＝1/4）
第36図　弥生土器実測図（４）（S＝1/4）
第37図　弥生土器実測図（５）（S＝1/4）
第38図　弥生土器実測図（６）（S＝1/4）
第39図　弥生土器実測図（７）（S＝1/4）
第40図　弥生土器実測図（８）（S＝1/4）
第41図　弥生土器実測図（９）（S＝1/4）
第42図　弥生土器実測図（10）（S＝1/4）
第43図　弥生土器実測図（11）（S＝1/4）
第44図　弥生土器実測図（12）（S＝1/4）
第45図　弥生土器実測図（13）（S＝1/4）
第46図　弥生土器実測図（14）（S＝1/4）
第47図　弥生土器実測図（15）（S＝1/4）
第48図　弥生土器実測図（16）（S＝1/4）
第49図　弥生土器実測図（17）（S＝1/4）
第50図　弥生土器実測図（18）（S＝1/4）
第51図　弥生土器実測図（19）（S＝1/4）
第52図　弥生土器実測図（20）（S＝1/4）
第53図　弥生土器実測図（21）（S＝1/4）
第54図　弥生土器実測図（22）（S＝1/4）
第55図　弥生土器（人面付土器）実測図（23）（S＝1/2）
第56図　弥生土器実測図（24）（S＝1/4）
第57図　弥生土器実測図（25）（S＝1/4）
第58図　弥生土器実測図（26）（S＝1/4）
第59図　弥生土器実測図（27）（S＝1/4）
第60図　弥生土器実測図（28）（S＝1/4）
第61図　弥生土器実測図（29）（S＝1/4）
第62図　弥生土器実測図（30）（S＝1/4）
第63図　弥生土器実測図（31）（S＝1/4）
第64図　弥生土器実測図（32）（S＝1/4）
第65図　弥生土器実測図（33）（S＝1/4）
第66図　弥生土器実測図（34）（S＝1/4）
第67図　弥生土器実測図（35）（S＝1/4）
第68図　土師器実測図（１）（S＝1/4）
第69図　土師器実測図（２）（S＝1/4）
第70図　土師器実測図（３）（S＝1/4）
第71図　土師器実測図（４）（S＝1/4）
第72図　土師器実測図（５）（S＝1/4）
第73図　土師器実測図（６）（S＝1/4）
第74図　土師器実測図（７）（S＝1/4）
第75図　土師器実測図（８）（S＝1/4）
第76図　土師器実測図（９）（S＝1/4）
第77図　土師器実測図（10）（S＝1/4）
第78図　土師器実測図（11）（S＝1/4）

第79図　須恵器実測図（１）（S＝1/4）
第80図　須恵器実測図（２）（S＝1/4）
第81図　須恵器実測図（３）（S＝1/4）
第82図　須恵器実測図（４）（S＝1/4）
第83図　須恵器実測図（５）（S＝1/4）
第84図　須恵器実測図（６）（S＝1/4）
第85図　古代～中世土師器実測図（１）（S＝1/4）
第86図　中近世陶磁器・土錘・金属関係遺物実測図　陶磁器（S＝1/4）、土錘・金属関係遺物（S＝1/2）
第87図　石製品実測図（１）（S＝1/1）
第88図　石製品実測図（２）（S＝1/1）
第89図　石製品実測図（３）（S＝1/2）
第90図　石製品実測図（４）（S＝1/2）
第91図　石製品実測図（５）（S＝1/2）
第92図　石製品実測図（６）（S＝1/2）
第93図　石製品実測図（７）（S＝1/2）
第94図　石製品実測図（８）（S＝1/2）
第95図　石製品実測図（９）（S＝1/2）
第96図　石製品実測図（10）（S＝1/2）
第97図　石製品実測図（11）（S＝1/2）
第98図　石製品実測図（12）（S＝1/2）
第99図　石製品実測図（13）（S＝1/2）
第100図 石製品実測図（14）（S＝1/2）
第101図 石製品実測図（15）（S＝1/2）
第102図 木製品実測図（１）（S＝1/6）
第103図 木製品実測図（２）　臼状木製品（S＝1/12）　フォーク状一木鋤（S＝1/6）・3～8（S＝1/2）
第104図 木製品実測図（３）（S＝1/6）
第105図 木製品実測図（４）（S＝1/6）
第106図 木製品実測図（５）（S＝1/6）

図　版　目　次

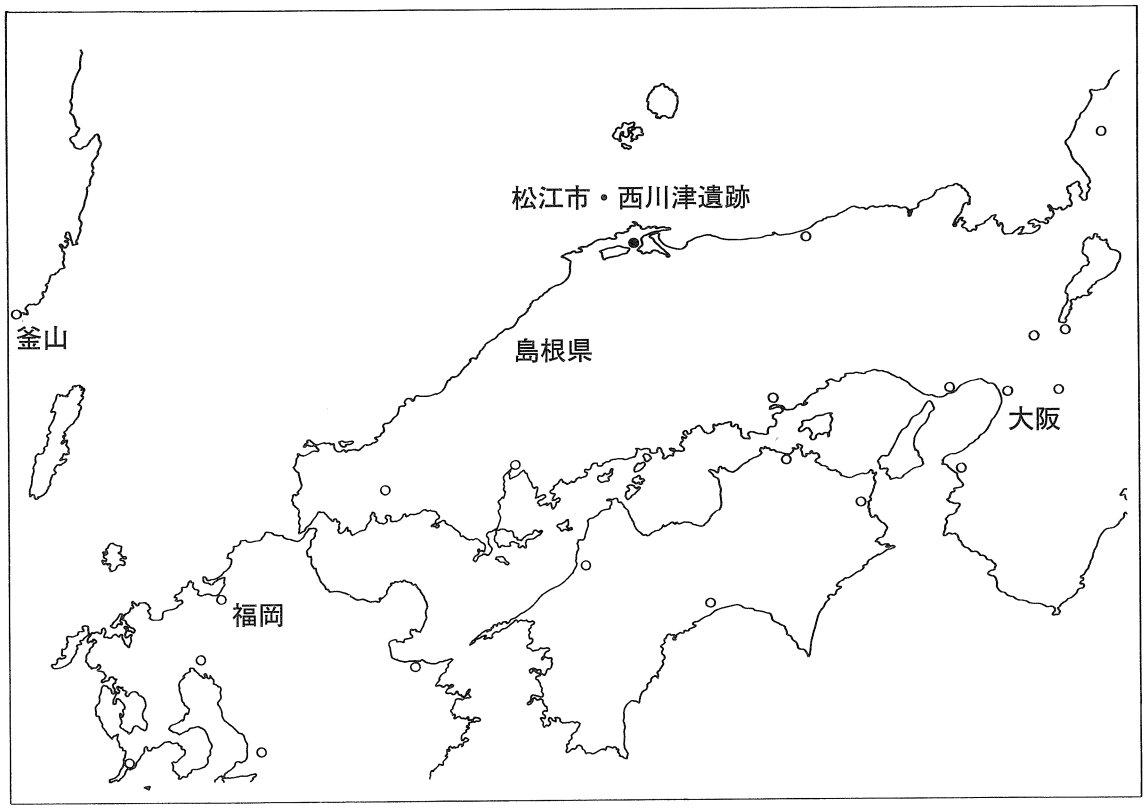
PL. 1　人面付土器
PL. 2　調査区遠景（東方上空より）
PL. 3　調査区遠景（南西上空より）
PL. 4　上：遺物出土状況　下：護岸石組SX01
PL. 5　上：流水痕跡　下：Ⅴ－4区全景
PL. 6　Ⅴ－4－1区・噴砂断面
PL. 7　弥生時代・石器
PL. 8　古墳時代中期土器群

図版1　西川津遺跡全景（北東上空より）
図版2　上：西川津遺跡遠景（東方上空より）　下：調査区全景（上空より）
図版3　上：平成10年度調査風景（海崎橋より）　下：平成11年度調査風景（海崎橋より）
図版4　Ⅴ－2－2区・SR01全景（東より）
図版5　上：Ⅴ－4－3区・SR01新全景（東南より）　下：Ⅴ－4－3区・SR01古全景（東南より）
図版6　上左：Ⅴ－4－3区・SR01北岸（東より）　上右：Ⅴ－4－3区・SR01北岸（西より）
　　下：Ⅴ－2－2区・SR01全景（西より）
図版7　上：Ⅴ-1-3区・木製鋤出土状況（103-7）　下：Ⅴ-1-2区・エブリ出土状況（102-10）
図版8　Ⅴ－1－2区・貝塚断面（南西より）
図版9　上：Ⅴ－1－2区・貝塚（北西より）　下：Ⅴ－1－2区・貝塚獣骨出土状況
図版10　上：Ⅴ－1－2区・貝塚断面（北西より）　中：Ⅴ－1－2区・貝塚断面（西より）
　　下：Ⅴ－1－2区・貝塚断面（西より）
図版11　上：Ⅴ－4区全景（南より）　下左：Ⅴ－4－1・2区作業状況（南より）
　　下右：Ⅴ－4－4区作業状況（南より）
図版12　上左：Ⅴ－4－1区全景（北東より）　上右：Ⅴ－4－1・2区全景（南より）
　　下：Ⅴ－4区全景（北より）
図版13　上：Ⅴ－4－2区・臼状木製品出土状況（103－1）
　　下：Ⅴ－4－2区・土器出土状況（51—12・69—20）
図版14　上：Ⅴ－4－2区東北角・砂レキJ堆積状況　下：Ⅴ－4－2区・泥層検出状況
図版15　上：Ⅴ－4－1区・泥層先行トレンチ（上方の白線がアカホヤ火山灰）
　　下：Ⅴ－4－1区東壁・噴砂
図版16　上：Ⅴ-4-2区・石組護岸状遺構SX01　下：Ⅴ-4-1・土師器椀出土状況（第26・85図）
図版17　上：Ⅴ－1－1区・西壁　下：Ⅴ－2－1区・南壁
図版18　上：Ⅴ－1－3区・西壁　下：Ⅴ－1区全景（北東より）
図版19　上：縄文土器（早期）　下：縄文土器（早期）
図版20　上：縄文土器（前期）　下：縄文土器（前期）
図版21　上：縄文土器（前期）　下：縄文土器（前期）
図版22　上：縄文土器（前期）　下：縄文土器（中・後期）
図版23　上：縄文土器（後期）　下：縄文土器（晩期）
図版24　上：縄文土器（晩期）　下：縄文土器（晩期）
図版25　上：縄文土器（晩期）　下：突帯文系土器
図版26　上：土器片錘（縄文時代）　下：Ⅴ－1－2区・貝塚出土土器
図版27　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）

図版28　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版29　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版30　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版31　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版32　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版33　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版34　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版35　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版36　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版37　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版38　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版39　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版40　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版41　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版42　弥生土器（Ⅰ期）
図版43　弥生土器（Ⅰ期）
図版44　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版45　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版46　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版47　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版48　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版49　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版50　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版51　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期～Ⅱ期）
図版52　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版53　弥生土器（Ⅰ期～Ⅲ期）
図版54　弥生土器（Ⅰ期）
図版55　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版56　上：弥生土器（Ⅰ期）　下：弥生土器（Ⅰ期）
図版57　人面付土器
図版58　上：弥生土器（Ⅱ期）　下：弥生土器（Ⅱ期）
図版59　上：弥生土器（Ⅱ期）　下：弥生土器（Ⅱ期）
図版60　上：弥生土器（Ⅱ期）　下：弥生土器（Ⅱ期）
図版61　上：弥生土器（Ⅲ期）　下：弥生土器（Ⅲ期）
図版62　上：弥生土器（Ⅳ期）　下：弥生土器（Ⅲ～Ⅳ期）
図版63　上：弥生土器（Ⅱ～Ⅳ期）　下：弥生土器（Ⅲ期）
図版64　上：弥生土器（Ⅲ期）　下：弥生土器（Ⅲ期）
図版65　上：弥生土器（Ⅲ～Ⅳ期）　下：弥生土器（Ⅳ期）
図版66　上：弥生土器（Ⅳ期）　下：弥生土器（Ⅳ期）
図版67　上：弥生土器（Ⅲ～Ⅳ期）　下：弥生土器（Ⅲ～Ⅳ期）
図版68　弥生土器（Ⅲ～Ⅳ期）
図版69　上：弥生土器（Ⅴ期）　下：弥生土器（Ⅴ期）
図版70　上：弥生土器（Ⅴ期）　下：弥生土器（Ⅴ期）
図版71　上：弥生土器（Ⅴ期）　下：弥生土器（Ⅴ期）
図版72　上：弥生土器（Ⅴ期）　下：弥生土器（Ⅴ期）

図版73　上：弥生土器（Ⅰ～Ⅴ期）　下：土器片錘・土器転用円盤状土製品（弥生時代）
図版74　上：土器転用紡錘車（弥生時代）　下：土師器（古墳時代前期）
図版75　上：土師器（古墳時代前期）　下：土師器（古墳時代前期）
図版76　上：土師器（古墳時代前期）　下：土師器（古墳時代前期）
図版77　上：土師器（古墳時代前期）　下：土師器（古墳時代前期）
図版78　上：土師器（古墳時代前期）　下：土師器（古墳時代前期）
図版79　上：土師器（古墳時代前期）　下：土師器（古墳時代前期）
図版80　土師器（古墳時代前期末～中期）
図版81　上：土師器（古墳時代前期末～中期）　下：土師器（古墳時代中期）
図版82　上：土師器（古墳時代中期）　下：土師器（古墳時代中期）
図版83　上：土師器（古墳時代中期）　下：土師器（古墳時代中期）
図版84　上：土師器（古墳時代中期）　下：土師器（古墳時代中期）
図版85　上：土師器（古墳時代中期）　下：土師器（古墳時代後期）
図版86　上：土師器（古墳時代後期）　下：土師器（古墳時代後期）
図版87　上：土師器（7～8世紀）　下：土師器（古墳時代中期）
図版88　土師器（古墳時代中期）
図版89　土師器（古墳時代前～中期）
図版90　土師器（古墳時代中～後期）
図版91　土師器（古墳時代前～中期）
図版92　土師器（古墳時代前～中期）
図版93　上：須恵器（5世紀末～6世紀前半）　下：須恵器（5世紀末～6世紀前半）
図版94　上：須恵器（6世紀後半～7世紀初頭）　下：須恵器（6世紀後半～7世紀初頭）
図版95　上：須恵器・大甕　下：須恵器・大甕
図版96　上：須恵器（6世紀後半～7世紀初頭）　下：須恵器（6世紀後半～7世紀初頭）
図版97　上：須恵器（7世紀末～8世紀）　下：須恵器（8世紀～9世紀）
図版98　上：須恵器（8世紀～9世紀）　下：須恵器（9世紀～10世紀）
図版99　須恵器（5世紀末～7世紀初頭）
図版100 須恵器（7世紀）
図版101 須恵器（7世紀後半～8世紀）
図版102 須恵器（8世紀～9世紀初頭）
図版103 須恵器（9世紀）
図版104 墨書須恵器（8世紀後半～9世紀）
図版105 須恵器（9世紀後半）
図版106 上：灰釉陶器（9世紀後半）　下：土師器（9世紀後半～13世紀）
図版107 上：黒色土器（9世紀後半～10世紀前半）　下：土錘
図版108 土師器（8世紀～16世紀）
図版109 上：中近世陶磁器　下：中近世陶磁器
図版110 上：弥生土器（Ⅰ期）　下：近世磁器（肥前系）
図版111 金属関連遺物
図版112 上：黒曜石塊　下：後期旧石器
図版113 黒曜石製石器
図版114 打製石斧・磨石
図版115 局部磨製石斧・太型蛤刃石斧
図版116 上：環状石斧　下：石剣・石戈
図版117 上：片刃石斧　下：石製紡錘車

図版118 上：有孔石包丁　下：大型磨製石包丁
図版119 上：扁平磨製石器　下：打製石包丁
図版120 上：擦り切り痕・擦痕のある未製品　下：石包丁未製品・原材
図版121 上：石鎌　下：砥石
図版122 木製品
図版123 木製品
図版124 木製品
図版125 木製品
図版126 木製品
図版127 木製品
図版128 木製品
図版129 木製品
図版130 木材プレパラート
図版131 木材プレパラート
図版132 木材プレパラート
図版133 木材プレパラート
図版134 木材プレパラート


松江市・西川津遺跡
釜山
島根県
大阪
福岡

第 1 章

調査に至る経緯と経過

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査にいたる経緯

本書に掲載する西川津遺跡は、島根県松江市の北東部を北から南へ流れ大橋川に注ぐ朝酌川沿いに位置している。朝酌川沿いには上流側から西川津遺跡、原の前遺跡、タテチョウ遺跡が約２㎞に亘って連なっており、一体の低湿地遺跡群を形成している。近年ではこれら３遺跡を併せて「朝酌川遺跡群」と通称されることもあり、県下でも有数の大規模複合遺跡として認識されている。

「朝酌川遺跡群」の発見は、1934（昭和９）年に行われた堰と水門を造る工事中に、西川津町字竪町（現タテチョウ遺跡の南端）において弥生土器などが発見され、その存在が確認されたことを発端とする。この付近において、1949（昭和24）年に島根大学の山本清氏によって試掘調査が行われ、タテチョウ遺跡が弥生時代を中心に古墳時代に及ぶ複合遺跡であることが判明した。（近年の調査により、タテチョウ遺跡は近現代まで及ぶ複合遺跡であることが追認されている）

西川津遺跡の発見は1939（昭和14）年に行われた水田の排水工事の際に弥生土器などが発見されたことによる。また、戦後の間もない時期に行われた電柱埋設工事と1967（昭和42）年の県道松江－境線（現国道431号線）沿いの電話線の埋設工事の際にも土器などが発見されていたが、発掘調査が実施されなかったことから遺跡の範囲や性格は不明であった。

昭和40年代となり、松江市街地に隣接する朝酌川流域の水田地帯は急激な市街化が進行した。そのため増水時には朝酌川の氾濫が宅地にも大きな被害を与えるようになり、問題を重く見た島根県土木部は1972（昭和47）年から河川改修計画を立て、河道の直線化と川幅の拡幅に着手することとなった。島根県教育委員会では島根県土木部からの依頼を受けて、1974（昭和49）年に工事予定地内の下流側に位置するタテチョウ遺跡の範囲確認調査を行い、その結果、南北300ｍに及ぶ大規模遺跡であることが判明した。タテチョウ遺跡の本調査は1977（昭和52）年から開始され、1991（平成３）年に終了した。

朝酌川の暫定掘削工事は下流側から進められたが、1979（昭和54）年には上流側の西川津町橋本のガラガラ橋と宮尾橋との間で遺物が発見され、西川津遺跡とタテチョウ遺跡の中間地帯にも遺跡が存在することが確認された。この遺跡は字名をとって「原の前遺跡」と命名された。原の前遺跡の発掘調査は1992（平成４）年と1993（平成５）年の２ヶ年実施した。

最上流側に位置する西川津遺跡では、納佐川と持田川の合流地点の下流から暫定掘削が開始されることになり、タテチョウ遺跡の調査と一部平行して1972（昭和47）年から1981（昭和56）年に調査が実施され、弥生時代の貝塚や円形貯木場など保存状況の良い遺構・遺物が検出されている。

1994（平成６）年からは西川津遺跡の残りの区間の調査が進められ、1999（平成11）年に実施したＶ区の調査で本流の開削・拡幅工事に伴う現地調査は終了した。

「朝酌川遺跡群」に関する島根県教育委員会の既刊報告書・パンフレット一覧

【発掘調査報告書】

1979　島根県教育委員会　『朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
1980　島根県教育委員会　『朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
1981　島根県教育委員会　『西川津遺跡詳細分布調査報告書』
1982　島根県教育委員会　『朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
1987　島根県教育委員会　『朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
1987　島根県教育委員会　『朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ(海崎地区１)』
1988　島根県教育委員会　『朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅳ(海崎地区２)』
1989　島根県教育委員会　『朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅴ(海崎地区３)』
1990　島根県教育委員会　『朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
1992　島根県教育委員会　『朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
1995　島根県教育委員会　『朝酌川中小河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
　　原の前遺跡』
1999　島根県教育委員会　『朝酌川広域河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第11冊
　　西川津遺跡Ⅵ』
2000　島根県教育委員会　『朝酌川中小河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第12冊
　　西川津遺跡Ⅶ』
2001　島根県教育委員会　『朝酌川広域河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第13冊
　　西川津遺跡Ⅷ』(本報告書)

【パンフレット】

1989　島根県教育委員会　『川虎の棲む川　―西川津・タテチョウ遺跡調査の記録―』
1997　島根県教育委員会　『よみがえるあさくみがわのながれ』
1998　島根県教育委員会　『むかしむかしのあさくみがわ　よみがえるあさくみがわのながれⅡ』
2001　島根県教育委員会　『よみがえるあさくみがわのながれ総集編』

第２節　調査の経過

平成８（1996）年度に調査を終了したＶ区―Ａ、Ｖ区－Ｂに挟まれたＶ区の残り部分の河川敷が調査対象地（全長約90m、最大幅40m）となった。対象となった3,200㎡のうち、現行の河道に面する西側の1,700㎡（実質調査面積1,300㎡）を平成10（1998）年度に調査し、堤防側に残る1,500㎡（実質調査面積1,000㎡）を平成11（1997）年度に調査した。

【平成10年度（1998）の調査】

平成10年４月１日　当日付け河発第35号により島根県知事（島根県土木部河川課）と島根県教育委員会教育長の間で、平成10年度朝酌川広域河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する契約を締結。

４月６日　当日付けで、文化財保護法第98条の２第１項の規定による埋蔵文化財発掘調査の届出を文化庁に提出。　**４月22・23日**　Ｖ－１区表土の重機掘削開始。

５月７日　現地調査開始。Ｖ－１－１区より掘削。中村唯史氏来。

５月13日　土木部河川課・石田弘至氏来。　**５月19日**　文化財課主査・福田敏氏来。

５月25日　中村唯史氏来。　**５月27日**　Ｖ－１－２区の調査開始。

５月28日　松江土木建築事務所より２名来。　**６月５日**　島根大学・会下和宏氏来。

６月８日　Ｖ－１－１区の作業員業務を終了。

６月11日　Ｖ－１－２区南側溝の砂礫を掘削中に人面付土器出土。

６月16日　島根大学・徳岡隆夫氏以下、学生30名来。宍道センター長来。

６月17日　Ｖ－１－１区の調査員業務を終了。　**６月23日**　松江土木建築事務所・布村　隆氏来。

６月25日　Ｖ－１－２区の中央付近で、標高－1.2mのレベルで貝塚の上面を確認する。

６月29日　Ｖ－１－２区の貝塚以外の作業員業務を終了。　**６月30日**　Ｖ－１－３区の調査開始。

７月３日　文化財課主幹（埋蔵文化財係長）西尾克己氏来。　**７月６日**　渡邊正巳氏来。

７月８日　徳岡・中村両氏来。　**７月９日**　Ｖ－１－２区の貝塚以外の調査員業務を終了。

７月10日　美保関町立千酌小学校生徒来。

７月16日　島根大学教授・徳岡隆夫、田中義昭両氏による現地調査指導。中村氏来。

７月20日～25日　現場休止。　**７月27日**　文化財課・守岡正司氏来。

８月３日　奈良大学教授・酒井龍一氏による現地調査指導。Ｖ－２－１区の調査開始。

８月４日　人面付土器の記者発表。松本岩雄課長補佐来。

８月５日　Ｖ－１－３区の作業員業務を終了。勝部文化財課長、守岡主事来。

８月６日　朝日新聞・天野氏来。　**８月11日～８月14日**　現場休止。

８月21日　Ｖ－１－３区の調査員業務を終了。Ｖ－１－２区の貝層ブロック取り上げ開始。

８月26日　Ｖ－２－１区の作業員業務終了。　**８月27日**　Ｖ－２－２区の調査開始。

９月１日　松江土木建築事務所・布村氏来。

９月４日　Ｖ－２－１区の調査員業務終了。文化財課・西尾氏来。

９月９日　松江土木建築事務所・布村氏来。　**９月11日**　宍道センター長来。

９月24日　渡邊氏来。　**９月29日**　渡邊氏来。　**９月30日**　低湿地研究会６名来。

10月１日　渡邊氏来。花粉分析用のサンプリング。　**10月５日**　Ｖ－３区の重機掘削開始。

10月12日　アサヒグラフ・中沢氏来。　**10月14日**　渡邊氏来。　**10月15日**　渡邊氏来。

10月17日　台風10号による大雨により、朝酌川本流が増水し、調査区は全て水没する。この時、Ⅴ－3区を区画する鋼矢板の本流に面する地面がかなり抉られ不安定な状態となる。

10月22日　松江土木建築事務所・布村氏来。

10月26日　Ⅴ－3区の調査開始・Ⅴ－2－2区の作業員業務終了。渡邊氏来。

11月9日　Ⅴ－2－2区の調査員業務終了。　**10月29日**　松江土木建築事務所・布村氏来。

11月16日　この頃から台風10号による増水時に抉られたⅤ－3区東南角部分からの浸水が激しくなり、ポンプを増設。

11月20日　調査区の浸水が多く排水を続けることが困難になったため調査を断念し、現場の撤収にはいる。Ⅴ－3区については、縄文時代に堆積した泥層が厚く遺物は数点の縄文土器を得たのみであった。また調査途中のため図面・写真とも十分な記録が取れなかった。

11月30日　当日付け島教文財第2385号により島根県教育委員会教育長から島根県土木部長あて、朝酌川広域河川改修事業に伴う発掘調査の結果を通知。

平成11年2月3日　平成11年度事業について土木部河川課・松江土木建築事務所と協議。

2月25・26日　人面付土器の類例調査のため大阪府茨木市立文化財資料館と国立歴史民俗博物館に職員派遣。

【平成11年度（1999）の調査】

平成11年4月1日　当日付け河発第41号により島根県知事（島根県土木部河川課）と島根県教育委員会教育長の間で、平成11年度朝酌川広域河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する契約を締結。

4月10日　当日付けで、文化財保護法第98条の2第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告を文化庁に提出。

4月26・27日　Ⅴ－4－1区表土の重機掘削。

5月10日　現地調査開始。Ⅴ－4－1区より掘削。　**5月13日**　西尾主幹来。

5月17日　島根大学・徳岡氏来。　**6月8日**　宍道所長来。　**6月18日**　渡邊氏来。

6月22日　島根大学・徳岡氏ほか、学生来。　**6月28日**　Ⅴ－4－1区の作業員業務終了。

7月1日　Ⅴ－4－2区の調査開始。

7月2日　渡邊・中村両氏来。サウンディング試験の打ち合わせ。

7月5日　Ⅴ－4－1区の調査員業務終了。　**7月12日**　島根大学・竹広文明氏来。

7月14日　中村氏来。　**7月15日**　中村氏による調査区内のサウンディング試験。

7月28日　渡邊氏来。　**8月3日**　山陰中央新報社・斉藤氏来。　**8月9日～16日**　現場作業休止。

8月12日　中村氏来。　**8月13日**　渡邊氏来。

8月18・19日　Ⅴ－4－3区表土の重機掘削。19日に田中氏来。

8月24日　Ⅴ－4－1区東壁の噴砂立ち割り。　**8月26日**　中村氏、西尾主幹来。

8月27日　渡邊氏、文化財課・守岡氏来。

8月30日　Ⅴ－4－2区西側で5世紀の石組み護岸状施設検出。

9月20日　Ⅴ－4－3区の調査開始。

9月28日　島根大学・徳岡隆夫、林正久、竹広文明各氏及び島根県文化財保護審議会委員・田中義

昭氏による調査指導会。

9月30日　文化財課・守岡氏来。　**10月4日**　徳岡氏来。

10月5日　Ⅴ－4－3区の旧朝酌川河道SR01新完掘。渡邊・中村両氏による花粉分析・火山ガラス分析用土壌のサンプリング。

10月10日　Ⅴ－4－2区の作業員業務終了。　**10月14日**　Ⅴ－4－2区の調査員業務終了。

10月28日　勝部文化財課長・宍道所長来。　**11月15日**　Ⅴ－4－3区の旧朝酌川河道SR01古完掘。

11月25日　Ⅴ－4－3区の作業員業務終了。　**11月24・25日**　Ⅴ－4－4区表土の重機掘削。

11月26日　Ⅴ－4－4区の調査開始。　**12月2日**　渡邊氏来。

12月6日　Ⅴ－4－3区の調査員業務終了。Ⅴ－4－4区の作業員業務終了。

12月9日　現場道具類の撤収作業。　**12月10日**　ラジコンヘリによる空撮。

12月15日　Ⅴ－4－4区の調査員業務終了。

平成12年2月17日　当日付け河発第355号により島根県土木部長より島根県教育委員会教育長あてに西川津遺跡Ⅴ区の記録保存を協議。

3月2日　当日付け島教文財第16号の28により島根県教育委員会教育長から島根県土木部長に西川津遺跡Ⅴ区の記録保存了承を回答。

第 2 章

遺跡を取り巻く環境

第２章　遺跡を取り巻く環境

旧石器時代：遺跡の周辺の地形は現在のように平坦ではなく、河川堆積をする以前の谷合のような地形であったと考えられる。宍道湖の水面下に隠れるかたちで、第四紀更新世に形成された河岸段丘が存在し、その段丘上が旧石器時代の生活の場となったらしく、宍道湖周辺では比較的旧石器の発見例が多い。水面下の段丘が主要な生活空間であることからこの時期の遺構を伴う遺跡は特定されていないが、西川津遺跡の河川堆積物中には後期旧石器らしい石器も含まれることから、堆積物の薄い上流側では今後、この時期の遺構が発見される可能性もある。

縄文時代：6000年前を前後する時期の縄文海進の時期には、西川津遺跡付近まで海水が入り込み、「古宍道湾」を形成していたとされる。これまでの発掘調査に伴う地質調査でも、アカホヤ火山灰の下層に堆積する灰色泥層は黄鉄鉱を含む海成粘土であることが確認されており、それを裏付けている。（第５章参照）

縄文時代の遺跡では朝酌川遺跡群のほか、島根大学構内遺跡、金崎遺跡、柴尾遺跡、城の越遺跡が挙げられる。

弥生時代：縄文時代の後半からは海退が始まり、弥生時代が始まる頃には宍道湖の汀線もタテチョウ遺跡の南付近まで南下し、西川津周辺は河川周辺の低湿地と丘陵縁辺の陸化した平坦地を形成していたものと考えられ、初期農耕集落の成立基盤を地勢的にも整えていた。

弥生時代前～中期の朝酌川遺跡群は日本海側では屈指の規模を持つ拠点集落であったと考えられ、石製品・木製品の生産を行うほか、北部九州・関門地域から土器・貝輪・無文土器、吉備から土器・分銅形土製品、隠岐から黒曜石を搬入するなど、文物や情報の集積発信拠点として機能していたと考えられる。

橋本遺跡や貝崎遺跡 からも遺物が出土しているが、「朝酌川遺跡群」を構成する集落の一部として機能していたのであろう。

古墳時代：前期の古墳は山崎１号墳や柴尾２号墳、大佐遺跡などで確認されているが、大形古墳は確認されていない。集落については、柴遺跡で２棟、堤廻遺跡で３棟の竪穴住居が確認されている。

中期にはいると集落では、堤廻遺跡で集落が発展継続しているが、その他の遺跡の様相は判然としない。朝酌川遺跡群では５世紀段階の遺物は多量に出土することから近辺に集落が展開していることは想定できる。それに対して丘陵上に立地する傾向が強い古墳については多くのものが確認されており、馬込山古墳群、金崎古墳群、上浜弓古墳群、柴古墳群、住吉神社裏古墳など中小規模古墳が多く築造されている。

後期に入ると古墳の築造は朝酌川中流域から上流の持田地区に移動し、京都府向日市の物集女車塚古墳に類似した石室構造を持つ全長50mの前方後方墳である薄井原古墳の築造を契機に、石棺式石室を内部構造とする太田古墳群などが築造される。これらの古墳の被葬者は松江市南部の意宇平野の古墳群には及ばないものの、後の嶋根郡となる地域では有力な首長の墳墓と考えられる。

飛鳥～平安時代：７世紀代は「朝酌川遺跡群」が一時的に縮小する時期であり、有力な遺跡が見られない。しかし、733（天平５）年に編纂された『出雲国風土記』の記述では、西川津遺跡付近は嶋根郡衙の設置された山口郷に比定されている。規則性を持つ掘立柱建物群が検出されている福原

町の芝原遺跡は、嶋根郡衙を構成する施設群の一角を占めるものと推定されている。

『出雲国風土記』の記述では現在の朝酌川は当時「水草河」と呼称されていた。「朝酌川遺跡群」ではタテチョウ遺跡から「驛」と記された墨書土器が出土し、西川津遺跡でも数点の墨書土器、灰釉陶器が出土している。また原の前遺跡やタテチョウ遺跡では人形代や呪い札が出土するなど、奈良時代から平安時代にかけてこの近辺は、鄙びた中にも律令文化の波及が窺われる。集落遺跡としては柴Ⅲ遺跡などが知られている。

鎌倉～安土桃山時代：鎌倉時代にこの付近は長田（東西）郷と呼ばれ、長田氏の管理下となり、市が開かれるなど物流の拠点として繁栄していたようである。室町時代に長田郷の支配権は多胡氏・多賀氏に移った。室町時代末の戦国期には尼子氏の湖北支配における有力な支城であった白鹿城をめぐる攻防戦で、宍道湖畔の洗合城を拠点とした毛利氏と松田氏をはじめとする尼子方の戦場となった。朝酌川遺跡群でも16世紀後半の中国製青花や朝鮮王朝陶磁、京都系土師器Ⅲなどが出土し、依然として流通の拠点として機能し、それを掌握する有力豪族の存在が伺える。遺跡としては川津城跡、堂ヶ平城跡などの小規模な城郭や馬込山古墓や上浜弓遺跡などの中世末～近世の古墓が知られる。

なお、「川津」の地名は戦国期の多胡家證文に見られ、紀年名のあるものでは慶長七年（1602年）の「嶋根郡東川津村御検地帳」が初見である。

参考文献

前出の「朝酌川遺跡群」関連の報告書を参考にしたほか、以下の文献を参考にした。

松江市教育委員会　1984『山崎古墳』

松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化事業団　1994『柴尾遺跡発掘調査報告書（1）』

松江市土地開発公社・松江市教育委員会　1986『堤廻遺跡』

松江市教育委員会　1993『上浜弓1号墳他発掘調査報告書』

島根県教育委員会　1971「松江・馬込山古墓群」『島根県埋蔵文化財調査報告書』Ⅲ

島根大学埋蔵文化財調査研究センター　1994・1995『島根大学構内遺跡発掘調査概報』Ⅰ・Ⅱ

島根大学埋蔵文化財調査研究センター　1997～1999『島根大学埋蔵文化財調査研究報告』1～4

田中義昭　1996「弥生時代拠点集落としての西川津遺跡」『山陰地域研究』12　島根大学汽水域研究センター

田中義昭　1996「弥生時代拠点集落の再検討」『「考古学と遺跡の保護」甘粕健先生退官記念論集』

松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団　1999『松江市文化財調査報告書　第79集　ソフトビジネスパーク建設に伴う大佐遺跡群発掘調査報告書』

第 3 章

調査の概要・Ⅴ区の土層と遺構

第３章　調査の概要・Ｖ区の土層と遺構

第１節　土層

平成９年度のＶ－Ｂ区の調査地点では弥生時代後期の護岸状施設が検出され、その上面に古墳時代前～中期の遺物を含む河川堆積が見られたことから、Ｖ－１区・Ｖ－４区でもそれに続く時期の河川堆積が予想された。また、南側のＶ－Ａ調査区では縄文時代前期に堆積したと考えられる厚い泥層が存在し、その下層の粗砂層から僅かな縄文土器しか出土しないということも事前に判明していた。

今回調査の北端では３世紀末～４世紀代の河川北岸（蛇行洲）と考えられる砂礫層（砂レキＪ）を最古として、古墳時代以降の旧河道を検出した。旧河道は概ね北西方向から南東方向に流れており、増水時の砂礫堆積、平常時の細砂・粗砂堆積、滞流時のシルト・泥堆積を繰り返しながら河道自体が次第に南進している。

河道の南進は改修前の朝酌川旧河道SR01で止まっているが、SR01が大きく東に屈曲するＶ－２－２区では南岸に直径15㎝、長さ２メートル程の木杭を多数打ち込むことによって川岸の浸食を防ぐ努力をしていた。中世から近代にかけては、河道の南進を人工的に防いでいるらしく、河道はほぼ固定した位置を保っている。12～13世紀の遺物を包含する土層の直後に、16世紀の遺物包含層が現れる事実は、14・15世紀の遺物包含層を河川が削り取っていることの傍証になるのではなかろうか。

なお、近代の河道より南側のＶ－４－４区では、縄文時代前期の海進の際にこの付近まで海水が入り波穏やかな古宍道湾の最奥部となったために堆積した泥層が厚く堆積しているのを確認した。間層にあたる淡灰色粗砂層は縄文時代前期の西川津式土器が若干出土したのみで、遺物はほとんど得られなかった。台風の水害により調査を途中で断念したＶ－３区においても周辺の状況から泥層が厚く堆積しているものと考えられる。

調査区北半では多量の遺物を検出したが、各層の堆積年代は第１・２表のセリエーションに挙げるとおりである。弥生時代の遺物は各層に混入しているが、調査区北端のＶ－４－２区砂レキＪ（４世紀）を最古として、近代の砂レキＸ・Ｙまで各層は後世の人為的な攪乱を受けていないことが伺える。

４世紀代以前の遺物を包含していた砂レキＪは、Ｖ－４－２区の北東隅に堆積しており、1.2m以上の層厚を持っている。

Ｖ－１－３区・Ｖ－４－２区の砂レキＥ・Ｆのうち、Ｖ－４－２区砂レキＦは須恵器の包含率がほとんどないことから５世紀前半の堆積に遡る可能性がある。砂レキＥでは出雲大谷１・２期（TK23・47・MT15）の須恵器を包含することから５世紀末～６世紀前半の堆積と考えられる。この砂レキを除去した下層にある泥層の上面には、下流に位置する原の前遺跡でも確認されたような、北西から南東へ川が流れたことを裏付ける「流痕」が顕著に見られた。

Ｖ－１－２・３区の砂レキＣ・Ｄ、Ｖ－４－１・２区の砂レキＤについては７世紀を下限、Ｖ－１－２区の砂レキＡ、Ｖ－４－１区の砂レキＣについては８世紀を下限、Ｖ－１－１・２区の砂レキ３は10世紀を下限とするものである。

Ｖ－１－１・２区の砂レキ１・２、Ｖ－４－１・３区の砂レキＡ・Ｂについては、12・13世紀代

の遺物が下限となるが、下層側は砂レキ３と同様の10世紀前半頃の堆積として分離できる可能性がある。

第26図に示すように９世紀後半の完形の土師器椀が集中して出土する事などからも追認できよう。

なお、人面付土器は、Ⅴ－１－２区南端の砂レキ２調査中に出土したものである。

砂レキＪの上層に存在する暗紫灰色腐植土層から検出した流木について、Ｃ14年代測定を行ったところ３世紀初頭前後を示す数値となった。試料が流木なのでこの層の堆積年代を直接示すものではない。

西川津遺跡Ⅴ－４－２区・砂レキＪ出土植物遺存体（流木）のＣ14年代測定結果

試料データ	Ｃ14年代（yBP） (Measured C14 age)	δ13C (permil)	補正C14年代（yBP） (Conventional C14 age)
Beta－136418	1780±70	－26.8	1750±60
試料名　(12554)	NK99V-4-2 (Higashi76)		
測定方法、期間	radiometric－standard		
試料種、前処理など	wood	acid－alkali－acid	

年代値はRCYBP（1950A.D.を０年とする）で表記。モダンリファレンススタンダードは、国際的な慣例として、NBS OxalicのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568を使用した。エラーは１シグマ（68%）確率である。

第２節　遺構とそれに伴う遺物

Ⅴ－１－２区貝塚（第17・18・27図）

Ⅴ－１－２区中央付近で検出した。名称については当初、「貝溜」「貝層」なども使用していたが、貝ばかりではなく、動物遺存体を多く含んだ食物残滓が廃棄された一次的な堆積と考えられるため「貝塚」の名称を用いた。

貝塚は、縄文時代前期に堆積した泥層の直上に薄い粘土層をはさんで立地し、最下面では標高－1.5m、最上面でも－1.3mの高さで、上面は細砂層に覆われるが直上では暗灰色粘質土層が被っていた。規模は長軸2.6m×短軸1.75m、厚さ22cm以上の不定形なものである。標高がかなり低い地点に廃棄されたものであるが、貝層の断面が揃っていないなど、流水によって大きく動いた様子はなく、もし水に浸かっていたとしても、波の無い湿地状の地点であったらしい。海退の時期にあたり、海面が低下していたとは考えられるが、標高が低い地点に形成された貝塚であり、当時の古環境を考える上で重要となる。

貝塚内には貝ばかりでなく、動物・魚類・両生類などの動物遺存体や土器片・石器片なども包含しており、泥分の多いのも特徴である。

貝塚遺物の取り上げは、当初上面に現れている土器・石器・獣骨などを三次元測量により１点ずつ取り上げていたが、途中から20cm四方のブロックで泥ごと取り上げ、２mmメッシュの篩で水洗した。

貝塚全体における遺物の分布状況では、中央軸より西側に各遺物が集中する傾向があり、東側で

はやや希薄となることが指摘できる。

貝層を形成する大部分はヤマトシジミであるが、アカニシ・サザエなど大型の巻貝も含まれていた。シジミは劣化しており、個体の左右同定作業では、右134個体、左113個体分しか確認できなかった。シジミの総重量は3805.77g、アカニシは276.1g、サザエは27.77g、ウニは22.92gであった。

この貝塚から検出された動物遺存体としては、イノシシ・シカ・アナグマ・イヌ・カエルなどがある。イノシシについては下顎骨の吻部連合部が検出されている。犬歯は抜けているが、歯槽の形状からメスと推定される。そのほか、環椎片、右尺骨片、解体痕を認める左肩甲骨１点。左脛骨片が検出されている。

シカは頭蓋骨の右第２・３臼歯を伴う上顎骨片と、左下顎骨が検出されている。この下顎骨は第３大臼歯が完全に萌出しておらず、亜成獣と考えられる。その他に左上腕骨遠位端、解体痕が認められる左踵骨が検出されている。

アナグマは右下顎骨が検出されている。

イヌは近位端から骨体にかけての右上腕骨が検出されている。

また、魚類については黒ダイの前上顎骨と椎骨、フナの鰓蓋骨など多くの魚類の骨片、魚鱗、鰭棘が検出されている。

石材チップとして、黒曜石が75.57g、安山岩（サヌカイトを含む）1.02g、瑪瑙4.77gが出土しているが、黒曜石はごく薄い剥片も多く、黒曜石の石材加工をうかがわせる。これらのチップが弥生時代の所産である可能性は高いが、食物残滓とともにゴミとして廃棄されたものか、この貝塚周辺で石材加工がなされたものであるのか、どのような経緯でこの貝塚に混和しているのかは不明である。

この貝塚に包含されている土器を見ると弥生時代前期末～中期のものが見られる他、貝塚の上面に堆積した砂層から入り込んだ古墳時代前期の土器も見られる。前期の遺物が多いが27図－13・15など弥生Ⅲ様式の遺物が下限といえよう。また、小片ではあるが北部九州系と考えられる甕棺片も出土しており、胎土・技法から見て搬入品と考えられる。

シジミの貝殻をサンプルとした放射性炭素年代測定の結果はＣ14年代（ｙＢＰ）2030±80であることから、貝塚の形成は弥生時代中期（Ⅲ～Ⅳ様式）と考えておきたい。

西川津遺跡Ⅴ－１－２区・貝塚出土　ヤマトシジミのＣ14年代測定結果

試料データ	Ｃ14年代（yBP） (Measured C14 age)	δ13C (permil)	補正C14年代（yBP） (Conventional C14 age)
Beta－136421	2030±80	－4.1	2370±80

試料名　(12557)	NK98V-1-2 (ShellSC)	
測定方法、期間	radiometric－standard	
試料種、前処理など	shell	acid etch

年代値はRCYBP（1950A.D.を０年とする）で表記。モダンリファレンススタンダードは、国際的な慣例として、NBS OxalicのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568を使用した。エラーは１シグマ（68%）確率である。

Ⅴ－4－2区・護岸状石組SX01（第19～21図）

Ⅴ－4－2区の中央西側で検出した。Ⅴ－4－2区では地山である泥層近くのレベルで人頭大程度の石が散乱しており、増水時に上流から押し流されてきた礫群かとも思われた。しかし、SX01が検出されたことにより、川の滑走斜面にあたる北岸に築造してあった石組の護岸状施設が流水によって破壊されたものとも考えられる。SX01は現状で長さ3.8m、幅1.1m 、高さ35㎝の集石状をなしており、丁寧に積み上げられたものではない。石組みの中には、縄文時代の窪み石や弥生時代の蛤刃石斧なども用いられていたが、大半は朝酌川上流で産出する安山岩・玄武岩・流紋岩であり、希に「島石」と呼ばれる大根島を形成する玄武岩も混在していた。現存している石の上面の標高は－1.1～－1.0mであり、同様の遺構と考えられる原の前遺跡の護岸状石組が標高０m前後まで石が残存していることを考慮すると、上部の石組みは既に流水によって破壊されている可能性も考えられる。この石組みは砂レキFによって覆われていることから、５世紀前半で廃絶したようである。隣接するⅤ－B区でも、弥生時代後期の石組みが確認されている。

Ⅴ－4－1区・噴砂（第11図・図版15）

Ⅴ－4－1区北端東壁付近で検出した。僅かに北西から南東方向に走る様子が平面的にも検出できたが、広域に広がるようではなかった。しかし、東壁断面には明瞭に砂礫が上方に立ち上がる様子が確認できる。噴砂は砂レキＥを供給源として、上方に堆積する暗青灰色粘土層を立ち割っており、頂点は現代の耕作土によって切られている。９世紀後半には堆積していた砂レキＢの上面に堆積する粘土層を切っているので10世紀以降の地震によって発生したものと考えられるが、880年11月に発生したという『三代實録』記載の出雲地震の可能性も僅かに残る。

噴砂が北西から南東方向に走るのは河川堆積の方向に起因することからも、水流の方向は確認できる。

Ⅴ－2－2区・Ⅴ－4－3区近代朝酌川SR01（第７・８図）

戦後直後まで機能していた幅約10mの朝酌川旧流路を検出した。昭和31年の地図ではクランク状に折れ曲がるこの河道が表されているが、実際は昭和22（1947）年に極東米軍が撮影した航空写真では既に河川改修が行われ、SR01は埋められていることが確認できる。この旧河道に続く流路は堤防外に現在でも凹地状に残り、降雨時には湛水している。

この旧河道は、Ⅴ－2－2区の西側まで南進してきた河道が、東に90度方向を転じる部分で、常に流水によって浸食を受ける攻撃斜面である。そのため、前述のとおり多量の杭を打ち込んで護岸されており、流れが固定されている。流水の浸食は川床にも及んでおり、Ⅴ－2－2区西壁では地表面から川床まで深さ3.5mに達するのに対し、やや離れたⅤ－4－3区西壁では下流側にも関わらず2.2mの深さしかない。川底の砂層からは16世紀末から江戸時代を通じて陶磁器などの遺物が検出されることからも、中世以降は人為的に河道が固定されてきたことが窺われる。

河川改修のため人為的に埋め戻された黒褐色粘土と下層にある砂質土の境界付近にはビール瓶やガラス瓶、陶磁器、靴、下駄、卒塔婆、鉈・鎌などの農具等、機関銃の薬筒など20世紀前半の遺物が遺存していた。これらの遺物の回収は行ったが、調査の主目的から外れる副次的な出土品であったことから、今回報告では掲載を見送った。

第 4 章

遺物の概要・
Ⅴ区河道の遺物について

第４章　遺物の概要・Ｖ区河道の遺物について

遺物の掲載方法について

朝酌川遺跡群では遺物が河川内の堆積土から出土することが多く、各層位の堆積年代をおおよそ押さえることはできても、遺物同士の厳密な共伴関係を捉えることは事実上困難である。今回の調査区でも、土層の堆積年代は４世紀以降であるが出土する遺物は圧倒的に弥生土器が多いという状況であり、各層位ごとによる遺物掲載は遺物の羅列となる可能性が危惧された。

そこで、本報告書では層位や調査区を無視して遺物の形式的分類を進め、各時期の遺物の量を数値として明示することにより、西川津遺跡の各時期ごとの盛衰の概要を捉えることを主眼に置いた。

遺物量は２年間の調査でコンテナ300箱近くに達しており、１年間の整理期間で実施できる作業量が限定されるため、遺物の分類は口縁部・底など端部が残存している個体と文様・加飾で時期が判別できる個体に限った。それ以外の胴部片も調整等で時代が確認できる個体も多いが、全て割愛した結果、実際に分類・実測に活用したコンテナ数は土器が約140箱、石器10箱、木器20箱まで圧縮することができた。

統計表・観察表に添付している分類記号によって各型式を設定しており、本来は模式的にでも型式内容を図示すべきであるが、時間的に不可能なことから、一覧表と代表例の実測図で置き換えている。１型式の遺物群で完形に近いものや大型の破片が多量存在するものについても、図面掲載数は多くて５点前後に押さえている。また、数量の少ない型式群についても極力図化を行うように努めた。

遺物は後期旧石器時代の石器から近現代の陶磁器まで、断続的に各時代のものが多量に存在することから、分類は困難を極めた。分類基準となる既存の編年にも各時代・遺物の種類によって精粗があり、多分に観察者の主観的・経験的な認識による分類とならざるを得ないところもあり、実際には事実を捉えたとはいえないが、おおよその調査区内の遺物の盛衰をトレースできたと考えている。しかし、集落の包含層などとは異なり、河川の中に堆積した遺物を対象としているため、これらの数値がいかに集落本来の動態と関わっているのかは、現状では検証が困難である。将来的にこの近辺で集落本体の遺構を調査できれば今回の報告成果との整合性が検討できるであろう。

また、個別の型式は時代順に配列せざるを得ないため、本来のセット関係としての遺物様式を確認できないのはこの方法の最大の欠点である。

土器量の統計は、第３表に通史的な動向をまとめ、各時期の詳細な構成内容については第５表～第37表に掲載している。

第１節　縄文土器（第28～32図・図版19～26）

縄文土器は早期の菱根式を最古として、晩期に至るのまで断続的に出土しているが、時期別の数量には粗密がある。早期末から前期初頭の長山・西川津式、それに後続する羽島下層・北白川下層式の点数が多く、次に晩期後葉の突帯文土器が多数を占め、破片も大きい。前期末から中期は遺物量が少なく、後期に若干点数が増加するが、概して破片が小さく磨滅している。

参考文献

網谷克彦　1989「北白川下層式土器様式」『縄文土器大観』1　小学館

泉　拓良　1988「船元・里木式土器様式」『縄文土器大観』3　小学館

泉　拓良　1989「西日本磨研土器様式」『縄文土器大観』4　小学館

泉　拓良・山崎純男　1989「凸帯文系土器様式」『縄文土器大観』4　小学館

泉　拓良　1990「西日本凸帯文土器の編年」『文化財学報』第八集　奈良大学文学部文化財学課

井上智博　1991「西日本における縄文時代前期初頭の土器様相－中国地方を中心として－」『考古学研究』第38巻第2号　考古学研究会

井上智博　1996「山陰・西川津式土器の土器型式構造と恩原2遺跡土器群のしめる位置」『恩原2遺跡』岡山大学文学部考古学研究室

京都大学文学部博物館　1991『先史時代の北白川』

山陰考古学研究集会　2000『第28回山陰考古学研究集会　山陰の縄文時代遺跡』

玉田芳英　1989「中津・福田ＫⅡ式土器様式」『縄文土器大観』4　小学館

丹羽佑一　1989「凹線文系土器様式」『縄文土器大観』4　小学館

濱田竜彦　1999「古市河原田遺跡出土の突帯文土器について－古市河原田式の提唱－」『古市遺跡群1』　財団法人　鳥取県教育文化財団　鳥取県埋蔵文化財センター

濱田竜彦　2000「因幡・伯耆地域の突帯文土器と遠賀川式土器」『突帯文と遠賀川』土器持寄会論文集刊行会

柳浦俊一　2000「山陰地方縄文時代後期初頭～中葉の土器編年」『島根考古学会誌』第17号　島根考古学会

柳浦俊一　2000「山陰地方における福田ＫⅡ式並行の土器群について」『古代吉備』第22号　古代吉備研究会

第2節・弥生土器（第33～67図・図版27～74）

弥生土器は全出土土器の約半数を占める。中でも前期の土器だけで全出土土器の約1/3の割合となる。土器の分類は出雲松本編年を用いたが、Ⅴ－4期については、当該期を3分する南講武草田遺跡の編年のうち、4・5・6期を用いた。

弥生時代の土器量を確認するために土器の底部をカウントしたところ、前期は約2200個体、中期初頭のⅡ様式では340個体、中期中～後葉（Ⅲ・Ⅳ期）は時期による型式分離が困難であったことから統合して約960個体、後期は11個体という結果を得た。後期初頭の底部は中期としてカウントしている可能性があるが、概略は捉えているであろう。土器量から見て西川津遺跡は弥生時代前期に爆発的に人間活動が活発になり、中期は半分近くまで落ち込み、後期には並の集落に収束していくという理解ができる。甕口縁部の数量はⅢ期で約300個体近いが（壺口縁は約210個体）、Ⅳ期には約140個体（壺口縁は約50個体）に減少する。後期初頭では200個体を越える数値を保つが、後期中葉（Ⅴ－2期）には約100個体、終末期のⅤ－3期では約70個体まで落ち込んでいる。弥生時代最末期の草田5期には再び約200個体近くまで復しており、この前後に集落としての画期を見いだせよう。

前期ではⅠ－2期段階から個体数が増加し、Ⅰ－3・4期で数量的なピークを迎えるようである。Ⅰ－1期の資料については判然としないが、第50図－13の壺などは、内傾接合によって製作され、色調・胎土なども他の前期の土器と比較すると異質なものであることから、縄文系統の土器と考えられる。第31図－20～23などの突帯文系土器と共伴する可能性も一考の余地があるが、現状で

は可能性の指摘にとどまる。

Ⅰ様式の甕では1条沈線の甕において**口縁端部を刻む個体と刻まない個体**の割合は、それぞれ23.5%・76.5%、胴部上方に段を持つものでは各38.5%・61.5%、2条沈線の個体では同様に45.7%・54.4%と口縁端部を刻まない甕の方が主体をしめている。無文甕はバリエーションも多くⅠ様式全般から一部はⅡ様式まで下る資料も含まれていると考えられるが、口縁端部を刻む個体は11.7%、口縁端部を刻まない個体は88.3%とその傾向はより顕著であり、山陰地方の遠賀川式土器の甕は口縁端部を刻まないものが主流であるという濱田氏の指摘を裏付けている。

口縁部外面に貼り付け突帯風の粘土を巻き付けて上面に平坦面を形成するいわゆる「**瀬戸内型甕**」の出現率は無文甕で2.4%、1・2・3・5条沈線甕では存在せず、4条沈線甕で2.9%、6条沈線甕で7.5%、7条沈線甕で20.7%、それ以上の多条ヘラ描き沈線甕では存在しないが、多条ヘラ描き沈線の下端に三角形状刺突を加える甕では8%、Ⅱ様式に下る櫛描文を施文した甕では30.4%と微増していく様子が窺われる。瀬戸内型甕の初源について、岡山・広島・愛媛などの根源地ではヘラ描きによる3～5条の沈線を施す段階とされており、西川津遺跡でも同様な時期に出現していることが窺われる。このことからも無文の瀬戸内型甕もⅠ－4期以降に下ることが考えられる。

また、**甕の口径**を見ると、Ⅰ－2期のヘラ描き1条沈線甕では口径20～30cmの個体が72.7%、口径30cmを越える個体が21.2%、Ⅰ－3期のヘラ描き3条沈線甕では口径20～30cmの個体が86.5%、口径30cmを越える個体が8.1%、Ⅰ－4期のヘラ描き6条沈線甕では口径20～30cmの個体が69.2%、口径30cmを越える個体が5.1%、Ⅰ－4期の8条以上のヘラ描き多条沈線甕では口径20～30cmの個体が69.6%、口径30cmを越える個体が30.4%、Ⅰ－4期のヘラ描き多条沈線に三角形状刺突・米粒状刺突・竹管状刺突など刺突を多用する甕では口径20～30cmの個体が48.9%、口径が30cmを越える個体が42.2%と大型の甕が半数に迫ることから、Ⅰ－4段階においてヘラ描き沈線のみを施す甕より、刺突文を施文する装飾甕の方が大型化している可能性も指摘できる。

第51図－12は流水文に影響を受けた**加飾壺**と考えられ、3～4本のヘラ描き線によって紡錘形の文様を、1段につき8単位を4段にわたって充填して描くものである。1単位は基本的に2本一対の向かい合う弧線（4線）によって構成されるが、最下段は文様帯の幅が狭いため、1単位を3条線で構成するものが4単位みられる。

Ⅰ期の加飾壺はほとんど図化をしていないが、第17表にまとめている。無軸綾杉文を施文する個体が約160個体、有軸綾杉文を施文する個体が約20個体、重弧文を施文する個体が約30個体、木葉文を施文する個体が約10個体あるが、それ以外の文様を組み合わせた個体も約50個体存在する。

人面付土器はⅤ－1－2区の砂レキBから検出されており、遺構・土層からは時期を決定できないが、土器そのものの胎土や焼成状況、混和している砂粒が5㎜以下の石英・長石であることなど、前期の土器の胎土と同質という印象をうける。しかし、Ⅱ様式においても胎土中の粗い砂粒は残存することからここではⅠ－3期～Ⅱ－1期の幅をみておきたい。人面の頸部下は空洞状となるためこの下半は壺状、もしくは前例はないが蓋状の器形が想定できる。

この人面付土器の造作を見ると、額部分に最大幅があり、顎に向かって細くなり尖顎となっている。顎から頸にかけても写実的に表現されている。眼窩上隆起が強調され、眼窩自体が一段下がった位置に表現されるほか、鼻が高く現されるため彫りが深く見える。頬はフラットであるが、目・鼻の表現前に平坦な顔面を成形したのであろう。目はヘラ状工具による刺突、鼻孔は先端の狭い工

具による刺突により表現されるが、口は浅く柔らかい表現となっており、幅広の原体による押圧などによって施されたものと考えらけれる。顔面上部側面には耳を取り付けており、左耳は基部を残して欠損するが、右耳は先端が欠損するものの、耳たぶ中央に施された直径2㎜ほどの穿孔が約1/2程度残存している。

次に装飾的表現であるが、弥生時代の人面表現に普遍的な黥面表現が見られないこと、頭部に後方に流れる烏帽子状の表現をすること、耳たぶに穿孔をすること、左肩部に2カ所の穿孔をすることがあげられる。頭部の烏帽子状表現については頭髪、帽子などの被りもの、あるいは装飾的な飾りものなどが考えられるが現状では、帽子風に見える。

前期の人面表現としては下関市・綾羅木郷遺跡土偶、香川県・鴨部川田遺跡、茨木市・東奈良遺跡の土偶、Ⅱ様式の例としては茨木市・目垣遺跡の人面付土器があるが、黥面表現がなく、頭部に突起を持つ東奈良遺跡のものが最も類似している。

土笛は3個体出土しているが、完形の個体はなく、54図－18の個体が前面のみ残存しており穿孔の様子も伺える。他の2個体は穿孔部分が残存しておらず、確実に土笛であるという根拠は弱い。

第58図－16は明らかに在地に普遍的な弥生土器ではない。直立した口縁の上面を僅かに巻き込むように粘土紐を貼り付けており、下端は器壁より離れ全体的に丸味を持っている。口縁の形状は朝鮮系無文土器に似るが貼付の技法が異なる点や、胴部外面調整にタテハケを用い、それをナデ消す様子はない。これらの状況を踏まえるとこの土器は弥生土器と折衷した**擬朝鮮系無文土器**といえよう。時期的にはⅠ－4期～Ⅱ－1期が考えられる。

54図－28は**匙形土製品**である。匙形土製品を集成・分類した大野氏の概念に当てはめると、体部が円形皿状を呈し、柄が体部に比べて短いことなどからⅠB類に分類できる。ⅠB類が弥生時代後期に西日本を中心に分布することも明示されていることから、当該期の所産と考えておきたい。

第65図－29はⅤ－3期の注口土器であるが、外面にはヘラ描き沈線による区画線と二枚貝による刺突のほかに、勾玉状文様のスタンプ文が見られる。

第66図－1は吉備・鬼川市Ⅰ式期の高杯である。近隣では当遺跡のほか、タテチョウ遺跡、石台遺跡でⅣ－2～Ⅴ－1期の報告例がある。

参考文献

赤澤秀則　1992『講武地区県営圃場整備事業発掘調査報告書5　南講武草田遺跡』　鹿島町教育委員会

秋山浩三　2000「近畿における無文土器系土器の評価」『突帯文と遠賀川』土器持寄会論文集刊行会

石川日出志　1987「人面付土器」『季刊考古学』第19号

大野　薫　1989「匙形土製品小考」『大阪文化財論集』財団法人大阪文化財センター

岡山県教育委員会　1999「岡山県下出土の弥生時代人面表現について」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告140　田益田中（笹々瀬川調節池）遺跡』

片岡宏二　1991「日本出土の無文土器系土器」『日韓交渉の考古学　弥生時代編』六興出版

片岡宏二　1993「近畿地方朝鮮系無文土器研究の現状と課題」『韓式土器研究』Ⅳ

設楽博己　1990「線刻人面土器とその周辺」『国立歴史民俗博物館研究報告』第25集

設楽博己　1999「第Ⅲ章　弥生文化の東へ西へ　第3節祖先の顔」『新弥生紀行』朝日新聞社

西川　徹　1999「鳥取県出土の木葉文土器について」『一般国道183号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ

上菅荒神原遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団
濱田延充　2000「口縁端部を刻まない甕　－山陰地域の遠賀川式土器－」『みずほ』第34号　大和弥生文化の会
深澤芳樹　1989「木葉文と流水文からみた西川津遺跡」『朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅴ』島根県教育委員会
福岡市博物館　1998『弥生人のタイムカプセル』
松本岩雄　1992「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編　木耳社
吉田　広　2000「瀬戸内地域における遠賀川式土器の解体」『突帯文と遠賀川』土器持寄会論文集刊行会
※人面付土器については設楽博己・石川日出志氏から教示を得た。
甕棺・擬朝鮮系無文土器については武末純一氏から教示を得た。

第３節　古墳時代～奈良時代の土師器（第68～78図・図版74～92）

当該期は遺構の堆積年代と重複してくることから、河川堆積とはいえ数点の完形品をはじめ、概して大きな破片が多く、またあまりローリングを受けておらず、器壁の状態も良好な個体が多い。

古墳時代前～中期にかけては草田編年・松山編年に依拠して分類を行ったが、遺物のセット関係を厳密には押さえられないことから年代観には幅を持たせた。古墳時代後期～奈良時代の土師器については編年案が希少であるが、広江氏の整理作業が大枠を捉えているのでこれを参考とした。

第72図－36は胴部の破片しか残存していないが、口縁部が緩やかな受け口状となり、胴部は下膨れ状に張り出し、外面に横位のヘラミガキ調整を施すなど、在地の器種に該当するものがないことから**手焙形土器**ではないかと考えた。手焙形土器を集成した高橋氏の分類によれば、Ｘ３形態を呈し、鳥取市・美和32号墳、鳥取市・秋里遺跡、倉敷市・矢部54号墳、岡山市・百間川原尾島遺跡などで出土しているものに近似するであろう。隣接する鳥取県では８遺跡10例の出土が知られているが、島根県内では近年まで類例が知られていなかった。しかし、平成12年度の出雲市・古志本郷遺跡の調査で完形品が出土しており今後も類例が増加することが予測される。

古墳時代初頭の**外来系土器**は内面側がナデ・ハケ調整のタタキ甕が18破片、内面ヘラケズリのタタキ甕が４破片、庄内系加飾二重口縁壺が１点、二重口縁壺１点あげられ、布留式併行期に下る畿内系土器（小型器台・有段鉢・小型丸底壺・布留式甕）もみられる。

４世紀～５世紀代の甕形土器は畿内布留式の影響を受けた、口縁が外傾内彎する単純口縁甕と弥生時代後期以来の山陰在地の複合口縁甕が併存する時期である。５世紀には両者が折衷した口縁を持つ土器も現れ、単純口縁甕の口縁部形態は直線外傾傾向を経て、５世紀後半には外傾外反となっていく。

また、複合口縁甕は退化して、単純口縁に接収される傾向にあるが、複合部の名残は６世紀前半（MT15前後）まで残存する。つまり古墳時代初頭にもっとも洗練された「複合口縁甕」「単純口縁甕」として定型化した両者が、次第に折衷して当初の規範に沿わない土器を作り出していく時期ともいえる。５世紀代と考えた単純口縁甕が330個体以上あるのに対して、複合口縁甕は110個体前後であることから、時代が下るにつれて単純口縁甕に主体が移って行く様子は看取できる。

３世紀前半～４世紀の古墳時代前期には甕600個体余りに対して、高杯は約90個体（別に低脚杯が約30個体）なのに対して、５世紀代には甕が約440個体に対して、高杯が360個体（舟形高杯40個体、有稜高杯・椀形高杯ともに約160個体）を越え、土師器椀の約90個体を加えれば煮沸具と供膳

具の割合がほぼ半々になるほど、土器のセット関係は変化する。

6世紀後半から7世紀代の土師器甕の変化は鈍いが、肩の張りが除々になくなり、7世紀代には口径が最大径となって無肩になっていく流れが指摘されている。口縁部も長く大きく外反していたものが、短く緩やかな外反になっていく。6世紀～7世紀とした甕は約60個体を下回っており、土器の数量としては古墳時代中期の1/7以下となっている。

7世紀代に造り付け竈の定着をみない出雲地域の平野部を中心として、江津以東～東伯耆に至る山陰の平野部で甕・甑・移動式竈・土製支脚の煮沸4点セットが一般的に普及するが、本調査区では土製支脚が欠落している。7世紀代の土師器の絶対数も少ないので、偶然の欠落と考えられるがこの時期の遺物量の希薄さを反映するものである。

参考文献

杉井　健　1999「炊飯様式からみた東西日本の地域性」『古代史の論点6　日本人の起源と地域性』小学館

高橋一夫　1998「手焙形土器の研究」六一書房

※古志本郷遺跡出土の手焙形土器については守岡利栄氏から教示を得た。

広江耕史　1996『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東4　煮沸具－』古代の土器研究会

松山智弘　1991「出雲における古墳時代前半期の土器の様相－大東式の再検討－」『島根考古学会誌』第8集　島根考古学会

松山智弘　2000「小谷式再検討－出雲平野における新資料から－」『島根考古学会誌』第17集　島根考古学会

第4節　須恵器（第79～84図・図版93～106）

須恵器は5～7世紀については出雲大谷編年に依拠し、8世紀以降については出雲国庁編年・柳浦編年・高広編年などがあるが、年代観についてその後の成果により修正点が見いだされているものもあり、やや年代幅を持たせている。

大谷Ⅰ期（TK23～47）の杯身・蓋、有蓋高杯等が一定量存在しているが、従来の朝酌川遺跡群の調査でもこの時期の須恵器は普遍的に出土している。時期的に遡るTK208期の須恵器を出土した国史跡・金崎古墳群の存在からもこの地域への須恵器の普及は早いようである。

須恵器は各時期で大量に存在するわけではないがほぼ一定の割合で存在する。しかし、7世紀半ばの小型の杯身・蓋が少量であることや同時期の土師器の希少さなど、古墳時代から律令期に入る過程の時期として注目される現象である。

8世紀・9世紀の須恵器は両時期とも150個体以上出土している。10世紀には須恵器生産・消費が衰退してくることもあって、個体数は減少するが、低平となった皿が約20個体存在する。

79図－25は大甕の口頸部に竹管文とハケ原体状の工具の小口を用いて鋸歯文を施すなど、装飾的なものである。口縁端部の形状から大谷2期（TK10）前後と考えられるが、高杯形器台の口縁部となる可能性もある。

80図－25は小型の提瓶であるが、口頸部は灰白色、胴部は明灰色の粘土を用いており、両者の色調は明らかに異なっている。視覚的な効果を狙ったものであろうか。

墨書土器は82図－17、83図－20～22にあげた4個体を確認している。内容は「井」、「川上」、「×」が2個体であるが、「井」「×」は記号状のものであろうか。「川上」の文字は人名・地名（里名）が考えられるが、筆順からみて文字が逆転する可能性もある。その場合、鏡文字として「下

川」と判読できる可能性も残される。『出雲国風土記』によれば、西川津遺跡付近は嶋根郡山口郷に含まれ、山口郷内には三つの里が存在していたらしいが、その名は不明である。「川上（下川）」が里名である可能性はあるが現状では決め手がない。

84図－21は**灰釉陶器**の段皿である。高台端部の面が外側を向く三日月高台ではなく、面が高台内に向いているため黒笹14号窯式に属するものであろう。県内で灰釉陶器は松江市・天満谷遺跡で四耳壺が益田市・根ノ木田遺跡で壺が、江津市・半田浜西遺跡、羽須美村・輪ノ内遺跡、浜田市・横路遺跡で椀が出土しており、今回例を含めると6遺跡で出土しているが、段皿の出土は初例である。

参考文献

大谷晃二　1994「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集　島根考古学会

島根県教育委員会　1987「天満谷遺跡」『北松江幹線新設工事・松江連絡線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』

島根県教育委員会　1995「半田浜西遺跡」『一般国道9号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』

島根県教育委員会　1992「根ノ木田遺跡」『石見空港建設予定地内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』

羽須美村教委員会　1998『羽須美村埋蔵文化財調査報告書第2集　坪ノ内遺跡・輪ノ内遺跡』

平石　充　2000「墨書土器について」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ　三田谷Ⅰ遺跡（Vol.2）』島根県教育委員会

※墨書土器の判読については平石充氏から教示を得た。

山下峰司　1995「灰釉陶器・山茶碗」『概説　中世の土器・陶磁器』

第5節　奈良時代～中世の供膳土師器（第85図・図版106～108）

土師器の杯・椀は8世紀～13世紀、16世紀のものが出土しているが、数量的なピークは9世紀にある。9世紀～10世紀の須恵器椀・皿は土師器のものと器形・製作技法が共通し、焼成があまくなることが特徴としてあげられる。

黒色土器A類は破片であるが4点出土している。県内ではあまり普遍的な存在ではないが、松江市・出雲国府・石台遺跡、安来市・陽徳寺遺跡・大坪3号墳・潜戸谷遺跡、鹿島町・名分塚田遺跡などで出土している。

今回の調査区でも**京都系土師器**（第85図－46）が1点出土しているが、近辺では馬込山第Ⅱ号墓、島根大学構内遺跡、上浜弓1号墳などで報告例がある。16世紀末～17世紀前半の松江地域は毛利、堀尾氏の治世下に入るための現象と考えられる。

参考文献

古賀信行　1999「中国地方の京都系土師器皿」『中近世土器の基礎研究』ⅩⅣ　日本中世土器研究会

島根県教育委員会　1996『一般国道9号（安来道路）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第12集　徳見津遺跡・目廻遺跡・陽徳寺遺跡』

島根県松江農林振興センター・安来市教育委員会　2000『安来市埋蔵文化財調査報告書第35集　潜戸谷遺跡』

八峠　興　1998「山陰における中世土器の変遷について－共膳具・煮沸具を中心として－」『中近世土器の基礎研究』ⅩⅢ　日本中世土器研究会

広江耕史　1992「島根県における中世土器について」『松江考古』第８号　松江考古談話会

第６節　陶磁器（第86図・図版109・110）

中世の輸入陶磁器としては、12世紀後半の青磁椀Ⅰ類と考えられる内面に劃花文の施された椀の小片が１点出土しているが、それに後続するものはなく、やや時期を経て16世紀第３四半期の青花皿１点が確認された。

国産陶器では14世紀と考えられる備前焼擂鉢の１点以外は、全て16世紀後半以降のものであり、備前・唐津・美濃・有田などの製品が数点ずつ出土しているが、

近世の遺物は図面を掲載していないが、肥前系の染め付けが一定量出土している。（第37表）

参考文献

伊藤　晃　1995「中世陶器〔４〕備前」『概説　中世の土器・陶磁器』

九州近世陶磁学会　2000『九州近世陶磁学会10周年記念　九州陶磁の編年』

續伸一郎　1995「貿易陶磁〔３〕中世後期の貿易陶磁」『概説　中世の土器・陶磁器』

森田　勉・横田賢次郎　1978「太宰府出土の輸入中国陶磁器について－形式分類と編年を中心として－」『九州歴史資料館研究論集』４

第７節　金属関係遺物（第86図・図版111）

平安時代に属する層から羽口先端１点、羽口基部と考えられる炉壁１点、銅滓２点が出土している。羽口の破片にも赤錆が付着しており、これらの遺物は銅製品鋳造に伴う遺物である可能性が指摘される。羽口の径が小さく厚みも薄いことから、小規模なものであったと考えられる。

第86図－19の短刀は、出土層位からみて、12～13世紀のものと考えられる。細身で中世期の一尺（31.6㎝）を指標として製作されたものであろう。

※青銅滓・羽口については穴澤義功氏より教示を得た。

第８節　石製品（第87～101図・図版113～121）

Ⅴ区で検出された石器は、瑪瑙・玉髄などで製作された後期旧石器～縄文早期に所属すると考えられる一群と、黒曜石で製作された縄文～弥生時代に帰属すると考えられる一群、縄文時代あるいは弥生時代に製作された縄文系の打製石器の一群、弥生時代の大陸系磨製石器の一群、弥生時代の打製石器の一群、時期不明の砥石に分類できるが、厳密な所属年代やセット関係が不明瞭なことから、個々の遺物の形態・素材による分類を行うにとどめた。

また、河川堆積物中から採集できた黒曜石については、第130表に掲げるとおり、重量別にランクを設けて分類し、各ランクの所属する個体数と総重量を掲載した。小さい剥片・チップほど現場での取りこぼしが多いと考えられ、本来の数値とはかけ離れると予想されるが、ある程度の傾向性はうかがえる。最大の黒曜石は全面が自然風化面を保つもので、1669ｇの重量を持っている。隠岐島から本土への搬出形態を知る上でも重要な資料といえるものである。河川堆積土中で検出した黒曜石原石・剥片・チップの総重量は6927ｇであるが、取りこぼしを加味すれば７kgを越える黒曜石が包含されていたと考えられる。

第87図４は安山岩製、同図６は黒曜石製のナイフ形石器であるが、瀬戸内技法に似た技法で製作されている。類似する刃器が鹿島町・佐太講武貝塚の縄文時代前期の貝層から出土しており、縄文時代にも剥片剥離の際に効率的に定型剥片を得られるような工夫をしていた可能性が指摘されている。

打製石斧（石鍬）は12点が出土しており、流紋岩製６点、玄武岩製５点、安山岩製１点であるが、衝撃に弱い頁岩製のものは１点も確認できなかった。帰属年代は弥生時代に下るものもあると考えられるが判然としない。

弥生時代の**大陸系磨製石器**の構成は、太型蛤刃石斧34点、柱状片刃石斧１点、小型方柱状片刃石斧５点、扁平片刃６点がある。穂摘具（磨製石包丁・打製石包丁・石鎌）については個体の認定が困難であるが、外湾刃型などの定型の個体と特定できるものは少量であり、大型磨製石包丁の破片が約20点、打製石包丁が未製品を含めて10点前後、石鎌が４点確認される。石製穂摘具のうち大型石包丁の扱いは慎重にならざるをえないが、単独で穂摘具として機能したものは打製石包丁の可能性もある。前期から中期の幅を持って考えざるをえないが、大陸系磨製石器の構成については酒井氏の指摘にあるように、山陰の西川津遺跡では伐採具である太型蛤刃石斧が多いという評価を追認することができる。ただし、石神氏の指摘にあるように、西川津遺跡では太型蛤刃石斧の製作を行っていることから、集落内で消費された石斧が厳密には抽出できない。

さらに全石器の構成で、西川津遺跡は武器が３～４割を占めるＣ類に分類できるというという石神氏の指摘は、石剣３点・石戈１点・環状石斧３点の他、23点出土している黒曜石製の石鏃を弥生時代に帰属させれば当てはまるが、石鏃の所属年代については縄文時代にさかのぼる個体があると思われるので、本調査区内での武器形石器の占める割合はやや低いものと考えられる。

島根県内で定型的な石包丁が希薄なことは従前から指摘されているが、本調査区出土例でも第95図－１～３が外湾刃半月形となる可能性はあるが細片化しており判然としない。また、薄い板状の石材に穿孔を施すものの刃部を形成していない個体も存在する。

定型的な石包丁の不明瞭さに対して、大型磨製石包丁が存在することも既知の事実であるが、本調査区では完形品は存在せず、全て細片化した状態で出土した。不明瞭な穂摘具の様相の中で、打製の穂摘具と思われる一群が存在する（第97図）。瀬戸内でみられるサヌカイト製の打製石斧のように紐通しのえぐりはみられないが、掌中に納めるのにはちょうど良い全長10㎝、幅７～８㎝程度の個体が多い。

太型蛤刃石斧（全34点）の石材は日野川上流の鳥取・岡山県境に産出するという蛇紋岩製が19点（55.9％）、玄武岩製が６点（17.6％）、頁岩製が４点（11.8％）、流紋岩・安山岩・斑岩製が５点（14.7％）であり、蛇紋岩製が過半数を僅かに超える程度で、比較的ばらつきがある結果となった。

93図－４は**石戈**と考えられる。援の先端のみ残存しており、刃部は両面からよく研磨されるが、鎬が無く断面形は扁平な六角形を呈す。援の背部分は扁平ではあるが、剥離しやすい頁岩の面をそのまま利用しており、研磨は僅かに行われている程度で剥離面の微妙な凹凸を残し、平滑になっていない。中村氏の分類では北部九州を中心に分布する無樋型石戈の中でも、形態上の退化が顕著なⅣ類に相当するものと考えられる。

石剣は３点出土しているがいずれも安山岩製であり、とくに93図－５・６について肉眼観察では、香川県金山産のサヌカイトである可能性が強い。93図－５は石剣の先端のみ残存しているが、

全面に丁寧な研磨を行い、やや丸味を持った鏑を表現し、断面形は胴張の強い菱形を呈している。研磨後に刃部を鋸歯縁状に打ち欠くもので、松江市・布田遺跡では玄武岩製の類品が出土している。研磨面が表面の多くを占めるものの、刃部は打ち欠いて成形していることから、ここでは局部磨製（の打製）石剣としておきたい。

93図－6は打製石剣であるが、先端近くに僅かに剥離前の研磨痕を残している。このような例は近畿地方でも40例以上確認されており、形成過程において一度に剥離を行うと破損や失敗の恐れがある場合、工程の途中で研磨を施して、表面調整を施した後に再び剥離作業に入ったことが指摘されている。

擦り切り痕跡・擦痕のある石材（98図）のうち98図－9・10以外は頁岩であり、石材からみてこれらは磨製石包丁等の製作途中に生じた切片もしくは未製品と考えられよう。98図－9・10は凝灰質泥岩（緑色凝灰岩）であることから、玉作と関連する遺物の可能性がある。

参考文献

粟田　薫　1995「打製石剣の製作技術」『弥生文化博物館研究報告』第4集

石神　怡　2000「石器残照」『神々の源流　出雲・石見・隠岐の弥生文化』大阪府立弥生文化博物館

鹿島町教育委員会　1994『佐太講武貝塚発掘調査報告書』2

酒井龍一　1986「石器組成からみた弥生人の生業行動パターン」『文化財学報』第4集　奈良大学文化財学科

酒井龍一　1989「初期農耕開拓活動の諸形態」『文化財学報』第7集　奈良大学文化財学科

島根県教育委員会　1983「Ⅲ　布田遺跡」『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』

竹広文明　2000「山陰における石器石材利用をめぐる二、三の問題」『島根考古学会誌』第17集　島根考古学会

中村修身　1997「石戈の形態分類と編年（再考）」『地域相研究』第25号

※後期旧石器時代～縄文時代の石器については竹広文明氏から教示を得た。

第9節　木製品（第102～106図・図版121～129）

木製品については、流木と伐採痕跡・加工痕跡のある表皮付き材の区別が困難であり、また時期的な分離も不可能であったことから分類・数値化は断念した。

第102図－7は一木直伸平鋤である。柄先端部は欠損しており、その構造は不明であるが、身の先端は当初からやや細く作り出してあり、鉄製U字形鋤先の装着痕として理解できる。Ⅴ－1－3区の出土であることから5世紀後半～6世紀前半の可能性が考えられる。近隣の金崎1号墳からも鉄製U字形鋤先が出土していることから、5世紀後半にはこの近辺でも鉄製農具は普及しつつあったと考えられる。

第103図－1はⅤ－4－2区の地山泥層に近い砂レキF層中から検出した臼状木製品である。表面には樹皮が残存しており、直径54.7㎝～58.1㎝の広葉樹を58.3㎝幅に切り、上面から繰り込んで凹面を形成する途中で、木芯部が抜け落ちた失敗作ではないかと考えられ、頂部の凹面には幅8㎝弱の緩やかな円刃痕と幅5㎝程の緩やかな円刃痕が残存している。腰部が括れる高杯形ではないが、出土層位から5世紀の所属と考えられる。

第103図－2はⅤ－1－3区の砂レキD層から出土した一木五又鋤である。柄部先端は欠損しており、刃部も細かく裁断された状態であったが、材が揃っていたため旧状に近い状態まで修復でき

たものである。一木又鋤の中でも刃数が多く、最も長い刃部は長さ19.5cmの規模をもつなど精緻なものである。

第104図－1は用途不明の部材であるが、端部から28cmの間は材の2/5程度が丁寧に削いであり、別材を充てる構造であったことが認められる。接合の補強には端部に平行して溝状の繰り込みを設け、紐状のもので結んで固定するとともに、中間に木栓を差し込んだうえに、帯状のもので巻き付けている様子が観察できる。表面は鉋で丁寧に削られており、滑らかに仕上げられている。兵庫県和田山町の片引遺跡でも同様の部材が出土しており、建築部材として報告されているが、やや材が細く丁寧な加工であることから別用途を考えたい。

参考文献

木川正夫　1999「刻骨と鋸歯状木製品に関わる比較考察」『財団法人　愛知県埋蔵文化財センター　平成10年度年報』

黒崎　直　1996『日本の美術2　古代の農具』至文堂

中川　寧　2000「出雲における木製耕起具の変遷について」『島根考古学会誌』第17集　島根考古学会

奈良国立文化財研究所　1993「木器集成図録　近畿原始編」『奈良国立文化財研究所史料』第36冊

兵庫県教育委員会　1985『兵庫県文化財調査報告第31冊　筒江遺跡群Ⅰ』

第 5 章

自然科学的分析

第5章　自然科学的分析

第1節　西川津遺跡における花粉組成変遷と周辺地域の環境変遷

渡辺 正巳（文化財調査コンサルタント㈱）

はじめに

島根県東部、松江平野の東北部を流れる朝酌川下流域には、上流部より西川津遺跡、原の前遺跡、タテチョウ遺跡という、国内有数の低湿地遺跡群が広がっている。

これらの遺跡では、植生変遷を明らかにするために継続的に花粉分析が実施されていた。ここでの花粉分析の成果は大きく2期に分けて考えることが可能である。

第1期は1979～1989で、大西ほかにより実施された分析である。大西（1979）によりタテチョウ遺跡で花粉分析が実施されて以降の成果が大西ほか（1989）でまとめられ、大西ほか（1990）、大西（1991）での中海・宍道湖地域での地域花粉帯設定の基礎となった。

第2期は1997以降であり、廉・渡辺（1997）、中村ほか（1997）の指摘（K－Ah火山灰層とカシ・シイ花粉帯カシ亜帯の関係の矛盾）による、大西ほか（1990）の地域花粉帯見直しの時期である。

大西ほか（1989）は西川津遺跡での分析結果を基に、K－Ah火山灰層はマツ・モミ帯モミ亜帯中に狭在されるとした。これに対し、廉・渡辺（1997）は大田市波根のOH94ボーリング試料の分析から、K－Ah火山灰層がカシ・シイ花粉帯カシ亜帯中に狭在していることを示した。また中村ほか（1997）は、大西ほか（1990）のSB1ボーリング試料中の火山灰層を再検討し、カシ・シイ花粉帯カシ亜帯層準からK－Ah火山灰層を検出した。一方、朝酌川下流域の遺跡群と近接する島根大学構内遺跡では、K－Ah火山灰層はコナラ亜属、あるいはマツ属（複維管束亜属）が卓越していた（川崎地質㈱、1997、1998）。これらの一見矛盾した状況について、川崎地質㈱（1998）はK－Ah火山灰層降灰層準での西川津遺跡、島根大学構内遺跡周辺での局地的植生分布によることを指摘した。

今回の報告は、島根県教育委員会が'98、'99年度に川崎地質株式会社に委託して行った各種微化石分析調査の結果および'00年度に文化財調査コンサルタントに委託して行った樹種鑑定結果をまとめ直したものである。特に西川津遺跡内では従来報告の無かった奈良時代以降の花粉組成変遷と、湖底ボーリングとの対応が疑問視されていたにK－Ah火山灰層（カシ・ナラ花粉帯カシ亜帯）より下位の花粉組成変遷について詳細に報告する。また、古墳時代の流木の樹種鑑定結果についての報告も併せて行った。

試料について

図1に示す2地点で、分析用試料が採取されている。各地点の模式柱状図および試料採取層準を、図2、3の花粉ダイアグラム中に示した。樹種鑑定試料は島根県教育庁埋蔵文化財調査センター岩橋氏より提供を受けた。各試料の出土層準、推定堆積年代を、分析結果と併せ表1に示す。

分析方法および分析結果

(1) 分析方法

花粉分析処理および珪藻分析処理は、渡辺（1995a、b）に従っている。顕微鏡観察は光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いている。花粉分析では原則的に木本花粉総数が200個体以上になるまで同定・計数を行い、同時に検出される草本化石も同定・計数されている。また、イネ科花粉を中村（1974）に基づき直径40μm以上・未満に分けて計数している。珪藻分析では、原則的に珪藻化石総数が200個体以上になるまで同定を行っている。しかし、一部の試料では花粉化石および珪藻化石の含有量が少なかったために、木本花粉化石総数あるいは、珪藻化石総数で200を越えていない。

プラント・オパール分析は、藤原（1976）のグラスビーズ法に従っている。また、イネ科の機動細胞に由来する「ファン型」についてのみ分類した。

樹種鑑定にあたり、永久プレパラートを古野・渡辺（2000）に従い作成した。また、樹種鑑定にあたり島根大学総合理工学部古野　毅教授には終始、ご助言・ご指導を頂いている。また、樹種鑑定に際して作成したプレパラートは、すべて文化財調査コンサルタント㈱にて、整理・保管している。

(2) 分析結果

花粉分析結果を図２、３のダイアグラムに示す。花粉ダイアグラムでは、同定した木本花粉総数を基数にした百分率を各々の木本花粉、草本花粉について算出し、スペクトルで表した。花粉含有量の少ない試料については、検出できた試料を＊で示した。

珪藻分析結果を図４、５のダイアグラムに示す。珪藻ダイアグラムでは、同定総数を基数にした百分率を各々の種類について算出し、スペクトルで表した。珪藻総合ダイアグラムのうち左端の「生息域別グラフ」は、同定した全ての種類を対象に、それぞれの要因（生息域）毎に百分率で表したものである。その他の４つのグラフは、淡水種の珪藻についてそれぞれの要因毎に百分率で表したものである。

プラント・オパール分析結果を図６のダイアグラムに示す。プラント・オパールダイアグラムでは、１ｇあたりの含有数に換算した数を検出された種類毎に示した。

樹種鑑定結果を表１に示すほか、以下に各分類群毎に記載を行い、代表的な試料の顕微鏡写真を図版１～５に示す。

また、試料№10は外部形態からキノコ類（サルノコシカケ科？）と推定される。

① イヌガヤ属 *Cephalotaxus* sp.　試料№：６，15，19

記載：構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材の幅は非常に狭い。樹脂細胞は多く、年輪内に均等に散在している。分野壁孔は小型のヒノキ型で、２～３個存在する。仮道管にらせん肥厚が顕著に認められることなどから、イヌガヤ属と同定した。

② イチイ属 *Taxus* sp.　試料№：11

記載：構成細胞は仮道管、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材の幅は非常に狭い。分野壁孔は非常に不明瞭であるが、ヒノキ型で１～２個存在する。仮道管にらせん肥厚が顕著に認められることなどから、イチイ属と同定した。

③　コナラ属コナラ亜属（コナラ節）*Quercus* (sect. *Prinus*) sp.　試料№.：20, 25

記載：円形ないし楕円形の道管が孔圏に単独で１～３列（１列目径350～400μm程度、２～３列目に径150～250μm程度；20の実測値。25はこれよりやや小）に配列する環孔材である。孔圏外では小道管（50～100μm程度）が単独あるいは２～３個かたまって放射状ないし火炎状に配列する。小道管は薄壁で角ばっている。道管せん孔は単せん孔で、道管にはチロースがよく発達している。孔圏道管の周りには周囲仮道管が存在している。放射組織は同性で、単列放射組織ときわめて幅の広い広放射組織からなる、典型的な複合型である。軸方向柔細胞は孔圏部で周囲状に存在するほか、孔圏外で１ないし２細胞幅の単接線状に存在する。また、25の軸方向柔細胞には結晶が認められる。以上の組織上の特徴から、コナラ属コナラ亜属コナラ節と同定した。

④　ムクノキ *Aphananthe aspera* Planch.　試料№.：16, 30

記載：道管（径150～200μm程度；16の実測値。30はこれより小）が単独ないし２～３個放射方向に複合し、年輪内に均等に分布する散孔材である。道管の分布数はやや少ない。道管せん孔は単せん孔で、道管壁は非常に厚い。道管相互壁孔は交互状を示す。放射組織は異性型で、１～４細胞幅（高さ400μm程度以下）である。上下辺縁の細胞に結晶が存在している。軸方向柔組織は周囲状、連合翼状から、特に年輪後半部で５～10細胞幅で接線方向への帯状配列が目立ち、特徴的である。以上の組織上の特徴からムクノキと同定した。

⑤　エノキ属 *Celtis* sp.　試料№.：1, 3, 4, 5, 7, 8, 12, 13, 22, 24, 31, 36

記載：多くの試料は年輪幅がかなり広い。一方、１、36は年輪幅が非常に狭い。単独の道管（径150～200μm程度。１、36はこれよりやや大）が１～２列（まれに３列）に配列する環孔材である。孔圏外では単独（径100μm程度）あるいは房状に集合した小道管（径30～50μm）が集団管孔を形成し、散在あるいは接線状から斜線状に配列している。道管せん孔は単せん孔で、小道管にはらせん肥厚が存在する。また道管内にはチロースが発達している。放射組織は異性型で、１～３列（高さ300μm程度以下）の幅の狭いものと、６～11列の幅の広い紡錘形（高さ300～800μm。1、36では1000μmを越すものもある）を示すものがある。また、紡錘形放射組織にはさや細胞が顕著である。放射柔細胞中に結晶が認められる。軸方向柔細胞は周囲状の他に、晩材部で翼状ないし連合翼状を示すものがある。以上の組織上の特徴から、エノキ属と同定した。

⑥　ニレ属？ cf. *Ulmus*　試料№.：34, 35

記載：年輪幅が極めて狭く、接線方向に圧縮を受けて変形が激しく、組織の損傷も大きい。道管（径250～300μ程度）が孔圏に単列に配列する環孔材である。孔圏外は非常に狭いが、小道管が集合して房状になっているものと思われる。道管せん孔は単せん孔で、道管相互壁孔は交互状を示す。小道管にはらせん肥厚が顕著に認められる。道管内にチロースが存在する。放射組織は同性型で１～６細胞幅で高さは低い。軸方向柔細胞は周囲状に配列していると思われる。木部繊維は非常に厚壁である。以上の組織上の特徴からニレ属の可能性が指摘できるが、断定には至らなかった。

⑦　ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino　試料№.：28, 33

楕円形（径150μm程度）の道管が孔圏にほとんど単列に配列する環孔材である。孔圏外では

小道管が単独（径100μm程度；33のみ）あるいは集合（径30～50μ程度）して斜線状、接線状に配列している。道管せん孔は単せん孔で、道管相互壁孔は交互状を示す。小道管にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性型で1～6細胞幅であり、4～6細胞幅の一様な大きさの紡錘形放射組織（高さ400～1000μm程度）のものが目立つ。上下辺縁の方形細胞に大型の結晶細胞が認められるものがある。軸方向柔細胞は孔圏部の大道管および孔圏外の集団管孔を取り囲む周囲柔組織をなしている。以上の組織上の特徴から、ケヤキと同定した。

⑧　クワ属 *Morus* sp.　試料№.：18

記載：年輪幅は非常に狭い。単独の道管（径200μm程度）が孔圏に1～2列に配列する環孔材である。孔圏外は狭いが、小道管（径30～50μm）が単独あるいは数個が房状に複合して散在している。道管せん孔は単せん孔で、道管相互壁孔は交互状を示す。小道管にらせん肥厚が認められる。道管内にチロースが存在している。放射組織は異性型で、1～6細胞幅であり、上下辺縁に直立細胞あるいは方形細胞が見られる。放射組織の高さは350μm程度以下で、紡錘形をなして目立つ。軸方向柔組織は周囲状である。以上の組織上の特徴からクワ属と同定した。

⑨　クスノキ科？ cf. Lauraceae　試料№.：27

記載：年輪幅が非常に狭い。道管（径40～70μm程度）が単独ないし2～3個放射方向に複合して、年輪内に均等に分布する散孔材である。道管の分布数は少ない。道管せん孔は単せん孔で道管壁は厚く、道管相互壁孔は交互状を示す。道管内にチロースが存在し、着色物質を含むものがある。放射組織は異性型で1～3細胞幅（高さ200～300μm）である。道管放射組織間壁孔は明瞭な階段状を示す。軸方向柔細胞は周囲状である。放射柔細胞および軸方向柔細胞に異形細胞と思われるものが出現するが、顕著でない。以上の組織上の特徴からクスノキ科の樹種であると推定されるが、断定には至らなかった。

⑩　サカキ *Cleyera japonica* Thunb.　試料№.：17

記載：角張った道管（径30～40μm程度）が単独ないし2個複合して年輪内に均等に分布する散孔材である。道管せん孔は階段せん孔で、barの数は30程度かそれ以上である。放射組織はほとんど単列異性型（部分的に2列のものあり）で、平伏細胞、直立細胞、方形細胞の3種類がすべて存在する。軸方向柔細胞は散在状である。木部繊維は非常に厚壁で、有縁壁孔が認められる。以上の組織上の特徴から、サカキと同定した。

⑪　ヒサカキ属 *Eurya* sp.　試料№.：9, 23, 29, 32

記載：角張った道管（径30～60μm程度。29はやや小）が単独ないし2、3個複合して年輪内に均等に分布する散孔材である。道管せん孔は階段状でbarは20程度である。道管側壁の壁孔は対列状～階段状である。放射組織は異性型で1～3（ごく希に4）細胞幅（高さは800μm程度以下。32は1000μm程度以下）である。また、典型的な異性Ⅰ型を示すものもある。29では放射柔細胞中に結晶が認められ、しばしば異形細胞となって目立つ。軸方向柔細胞は散在している。木部繊維は非常に厚壁で、有縁壁孔が認められる。以上の組織上の特徴から、ヒサカキ属と同定した。

⑫　カエデ属 *Acer* sp.　試料№.：2

記載：道管（径40～70μm程度）が単独ないし2～4（希に5）個放射方向に複合して、年

輪内に均等に分布する散孔材である。道管の分布数は少ない。道管せん孔は単せん孔で、道管相互壁孔は交互状を示す。道管にらせん肥厚が存在する。道管内に着色物質が認められるものがある。放射組織は同性型で1～5細胞幅（高さ350μm程度以下）。軸方向柔細胞はあまり目立たないが、散在するものと帯状を示すものがある。以上の組織上の特徴からカエデ属と同定した。

⑬　トネリコ属 *Fraxinus* sp.　試料№.：26

記載：単独の道管（径150μm程度）が孔圏にやや疎にほとんど単列で配列する環孔材である。孔圏外では小道管（径30～50μm）が単独あるいは2～3個複合して、散在している。道管せん孔は単せん孔で、道管相互壁孔は交互状を示す。孔圏外の小道管の壁厚さは非常に厚い。道管内にチロースが認められる。放射組織は同性型で1～3細胞幅で、高さは300μm程度以下である。軸方向柔組織は顕著に存在し、孔圏部で周囲状、孔圏外で翼状～連合翼状から接線方向に長い帯状を示すものがある。以上の組織上の特徴からトネリコ属と同定した。

⑭　タカノツメ？ cf. *Evodiopanax innovans* Nakai　試料№.：14

記載：年輪幅は狭い。やや角張った道管（径40～60μm程度）が単独ないし数個複合して年輪内に均等に分布する散孔材であるが、年輪の初めにやや大きい道管が疎に1列に配列し、環孔状を呈する。道管せん孔は単せん孔である。放射組織は異性型で1～3細胞幅であり、高さは500μm程度以下である。軸方向柔細胞は不顕著である。以上の組織上の特徴からタカノツメと推定されるが、断定には至らなかった。

花粉分帯

花粉分析結果、出土遺物から推定される年代、隣接する97年度Ⅴ区－Aでの花粉分析結果（渡辺、1999）をもとに、花粉帯を設定した。また、今回の結果を踏まえ、渡辺（1999）でのⅤ区－Aでの花粉分帯を一部変更した。さらに大西ほか（1989）、大西ほか（1990）、大西（1993）の花粉帯との比較も同時に行った。

以下では花粉組成の変遷を見るために、下位から上位に向かって花粉帯の記載を行う。また今回も渡辺（1999）に倣いローマ数字で花粉帯を表し、大西ほか（1990）の花粉帯・亜帯に相当する花粉帯が認められない場合、欠番とした。

(1)　X帯（ブナ・ツガ花粉帯ムクノキ・エノキ亜帯）：Ⅴ区深堀試料№.7

アカガシ亜属が卓越するほか、マツ属（複維管束亜属）、ムクノキ属－エノキ属が特徴的に出現する。

SB1（大西ほか、1990）のブナ・ツガ花粉帯ムクノキ・エノキ亜帯ではアカガシ亜属、ムクノキ属－エノキ属が前後の花粉帯に比べ高率になる。一方でマツ属（複維管束亜属）は前後の花粉帯に比べ低率になる。以上のような共通点があることから、花粉化石の含有量が少ないもののX帯を独立した花粉帯と見なし、ブナ・ツガ花粉帯ムクノキ・エノキ亜帯に対応すると考えた。

(2)　Ⅸ帯（マツ・モミ花粉帯モミ亜帯）Ⅴ区深堀：試料№.6～4、Ⅴ区－A試料№.2－38、37

コナラ亜属が卓越する。ムクノキ属－エノキ属が出現しない試料もあるほか、マツ属（複維管束亜属）が上位の層準に比べ高率を示し、モミ属は上下の層準に比べやや高率になる。

またⅤ区－A試料№.2－38、37はコナラ亜属が卓越するほか、ムクノキ属－エノキ属が上位に

比べ低率になり、ブナ属は検出されない。またマツ属（複維管束亜属）、モミ属が高率になるなどの点で今回の試料№6～4と一致点が多く、Ⅸ帯と変更した。

SB1（大西ほか、1990）のマツ・モミ花粉帯モミ亜帯ではマツ属（複維管束亜属）が卓越し、モミ属が前後の層準に比べ高率になるほか、ムクノキ属－エノキ属は前後の花粉帯に比べ低率になる。また、コナラ亜属はアカガシ亜属に比べ同程度あるいは高率になる。

以上のような点から、Ⅸ帯がマツ・モミ花粉帯モミ亜帯に対応すると考えた。

(3) Ⅷ帯（マツ・モミ花粉帯ニレ・ケヤキ亜帯）：Ⅴ区－A試料№2－36、35

Ⅴ区－A試料№2－36、35ではコナラ亜属が卓越すること、アカガシ亜属、ムクノキ属－エノキ属が上位に向かい増加傾向を示し、ブナ属が僅かながら検出されること、マツ属（複維管束亜属）が不安定な出現傾向を示すことから上位および下位の層準と分けてⅧ帯と変更した。

SB1（大西ほか、1990）のマツ・モミ花粉帯ニレ・ケヤキ亜帯ではブナ属、ハンノキ属、ニレ属－ケヤキ属が上位のカシ・シイ花粉帯カシ亜帯に比べ高率になる。このためコナラ亜属、アカガシ亜属が相対的に激減する。一方でコナラ亜属はアカガシ亜属と同程度、アカガシ亜属、ムクノキ属－エノキ属は上位に向かい増加傾向を示す。

ハンノキ属、ニレ属－ケヤキ属は局地的な植生の影響を受けること、おそらくブナ属は中国山地よりもたらされていると考えられることから、西川津遺跡ではSB1で卓越する上記三種類の検出量が少なかったと考えられる。このことを踏まえ、コナラ亜属、アカガシ亜属、ムクノキ属－エノキ属の増減傾向から、Ⅷ帯がマツ・モミ花粉帯ニレ・ケヤキ亜帯に対応すると考えた。

(4) Ⅶ帯ｃ亜帯（区分ｊ、カシ・シイ花粉帯カシ亜帯下部）：Ⅴ区深堀試料№3～1、Ⅴ区－A試料№2－34～30

コナラ亜属が他の種類より高い出現率を示すほか、クマシデ属－アサダ属、アカガシ亜属、ムクノキ属－エノキ属、ニレ属－ケヤキ属もその他の種類に比べやや高い出現率を示す。また、シイノキ属－マテバシイ属が連続して出現するようになる。草本花粉ではカヤツリグサ科、イネ科（40ミクロン未満）が高率で出現する。

大西ほか（1990）のカシ・シイ花粉帯カシ亜帯では、下位のマツ・モミ花粉帯ニレ・ケヤキ亜帯に比べアカガシ亜属が高率になる。また、シイノキ属が連続して出現するようになる。これらの暖温帯林要素の出現傾向からⅦ帯ｃ亜帯がカシ・シイ花粉帯カシ亜帯に相当すると考えた。さらに、アカガシ属の出現率が低いことからカシ・シイ花粉帯カシ亜帯下部に相当すると考えた。

大西ほか（1989）は、区分ｊ、ｉをマツ・モミ花粉帯としていた。しかし、K-Ah火山灰層との関連から、区分ｊ、ｉがカシ・シイ花粉帯カシ亜帯に対応することは明白であり、今回のⅦ帯と対応する。花粉組成的では、区分ｊ、ｉとともにシイ属―クリ属花粉が連続して検出されており、Ⅶ帯の特徴と一致する。また、マツ属の出現状況などから、区分ｊがｃ、ｂ亜帯に、区分ｉがａ亜帯に相当すると考えられる。

(5) Ⅳ帯（区分ｅ～ｃ、イネ科花粉帯スギ属亜帯）：Ⅴ－1～2区東壁試料№1～9

アカガシ亜属、スギ属が卓越するほか、マツ属（複維管束亜属）、コナラ属も他の種類に比べ高率を示す。スギ属の出現率に大きな変動があることから、さらにｃ～ｄ亜帯に細分した。

ｃ亜帯（区分ｅ）：Ⅴ－1～2区東壁試料№1～7

スギ属の出現率は30％までで、多くの試料でアカガシ亜属の方が高率を示す。

b亜帯（区分e）Ⅴ－1～2区東壁：試料No.8

スギ属が40%の出現率を示す。

a亜帯（区分e～c）：Ⅴ－1～2区東壁試料No.9

スギ属は17%の出現率を示し、アカガシ亜属の方が高率を示す。

スギ属が高率で出現することから、イネ科花粉帯スギ亜帯に相当することは明らかである。大西（1993）は、イネ科花粉帯スギ属亜帯と上位のカシ・ナラ亜帯の境界の年代を中海、宍道湖の湖底堆積物の推定堆積速度から8世紀初頭（AD700年）頃と考えた。しかし、今回の結果では両者の境界は9世紀前半となる。

詳細に検討すると、マツ属（複維管束亜属）がさほど高率にならないこと、スギ属が比較的高率で出現することから大西ほか（1989）の区分e～cに対比できる。またこれらの内、スギ属の出現率の高いc、b亜帯は区分eに、スギ属の出現率が低率になるa亜帯は区分e～cに対比できる。

(6) Ⅲ帯（区分b，a、イネ科花粉帯カシ・ナラ亜帯）：Ⅴ－1～2区東壁試料No.10～21

マツ属（複維管束亜属）が卓越するほか、スギ属、アカガシ亜属、コナラ亜属が他の種類に比べ高率を示す。

マツ属（複維管束亜属）が高率を示すことから大西（1989）の区分b、aに対比できる。マツ属（複維管束亜属）が他の種類に比べ高率で出現することから、イネ科花粉帯マツ属亜帯に相当する可能性がある。大西ほか（1989）でもⅢ帯に対比した区分b、aをイネ科花粉帯マツ属亜帯としている。しかしⅢ帯に相当する堆積物の推定堆積時期が、今回の調査では9世紀後半から14世紀頃までであることが明らかになり、マツ属亜帯始まりの推定年代であるAD1600年頃（大西、1993）と大きく異なる。このことは、西川津遺跡での局地的植生の影響であると考えられ、この時期がマツ属亜帯に先立つカシ・ナラ亜帯に相当する時期であることから、Ⅲ帯がカシ・ナラ亜帯に相当するとした。

珪藻分帯

珪藻分析結果をもとに、D－Ⅰ～Ⅲ帯の珪藻帯を設定した。以下に各珪藻帯の特徴を示す。また珪藻帯の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載する。

(1) D－Ⅲ帯（Ⅴ区深堀試料No.4）

含有量が少ないものの、検出された珪藻は全て淡水種であり、特に*Pinnularia* 属が卓越する。

(2) D－Ⅱ帯（Ⅴ区深堀試料No.3）

海～汽水種が20%、淡水種が80%を占める。また、淡水種では*Pinnularia* 属が卓越する。

(3) D－Ⅰ帯（Ⅴ区深堀試料No.2、1）

海～汽水種、淡水種がそれぞれ50%程度を占める。量試料とも淡水種では*Pinnularia* 属が卓越する。一方で、試料No.1では海水泥質干潟指標種の*Diploneis smithii* が、試料No.2では内湾指標種の*Grammatophora macilenta* が特徴的に出現する。

Grammatophora macilenta が出現する試料No.2をb亜帯、Diploneis smithii が出現する試料No.1をa亜帯とした。

花粉分析結果と樹種鑑定結果

樹種鑑定結果を、各分類群と堆積時期の関係を基にまとめ直した（表２）。西川津遺跡内の花粉分析結果の内、４～６Ｃ（古墳時代）の分析結果として、97年度調査Ⅲ区右岸のデータがある（渡辺、1999）。ここでは、スギ属、アカガシ亜属が高率を占め、マツ属（複維管束亜属）、クマシデ属－アサダ属、コナラ亜属、ムクノキ属－エノキ属、ニレ属－ケヤキ属を伴うという花粉組成が認められる。この傾向は弥生時代に既に認められ、その後９Ｃ前半まで続いている。ただし、アカガシ亜属は減少傾向を示している。

花粉組成と材組成は大きく異なる。樹種鑑定結果の内「川沿いの森に生育する」ムクノキ、エノキ属、ニレ属？、ケヤキ、クワ属、トネリコ属などが多くを占めていることから、花粉組成と材組成の違いは花粉と材の移動距離に起因すると考えられる。

環境変遷

ここでは、花粉帯毎に遺跡周辺の古環境を推定する。

①　Ｘ帯期前（前期完新世以前、後期更新世？）

緑灰色礫混じり泥層・青緑色礫層、灰色泥層下部の堆積した時期である。シデライトの自生型結晶を多く含むことから、淡水環境下で堆積したと考えられる（中村ほか、2001）。

この時期の堆積物からは、花粉化石、珪藻化石共にほとんど含有されない。一方、プラント・オパール化石は全試料共に多量に含有されており、層準による含有量の差は認められない。プラント・オパール化石が検出され、花粉化石、珪藻化石の含有量が極めて少ないことから、花粉が残りにくく珪藻も生育不可能な乾燥環境下（ササ類の繁茂する荒野？）で生成された古土壌が、洪水により再堆積したと考えられる。

②　Ｘ帯期

灰色泥層中部の堆積した時期であり、シデライトの自生型結晶を多く含むことから、淡水環境下で堆積したと考えられる。前の時期に比べ安定した堆積環境になり、灰色泥層中部は朝酌川の後背湿地で堆積した可能性もある（中村ほか、2001）。

ヨシ属のプラント・オパールが検出されイネ科（40ミクロン未満）花粉も検出されることから、朝酌川縁辺部や後背湿地にはヨシ原が広がっていたと考えられる。また朝酌川沿いには、キク科の草本やササ類の繁茂する荒野が見られるほか、気温の上昇に伴い分布域の拡大傾向にあったカシ類（中でも先駆的なアラカシなど）やムクノキ属－エノキ属が自然堤防林を形成していたと考えられる。一方で丘陵部から嵩山、北山山地にかけては、ミズナラ、カシワシデなどのナラ類やシデ類、アカマツを要素とする冷温帯林が広く分布していたと考えられる。

③　Ⅸ帯期（およそ7000y.B.P.以前）

灰色泥層中部～上部の堆積した時期である。上部には黄鉄鉱を含んでおり、海水（汽水）の影響を受けた可能性がある（中村ほか、2001）。一方でＶ区深堀試料№４からは淡水種の珪藻しか検出されず、試料№５では珪藻化石は全く検出されない。花粉組成が不連続であること、土壌化を受けた形跡があることなどから、灰色泥層上面が旧地表面であった可能性が指摘できる。淡水環境で堆積後陸化、その後縄文海進に伴う海水（汽水）の影響により黄鉄鉱ができたと考えられる。

Ⅴ区深堀試料№.6～4ではイネ科（40ミクロン未満）花粉が増加傾向を示す。一方でキク亜科、ヨモギ属花粉が減少傾向を示す。また、5区深堀試料№.6、5ではヨシ属のプラント・オパールも検出されない。X帯期から朝酌川の流路が替わり、この時期の初めに後背湿地の内部であった調査地点の乾燥化が起こったと推定さる。ヨモギ類や他のキク亜科、ススキなどのイネ科の繁茂する荒野が、あたりに広がっていたと考えられる。その後、試料№.4でヨシ属のプラント・オパールが検出され湿地化した可能性も指摘できる。しかし、ヨシ属のプラント・オパールは上位から混入した可能性が高い。

アカガシ亜属花粉が急減し、気温の低下が推定される。しかし、朝酌川の流路変更に伴い自然堤防の位置が移動し、ここでの自然堤防林が衰退、さらに丘陵に分布していた冷温帯林が後背湿地の乾燥に伴い分布を拡大した可能性もある。

④　Ⅷ帯期（およそ7000y.B.P.頃、あるいは以前）

今回の調査地点では明確に現れなかったが、下流に位置するⅤ区－Aでは堆積物がやや厚くⅧ帯を認識することができた。

調査地近辺の様子は、Ⅸ帯期に比べ大差ない。ヨモギ類や他のキク亜科、ススキなどのイネ科の繁茂する荒野に、ニヨウマツ類（アカマツ？）が局所的に入り込んでいたと推定される。

⑤　Ⅶ帯ｃ亜帯期（およそ7000～6300y.B.P.頃）

縞状有機質泥層の堆積した時期であり、黄鉄鉱の自生型結晶を多く含む。また珪藻化石でも海～汽水種が検出され、海～汽水環境で堆積したことが明らかである。温暖化に伴う海水準の上昇（縄文海進）により、遺跡内は古宍道湾（古松江湾）の湾奥に位置する様になった。また、Ｄ－Ⅰ帯ａ、ｂ亜帯として認められる有機質に富むラミナと泥分に富むラミナの互層は、周期的な海水準（湖水準）の変動に伴なう周辺環境の違いに起因して形成されたと考えられる（中村ほか、2001）。

ヨシ属のプラント・オパールが安定して検出され、イネ科（40ミクロン未満）の出現率も高い。また、カヤツリグサ科の出現率も高いことから、古松江湾奥の調査地点一帯にはヨシや、カヤツリグサ科などの湿地性植物の繁茂する湿地が広がっていたと考えられる。朝酌川流域には自然堤防が発達し、ムクノキ属－エノキ属やアラカシなどが自然堤防林として分布する。また、周辺の丘陵にはカシワやミズナラなどの冷温帯林に替わり、カシ類、シイノキ類を要素とする照葉樹林が目立つようになる。また大西ほか（1989）で認められるように、局所的にニヨウマツ類が繁茂する場所もあった。

⑥　Ⅳ帯期（～9世紀前半）

ｃ亜帯期には粘土、シルトの層相がほとんどを占め比較的安定した堆積環境を示す。一方ｂ、ａ亜帯期には砂礫が厚く堆積し、周辺の環境が悪化したと考えられる（中村ほか、2001）。

朝酌川の川岸にはガマやアシが繁茂し、調査地点近辺では稲作が行われたと考えられる。しかし、ｃ亜帯終末期からｂ亜帯期では堆積環境の悪化とイネ科（40ミクロン以上）花粉が低率になることから、水害などのため調査地点近辺の水田が一時的に放棄された可能性が指摘できる。

遺跡背後の丘陵から嵩山や北山山地にかけてはカシ類やシイを要素とする暖温帯林や、アカマツ、コナラ類を要素とする二次林に覆われていたと考えられる。モミは調査地周辺で現在も照葉樹林中に混生しており、現在と同じような様相を示していた可能性が高い。出現率の高いスギに

は生態学的に不明な点も多いが、谷沿いの低地に生育していたと考えられる。

材のうち５Ｃ後半の堆積物と共に検出された各分類群は２種類・４個体と僅かであるが、他の時期のものは９種類・14個体（４Ｃ）、９種類・17個体（５Ｃ前半）とほぼ同程度である。また、同定された分類群は大別して「川沿いの森に生育するもの」と「二次的な森に生育するもの」に分けられるが、４Ｃから５Ｃ前半の間に大きな変化はない。

一方ほぼ同地点で行われた弥生時代の自然木樹種同定結果（大西ほか、1988）では、「川沿いの森に生育するもの」は少なく、アカガシ亜属などのいわゆる「照葉樹林」の構成種が多く検出される。弥生時代から古墳時代に至る間で海崎橋近辺の丘陵に分布していた照葉樹林は伐採され、「二次的な森」に変わっていったと考えられる。

⑦　Ⅲ帯期（９世紀後半～14世紀）

Ｖ－１～２区東壁試料№17と18の間に砂層による削り込みが認められるものの、粗粒堆積物もほとんどなく、花粉組成の変化もあまりないことから、この時期を通じて比較的安定した堆積環境であったと考えられる。

Ⅳ帯期に比べ、朝酌川川岸の様相に大きな変化はない。Ｖ－１～２区東壁試料№15層準より上位ではソバ属花粉がほぼ連続して出現することから、休耕田や水田の畦などでソバ栽培が行われていたと考えられる。

遺跡背後の丘陵から嵩山や北山山地にかけては広く、アカマツ、コナラ類を要素とする二次林に覆われていたと考えられるが、カシ類やシイを要素とする暖温帯林も分布していたと考えられる。スギは引き続き谷沿いの低地に生育していたと考えられる。

まとめ

西川津遺跡で諸分析を行い、以下のことを考察した。

(1)　花粉分析結果および推定堆積時代、渡辺（1999）の花粉帯の再考から、Ｘ～Ⅶ、Ⅳ、Ⅲ帯の６花粉帯を設定した。また、Ⅳ帯をｃ～ａ亜帯に細分した。

この結果、宍道湖湖底で定義された地域花粉帯のうち、ブナ・ツガ花粉帯ムクノキ・エノキ亜帯より上位の花粉帯・亜帯のすべてが西川津遺跡内で確認されたことになる。

(2)　既知の花粉分析結果である大西ほか（1989）、大西ほか（1990）、大西（1993）との対比を行った結果、幾つかの問題点が明らかになった。以下に列記する。

①　イネ科花粉帯スギ亜帯の上限が９Ｃ前半まで新しくなる可能性がある。

②　イネ科花粉帯カシ・ナラ亜帯に相当する花粉組成が検出できなかった。同亜帯の定義について再考する必要がある。

③　上記の２点について、西川津遺跡での局地的植生を反映した結果と考えることも可能である。

(3)　樹種鑑定結果と、花粉分析結果の比較を行い、相互に補完する結果であることが示唆された。

(4)　調査地点周辺での堆積環境変遷、植生変遷を推定した。特筆すべき点は以下の事柄である。

①　縄文海進による古宍道湾（古松江湾）の影響が、調査地近辺では縞状有機質泥層として、7000y.B.P.頃に表れる。これ以降、調査地点付近は古宍道湾（古松江湾）の一部となった。

②　縄文海進期以前には、朝酌川の後背湿地の時期（Ｘ帯期）、流路変更による荒地の時期（Ⅸ

帯期）の存在が推定できた。また灰色泥層上面が旧地表面であった可能性もある。

引用文献

藤原宏志（1976）「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－」『考古学と自然科学』 9、p.15－29.

古野　毅・渡辺正巳（2000）「三田谷Ⅰ遺跡発掘調査に伴う樹種同定」『三田谷Ⅰ遺跡(Vol.2)－斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ－』島根県教育委員会、93－111.

川崎地質株式会社（1997）「橋縄手地区における花粉・珪藻分析（概報）」『島根大学構内遺跡第1次調査（橋縄手地区1）島根大学埋蔵文化財調査研究報告』 1、116－121.

川崎地質株式会社（1998）「深町地区の花粉・珪藻分析（概報）」『島根大学構内遺跡第3次調査（深町地区1）、島根大学埋蔵文化財調査研究報告』 2、56－63.

中村唯史・徳岡隆夫（1996）「宍道湖ボーリングSB1から発見されたアカホヤ火山灰と完新世の古地理変遷についての再検討」『島根大学地球資源環境学研究報告』15、35－40.

中村唯史・渡辺正巳（2001）「西川津遺跡の地下層序」『西川津遺跡Ⅷ（本書）』、44－46.

中村　純（1974）「イネ科花粉について、とくにイネを中心として」『第四紀研究』 13, 187－197.

大西郁夫（1979）「花粉の分析」『朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告Ⅰ』島根県教育委員会、188－193.

大西郁夫・原田吉樹・渡辺正巳（1989）「松江市、西川津遺跡の花粉分析」『山陰地域研究（自然環境）』 5、45－54.

大西郁夫・干場英樹・中谷紀子（1990）「宍道湖湖底下完新統の花粉群」『島根大学地質学研究報告』 9、117－127.

大西郁夫（1993）「中海・宍道湖周辺地域における過去2000年間の花粉分帯と植生変化」『地質学論集』39、33－39.

渡辺正巳（1995a）「花粉分析法」『考古資料分析法』84, 85. ニュー・サイエンス社

渡辺正巳（1995b）「珪藻分析法」『考古資料分析法』86, 87. ニュー・サイエンス社

渡辺正巳（1999）「西川津遺跡96、97年度調査における花粉分析」『西川津遺跡Ⅵ－朝酌川広域河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』321－328. 島根.

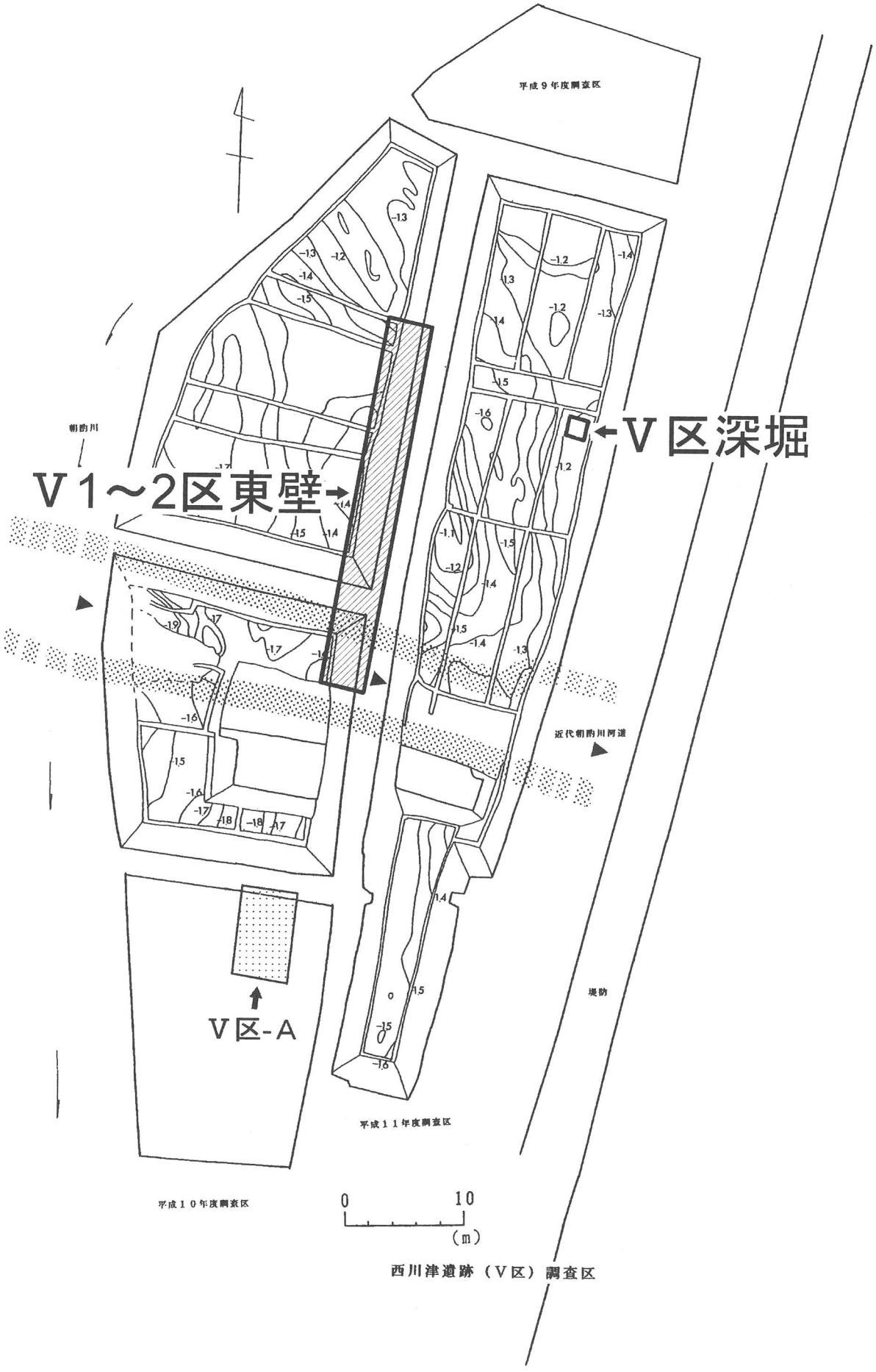
廉　鐘權・渡辺正巳（1996）「波根湖におけるOH94ボーリング試料の花粉分析」『島根大学地球資源環境学研究報告』15、41－46.

表１　樹種鑑定結果一覧表

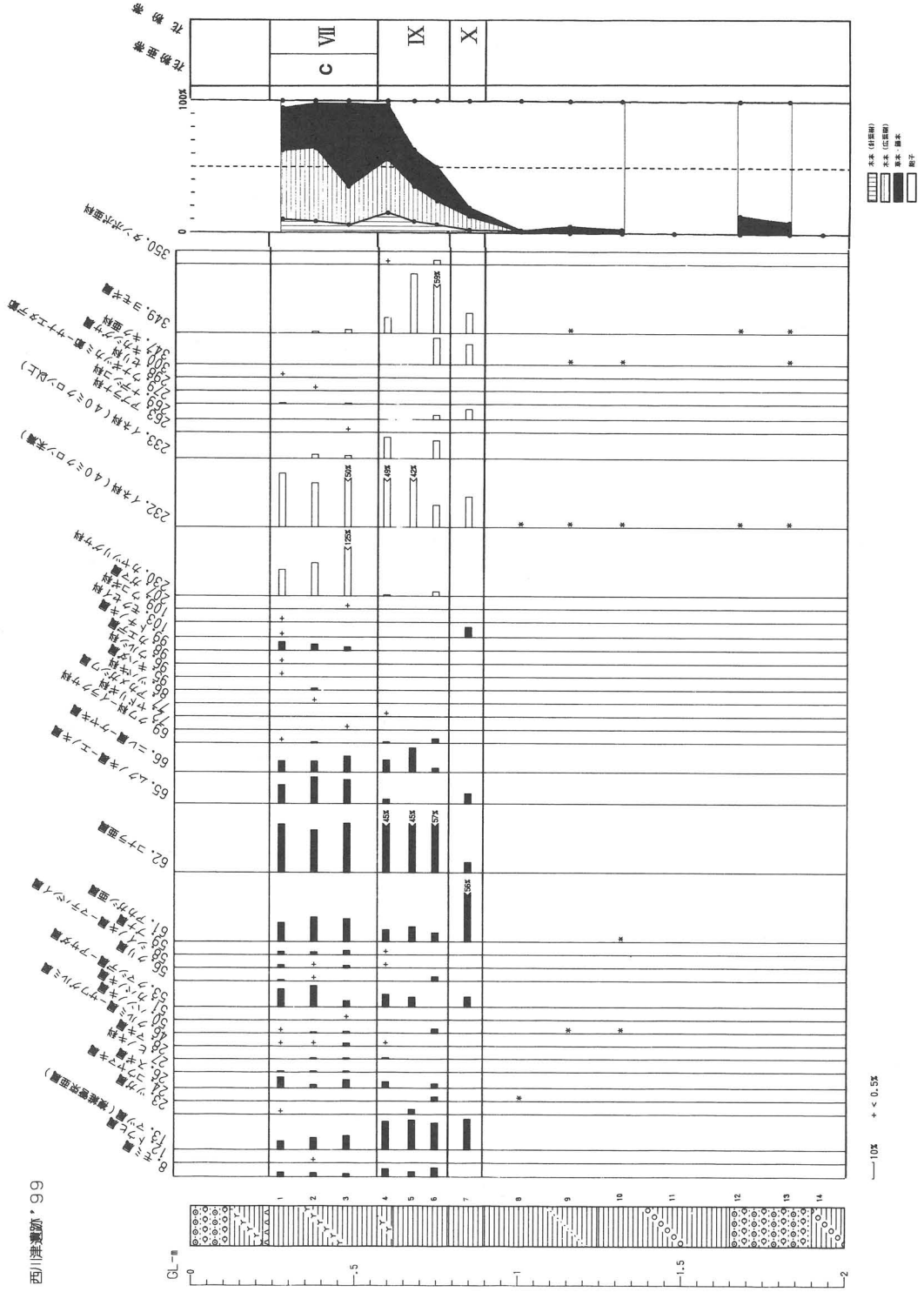
試料番号	整理番号	樹　種　名	出　土　地　点	堆積時期	備　　考
1	W00061901	エノキ属	Ⅴ－４－２砂礫Ｅ	５Ｃ後半	
2	W00061902	カエデ属	Ⅴ－４－２東砂礫Ｆ上面	５Ｃ前半	図版133
3	W00061903	エノキ属	Ⅴ－４－２中砂礫Ｆ上面	５Ｃ前半	図版131
4	W00062601	エノキ属	Ⅴ－４－２中砂礫Ｆ上面	５Ｃ前半	
5	W00062602	エノキ属	Ⅴ－４－２西砂礫Ｆ上面	５Ｃ前半	
6	W00062603	イヌガヤ属	Ⅴ－４－２西砂礫Ｆ上面	５Ｃ前半	図版130
7	W00062604	エノキ属	Ⅴ－４－２西砂礫Ｆ上面	５Ｃ前半	
8	W00062605	エノキ属	Ⅴ－４－２西北砂礫Ｆ上面	５Ｃ前半	
9	W00080701	ヒサカキ属	Ⅴ－４－２東砂礫Ｆ上面	５Ｃ前半	
10		サルノコシカケ科？	Ⅴ－４－２西砂礫Ｆ	５Ｃ前半	
11	W00080702	イチイ属	Ⅴ－４－２中砂礫Ｆ下位	５Ｃ前半	図版130
12	W00080703	エノキ属	Ⅴ－４－２中砂礫Ｆ下位	５Ｃ前半	
13	W00080704	エノキ属	Ⅴ－４－２中砂礫Ｆ下位	５Ｃ前半	
14	W00080705	タカノツメ？	Ⅴ－４－２中砂礫Ｆ下位	５Ｃ前半	図版134
15	W00080706	イヌガヤ属	Ⅴ－４－２東砂礫Ｇ	５Ｃ前半	
16	W00080707	ムクノキ	Ⅴ－４－２中砂礫Ｆ下粘	５Ｃ前半	図版131
17	W00080801	サカキ	Ⅴ－４－２中砂礫Ｆ下粘	５Ｃ前半	図版133
18	W00080802	クワ属	Ⅴ－４－２中砂礫Ｆ	５Ｃ前半	図版132
19	W00080803	イヌガヤ属	Ⅴ－４－２中砂礫Ｊ上粘	４Ｃ	
20	W00080804	コナラ節	Ⅴ－４－２中砂礫Ｊ上粘	４Ｃ	図版130
21	W00080805	サカキ	Ⅴ－４－２北中砂礫Ｊ上面	４Ｃ	
22	W00080806	エノキ属	Ⅴ－４－２北中砂礫Ｊ上面	４Ｃ	
23	W00080807	ヒサカキ属	Ⅴ－４－２北中砂礫Ｊ上面	４Ｃ	
24	W00080808	エノキ属	Ⅴ－４－２中砂礫Ｆ下粘土	５Ｃ前半	
25	W00080809	コナラ節	Ⅴ－４－２東砂礫Ｊ上面	４Ｃ	
26	W00080810	トネリコ属	Ⅴ－４－２東砂礫Ｊ上面	４Ｃ	図版134
27	W00080811	クスノキ科？	Ⅴ－４－２東砂礫Ｊ上面	４Ｃ	図版132
28	W00080812	ケヤキ	Ⅴ－４－２東砂礫Ｊ上面	４Ｃ	図版132
29	W00080813	ヒサカキ属	Ⅴ－４－２東砂礫Ｊ上面	４Ｃ	図版133
30	W00081001	ムクノキ	Ⅴ－４－２東砂礫Ｊ上面	４Ｃ	
31	W00081002	エノキ属	Ⅴ－４－２東砂礫Ｊ上面	４Ｃ	
32	W00081003	ヒサカキ属	Ⅴ－４－２東砂礫Ｊ上面	４Ｃ	
33	W00081004	ケヤキ	Ⅴ－４－２東砂礫Ｊ上面	４Ｃ	
34	W00081005	ニレ属？	Ⅴ－４－２流西～東	５Ｃ後半	図版131
35	W00081006	ニレ属？	Ⅴ－４－２流北～南	５Ｃ後半	
36	W00081007	エノキ属	Ⅴ－４－２流東	５Ｃ後半	

表2　樹種同定分類群と堆積時期および花粉化石分類群との関係

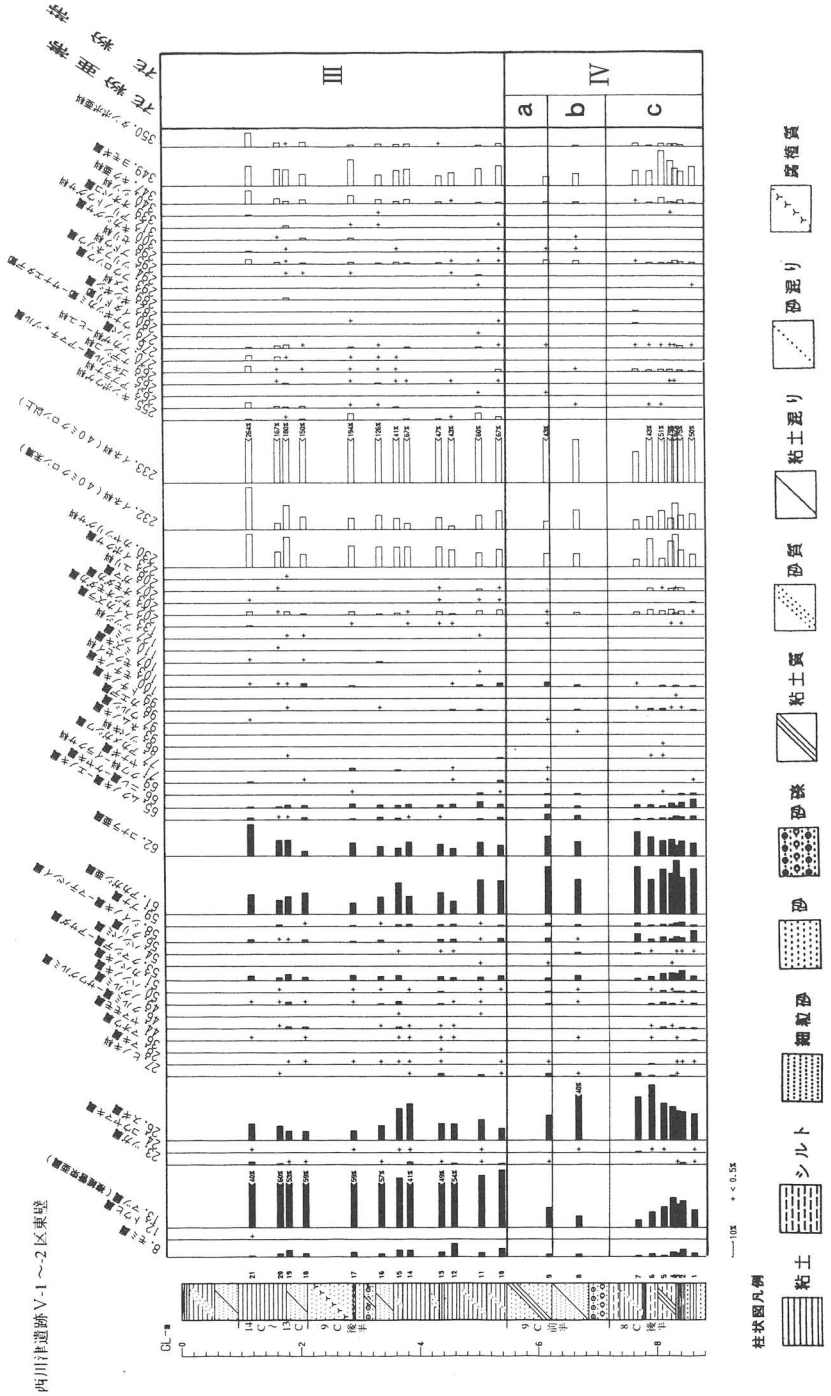
分類名	総数	堆積時期			対応する花粉分類
		4C	5C前半	5C後半	
イヌガヤ属	3	1	2		ヒノキ科
イチイ属	1		1		ヒノキ科
コナラ節	2	2			コナラ亜属
ムクノキ	2	1	1		ムクノキ属－エノキ属
エノキ属	12	2	8	2	ムクノキ属－エノキ属
ニレ属？	2			2	ニレ属－ケヤキ属
ケヤキ	2	2			ニレ属－ケヤキ属
クワ属	1		1		クワ科－イラクサ科
クスノキ科？	1	1			クスノキ科
サカキ	2	1	1		サカキ属－ヒサカキ属－モコック属
ヒサカキ属	4	3	1		サカキ属－ヒサカキ属－モコック属
カエデ属	1		1		カエデ属
トネリコ属	1	1			モクセイ科
タカノツメ？	1		1		ウコギ科


平成９年度調査区
朝酌川
Ｖ１～2区東壁→
←Ｖ区深堀
近代朝酌川河道
堤防
Ｖ区-A
平成１１年度調査区
平成１０年度調査区
0
10
(m)
西川津遺跡（Ｖ区）調査区

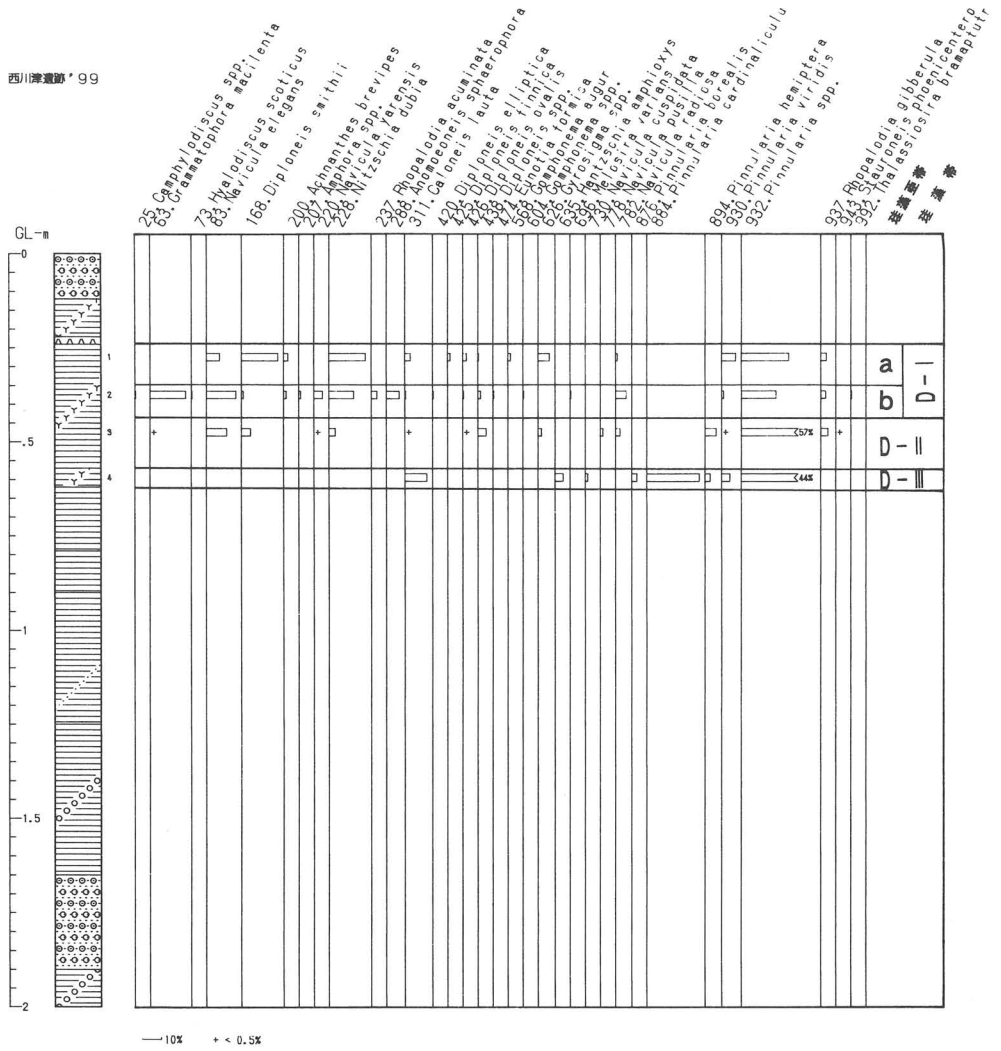
第A図　試料採取地点



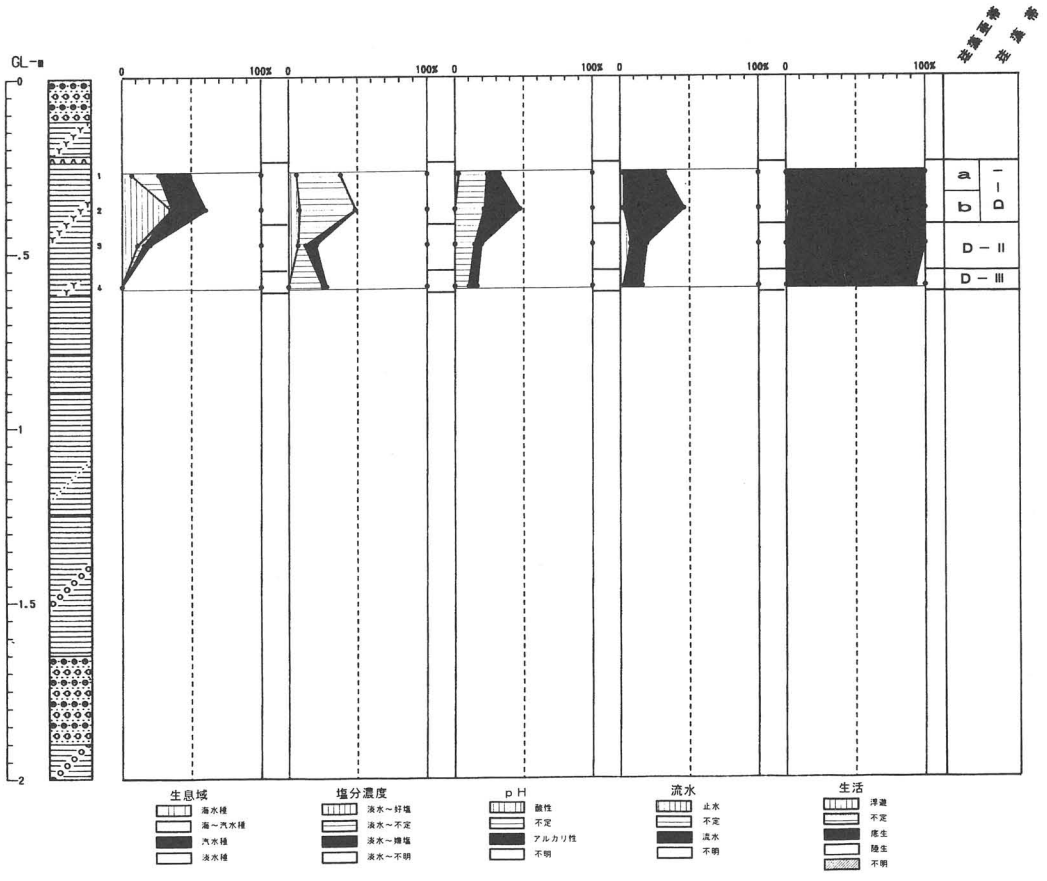
第B図　Ｖ区深堀の花粉ダイアグラム



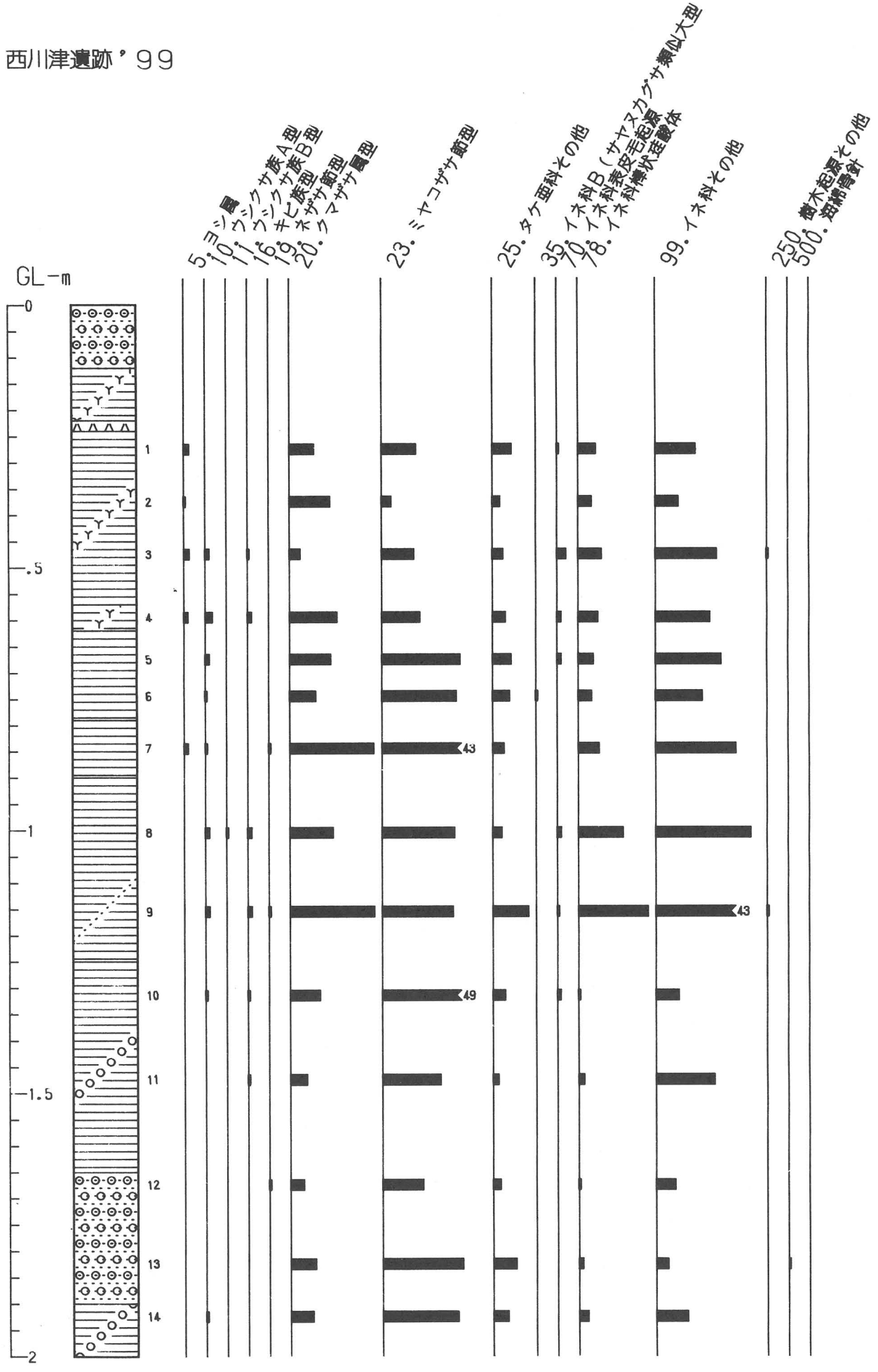
第C図　Ｖ－1～2区東壁の花粉ダイアグラム



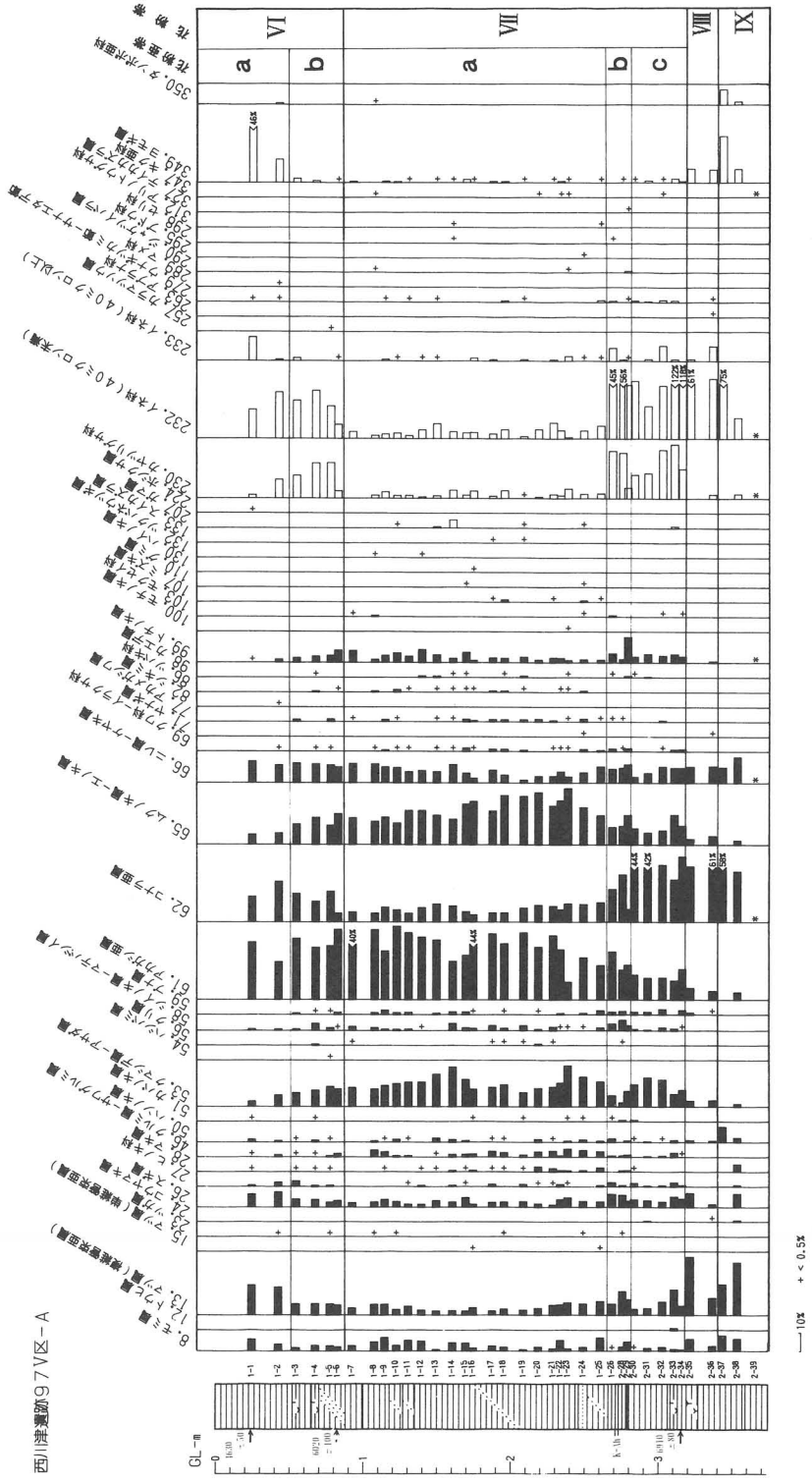
第D図　V区深堀の珪藻ダイアグラム



第E図　V区深堀の珪藻総合ダイアグラム



第F図　Ⅴ区深堀のプラント・オパールダイアグラム



第G図　Ｖ区－Ａの花粉ダイアグラム（渡辺、1999を改）

第2節　西川津遺跡の地下層序

中村 唯史（島根県景観自然課）
渡辺 正巳（文化財調査コンサルタント㈱）

はじめに

V区1999年度調査区においてトレンチ観察と共にスウェーデン式サウンディング試験を行い、調査区域内での推定断面図を作成した（図H）。また、既知の報告書に掲載されている地層観察結果をまとめ、西川津遺跡全体の推定断面図を作成した（図Ⅰ）。

堆積物の特徴

(1)　トレンチ観察結果

河川堆積層による浸食面の下に平行ラミナが発達した縞状の有機質泥層が分布し、そこにアカホヤ火山灰層が挟まれる。平行ラミナは腐植に富む薄層と泥分に富む薄層の互層である。

縞状有機質泥層の下位には、灰色泥層、青緑色礫層が分布している。

灰色泥層はその上面が旧土壌で有機質に富む。土壌部分以外では、色調の違いが若干あるものの、全体に均質で無構造である。

青緑色礫層は強風化した玄武岩礫を主体とする。一部に乾裂（サンクラック）とみられる細かい亀裂が認められ、亀裂には褐鉄鉱が沈着している。

(2)　砂粒子観察

トレンチ壁面から採取した試料について、60メッシュ（開口0.25㎜）、250メッシュ（開口0.0625㎜）のふるいで水洗し、この区間の粒径の粒子について双眼実体顕微鏡で観察した。なお、採取試料はすべてアカホヤ火山灰層より下位である。

縞状有機質泥層では自生型の黄鉄鉱の結晶が多数含まれている。試料No.3では有孔虫化石が含まれている。これらの特徴は、この地層が内湾に堆積したことを指示している。火山ガラス、自型の鉱物結晶ともに少なく、よく円摩された砂粒子が多い。

灰色泥層では、上部（試料No.4～5）では黄鉄鉱の結晶が少量含まれるが、下部では含まれなくなる。代わって、試料No.8～11ではシデライトとみられるブドウ状の自生鉱物が多く含まれている。シデライトは淡水の還元的環境で自生する鉱物である。その他の粒子では、火山ガラス、自型の鉱物結晶ともに少なく、よく円摩された砂粒子が多い。

青緑色礫層ではシデライトが少量含まれている、火山ガラス、自型の鉱物結晶ともに少ないが、試料No.13は角閃石、鉄鉱物、石英（破片状）が若干多い。なお、礫層の主な構成岩種である玄武岩は、粗粒分はふるいによって除去されていることと、強風化して粘土化していることで、観察対象とした粒子では玄武岩質岩片としては認められなかった。

堆積年代について

灰色泥層以下の堆積時期については、火山ガラスと鉱物結晶の含有量に顕著な変化がないので、火山灰層層準は認められず、時代を示す資料が得られなかった。層相からみると、全体に未固結で軟弱な地層であること、各層の境界が整合的であることから、縞状有機質泥層から青緑色礫層までの間に大きな堆積空白期はないと推定され、すべて最終氷期最盛期以降の堆積物（いわゆる沖積

層）と思われる。

一方、青緑色礫層がいわゆる沖積基底礫層に相当するものであれば、同層を更新統、灰色泥層から上を完新統と区分することが出来る。しかし、青緑色礫層は付近の丘陵から直接供給されたローカルな堆積物なので、さらに時代的に新しい可能性があり、完新統に属する可能性もある。

古環境変遷

本調査地の環境変遷は次のように推定される。

最終氷期の最盛期（1.6～1.8万年前）以降、海面上昇にともなって浸食営力が低下し、ある時期から青緑色礫層の堆積が始まった。青緑色礫層は調査区周辺の丘陵に分布する玄武岩の風化礫からなることから、丘陵から排出された扇状地性の堆積物と判断できる。

その後、後背低地化して灰色泥層が堆積した。灰色泥層の下部はシデライトの自生型結晶を多く含むので、淡水環境で堆積したと考えられる。一方上部は黄鉄鉱を含むので、海水の影響を受けた可能性がある。

縞状有機質泥層は黄鉄鉱の自生型結晶を多く含むことから、海水環境で堆積したと考えられ、海面がさらに上昇し、付近が古宍道湾の一部の海域となったと判断できる。

まとめ

西川津遺跡は河川による自然堆積層が遺物包含層となっている。河川堆積層の下位には内湾成の完新統泥層が分布し、そこに鬼界アカホヤ火山灰層が挟まれる。このことは、遺跡範囲のほぼ全域に共通することがこれまでの発掘調査によって確認されている。完新統泥層は上流側の調査区ほど有機質に富むようになり、層厚が薄くなる。逆に、下流側では層厚を増し、宍道湖湖底堆積層に連続している。

引用文献

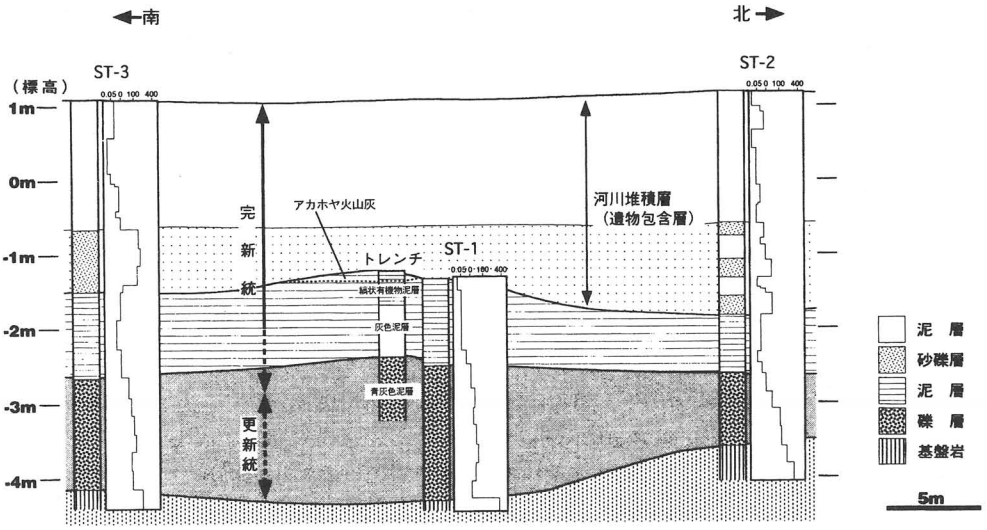
大西郁夫・原田吉樹（1989）「西川津遺跡（海崎地区）の花粉分析」『朝酌川河川改修工事に伴う埋蔵文化文化財調査報告書－西川津遺跡Ⅴ－』島根県教育委員会　153—170.

島根県教育委員会（1989）『朝酌川河川改修工事に伴う埋蔵文化財調査報告書－西川津遺跡Ⅴ－』

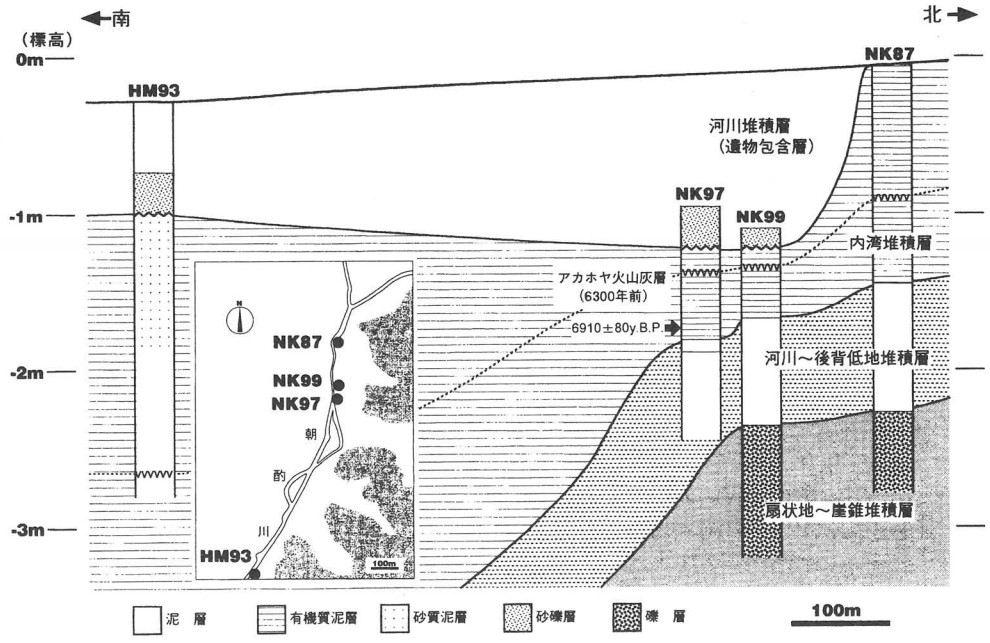
島根県教育委員会（1995）『朝酌川中小河川改修工事に伴う埋蔵文化財調査報告書－原の前遺跡－』198p.

島根県土木部河川課・島根県教育委員会（1999）『朝酌川広域河川改修工事に伴う埋蔵文化財調査報告書－西川津遺跡Ⅵ』11、362p.

島根県土木部河川課・島根県教育委員会（2000）『朝酌川中小河川改修工事に伴う埋蔵文化財調査報告書－西川津遺跡Ⅶ－』12、206p.



第H図　推定断面図（99年度調査区）



第Ⅰ図　西川津遺跡の推定断面図

第 6 章

ま と め

第6章　まとめ

22年という長期にわたった朝酌川広域河川改修事業に伴う発掘調査も、本流部分の河川開削に関わる調査は今報告をもってほぼ終了することとなった。「朝酌川遺跡群」が弥生時代の拠点集落であることをはじめ、縄文時代～近現代まで続く大規模な複合遺跡であることは、発掘調査の早い段階から認識されてた。平成10・11年度の調査結果でもほぼ今までの成果を追認することができたと考えられる。

しかし、河川そのもの、あるいはその周辺という調査箇所の規制もあり、常に多量の遺物は得られるものの、その供給源である集落本体の遺構は、海崎地区の一部で判明しているに過ぎず、実体は依然闇の中である。弥生時代の集落構造は言うに及ばず、遺物量の多い古墳時代や、「墨書土器」「灰釉陶器」「人形代」「銅滓」など官衙的な遺物の出土する奈良・平安時代の遺構の実体など興味は尽きないが、これらの課題は将来に持ち越すこととなった。

人面付土器について

島根県内で弥生時代の人面表現のある遺物は加茂岩倉遺跡・第29号銅鐸の鈕先端部分に表された黥面を持つ人面と木幡家所蔵で宍道町蒐古館に展示されている伝出雲国出土の邪視文銅鐸の人面表現があげられる。また、近年、浜田市・川向遺跡で弥生時代後期末～古墳時代初頭の木偶の発見があったが土器・土製品としては従来知られていなかった。弥生時代の人面表現の存在が希薄であった山陰地域で、全国的にも希少例といえる人面付土器が出土したことは弥生時代前期の西川津集落の先取性を物語る資料であることから、人面付土器研究の現状について整理しておきたい。

西日本の人面付土器で弥生時代前期に遡るものとしては、山口県下関市・綾羅木郷遺跡の土偶、岡山県岡山市・田益田中遺跡の人面土製品、同県邑久町・熊山田遺跡の人形土製品、香川県志度町の鴨部川田遺跡の土偶、兵庫県・大歳山遺跡の土偶、大阪府茨木市・東奈良遺跡の土偶などが挙げられ、Ⅱ様式に下る例として茨木市・目垣遺跡の人面付土器が知られる。

西川津遺跡の人面付土器は黥面表現がなく、頭部に烏帽子状の突起を有していることが特徴であるが、鯨面表現は近畿中央部では希で、中四国・九州や東海地方以東などでは普遍的である。この分布状態に着目した設楽博己氏は、畿内では弥生時代の当初から黥面の風習が無かったものと考え、その反映として人面表現においても黥面は希少であることをといた。東奈良遺跡の土偶やⅡ様式に下るものの同市内の目垣遺跡の人面付土器、大歳山遺跡など弥生時代の古い段階から畿内の人面付土器では鯨面がないことが実例として知られる。

西日本の人面付土器のルーツについての解釈は相対する2説が存在する。

◎　畿内を中心とした西日本から、鯨面表現が無く頭部に突起を付けた人面付土器・土偶が各地に派生し、その伝播過程において縄文的な要素が加わり鯨面が再登場したり、中部地方では頭部に突起を持つ有髯土偶が出現するという解釈（設楽博己氏）

◎　弥生文化成立の起点となった北部九州に弥生時代前期の人面表現をした遺物が認めらないことから、土偶などの縄文文化の中に起源を認め、中部地方の有髯土偶などが西日本に影響を与えたとする解釈（石川日出志氏）

現時点においては、弥生時代前期の人面付土器の例が少ないことから、結論は出しにくいが、縄

文系・弥生系いずれにしても近畿地方で変容・発生した「無鯨面・頭部有突起の人面付土器」という情報が西川津遺跡にもたらされたものと考えられる。

この人面付土器がどのような用途に用いられたか出土状況から判断することはできない。東日本では土偶形容器、人面付土器などが再葬墓などで出土する例が多く、葬送儀礼や骨蔵器そのものとして使用され、祖霊崇拝的な意味合いが強いようである。しかし、西日本の人面付土器や土偶は集落内で廃棄された状態で出土することが多く、墳墓から出土することは希である。そこで、集落内における何らかの祭祀行為に用いられたことは想定できよう。頭部の烏帽子状突起の状況から鳥霊信仰に基づく「鳥装」を表現している可能性を積極的に評価するむきもあるが、近辺の遺跡で鳥霊信仰を裏付けるような資料は西川津遺跡の鳥形木製品しか知られていないことから、現状では一試案に止まる。

また、この人面付土器の機能を考える上で、内容物が何であったのかを考える必要もあるが、現状では推測の域をでない。

いずれにしても、この人面付土器が弥生人の精神活動により作り出され機能していたことは歴然としており、弥生時代に「偶像崇拝」的なものが存在した可能性を示唆している。

むすび

今回の調査報告は遺物の分類とその数値化に力点を置き、調査区内の遺物の時期的な量の推移をつかむことができた。

しかし、この結果が西川津遺跡の集落の盛衰を正確に反映しているのかといえば、答えは「NO」と言わざるをえない。それはこの調査区が河川跡であり、河川内堆積の過程（遺跡形成過程）が不明瞭だからである。つまり、ここに埋まっている遺物がいつ、どこから、どうやってもたらされたのか、その過程が全くの「ブラックボックス」となっており、集落直上の包含層の遺物のように、遺跡の実体を投影しているとは考えられないからである。

今回の結果は今後、近辺の集落遺構を調査した際に、クロスチェックをして、遺構の実体と連動しているのか整合性を確認する必要があろう。

参考文献

石川日出志　1987 「土偶形容器と顔面付土器」『弥生文化の研究 8　祭と墓と装い』雄山閣出版

設楽博己　1990 「線刻人面土器とその周辺」『国立歴史民俗博物館研究報告』第25集

設楽博己　1999 「第Ⅲ章　弥生文化の東へ西へ　第 3 節祖先の顔」『新弥生紀行』朝日新聞社

設楽博己　1990 「有髯土偶」『季刊考古学』第30号　雄山閣出版

島根県浜田土木建築事務所・浜田市教育委員会　2000 『多陀川荒廃砂防事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　川向遺跡』

遺物統計表

第１－１表・西川津遺跡Ｖ区（平成10年度調査区）・旧河道内遺物出土状況セリエーション

遺物概要	砂レキ１	砂レキ２	砂レキ３	砂レキ３下層	砂レキＡ	砂レキＣ	砂レキＤ	砂レキＥ
３世紀前半の複合口縁甕	3		3		1			1
３世紀半ばの複合口縁甕	25	9	37	1	8	6	22	15
３世紀後半の複合口縁甕	1	4	13	1	1	3	13	4
３世紀末の複合口縁甕	4	5	16	1	6	3	13	7
３世紀後半の小型甕胴部								1
３世紀後半の甕胴部		2	16	1	1	1	5	4
３世紀後半の複合口縁壺			1				1	
３世紀末の複合口縁壺		1					1	1
３世紀半ばの畿内庄内系加飾壺		1	1					
３世紀末の畿内系二重口縁壺							1	
３世紀末の畿内系有段鉢						1		
３世紀末の尖底壺底部			1					
３世紀末～４世紀の単純口縁内彎甕		2	10	1	1	3	11	7
３世紀～４世紀の甕底部		1	2				2	4
３世紀半ば～４世紀半ばの甑形土器			4			1	1	2
３世紀末～４世紀初頭の甕頸胴部	1	2	7	1			2	3
３世紀半ば～４世紀前半の低脚杯	3	4	10	3		4	4	3
３世紀中ば～４世紀初の小型器台			2			1	1	
３世紀半ば～４世紀半ばの鼓形器台	18	13	28	5	6	4	12	9
３世紀半ば～４世紀の高杯杯部	2	1	12			11	6	9
３世紀半ば～４世紀の高杯脚部	1	1	9	1			2	1
４世紀の複合口縁壺	1			1			2	1
４世紀の甕胴部	2	3	16		2	3	3	9
４世紀の単純内彎口縁甕	5	3	11	6	1	1	14	11
４世紀半ば～５世紀初の小型丸底壺		3	7	1	3	1	7	3
４世紀後半～５世紀前半の高杯穴有	1	2	14		3		2	6
４世紀後半～５世紀の高杯脚部	9	3	36	2	7	15	28	20
４世紀末～５世紀前半の高杯穴無			3	1	1		1	2
４世紀後半～５世紀の高杯杯部	5	8	44	1	3	14	21	37
４世紀末～５世紀の複合口縁甕	1	3	11	1	1	5	17	6
４世紀末～５世紀の複合口縁壺			3	1			1	
５世紀の椀	1	3	7	2	2	1	19	12
５世紀後半の椀形高杯		5	19	1	1	3	12	16
５世紀後半の高杯脚部			9	1		1	8	3
５世紀の低脚高杯			3				1	
５世紀の小型甕		1	1			1	1	1
５世紀前半の単純口縁甕			9	1	1	2	7	2
５世紀後半の外反口縁甕	8	6	35	13	8	8	23	16
５世紀の小型甕胴部		2		1			1	1
５世紀の甕胴部	7	8	42	5	6	10	32	44
５世紀末の韓式土器							1	
５世紀末～６世紀初頭の杯身			2				3	
５世紀末～６世紀初頭の杯蓋					2		4	
５世紀末～７世紀初頭の杯蓋天井部	1	3	2			1	2	
５世紀末～６世紀初頭の甑				1				
５世紀末～６世紀初頭の有蓋高杯の蓋	1		1				1	
５世紀末の須恵器コップ型椀	1							
５世紀末～６世紀の土師器甕	9	5	7	3			5	1
５世紀の土師器円形把手		1						
５世紀の土師器鉢	1	2						

第１－２表

遺物概要	砂レキ１	砂レキ２	砂レキ３	砂レキ３下層	砂レキＡ	砂レキＣ	砂レキＤ	砂レキＥ
5世紀の台付甕		1						
5世紀の手捏ね土器			1					
6世紀前半の埴輪			1					
6世紀前半の単純口縁甕			1	1			1	2
6世紀前半の須恵器加飾壺		1						
6世紀後半の土師器甕	4	9	20	5	2	2	3	
6世紀後半～7世紀前半の横瓶	2	7	7	2	1		1	
6世紀後半の短頸壺	1	2		2		1		
6世紀後半の直口壺			2		1	1		
6世紀後半の杯蓋	11	14	23	6	1	3	2	
6世紀前半の杯蓋	1							
6世紀後半の杯身	3	4	6	1	5	1	2	
6世紀後半～7世紀初頭の提瓶	1	1	1	1				
6世紀後半～7世紀初頭の長頸壺	4	3	3	3		1	1	
6世紀後半～7世紀初頭の高杯	4	4	10	3		2		
6世紀後半～7世紀初頭の鼈	1	2		1				
7世紀の土師器甕	1		1					
7世紀の移動式竈			2					
7世紀の甑	1					1	1	
7世紀の杯蓋	3	5	10	6			1	
7世紀の杯身	5	8	4	3	2		1	
7世紀末の高台付椀	2	1	1	1				
7世紀の長頸壺								
7世紀末～8世紀初頭の杯蓋	1	4	3					
8世紀後半から9世紀の土師器甕	1	14	5					
8世紀前半の土師器甕					1			
8世紀の杯身	18	16	5	8				
8世紀の高台付椀	8	6	2	1				
8世紀の須恵器皿	2	5		5				
8世紀の土師皿		2						
8世紀の須恵器高杯			1					
8世紀後半の高台付盤	1	1						
8世紀末～9世紀初頭の宝珠蓋		2						
8世紀末～9世紀初頭の鉢	1		1					
8世紀～9世紀の鉄鉢形鉢	1		1					
9世紀の須恵器椀	22	63	11	8				
9世紀の長頸壺	3	6	1	3				
9世紀の甕				1				
9世紀の高台付土師皿		1						
9世紀の高台付土師杯		1						
9世紀後半の土師器椀	11	45	4	5				
9世紀後半～10世紀前半の黒色土器椀	3	2						
10世紀の須恵器皿	2	4	1	3				
10世紀の土師器皿			1					
10世紀の高台付土師皿		1						
10世紀の高台付土師杯		2						
11世紀の土師器皿		1						
12～13世紀の土師器椀	3	16						
12～13世紀の柱状高台	1							
12～13世紀の土師器皿	2	1						
15～16世紀の土師器皿	1							

第２－１表・西川津遺跡Ｖ区（平成11年度調査区）・旧河道内遺物出土状況セリエーション

遺物概要	砂レキZ	砂レキY	砂レキX	砂レキA	砂レキB	砂レキC	砂レキD	砂レキE	砂レキF	砂レキG	砂レキJ
3世紀半ば～4世紀半ばの鼓形器台	1	3	1	3	4	6	9	11	47	1	8
3世紀前半の複合口縁甕		1				1		2	1		
3世紀半ばの複合口縁甕	1	4	2	3	15	12	9	20	42	6	3
3世紀後半の複合口縁甕		1	1	1	4	4	1	8	29	2	4
3世紀末の複合口縁甕		1		2	4	3	4	8	63	2	3
3世紀の注口土器											1
3世紀の小型甕胴部									3	1	
3世紀後半台の甕胴部					1	2	2	5	34	6	2
3世紀末～4世紀の内彎甕			2		3	4	9	16	43	4	1
3～4世紀の甕底部	1								6	2	
3世紀半ば～4世紀の甑形土器		1							7		
3世紀半ばの複合口縁壺								1			
3世紀後半の複合口縁壺									1		
3世紀末の複合口縁壺				1					1		
3世紀半ばの畿内系加飾壺								1			
3世紀末～4世紀初頭の壺突帯									1	1	
3世紀末～4世紀初の壺の頸胴部		1		1	5		1	3	15	1	1
3世紀末の畿内系二重口縁壺							1				
3世紀末の壺尖底部					1						
3世紀後半～4世紀半ばの低脚杯			1	1	2	1	6	4	18	2	
3世紀後半～4世紀初の小型器台									2		
3世紀半ばの手焙形土器						1					
3世紀半ば～4世紀前半の高杯杯部				1	4	1	3	3	25	3	3
3世紀半ば～4世紀前半の高杯脚部		1			1		2	4	19		2
4世紀の甕胴部					2	4	3	12	35	6	8
4世紀の複合口縁壺						1		3	2		
4世紀後半の壺胴部								1	1		
4世紀の壺底部									1		
4世紀の鉢									1		
4世紀の単純口縁内彎甕		3		3	4	1	4	16	33	1	
4世紀後半～5世紀前半の高杯穴有			1	1	3	3	6	9	26		
4世紀末～5世紀前半の高杯穴無						2	2	1	4		
4世紀末～5世紀の複合口縁甕	1			1	1	1	8	22	21	3	
4世紀末～5世紀の複合口縁壺								4	3		
4世紀末～5世紀初の直口壺				1					2		
4世紀後半～5世紀の高杯脚部		1		3	9	8	12	32	62	5	3
4世紀半ば～5世紀初の小型丸底壺				2		2	1	7	14		
4世紀後半～5世紀の高杯杯部	5	2	2	5	10	5	33	59	110	7	6
5世紀後半の椀形高杯杯部		1	1	1	1		11	11	28		
5世紀の高杯脚部			1			1	1	7	4	1	1
5世紀の低脚高杯		1					1	1			
5世紀の小型甕								2	2		
5世紀末の小型二重口縁壺								1			
5世紀の小型壺		1						1	1		
5世紀末の土師器甑									1		
5世紀の鉢								4	1		
5世紀の椀		2	1	4	2	2	5	18	17	3	
5世紀後半の高杯脚部									1		
5世紀前半の単純口縁甕	1	1		1	2	3	6	5	10	1	1
5世紀後半の椀形高杯		2				2	5	5	23		1
5世紀後半の外反口縁甕	2	5	1	6	8	11	11	29	44	3	1
5世紀の小型甕胴部								2	1	1	
5世紀の甕胴部			1	1	1	10	11	30	97	4	8
5世紀の平底壺						1					
5世紀の鉢							1				

第２－２表

遺物概要	砂レキZ	砂レキY	砂レキX	砂レキA	砂レキB	砂レキC	砂レキD	砂レキE	砂レキF	砂レキG	砂レキJ
5世紀の土師器台付甕								1	1		
5世紀の土師器壺胴部									1		
5世紀の手捏ね土器							1				
5世紀の土師器鉢				1							
5世紀末～6世紀初の杯身		1						5	1		
5世紀末～6世紀初の杯蓋				1		1	1				
5世紀末～7世紀の杯蓋天井部	2	4		5	7	2	2	1			
5世紀末～6世紀初の有蓋高杯の蓋									1		
5世紀末～6世紀初の有蓋高杯	1				1			2			
5世紀末～6世紀の甕	2	5	5	10	5		1		1		
6世紀前半の甑							1	2			
6世紀前半の埴輪								1			
6世紀前半の口縁外反甕							1		1		
6世紀後半の土師器甕	3	1	2	4	8	5	2	1	1		
6世紀後半から7世紀前半の横瓶		1	2	3	7						
6世紀後半の短頸壺			1								
6世紀後半の短頸壺の蓋						1					
6世紀後半の直口壺							1				
6世紀後半の杯蓋	1	1	2	3	5	1					
6世紀前半の杯蓋					2	1	2		1		
6世紀後半の杯身		2		3	2	1					
6世紀～7世紀の土師器・甑	1				1		1	3	2		
6世紀後半～7世紀初の提瓶				1		1					
6世紀後半～7世紀初の長頸壺		1	1		4	1					
6世紀後半～7世紀初の高杯	1	1		1	4	1					
6世紀後半～7世紀初の鼈	1										
7世紀の移動式竈				1	2						
7世紀の杯蓋		1	1	1	4						
7世紀の杯身			1	4	2	3	2				
7世紀末の高台付椀				1							
7世紀の長頸壺					1						
7世紀末～8世紀初の杯蓋				4	3						
8世紀の杯身	1	7	2	16	12	1					
8世紀の高台付椀	2	1	2	3	4	2					
8世紀の須恵器皿				4	2						
8世紀の土師器皿					3						
8世紀後半の高台付盤				1	2						
8世紀後半～9世紀の土師器甕		1		8	4						
8世紀末～9世紀初頭の宝珠付蓋				1	1						
8世紀～9世紀の鉄鉢形須恵器				1							
9世紀の須恵器椀	1		2	41	11						
9世紀の須恵器皿					1						
9世紀の須恵器長頸壺		1		2	2						
9世紀の須恵器大甕			1	1							
9世紀の灰釉陶器・段皿					1						
9世紀後半の須恵器椀	1	1	1	29	1						
9世紀後半の土師器椀				6	2						
9世紀後半～10世紀前半の黒色土器椀					1						
10世紀の須恵器皿	1			8	1						
10世紀の土師器皿				2							
11世紀の高台付土師器椀		1		1	2						
12～13世紀の土師器皿			1	1	1						
12～13世紀の土師器椀	2	2	3	3	6						
12～13世紀の土師器柱状高台	1										
15～16世紀の土師器皿	1	1	2								

第3表・西川津遺跡Ⅴ区河道内出土・土器総合統計表

時期	世紀	合計	深鉢	浅鉢	注口土器	不明破片	底部							
縄文時代早期		57	57											
縄文時代前期		110（251）	108	2		251								
縄文時代中期		7	7											
縄文時代後期		35	33		2									
縄文時代晩期		107（141）	73	26	2	141	6							
			無文甕	段・1条沈線甕	2条沈線甕	3条沈線甕	4条沈線甕	5条沈線甕	6条以上沈線甕	壺	鉢	蓋	ミニチュア	その他
弥生時代前期		2489（1840）	1195（87）	179（163）	97（124）	98（44）	68（45）	59（35）	162（175）	516（1107）	18	32（60）	58	7
			甕	壺	高杯	鉢	蓋	その他						
弥生時代中期		892（610）	502（305）	268（248）	46（57）	49	22	5						
			甕	壺	高杯	器台	蓋	注口土器						
弥生時代後期		460（49）	379（49）	28	11	34	1	7						
			甕	壺	高杯	低脚杯	鼓形器台	甑形土器	小型器台	小型丸底壺	椀	小型壷	小型甕	その他
古墳時代前期	（3・4世紀）	1031（739）	654（520）	83	96（50）	33（41）	110（128）	15	7	28				5
			土師器甕	土師器壺	土師器高杯	低脚杯	鼓形器台	甑形土器	小型器台	小型丸底壺	椀	小型壷	小型甕	その他
		955（984）	447（331）	3	373（617）					15（8）	88（16）	3	6（12）	20
古墳時代中期	（5世紀）		須恵器杯身	須恵器杯蓋	須恵器高杯	須恵器腿	コップ型椀	須恵器甕						
		59	12	10	8	3	1	25						
			土師器甕	土師器甑	土師器竈									
古墳時代後期	（6～7世紀）	76（22）	58（22）	13	5									
			須恵器杯身	須恵器杯蓋	須恵器高杯	須恵器腿	須恵器横瓶	須恵器提瓶	須恵器壺	須恵器大甕				
		333（308）	77	121	36	7	30	5	34	23（308）				
			土師器甕	須恵器杯身	須恵器杯蓋	須恵器高杯	須恵器盤	須恵器皿						
奈良時代	（8世紀）	185（3）	28（3）	118	15	1	5	18						
			土師器甕	土師器椀	土師器杯	須恵器椀	須恵器皿	須恵器蓋	須恵器壺	須恵器甕	須恵器鉢	灰釉陶器		
平安時代前期	（9世紀）	241（32）	2	46（32）	6	153	2	4	19	3	5	1		
			土師器皿	土師器椀	青磁	青花	備前大甕	備前小壺	備前擂鉢	柱状高台	黒色土器椀	須恵器皿		
平安時代中期	（10世紀）	49（7）	4（1）	24（3）							1（3）	20		
平安時代後期	（11世紀）	7		7										
平安末期～鎌倉時代	（12～13世紀）	23（23）	5（4）	15（19）	1					2				
室町時代前半	（14・15世紀）	1							1					
室町時代後半・戦国期	（16世紀）	16	6			1	6	3						
			唐津焼皿	美濃焼	染付皿	染付椀	染付小杯	染付仏花瓶	染付仏鉢	染付蓋	肥前ハンド甕	土師器皿		
江戸時代	（17～18世紀）	111（1）	2	2	43	43	5	7	1	3	1	4（1）		

※：（ ）内は端部欠損個体、微小端部などの数値

第4表・西川津遺跡Ⅴ－1－2区・貝塚出土土器分類表

時　期・器　種	個　体　数		分　類　番　号
Ⅰ様式甕	1		ＡＡＤ－ｃ
Ⅰ様式甕	1		
Ⅰ様式甕	1		ＡＡＢ－ｃ
Ⅰ様式甕	1		ＡＡＣ－ｂ
Ⅰ様式甕	1		ＡＡＩ－ｂ
Ⅰ様式甕	1		ＡＡＫ－ｃ
Ⅰ様式甕	1		ＡＡＬ－ａ
Ⅰ様式甕	1		ＡＥＩ－ａ
Ⅰ様式甕	1		ＡＥＵ－ｃ
Ⅰ様式甕	1		ＡＫＣ－ｂ
Ⅰ様式甕	1		ＡＭＯ－ｄ
Ⅰ様式甕	1		ＡＯＣ－ｃ
Ⅰ様式甕	1		ＡＳＨ－ｂ
Ⅰ様式甕	1		ＡＵＢ
Ⅰ様式甕底部	2		
Ⅰ様式壺	1		ＺＣＡ－ｓ
Ⅰ様式壺	1		ＺＤＪ
Ⅰ様式壺胴部	1		ＺＦＰ
Ⅰ様式壺	1		ＺＧＭ
Ⅰ様式ヘラ縦分割無軸綾杉文壷	1		
Ⅰ様式壺底部	11		
Ⅱ様式甕	1		ＡＶＩ
Ⅱ様式甕	1		ＡＹＢ
Ⅱ様式甕	1		ＢＡＰ
Ⅱ様式鉢	1		ＢＮＡ－ｅ
Ⅲ様式甕	1		ＢＥＡ－ａ
Ⅲ様式甕	1		ＢＥＡ－ｂ
Ⅲ様式甕	1		ＢＥＢ－ａ
Ⅲ様式甕	1		ＢＥＢ－ｂ
Ⅲ様式甕	1		ＢＥＣ－ａ
Ⅲ様式甕	1		ＢＥＣ－ｃ
Ⅲ様式高杯	1		ＢＰａ
Ⅲ様式壺	1		ＢＫＡ－ａ
Ⅲ様式壺	3		ＢＫＡ－ｃ
Ⅲ様式壺	1		ＢＫＢ－ｅ
Ⅲ様式無頸壺	1		ＢＮＡ－ｈ
Ⅲ様式無頸壺	1		ＢＮＡ－ｊ
Ⅲ様式小型壺	1		ＢＮＡ－ｍ
北部九州系甕棺	1		ＹＤＡ
中期甕肩部	4		ＢＪＡ
中期甕底部	4		
Ⅳ様式壺	1		ＢＬＡ－ｄ
Ⅳ様式壺	4		ＢＬＡ－ｖ
Ⅳ様式壺	1		ＢＬＡ－ｗ
Ⅳ様式壺	1		ＢＯＨ
Ⅳ様式壺	1		ＢＯＨ－ｂ
Ⅴ様式甕	1		ＣＥＡ
Ⅴ様式甕	1		ＣＩＣ
Ⅴ様式甕肩部	3		ＣＱＤ
3世紀後半・鼓形器台	5		ＤＡＰ
3世紀後半・甕	1		ＤＢＥ－ｄ
3世紀後半・甕	1		ＤＢＦ－ｄ
3世紀後半・甕	1		ＤＢＨ－ｄ
3世紀末・甕	1		ＤＢＫ－ｇ
4世紀・高杯	1		ＤＨＢ
4世紀・低脚高杯・脚部	2		ＤＨＫ
4世紀後半・壺	1		ＩＧＨ
合　計	86		

第５表・西川津遺跡Ｖ区出土・縄文土器統計表（１）

時　期	型　　式	部　位	個体数	代　表　例（挿　図）	備　　考	分類番号
早期	繊維土器（菱根式）	口縁	1	28図－１		ＬＡＡ
早期	繊維土器（菱根式）	口縁欠損	31	28図－２		ＬＡＡ－ｂ
早期	表・縄文	口縁部	1	28図－３		ＬＡＢ
早期	表・縄文	口縁欠損	7	28図－４		ＬＡＢ－ｂ
早期	表裏縄文	口縁欠損	2	28図－６		ＬＡＣ－ｂ
早期末	長山式	口縁	4	28図－８・９	口縁端部きざみ・隆帯上に刺突	ＬＡＤ－Ⅰ
早期末	長山式	口縁	5	28図－10～12	隆帯上に刺突	ＬＡＤ－Ⅱ
早期末	長山式	口縁	2	28図－13・14	隆帯上に押引き刺突	ＬＡＤ－Ⅲ
早期末	長山式	口縁	1	28図－15	押引き刺突	ＬＡＥ
早期	裏・縄文	胴部	1	28図－７		ＬＡＦ－ｂ
早期末～	長山～西川津式	口縁	1	28図－16		ＬＡＧ
早期末	長山式	口縁部	1	28図－17	単純口縁	ＬＡＨ
合　計			57			

時　期	型　　式	部　位	個体数	代　表　例（挿　図）	備　　考	分類番号
前期初頭	西川津Ａ－１	口縁	1	28図－18	口縁肥厚帯上に刺突	ＬＡＩ
前期初頭	西川津Ａ－２	口縁	2	28図－19・20	口縁肥厚帯下に複合鋸歯文	ＬＡＪ
前期初頭	西川津Ａ－３	口縁	7	28図－21～23	口縁肥厚帯のみ	ＬＡＫ
前期初頭	西川津Ａ－３	口縁	2	28図－24・25	口縁肥厚帯上に刺突	ＬＡＬ－Ⅰ
前期初頭	西川津Ａ－３	口縁	3	28図－26・27	口縁肥厚帯上に刺突、胴部に押引き刺突文	ＬＡＬ－Ⅱ
前期初頭	西川津Ａ－３’	口縁	1	28図－28	口縁肥厚帯なし・複合鋸歯文	ＬＡＭ
前期初頭	西川津Ａ－３	胴部	9			ＬＡＮ
前期初頭	西川津Ｂ－１	口縁	2	28図－１	口縁肥厚帯下端にキザミ・胴部は条痕	ＬＡＯ
前期初頭	西川津Ｂ－１	口縁	1	28図－２		ＬＡＯ－ｂ
前期初頭	西川津Ｂ－１	胴部	4	28図－３・４	微隆帯上にキザミ	ＬＡＰ
前期初頭	西川津Ｂ－１	胴部	3	28図－５	微隆帯の上下をＤ字刺突	ＬＡＱ
前期初頭	西川津Ｂ－２	口縁	1	28図－６		ＬＡＲ
前期初頭	西川津Ｂ－２	胴部	3	28図－７		ＬＡＳ
前期初頭	西川津Ｂ－３	胴部	5	28図－８・９		ＬＡＴ
前期初頭	西川津Ｂ	胴部	9	28図－10～12		ＬＡＵ
前期初頭	西川津ＡＢ折衷	口縁	8	28図－30～33		ＬＡＶ
前期初頭	西川津特殊	口縁	3	28図－13・14		ＬＡＷ
前期初頭	西川津ＡＢ折衷	胴部	4	28図－34・35	沈線による複合鋸歯文	ＬＡＸ
前期初頭	西川津ＡＢ折衷？	胴部	1	28図－29		ＬＧＡ
前期初頭	西川津Ａ－３～羽島下層Ⅱ式	口縁	4	28図－15		ＬＡＹ
前期初頭	西川津	底部	1		浅鉢	ＬＡＺ
前期初頭	不明破片		85			ＬＡａ
合　計			159			

時　期	型　　式	部　位	個体数	代　表　例（挿　図）	備　　考	分類番号
前期	羽島下層Ⅰ式	深鉢口縁	1	29図－16		ＬＢＡ
前期	羽島下層Ⅱ式	深鉢	2	29図－17・18	二連規制	ＬＢＢ－ｂ
前期	北白川下層Ⅰａ式	胴部のみ	1			ＬＢＣ－ｂ
前期	北白川下層Ⅰｂ式	深鉢	6	29図－19～22		ＬＢＤ－ｂ
前期	羽島下層Ⅲ～北白川下層Ⅰ式	深鉢口縁	9	29図－23・24	口縁端部キザミ	ＬＢＥ
前期	北白川下層Ⅱａ式	浅鉢口縁	1	29図－25	浅鉢	ＬＢＧ
前期末	大歳山式	胴部のみ	2	29図－26		ＬＢＩ
前期		口縁部	5	29図－27	内面ナデ・外面条痕	ＬＢＯ
前期		口縁部	4	29図－28	内外面条痕	ＬＢＰ
前期		口縁部	3	29図－29	内面条痕・外面粗ナデ	ＬＢＱ
前期		口縁部	2	29図－30	内外面条痕	ＬＢＲ
合　計			36			

時　期	型　　式	部　位	個体数	代　表　例（挿　図）	備　　考	分類番号
前期		胴部のみ	101	29図－31	内外面条痕	ＬＢＳ
前期		胴部のみ	19	29図－33	内面ナデ・外面条痕	ＬＢＴ
前期		胴部のみ	9	29図－32	内面粗ナデ・外面条痕	ＬＢＵ
前期		胴部のみ	26		内面条痕・外面ナデ	ＬＢＶ
前期		胴部のみ	3		内面ナデ・外面粗ナデ	ＬＢＷ
前期		胴部のみ	1		内外面粗ナデ	ＬＢＸ
前期		胴部のみ	7	29図－34	内面ケズリ・外面条痕	ＬＢＹ
合　計			166			

時　期	型　　式	部　位	個体数	代　表　例（挿　図）	備　　考	分類番号
中期前葉	船元式	深鉢口縁	1	30図－１		ＬＣＡ
中期前葉	船元式	胴部のみ	1	30図－２		ＬＣＡ－ｂ
中期	里木Ⅱ式	胴部のみ	3	30図－３	細縄文	ＬＣＢ
中期	里木Ⅱ式	深鉢口縁	1	30図－４	半裁竹管文による施文	ＬＣＣ
中期	里木Ⅲ式	深鉢口縁	1	30図－５		ＬＣＣ－Ⅱ
合　計			7			

第6表・西川津遺跡Ⅴ区出土・縄文土器統計表（2）

時　期	型　　式	部　位	個体数	代　表　例（挿　図）	備　　考	分類番号
後期初頭	中津Ⅰ式	口縁部	1	30図－6		ＬＣＤ
後期初頭	中津Ⅰ式	胴部	1	30図－7		ＬＣＤ－ｂ
後期初頭	中津Ⅱ式	胴部	1	30図－8		ＬＣＥ－ｂ
後期初頭	中津Ⅲ式	深鉢口縁	5	30図－9・10		ＬＣＦ
後期初頭	中津式・不明	深鉢口縁	6	30図－11		ＬＣＧ
後期		深鉢口縁	1	30図－12		ＬＣＧ－ｂ
後期初頭	島式（福田ＫⅡ式）	胴部	1			ＬＣＨ
後期初頭	島式（福田ＫⅡ式）	胴部	2	30図－13		ＬＣＨ－ｂ
後期前葉	縁帯文	深鉢口縁	2	30図－14		ＬＣＩ
後期前葉	縁帯文	胴部	2			ＬＣＩ－ｂ
後期前葉	彦崎ＫⅠ＝北白川上層	胴部	2	30図－15		ＬＣＪ
後期	元住吉山式＝彦崎ＫⅡ式	胴部	4	30図－16		ＬＣＫ
後期	元住吉山式＝彦崎ＫⅡ式	注口土器	2	30図－18・19		ＬＣＬ
後期末	宮滝式	胴部	3	30図－20・21		ＬＣＭ
後期末	滋賀里Ⅰ～Ⅱ	深鉢口縁	1			ＬＥＲ
後期末	滋賀里Ⅰ	深鉢口縁	1	32図－4		ＬＦＡ
合　計			35			

時　期	型　　式	部　位	個体数	代　表　例（挿　図）	備　　考	分類番号
晩期	突帯文Ⅰ	深鉢口縁	1	30図－22	口縁端部・突帯台形共にキザミ・口縁より離れる	ＬＤＡ
晩期	突帯文Ⅰ	深鉢口縁	1	30図－23	口縁端部・突帯三角共にキザミ・口縁より離れる	ＬＤＢ
晩期	突帯文Ⅱ	深鉢口縁	6	30図－24	突帯三角にキザミ・口縁より離れる	ＬＤＣ
晩期	突帯文Ⅰ	深鉢口縁	1	30図－25	口縁端部・突帯台形共に貝キザミ・口縁より離れる	ＬＤＤ
晩期	突帯文Ⅱ	深鉢口縁	2	30図－26	三角突帯は口縁より下がった位置につく	ＬＤＥ
晩期	突帯文Ⅱ	深鉢口縁	1	30図－27	上向き三角突帯は口縁より下がった位置につく	ＬＤＦ
晩期	突帯文Ⅱ	深鉢口縁	2	30図－28	キザミ入り上向き三角突帯は口縁より下につく	ＬＤＧ
晩期	突帯文Ⅱ	深鉢口縁	6	30図－29	キザミ入り丸形突帯は口縁より下につく	ＬＤＨ
晩期	突帯文Ⅱ（沢田式）	深鉢口縁	4	30図－32・31－1	キザミ入り下向き三角突帯は口縁に近づく	ＬＤＩ
晩期	突帯文Ⅱ（沢田式）	深鉢口縁	1	31図－2	指頭圧痕文帯	ＬＧＤ
晩期	突帯文Ⅲ	深鉢口縁	2	31図－3	キザミ入り下向き三角突帯は口縁と一体化	ＬＤＪ
晩期	突帯文Ⅲ	深鉢口縁	3	30図－30・31図－4・5	キザミ入り三角突帯は口縁と一体化	ＬＤＫ
晩期	突帯文Ⅲ	深鉢口縁	2	30図－31・31図－6	下向き三角突帯は口縁と一体化	ＬＤＬ
晩期	突帯文Ⅲ	深鉢口縁	1	31図－7	孔列土器	ＬＤＭ
晩期	突帯文Ⅲ－新	深鉢口縁	1	31図－8	痕跡的微隆帯	ＬＤＮ
晩期	滋賀里Ⅳ	深鉢口縁	1	31図－9	口縁端部にキザミ	ＬＤＯ
晩期		深鉢口縁	2	31図－10	内面粗ナデ・外面条痕	ＬＤＰ
晩期		深鉢口縁	8	31図－11	内面ナデ・外面粗ナデ	ＬＤＱ
晩期		深鉢口縁	1	31図－12	内面ナデ・外面ケズリ	ＬＤＲ
晩期		深鉢口縁	2	31図－13	口縁端部にわずかな微隆帯	ＬＤＳ
晩期		深鉢口縁	3	31図－14	内面条痕・外面粗ナデ	ＬＤＴ
晩期		深鉢口縁	1		内面ナデ・外面条痕	ＬＤＵ
晩期		深鉢口縁	3	31図－15	内外面ナデ	ＬＤＶ
晩期		深鉢口縁	8	31図－16・17	内外面粗ナデ	ＬＤＷ
晩期		深鉢口縁	1	31図－18	内面ケズリ・外面粗ナデ	ＬＤＸ
晩期		深鉢口縁	1	31図－19	屈曲する	ＬＤＹ
晩期		底部	6	32図－15		ＬＤＺ
晩期		注口土器	2	32図－3		ＬＥＰ
晩期末	突帯文系	深鉢	8	31図－20～23		ＬＥＱ・ＺＥＸ
晩期初頭	滋賀里Ⅱ	浅鉢	1	32図－5	ボール形	ＬＦＢ
晩期	滋賀里Ⅲｂ	浅鉢	4	32図－6	長頸	ＬＦＣ
晩期	滋賀里Ⅲｂ	浅鉢	3	32図－7・8	長頸以外	ＬＦＤ
晩期	滋賀里Ⅲａ	浅鉢	2	32図－9		ＬＦＥ
晩期	滋賀里Ⅱ	浅鉢	1	32図－10		ＬＦＦ
晩期	滋賀里Ⅳ	浅鉢	1	32図－11		ＬＦＧ
晩期	口酒井・船橋（突帯文Ⅱ）	浅鉢	7	32図－12		ＬＦＨ
晩期	長原（突帯文Ⅲ）	浅鉢	1	32図－13		ＬＦＩ
晩期	不明	浅鉢	5	32図－14		ＬＦＪ
晩期	不明	浅鉢	1			ＬＧＣ
合　計			107			

時　期	型　　式	部　位	個体数	代　表　例（挿　図）	備　　考	分類番号
晩期		深鉢胴部	26	32図－2	内外面条痕	ＬＥＡ
晩期		深鉢胴部	8		内面条痕・外面ケズリ	ＬＥＢ
晩期		深鉢胴部	3		内面条痕・外面粗ナデ	ＬＥＣ
晩期		深鉢胴部	15		内面条痕・外面ナデ	ＬＥＤ
晩期		深鉢胴部	5		内面粗ナデ・外面条痕	ＬＥＥ
晩期		深鉢胴部	2		内面ケズリ・外面条痕	ＬＥＦ
晩期		深鉢胴部	1		内面強ナデ・外面ナデ	ＬＥＧ
晩期		深鉢胴部	2		内外面ナデ	ＬＥＨ
晩期		深鉢胴部	23		内外面強ナデ	ＬＥＩ
晩期		深鉢胴部	24		内面ナデ・外面強いナデ	ＬＥＪ
晩期		深鉢胴部	11	32図－1	内面ナデ・外面ケズリ	ＬＥＫ
晩期		深鉢胴部	3		内外面ケズリ	ＬＥＬ
晩期		深鉢胴部	3		海外面ナデ	ＬＥＭ
晩期		深鉢胴部	1		内面ケズリ・外面粗ナデ	ＬＥＮ
晩期		深鉢胴部	14		内面ナデ・外面条痕	ＬＥＯ
合　計			141			

第７表・西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期無文甕）の統計〔１〕

時期	器種	口径	個体数	口縁部形態	口縁端部	外面調整	代表例(挿図)	分類記号
Ⅰ様式	甕	30cm以上	3	如意形口縁	丸	整正ハケ	33図－1	ＡＡＡ－ａ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	33	如意形口縁	丸	整正ハケ	33図－2	ＡＡＡ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	11	如意形口縁	丸	整正ハケ	33図－6	ＡＡＡ－ｃ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	5	如意形口縁	丸	斜行ハケ	33図－3	ＡＡＢ－ａ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	45	如意形口縁	丸	斜行ハケ	33図－4・5	ＡＡＢ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	4	如意形口縁	丸	内面アクセント	33図－9	ＡＡＢ－ｃ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	10	如意形口縁	丸	ナデ	33図－8	ＡＡＣ－ａ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	136	如意形口縁	丸	ナデ	33図－7	ＡＡＣ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	37	如意形口縁	丸	ナデ	33図－10	ＡＡＣ－ｃ
Ⅰ様式	甕	端部のみ	163		丸			ＡＡＣ－ｄ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	4	内面アクセント	丸	整正ハケ		ＡＡＤ－ｂ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	1	内面アクセント	丸	斜行ハケ		ＡＡＥ－ａ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	11	内面アクセント	丸	斜行ハケ	33図－11	ＡＡＥ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	1	内面アクセント	丸	斜行ハケ	33図－12	ＡＡＥ－ｃ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	5	内面アクセント	丸	ナデ	33図－13	ＡＡＦ－ａ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	16	内面アクセント	丸	ナデ	33図－14	ＡＡＦ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	12	内面アクセント	丸	ナデ	33図－15	ＡＡＦ－ｃ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	5	強く折れる	丸	整正ハケ	33図－16	ＡＡＧ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	1	強く折れる	丸	整正ハケ	33図－20	ＡＡＧ－ｃ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	1	強く折れる	丸	斜行ハケ	33図－18	ＡＡＨ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	1	強く折れる	丸	斜行ハケ	33図－17	ＡＡＨ－ｃ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	9	強く折れる	丸	ナデ	33図－19	ＡＡＩ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	3	強く折れる	丸	ナデ		ＡＡＩ－ｃ
Ⅰ様式	甕		11	強く折れる	丸	不明		ＡＡＩ－ｄ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	11	強く折れる	丸	不明		ＡＡＩ－ｂｄ
Ⅰ様式	甕		9	ゆるい	丸	整正ハケ	34図－1～3	ＡＡＪ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	2	ゆるい	丸	斜行ハケ		ＡＡＫ－ａ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	19	ゆるい	丸	斜行ハケ	34図－4	ＡＡＫ－ｂ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	3	ゆるい	丸	ナデ	34図－6	ＡＡＬ－ａ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	67	ゆるい	丸	ナデ	34図－5	ＡＡＬ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	20	ゆるい	丸	ナデ	34図－7・8	ＡＡＬ－ｃ
Ⅰ様式	甕		80	ゆるい	丸	不明		ＡＡＬ－ｄ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	1	頸部が長い	丸	斜行ハケ	34図－9	ＡＡＮ－ｃ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	6	短く折れる	丸	整正ハケ	34図－10	ＡＡＰ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	5	短く折れる	丸	整正ハケ	34図－11	ＡＡＰ－ｃ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	6	短く折れる	丸	斜行ハケ	34図－12・13	ＡＡＱ－ｃ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	11	短いが強く反る	丸	ナデ	34図－14	ＡＡＲ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	7	短いが強く反る	丸	ナデ	34図－15	ＡＡＲ－ｃ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	3	短く直角に折れる	丸	整正ハケ	34図－16	ＡＡＳ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	3	短く直角に折れる	丸	斜行ハケ	34図－17・18	ＡＡＴ－ｃ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	1	短く直角に折れる	丸	ナデ	34図－21	ＡＡＵ－ａ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	15	短く直角に折れる	丸	ナデ	34図－19	ＡＡＵ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	8	短く直角に折れる	丸	ナデ	34図－20	ＡＡＵ－ｃ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	1	水平に折れる	丸	斜行ハケ		ＡＡＷ－ｃ
Ⅰ様式	甕		1	水平に折れる	丸	ナデ		ＡＡＸ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	14	欠損		整正ハケ		ＡＡＸ－ａ
Ⅰ様式	甕		18	欠損		斜行ハケ		ＡＡＸ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	55	欠損		ナデ		ＡＡＸ－ｃ
Ⅰ様式	甕		1	玉縁状	丸	ナデ	34図－22	ＡＡＹ
Ⅰ様式	甕		54	端部のみ	丸	不明		ＡＡ－ｄ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	1	如意形口縁	面	整正ハケ	35図－1	ＡＢＡ－ａ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	6	如意形口縁	面	整正ハケ	35図－2	ＡＢＡ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	2	如意形口縁	面	整正ハケ	35図－3	ＡＢＡ－ｃ
Ⅰ様式	甕		26	如意形口縁	面	不明		ＡＢＡ－ｄ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	15	如意形口縁	面	斜行ハケ	35図－4・5	ＡＢＢ－ｂ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	5	如意形口縁	面	ナデ		ＡＢＣ－ａ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	47	如意形口縁	面	ナデ	35図－6・7	ＡＢＣ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	4	如意形口縁	面	ナデ	35図－8	ＡＢＣ－ｃ
Ⅰ様式	甕		8	如意形口縁	面	不明		ＡＢＣ－ｄ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	2	内面アクセント	面	整正ハケ	35図－9	ＡＢＤ－ｂ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	1	内面アクセント	面	斜行ハケ		ＡＢＥ－ａ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	6	内面アクセント	面	斜行ハケ	35図－10	ＡＢＥ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	1	内面アクセント	面	斜行ハケ	35図－11	ＡＢＥ－ｃ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	6	内面アクセント	面	ナデ	35図－12	ＡＢＦ－ｂ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	2	強く折れる	面	整正ハケ	35図－13	ＡＢＧ－ｂ
Ⅰ様式	甕		1	強く折れる	面	不明		ＡＢＧ－ｄ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	1	強く折れる	面	ナデ	35図－14	ＡＢＩ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	3	強く折れる	面	ナデ		ＡＢＩ－ｃ
Ⅰ様式	甕		2	ゆるい	面	不明		ＡＢＪ－ｋ

第8表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（前期無文甕）の統計〔2〕

時期	器種	口径	個体数	口縁部形態	口縁端部	外面調整	代表例(挿図)	分類記号
Ⅰ様式	甕	30cm以上	3	ゆるい	面	ナデ		ＡＢＬ－ａ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	2	ゆるい	面	ナデ		ＡＢＬ－ｂ
Ⅰ様式	甕		3	ゆるい	面	不明		ＡＢＬ－ｄ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	1	短く直角に折れる	面	整正ハケ		ＡＢＳ－ｂ
Ⅰ様式	甕		1	短く直角に折れる	面	不明		ＡＢＳ－ｔ
Ⅰ様式	甕		1	折れない	面	斜行ハケ	35図－15	ＡＢＹ－ｃ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	10	折れない	面	ナデ	34図－23	ＺＩＢ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	19	瀬戸内型系	丸	斜行ハケ	35図－16	ＢＡＢ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	8	瀬戸内型系	丸	ナデ	35図－17	ＢＡＣ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	2	瀬戸内型系	丸	整正ハケ	35図－18	ＢＡＥ
Ⅰ様式	甕		1	短く直角に折れる	面	ナデ		ＡＢＵ
Ⅰ様式	甕		3	不明	面	不明		ＡＢ－ｄ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	4	内彎・受け口	キザミ	整正ハケ	36図－1	ＡＥＡ－ｂ
Ⅰ様式	甕		3	内彎・受け口	キザミ	斜行ハケ		ＡＥＢ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	4	内彎・受け口	キザミ	ナデ	36図－2	ＡＥＣ－ｂ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	1	如意形口縁	キザミ	整正ハケ	36図－3	ＡＥＤ－ａ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	1	如意形口縁	キザミ	斜行ハケ	36図－4	ＡＥＥ－ａ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	2	如意形口縁	キザミ	斜行ハケ		ＡＥＥ－ｂ
Ⅰ様式	甕		54	如意形口縁	キザミ	ナデ		ＡＥＦ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	9	如意形口縁	キザミ	ナデ	36図－5	ＡＥＦ－ｂ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	2	如意形口縁	キザミ	ナデ	36図－6	ＡＥＦ－ｃ
Ⅰ様式	甕		1	如意形口縁	キザミ	不明		ＡＥＦ－ｄ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	2	瀬戸内型系	キザミ	ナデ	35図－19	ＢＡＤ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	2	如意形口縁	面・キザミ	整正ハケ	36図－7	ＡＥＧ－ｂ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	1	如意形口縁	面・キザミ	斜行ハケ		ＡＥＨ－ｂ
Ⅰ様式	甕		21	如意形口縁	面・キザミ	ナデ		ＡＥＩ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	3	如意形口縁	面・キザミ	ナデ	36図－8	ＡＥＩ－ｂ
Ⅰ様式	甕	30cm以上	1	ゆるい	面・キザミ	斜行ハケ	36図－9	ＡＥＫ－ａ
Ⅰ様式	甕		3	ゆるい	面・キザミ	ナデ		ＡＥＬ－ｄ
Ⅰ様式	甕		3	ゆるい	面・キザミ	ナデ	36図－10・11	ＡＥＬ－ｂ
Ⅰ様式	甕		3	強折	面・キザミ	ナデ		ＡＥＯ
Ⅰ様式	甕	20cm以上	3	内彎	面・キザミ	ナデ	36図－12	ＡＥＯ－ｂ
Ⅰ様式	甕		8	内彎	キザミ	ナデ		ＡＥＱ
Ⅰ様式	甕		8	ゆるい	キザミ	ナデ		ＡＥＴ
Ⅰ様式	甕	19.9cm以下	1	強折	面・キザミ	整正ハケ		ＡＥＵ－ｃ
合計			1282					

第９表・西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（前期１～２条沈線甕）の統計〔１〕

時　期	器　種	口　　径	個体数	口縁部形態	口　縁　端　部	外　面　調　整	沈線数	代表例（挿図）	記　　号
Ⅰ－２	甕	20cm以上	2	如意形口縁	丸	整正ハケ	段	36図－15	ＡＣＡ－ｂ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	1	如意形口縁	丸	斜行ハケ	段		ＡＣＢ－ａ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸	斜行ハケ	段		ＡＣＢ－ｂ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	2	如意形口縁	丸	ナデ	段	36図－13・14	ＡＣＣ－ａ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸	ナデ	段		ＡＣＣ－ｂ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	1	如意形口縁	面	整正ハケ	段		ＡＣＤ－ａ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	整正ハケ	段	36図－17	ＡＣＧ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	斜行ハケ	段		ＡＣＨ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	3	如意形口縁	丸・キザミ	ナデ	段	36図－16	ＡＣＩ－ｂ
Ⅰ－２	甕	欠損	13	欠損	欠損	整正ハケ	段	36図－18	ＡＣＸ
Ⅰ－２	甕	欠損	5	欠損	欠損	斜行ハケ	段		ＡＣＹ
Ⅰ－２	甕	欠損	16	欠損	欠損	ナデ	段		ＡＣＺ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	整正ハケ	1		ＡＤＡ－ａ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	4	如意形口縁	丸・キザミ	整正ハケ	1	38図－1	ＡＤＡ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	斜行ハケ	1	38図－2	ＡＤＢ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	3	如意形口縁	丸・キザミ	ナデ	1		ＡＤＣ－ｂ
Ⅰ－２	甕	19.9cm以下	1	如意形口縁	丸・キザミ	ナデ	1	38図－3	ＡＤＣ－ｃ
Ⅰ－２	甕	不明	13	如意形口縁	丸・キザミ	ナデ	1		ＡＤＣ－ｄ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	2	如意形口縁	面・キザミ	斜行ハケ	1	38図－4	ＡＤＥ－ａ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	2	如意形口縁	面・キザミ	斜行ハケ	1	38図－5	ＡＤＥ－ｂ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	2	如意形口縁	面・キザミ	ナデ	1		ＡＤＦ－ａ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	2	強く折れる	丸・キザミ	斜行ハケ	1	38図－6	ＡＤＨ－ｂ
Ⅰ－２	甕	19.9cm以下	1	強く折れる	丸・キザミ	斜行ハケ	1	38図－7	ＡＤＨ－ｃ
Ⅰ－２	甕	不明	1	強く折れる	面・キザミ	ナデ	1		ＡＤＬ－ｄ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	ゆるい	面・キザミ	ナデ	1		ＡＤＯ－ｂ
Ⅰ－２	甕	不明	5	ゆるい	丸・キザミ	ナデ	1		ＡＤＲ－ｄ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	7	如意形口縁	丸	整正ハケ	1	37図－1・2	ＡＦＡ－ｂ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	2	如意形口縁	丸	斜行ハケ	1		ＡＦＢ－ａ
Ⅰ－２	甕	欠損	9	如意形口縁	丸	斜行ハケ	1	37図－3	ＡＦＢ－ｂ
Ⅰ－２	甕	19.9cm以下	1	如意形口縁	丸	斜行ハケ	1	37図－4	ＡＦＢ－ｃ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	3	如意形口縁	丸	ナデ	1	37図－5	ＡＦＣ－ａ
Ⅰ－２	甕	欠損	19	如意形口縁	丸	ナデ	1	37図－6	ＡＦＣ－ｂ
Ⅰ－２	甕	不明	32	如意形口縁	丸	ナデ	1		ＡＦＣ－ｄ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	如意形口縁	面	斜行ハケ	1	37図－7	ＡＦＥ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	如意形口縁	面	ナデ	1		ＡＦＦ－ｂ
Ⅰ－２	甕	不明	6	如意形口縁	面	ナデ	1		ＡＦＦ－ｄ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	2	強く折れる	丸	整正ハケ	1	37図－8	ＡＦＧ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	4	強く折れる	丸	斜行ハケ	1	37図－9・10	ＡＦＨ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	5	強く折れる	丸	ナデ	1	37図－11	ＡＦＩ－ｂ
Ⅰ－２	甕	不明	2	強く折れる	丸	ナデ	1		ＡＦＩ－ｄ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	1	ゆるい	丸	整正ハケ	1	37図－12	ＡＦＭ－ａ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	ゆるい	丸	整正ハケ	1	37図－13	ＡＦＭ－ｂ
Ⅰ－２	甕	不明	2	ゆるい	丸	整正ハケ	1		ＡＦＭ－ｄ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	1	ゆるい	丸	斜行ハケ	1	37図－14	ＡＦＮ－ａ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	4	ゆるい	丸	斜行ハケ	1	37図－15	ＡＦＮ－ｂ
Ⅰ－２	甕	19.9cm以下	1	ゆるい	丸	斜行ハケ	1	37図－16	ＡＦＮ－ｃ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	7	ゆるい	丸	ナデ	1	37図－17	ＡＦＯ－ｂ
Ⅰ－２	甕	19.9cm以下	3	ゆるい	丸	ナデ	1	37図－18	ＡＦＯ－ｃ
Ⅰ－２	甕	不明	8	ゆるい	丸	ナデ	1		ＡＦＯ－ｄ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	1	ゆるい	面	整正ハケ	1		ＡＦＰ－ａ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	1	ゆるい	面	斜行ハケ	1		ＡＦＱ－ａ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	ゆるい	面	斜行ハケ	1		ＡＦＱ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	2	ゆるい	面	ナデ	1		ＡＦＲ－ｂ
Ⅰ－２	甕	欠損	12	欠損	欠損	整正ハケ	1		ＡＦＸ
Ⅰ－２	甕	欠損	52	欠損	欠損	斜行ハケ	1		ＡＦＹ
Ⅰ－２	甕	欠損	65	欠損	欠損	ナデ	1		ＡＦＺ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	整正ハケ	2	38図－8	ＡＧＡ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	5	如意形口縁	丸・キザミ	斜行ハケ	2	38図－9	ＡＧＢ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	14	如意形口縁	丸・キザミ	ナデ	2	38図－10	ＡＧＣ－ｂ
Ⅰ－２	甕	不明	4	如意形口縁	丸・キザミ	ナデ	2		ＡＧＣ－ｄ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	4	如意形口縁	面・キザミ	整正ハケ	2	38図－11	ＡＧＤ－ｂ
Ⅰ－２	甕	不明	4	如意形口縁	面・キザミ	ナデ	2		ＡＧＦ－ｄ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	強く折れる	丸・キザミ	整正ハケ	2	38図－12	ＡＧＧ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	強く折れる	丸・キザミ	ナデ	2	38図－13	ＡＧＩ－ｂ
Ⅰ－２	甕	不明	2	強く折れる	丸・キザミ	ナデ	2		ＡＧＩ－ｄ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	ゆるい	丸・キザミ	斜行ハケ	2		ＡＧＮ－ｂ
Ⅰ－２	甕	19.9cm以下	1	ゆるい	丸・キザミ	斜行ハケ	2	38図－15	ＡＧＮ－ｃ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	ゆるい	丸・キザミ	ナデ	2	38図－16	ＡＧＯ－ｂ
Ⅰ－２	甕	不明	1	ゆるい	丸・キザミ	ナデ	2		ＡＧＯ－ｄ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	ゆるい	面・キザミ	整正ハケ	2	38図－17	ＡＧＰ－ｂ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	1	ゆるい	面・キザミ	斜行ハケ	2	38図－19	ＡＧＱ－ａ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	ゆるい	面・キザミ	斜行ハケ	2	38図－18	ＡＧＱ－ｂ
Ⅰ－２	甕	不明	1	ゆるい	面・キザミ	ナデ	2	38図－14	ＡＧＲ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	4	如意形口縁	丸	整正ハケ	2	39図－1	ＡＨＡ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	6	如意形口縁	丸	斜行ハケ	2	39図－2	ＡＨＢ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	5	如意形口縁	丸	ナデ	2	39図－3	ＡＨＣ－ｂ
Ⅰ－２	甕	19.9cm以下	1	如意形口縁	丸	ナデ	2	39図－4	ＡＨＣ－ｃ
Ⅰ－２	甕	不明	7	如意形口縁	丸	ナデ	2		ＡＨＣ－ｄ

第10表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（前期１～２条沈線甕）の統計〔２〕

時　期	器　種	口　　径	個体数	口縁部形態	口縁端部	外面調整	沈線数	代表例（挿図）	記　　号
Ⅰ－２	甕	20cm以上	2	如意形口縁	面	斜行ハケ	2	39図－５	ＡＨＥ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	如意形口縁	面	ナデ	2	39図－６	ＡＨＦ－ｂ
Ⅰ－２	甕	不明	1	如意形口縁	面	ナデ	2		ＡＨＦ－ｄ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	2	強く折れる	丸	整正ハケ	2	39図－７	ＡＨＧ－ｂ
Ⅰ－２	甕	19.9cm以下	1	強く折れる	丸	整正ハケ	2	39図－８	ＡＨＧ－ｃ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	5	強く折れる	丸	ナデ	2	39図－９	ＡＨＩ－ｂ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	6	ゆるい	丸	斜行ハケ	2	39図－10	ＡＨＮ－ｂ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	1	ゆるい	丸	ナデ	2	39図－11	ＡＨＯ－ａ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	6	ゆるい	丸	ナデ	2	39図－12	ＡＨＯ－ｂ
Ⅰ－２	甕	不明	2	ゆるい	丸	ナデ	2		ＡＨＯ－ｄ
Ⅰ－２	甕	30cm以上	1	ゆるい	面	ナデ	2		ＡＨＲ－ａ
Ⅰ－２	甕	20cm以上	1	ゆるい	面	ナデ	2	39図－13	ＡＨＲ－ｂ
Ⅰ－２	甕	19.9cm以下	1	短く折れる	丸	ナデ	2	39図－14	ＡＨＳ－Ｃ
Ⅰ－２	甕	不明	20	欠損	欠損	整正ハケ	2		ＡＨＴ
Ⅰ－２	甕	不明	3	欠損	欠損	整正ハケ	2		ＡＨＴ－ｄ
Ⅰ－２	甕	不明	17	欠損	欠損	斜行ハケ	2		ＡＨＵ
Ⅰ－２	甕	不明	11	欠損	欠損	斜行ハケ	2		ＡＨＵ－ｄ
Ⅰ－２	甕	不明	37	欠損	欠損	ナデ	2		ＡＨＶ
Ⅰ－２	甕	不明	36	欠損	欠損	ナデ	2		ＡＨＶ－ｄ
合　計			563						

第11表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（前期３～５条沈線甕）の統計〔１〕

時　期	器　種	口　　径	個体数	口縁部形態	口　縁　端　部	沈線数	外　面　調　整	代表例（挿図）	記　　号
Ⅰ－３	甕	20cm以上	2	如意形口縁	丸	3	整正ハケ	40図－１	ＡＩＡ－ｂ
Ⅰ－３	甕	30cm以上	2	如意形口縁	丸	3	斜行ハケ	40図－２	ＡＩＢ－ａ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	8	如意形口縁	丸	3	斜行ハケ	40図－３	ＡＩＢ－ｂ
Ⅰ－３	甕	30cm以上	2	如意形口縁	丸	3	ナデ	40図－４	ＡＩＣ－ａ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	8	如意形口縁	丸	3	ナデ	40図－５	ＡＩＣ－ｂ
Ⅰ－３	甕	不明	9	如意形口縁	丸	3	ナデ		ＡＩＣ－ｄ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	如意形口縁	面	3	整正ハケ		ＡＩＤ－ｂ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	如意形口縁	面	3	斜行ハケ		ＡＩＥ－ｂ
Ⅰ－３	甕	不明	3	如意形口縁	面	3	ナデ		ＡＩＦ－ｄ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	強く折れる	丸	3	斜行ハケ	40図－６	ＡＩＨ－ｂ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	強く折れる	丸	3	ナデ		ＡＩＩ－ｂ
Ⅰ－３	甕	不明	1	強く折れる	丸	3	ナデ		ＡＩＩ－ｄ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	強く折れる	面	3	ナデ	40図－７	ＡＩＬ－ｂ
Ⅰ－３	甕	不明	1	強く折れる	面	3	ナデ		ＡＩＬ－ｄ
Ⅰ－３	甕	30cm以上	1	ゆるい	丸	3	整正ハケ		ＡＩＭ－ａ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	ゆるい	丸	3	斜行ハケ	40図－８	ＡＩＮ－ｂ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	7	ゆるい	丸	3	ナデ	40図－９	ＡＩＯ－ｂ
Ⅰ－３	甕	不明	1	ゆるい	丸	3	ナデ		ＡＩＯ－ｄ
Ⅰ－３	甕	30cm以上	1	ゆるい	面	3	整正ハケ		ＡＩＰ－ａ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	ゆるい	面	3	斜行ハケ	40図－10	ＡＩＱ－ｂ
Ⅰ－３	甕	欠損	3	欠損	欠損	3	不明	40図－11	ＡＩＷ
Ⅰ－３	甕	欠損	10	欠損	欠損	3	整正ハケ		ＡＩＸ
Ⅰ－３	甕	欠損	8	欠損	欠損	3	斜行ハケ		ＡＩＹ
Ⅰ－３	甕	欠損	23	欠損	欠損	3	ナデ		ＡＩＺ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	3	如意形口縁	丸	3	整正ハケ	40図－12・13	ＡＪＡ－ｂ
Ⅰ－３	甕	19.9cm以下	1	如意形口縁	丸	3	整正ハケ	40図－14	ＡＪＡ－ｃ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	5	如意形口縁	丸	3	斜行ハケ	40図－15	ＡＪＢ－ｂ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	9	如意形口縁	丸	3	ナデ	40図－16	ＡＪＣ－ｂ
Ⅰ－３	甕	19.9cm以下	1	如意形口縁	丸	3	ナデ	40図－17	ＡＪＣ－ｃ
Ⅰ－３	甕	不明	5	如意形口縁	丸	3	ナデ		ＡＪＣ－ｄ
Ⅰ－３	甕	19.9cm以下	1	如意形口縁	面	3	ナデ	40図－18	ＡＪＦ－ｃ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	2	強く折れる	丸	3	整正ハケ	40図－19	ＡＪＧ－ｂ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	5	強く折れる	丸	3	ナデ	40図－20	ＡＪＩ－ｂ
Ⅰ－３	甕	不明	1	強く折れる	丸	3	ナデ		ＡＪＩ－ｄ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	ゆるい	丸	3	整正ハケ		ＡＪＭ－ｂ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	3	ゆるい	丸	3	ナデ	40図－21	ＡＪＯ－ｂ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	ゆるい	面	3	整正ハケ		ＡＪＰ－ｂ
Ⅰ－３	甕	19.9cm以下	1	ゆるい	面	3	整正ハケ	40図－22	ＡＪＰ－ｃ
Ⅰ－３	甕	不明	2	ゆるい	面	3	ナデ		ＡＪＲ－ｄ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	3	内彎・受け口	丸・キザミ	3	斜行ハケ	41図－18	ＡＪＴ－ｂ
Ⅰ－３	甕	不明	1	内彎・受け口	丸・キザミ	3	ナデ		ＡＪＵ－ｄ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸	4	整正ハケ		ＡＫＡ－ｂ
Ⅰ－３	甕	19.9cm以下	3	如意形口縁	丸	4	整正ハケ	41図－１	ＡＫＡ－ｃ
Ⅰ－３	甕	30cm以上	1	如意形口縁	丸	4	ナデ		ＡＫＣ－ａ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	8	如意形口縁	丸	4	ナデ	41図－２	ＡＫＣ－ｂ
Ⅰ－３	甕	19.9cm以下	1	如意形口縁	丸	4	ナデ	41図－３	ＡＫＣ－ｃ
Ⅰ－３	甕	不明	6	如意形口縁	丸	4	ナデ		ＡＫＣ－ｄ
Ⅰ－３	甕	19.9cm以下	1	強く折れる	丸	4	整正ハケ	41図－４	ＡＫＧ－ｃ
Ⅰ－３	甕	不明	1	強く折れる	丸	4	ナデ		ＡＫＩ－ｄ
Ⅰ－３	甕	19.9cm以下	1	ゆるい	丸	4	整正ハケ	41図－５	ＡＫＭ－ｃ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	ゆるい	丸	4	斜行ハケ		ＡＫＮ－ｂ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	4	ゆるい	丸	4	ナデ	41図－６	ＡＫＯ－ｂ
Ⅰ－３	甕	19.9cm以下	1	ゆるい	丸	4	ナデ	41図－７	ＡＫＯ－ｃ
Ⅰ－３	甕	不明	2	ゆるい	丸	4	ナデ		ＡＫＯ－ｄ
Ⅰ－３	甕	欠損	7	欠損	欠損	4	整正ハケ		ＡＫＸ
Ⅰ－３	甕	欠損	15	欠損	欠損	4	斜行ハケ		ＡＫＹ
Ⅰ－３	甕	欠損	8	欠損	欠損	4	ナデ		ＡＫＺ－１
Ⅰ－３	甕	欠損	15	欠損	欠損	4	ナデ		ＡＫＺ－２
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	4	整正ハケ	41図－８	ＡＬＡ－ｂ
Ⅰ－３	甕	19.9cm以下	1	如意形口縁	丸・キザミ	4	整正ハケ	41図－９	ＡＬＡ－ｃ
Ⅰ－３	甕	30cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	4	斜行ハケ	41図－11	ＡＬＢ－ａ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	2	如意形口縁	丸・キザミ	4	斜行ハケ	41図－10	ＡＬＢ－ｂ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	4	如意形口縁	丸・キザミ	4	ナデ	41図－12	ＡＬＣ－ｂ
Ⅰ－３	甕	不明	3	如意形口縁	丸・キザミ	4	ナデ		ＡＬＣ－ｄ

第12表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（前期３～５条沈線甕）の統計〔２〕

時　期	器種	口　径	個体数	口縁部形態	口縁端部	沈線数	外面調整	代表例（挿図）	記　号
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	如意形口縁	面・キザミ	4	整正ハケ	41図－13	ＡＬＤ－ｂ
Ⅰ－３	甕	19.9cm以下	2	如意形口縁	面・キザミ	4	整正ハケ	41図－14	ＡＬＤ－ｃ
Ⅰ－３	甕	不明	4	如意形口縁	面・キザミ	4	ナデ		ＡＬＦ－ｄ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	強く折れる	丸・キザミ	4	斜行ハケ		ＡＬＨ－ｂ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	5	強く折れる	丸・キザミ	4	ナデ	41図－15	ＡＬＩ－ｂ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	1	ゆるい	丸・キザミ	4	斜行ハケ	41図－17	ＡＬＮ－ｂ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	6	ゆるい	丸・キザミ	4	ナデ	41図－16	ＡＬＯ－ｂ
Ⅰ－３	甕	不明	2	ゆるい	丸・キザミ	4	ナデ		ＡＬＯ－ｄ
Ⅰ－３	甕	不明	1	内彎・受け口	丸・キザミ	4	ナデ		ＡＬＵ－ｄ
Ⅰ－３	甕	20cm以上	2	瀬戸内型系	丸・キザミ	4	ナデ	41図－19	ＢＡＡ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	5	整正ハケ	42図－13	ＡＭＡ－ｂ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	5	斜行ハケ	42図－14	ＡＭＢ－ａ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	5	如意形口縁	丸・キザミ	5	ナデ	42図－15	ＡＭＣ－ｂ
Ⅰ－４	甕	不明	5	如意形口縁	丸・キザミ	5	ナデ		ＡＭＣ－ｄ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	如意形口縁	面・キザミ	5	斜行ハケ	42図－16	ＡＭＥ－ａ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	3	如意形口縁	面・キザミ	5	斜行ハケ	42図－17	ＡＭＥ－ｂ
Ⅰ－４	甕	不明	1	如意形口縁	面・キザミ	5	ナデ		ＡＭＦ－ｄ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	2	強く折れる	丸・キザミ	5	ナデ	42図－18	ＡＭＩ－ａ
Ⅰ－４	甕	不明	2	強く折れる	丸・キザミ	5	ナデ		ＡＭＩ－ｄ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	強く折れる	面・キザミ	5	ナデ	42図－19	ＡＭＬ－ａ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	2	ゆるい	丸・キザミ	5	ナデ		ＡＭＯ－ｂ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	2	ゆるい	丸・キザミ	5	ナデ	42図－20	ＡＭＯ－ｃ
Ⅰ－４	甕	不明	1	ゆるい	面・キザミ	5	ナデ		ＡＭＲ－ｄ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸	5	整正ハケ	42図－１	ＡＮＡ－ｂ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	3	如意形口縁	丸	5	斜行ハケ	42図－２	ＡＮＢ－ｂ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	3	如意形口縁	丸	5	ナデ	42図－３	ＡＮＣ－ｂ
Ⅰ－４	甕	不明	7	如意形口縁	丸	5	ナデ		ＡＮＣ－ｄ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	如意形口縁	面	5	整正ハケ	42図－４	ＡＮＤ－ａ
Ⅰ－４	甕	不明	1	強く折れる	丸	5	ナデ		ＡＮＩ－ｄ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	2	強く折れる	丸	5	ナデ	42図－５	ＡＮＩ－ｃ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	強く折れる	面	5	ナデ		ＡＮＬ－ｂ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	ゆるい	丸	5	整正ハケ	42図－６	ＡＮＭ－ｂ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	2	ゆるい	丸	5	整正ハケ	42図－７・８	ＡＮＭ－ｃ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	2	ゆるい	丸	5	斜行ハケ	42図－９	ＡＮＮ－ｂ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	1	ゆるい	丸	5	斜行ハケ	42図－10	ＡＮＮ－ｃ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	4	ゆるい	丸	5	ナデ	42図－11	ＡＮＯ－ｂ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	2	ゆるい	丸	5	ナデ		ＡＮＯ－ｃ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	1	直口	水平面	5	ナデ	42図－12	ＡＮＳ－ｃ
Ⅰ－４	甕	欠損	1	欠損	欠損	5	不明		ＡＮＷ
Ⅰ－４	甕	欠損	3	欠損	欠損	5	整正ハケ		ＡＮＸ
Ⅰ－４	甕	欠損	9	欠損	欠損	5	斜行ハケ		ＡＮＹ
Ⅰ－４	甕	欠損	22	欠損	欠損	5			ＡＮＺ
合　計			349						

第13表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（前期６～10条以上沈線甕）の統計

時　期	器種	口　径	個体数	口縁端部	口縁部形態	外面調整	沈線数	代表例（挿図）	記　号
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸・キザミ	如意形口縁	整正ハケ	6		ＡＯＡ－ｂ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	1	丸・キザミ	如意形口縁	斜行ハケ	6	43図－10	ＡＯＢ－ｃ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸・キザミ	如意形口縁	ナデ	6	43図－12	ＡＯＣ－ｂ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	1	丸・キザミ	如意形口縁	ナデ	6	43図－11	ＡＯＣ－ｃ
Ⅰ－４	甕	不明	3	丸・キザミ	如意形口縁	ナデ	6		ＡＯＣ－ｄ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	2	面・キザミ	如意形口縁	ナデ	6	43図－13	ＡＯＦ－ｃ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	丸・キザミ	強く折れる	整正ハケ	6	43図－14	ＡＯＧ－ａ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	1	丸・キザミ	ゆるい	整正ハケ	6	43図－15	ＡＯＭ－ｃ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	5	丸・キザミ	ゆるい	ナデ	6	43図－16	ＡＯＯ－ｂ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	1	丸・キザミ	ゆるい	ナデ	6		ＡＯＯ－ｃ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸・キザミ	短く折れる	ナデ	6		ＡＯＵ－ｂ
Ⅰ－４	甕	不明	3	丸・キザミ	短く折れる	ナデ	6		ＡＯＵ－ｄ
Ⅰ－４	甕	不明	1	丸・キザミ	内彎・受け口	ナデ	6		ＡＯＸ－ｄ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	1	丸	如意形口縁	整正ハケ	6	43図－２	ＡＰＡ－ｃ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	2	丸	如意形口縁	整正ハケ	6	43図－１	ＡＰＡ－ｂ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	丸	如意形口縁	斜行ハケ	6	43図－４	ＡＰＢ－ａ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸	如意形口縁	斜行ハケ	6	43図－３	ＡＰＢ－ｂ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	5	丸	如意形口縁	ナデ	6	43図－５	ＡＰＣ－ｂ
Ⅰ－４	甕	不明	5	丸	如意形口縁	ナデ	6		ＡＰＣ－ｄ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸	強く折れる	整正ハケ	6	43図－６	ＡＰＧ－ｂ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	面	強く折れる	ナデ	6		ＡＰＬ－ｂ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	1	丸	ゆるい	斜行ハケ	6	43図－７	ＡＰＮ－ｃ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	2	丸	ゆるい	ナデ	6		ＡＰＯ－ｂ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	2	丸	ゆるい	ナデ	6	43図－８	ＡＰＯ－ｃ
Ⅰ－４	甕	不明	2	丸	ゆるい	ナデ	6		ＡＰＯ－ｄ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	2	丸	短く折れる	ナデ	6		ＡＰＵ－ｂ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	面	短く折れる	斜行ハケ	6	43図－９	ＡＰＶ－ｂ
Ⅰ－４	甕	欠損	3	欠損	欠損	整正ハケ	6		ＡＰＸ
Ⅰ－４	甕	欠損	5	欠損	欠損	斜行ハケ	6		ＡＰＹ
Ⅰ－４	甕	欠損	10	欠損	欠損	ナデ	6		ＡＰＺ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	4	丸・キザミ	瀬戸内型系	ナデ	6	43図－17	ＢＡＩ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸・キザミ	ゆるい	ナデ	7	44図－13	ＡＱＡ－ｂ
Ⅰ－４	甕	不明	2	丸・キザミ	ゆるい	ナデ	7		ＡＱＡ－ｄ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	丸・キザミ	ゆるい	斜行ハケ	7	44図－12	ＡＱＢ－ａ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	面・キザミ	強く折れる	斜行ハケ	7	44図－11	ＡＱＣ－ａ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸・キザミ	短く折れる	整正ハケ	7		ＡＱＤ－ｂ
Ⅰ－４	甕	不明	1	丸・キザミ	短く折れる	ナデ	7		ＡＱＥ－ｄ
Ⅰ－４	甕	不明	3	丸・キザミ	如意形口縁	ナデ	7		ＡＱＦ－ｄ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸	如意形口縁	整正ハケ	7	44図－１	ＡＱＧ－ｂ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	丸	如意形口縁	斜行ハケ	7	44図－２	ＡＱＨ－ａ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	1	丸	如意形口縁	斜行ハケ	7	44図－３	ＡＱＨ－ｃ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	丸	如意形口縁	ナデ	7	44図－４	ＡＱＩ－ａ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	2	丸	如意形口縁	ナデ	7		ＡＱＩ－ｂ
Ⅰ－４	甕	不明	1	丸	如意形口縁	ナデ	7		ＡＱＩ－ｄ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	丸	ゆるい	ナデ	7	44図－５	ＡＱＪ－ａ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	2	丸	ゆるい	ナデ	7	44図－６	ＡＱＪ－ｂ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	1	丸	ゆるい	ナデ	7	44図－７	ＡＱＪ－ｃ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸	ゆるい	斜行ハケ	7	44図－８	ＡＱＫ－ｂ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	1	丸	ゆるい	整正ハケ	7	44図－９	ＡＱＬ－ｃ
Ⅰ－４	甕	欠損	3	欠損	欠損	整正ハケ	7		ＡＱＸ
Ⅰ－４	甕	欠損	1	欠損	欠損	斜行ハケ	7		ＡＱＹ
Ⅰ－４	甕	欠損	11	欠損	欠損	ナデ	7		ＡＱＺ
Ⅰ－４	甕	19.9cm以下	6	丸	瀬戸内型系	ナデ	7	44図－10	ＢＡＬ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	2	丸	如意形口縁	整正ハケ	8	44図－14	ＡＲＡ－ｂ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸	如意形口縁	斜行ハケ	8	44図－15	ＡＲＢ－ｂ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	3	丸	如意形口縁	ナデ	8	44図－16	ＡＲＣ－ｂ
Ⅰ－４	甕	不明	1	丸	如意形口縁	ナデ	8		ＡＲＣ－ｄ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	2	丸・キザミ	如意形口縁	整正ハケ	8	44図－17	ＡＲＦ－ｂ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	面・キザミ	強く折れる	整正ハケ	8	45図－１	ＡＲＨ－ａ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸・キザミ	ゆるい	ナデ	8		ＡＲＩ－ｂ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	丸・キザミ	如意形口縁	ナデ	8	44図－18	ＡＲＪ－ａ
Ⅰ－４	甕	不明	1	丸・キザミ	如意形口縁	ナデ	8		ＡＲＪ－ｄ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸・キザミ	短く折れる	ナデ	8		ＡＲＫ－ｂ
Ⅰ－４	甕	不明	1	面	短く折れる	ナデ	8		ＡＲＭ－ｄ
Ⅰ－４	甕	不明	1	面・キザミ	如意形口縁		8		ＡＲＮ－ｄ
Ⅰ－４	甕	欠損	3	欠損	欠損	斜行ハケ	8		ＡＲＹ
Ⅰ－４	甕	欠損	9	欠損	欠損	ナデ	8		ＡＲＺ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸	如意形口縁	斜行ハケ	9	45図－２	ＡＳＡ－ｂ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	2	丸・キザミ	如意形口縁	ナデ	9	45図－３	ＡＳＢ－ａ
Ⅰ－４	甕	不明	1	丸・キザミ	如意形口縁	ナデ	9		ＡＳＢ－ｄ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸	ゆるい	整正ハケ	9	45図－４	ＡＳＣ－ｂ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	面	強く折れる	ナデ	9	45図－５	ＡＳＥ－ａ
Ⅰ－４	甕	不明	1	丸・キザミ	ゆるい	ナデ	9		ＡＳＦ－ｄ
Ⅰ－４	甕	欠損	1	欠損	欠損	整正ハケ	9		ＡＳＸ
Ⅰ－４	甕	欠損	5	欠損	欠損	斜行ハケ	9		ＡＳＹ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	丸	如意形口縁	ナデ	10以上	45図－６	ＡＴＡ－ａ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸	如意形口縁	整正ハケ	10以上		ＡＴＢ－ｂ
Ⅰ－４	甕	30cm以上	1	丸・キザミ	強く折れる	ナデ	10以上		ＡＴＣ－ａ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸・キザミ	如意形口縁	斜行ハケ	10以上	45図－８	ＡＴＤ－ｂ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸	如意形口縁	ナデ	10以上		ＡＴＥ－ｂ
Ⅰ－４	甕	20cm以上	1	丸	如意形口縁	ナデ	10以上		ＡＴＨ－ｂ
Ⅰ－４	甕	不明	1	面・キザミ	如意形口縁		10以上		ＡＴＲ－ｄ
Ⅰ－４	甕	欠損	1	欠損	欠損	ナデ	10以上		ＡＴＹ
Ⅰ－４	甕	欠損	1	欠損	欠損	斜行ハケ	10以上		ＡＴＺ
合　計			182						

第14表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（前期多条・刺突文甕）の統計

時期	器種	口径	個体数	口縁形態	端部調整	外面調整	刺突形態	代表例(挿図)	記号
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸	ナデ	三角形状刺突	45図－10	ＡＵＡ－ｂ６
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	整正ハケ	三角形状刺突		ＡＵＢ－ａ９
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	整正ハケ	三角形状刺突		ＡＵＥ－ｂ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	2	如意形口縁	面・キザミ	整正ハケ	三角形状刺突	45図－11	ＡＵＦ－ａ10
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	ゆるい	丸・キザミ	斜行ハケ	三角形状刺突	45図－12	ＡＵＧ－ｂ６
Ⅰ－4	甕	19.9cm以下	1	ゆるい	丸・キザミ	整正ハケ	三角形状刺突	45図－９	ＡＵＫ－ｃ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	ナデ	三角形状刺突	45図－13	ＡＵＬ－ａ
Ⅰ－4	甕		1	欠損	欠損		三角形状刺突		ＡＵＶ
Ⅰ－4	甕		17	欠損	欠損	ナデ	三角形状刺突		ＡＵＺ－７
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	ゆるい	丸	斜行ハケ	斜行米粒状刺突	46図－１	ＡＶＡ－ｂ６
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	ゆるい	丸・キザミ	ナデ	斜行米粒状刺突		ＡＶＢ－ｂ７
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	短く折れる	丸・キザミ	斜行ハケ	斜行米粒状刺突	46図－２	ＡＶＣ－ａ８
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸	ナデ	斜行米粒状刺突		ＡＶＤ－ｂ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	斜行ハケ	小竹管状刺突	46図－３	ＡＶＥ－ａ７
Ⅰ－4	甕	20cm以上	2	ゆるい	丸・キザミ	ナデ	小竹管状刺突	46図－４	ＡＶＦ－ｂ６
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	強く折れる	面	ナデ	小竹管状刺突	46図－５	ＡＶＧ－ｂ５
Ⅰ－4	甕		3	欠損	欠損	ナデ	斜行米粒状刺突		ＡＶＨ
Ⅰ－4	甕		3	欠損	欠損	ナデ	斜行米粒状刺突		ＡＶＫ
Ⅰ－4	甕		2	欠損	欠損	ナデ	円形刺突		ＡＶＭ－ｄ
Ⅰ－4	甕		1	欠損	欠損	ナデ	斜行米粒状刺突		ＡＶＰ－ｄ
Ⅰ－4	甕		3	欠損	欠損	ナデ	小竹管状刺突		ＡＶＱ－ｄ
Ⅰ－4	甕		2	欠損	欠損	ナデ	小竹管状刺突		ＡＶＱ－６
Ⅰ－4	甕		3	欠損	欠損	ナデ	小竹管状刺突		ＡＶＴ－ｄ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	ナデ	条間斜行米粒状刺突	46図－６	ＡＷＡ－ａ
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	ナデ	条間斜行米粒状刺突		ＡＷＡ－ｂ
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	ナデ	条間斜行米粒状刺突		ＡＷＡ－ｂｄ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	如意形口縁	丸	ナデ	多条間小竹管状刺突		ＡＷＢ－ａ
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸	ナデ	多条間小竹管状刺突		ＡＷＢ－ｂ
Ⅰ－4	甕	19.9cm以下	1	如意形口縁	丸	ナデ	条間小竹管状刺突	46図－７	ＡＷＣ－ｃ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	如意形口縁	面	斜行ハケ	条間横位米粒状刺突	47図－１	ＡＷＤ－ａ
Ⅰ－4	甕	19.9cm以下	1	如意形口縁	面	斜行ハケ	条間横位米粒状刺突	46図－８	ＡＷＤ－ｃ
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	ヨコハケ	条間斜行米粒状刺突	46図－９	ＡＷＦ－ｂ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	如意形口縁	面	ナデ	多条間斜行米粒状刺突	47図－２	ＡＷＧ－ａ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	ゆるい	丸・キザミ	ナデ	条間縦位刺突	46図－10	ＡＷＨ－ａ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	ゆるい	丸・キザミ	整正ハケ	条間縦位刺突	47図－４	ＡＷＩ－ａ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	如意形口縁	丸・キザミ	ナデ	条間斜行米粒状刺突	46図－11	ＡＷＪ－ａ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	ゆるい	丸・キザミ	ナデ	多条間斜行米粒状刺突	46図－12	ＡＷＫ－ａ
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	ゆるい	丸・キザミ	ナデ	多条間斜行米粒状刺突		ＡＷＫ－ｂ
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	強く折れる	丸	整正ハケ	条間横位米粒状刺突	46図－13	ＡＷＬ－ｂ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	強く折れる	丸	ナデ	条間横位米粒状刺突	47図－３	ＡＷＭ－ａ
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	強く折れる	面	ナデ	条間横位米粒状刺突	46図－14	ＡＷＮ－ｂ
Ⅰ－4	甕	19.9cm以下	1	強く折れる	丸・キザミ	整正ハケ	多条間横位米粒状刺突	46図－15	ＡＷＯ－ｃ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	強く折れる	面・キザミ	斜行ハケ	多条間竹管・縦位刺突	47図－５	ＡＷＰ－ａ
Ⅰ－4	甕		1	如意形口縁	丸・キザミ	ナデ	多条間斜行米粒状刺突		ＡＷＱ－ｄ
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸	ナデ	条間円形刺突		ＡＷＲ－ｂ
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	強く折れる	丸・キザミ	ナデ	条間竹管状刺突		ＡＷＳ－ｂｄ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	如意形口縁	丸	ナデ	条間２段斜行米粒状刺突		ＡＷＴ－ａｄ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	強く折れる	丸・キザミ	ナデ	多条間竹管状刺突		ＡＷＵ－ａ
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	強く折れる	丸	整正ハケ	多条間円形刺突	46図－16	ＡＷＶ－ｂ
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	強く折れる	面・キザミ	ナデ	多条間竹管・円形刺突	46図－17	ＡＷＷ－ｂ
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸	ナデ	条間小円形刺突	46図－18	ＡＷＸ－ｂ
Ⅰ－4	甕	20cm以上	1	如意形口縁	丸	ナデ	条間３段円形刺突	46図－19	ＡＷＹ－ｂ
Ⅰ－4	甕	30cm以上	1	如意形口縁	面・キザミ	整正ハケ	条間２段円形刺突	47図－６	ＡＷＺ－ａ
Ⅰ－4	甕		4	瀬戸内型系	丸・キザミ	ナデ	条間貝殻鋸歯文	46図－20	ＢＡＫ
Ⅰ－4	甕		2	欠損	欠損	斜行ハケ	条間横位米粒状刺突		ＡＸＡ
Ⅰ－4	甕		4	欠損	欠損	斜行ハケ	条間横位米粒状刺突		ＡＸＡ－ｄ
Ⅰ－4	甕		4	欠損	欠損	ナデ	条間横位米粒状刺突		ＡＸＢ
Ⅰ－4	甕		6	欠損	欠損	ナデ	条間横位米粒状刺突		ＡＸＢ－ｄ
Ⅰ－4	甕		5	欠損	欠損	ナデ	条間縦位米粒状刺突		ＡＸＣ
Ⅰ－4	甕		6	欠損	欠損	斜行ハケ	条間斜位米粒状刺突		ＡＸＤ
Ⅰ－4	甕		2	欠損	欠損	ナデ	条間斜位米粒状刺突		ＡＸＥ
Ⅰ－4	甕		3	欠損	欠損	斜行ハケ	多条間横位米粒状刺突		ＡＸＦ
Ⅰ－4	甕		6	欠損	欠損	ナデ	多条間横位米粒状刺突		ＡＸＧ
Ⅰ－4	甕		1	欠損	欠損	斜行ハケ	条間２段横位米粒状刺突		ＡＸＨ
Ⅰ－4	甕		5	欠損	欠損	ナデ	条間２段横位米粒状刺突		ＡＸＩ
Ⅰ－4	甕		1	欠損	欠損	ナデ	多条間横位米粒状刺突		ＡＸＪ
Ⅰ－4	甕		4	欠損	欠損	ナデ	多条竹管状刺突		ＡＸＫ
Ⅰ－4	甕		2	欠損	欠損	ナデ	多条間竹管・横位刺突		ＡＸＬ
Ⅰ－4	甕		1	欠損	欠損	ナデ	条間２段竹管状刺突		ＡＸＭ
Ⅰ－4	甕		8	欠損	欠損	ナデ	条間竹管状刺突		ＡＸＮ
Ⅰ－4	甕		5	欠損	欠損	ナデ	条間竹管状刺突		ＡＸＮ－ｄ
Ⅰ－4	甕		1	欠損	欠損	整正ハケ	条間羽状刺突		ＡＸＯ
Ⅰ－4	甕		3	欠損	欠損	斜行ハケ	多条間斜行刺突		ＡＸＰ
Ⅰ－4	甕		3	欠損	欠損	斜行ハケ	条間竹管状刺突		ＡＸＱ
Ⅰ－4	甕		1	欠損	欠損	斜行ハケ	多条間竹管状刺突		ＡＸＲ
Ⅰ－4	甕		6	欠損	欠損	ナデ	多条間竹管状刺突		ＡＸＳ
Ⅰ－4	甕		1	欠損	欠損	整正ハケ	条間竹管状刺突		ＡＸＴ
Ⅰ－4	甕		6	欠損	欠損	ナデ	多条間斜行刺突		ＡＸＵ
Ⅰ－4	甕		1	欠損	欠損	ナデ	多条間斜行米粒状刺突		ＡＸＶ
合計			172						

第15表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（前期壺・頸胴部）の統計〔1〕

時期	器種	部位	特徴	個体数	可能性のある破片	代表例(挿図)	分類記号
Ⅰ－4	壺	頸部	タテキザミのある2条突帯	9			ZAA
Ⅰ－4	壺	胴部	タテキザミのある2条突帯	24			ZAB
Ⅰ－4	壺	胴部	米粒状刺突2条突帯	1		53図－1	ZAC
Ⅰ－4	壺	胴部	2条突帯	13			ZAD
Ⅰ－4	壺	頸部	2条突帯	5			ZAE
Ⅰ－4	壺	胴部	羽状キザミ2条突帯	10		53図－2	ZAF
Ⅰ－4	壺	胴部	タテキザミ3条突帯	7			ZAG
Ⅰ－4	壺	胴部	羽状キザミ3条突帯	5		53図－3	ZAH
Ⅰ－4	壺	頸部	キザミ1条突帯	6	3		ZAI
Ⅰ－4	壺	胴部	キザミ1条突帯	5	2		ZAJ
Ⅰ－4	壺	頸部	1条突帯	13	3	53図－4	ZAK
Ⅰ－4	壺	胴部	1条突帯？		5		ZAL－d
Ⅰ－4	壺	胴部	2条低突帯	9		53図－6	ZAM
Ⅰ－4	壺	胴部	3条低突帯	3		53図－5	ZAN
Ⅰ－4	壺	頸部	3条低突帯	2			ZAO
Ⅰ－4	壺	胴部	4条低突帯	3			ZAP
Ⅰ－4	壺	胴部	キザミ4条低突帯	1			ZAQ
Ⅰ－4	壺	頸部	1条内面突帯	2			ZAR
Ⅰ－4	壺	胴部	1条低突帯	13	3		ZAS
Ⅰ－4	壺	胴部	1条突帯？（剥離）	2			ZAT
Ⅰ－4	壺	頸胴部	頸・胴各2条羽状文突帯	1			ZAU
Ⅰ－4	壺	頸部	1条突帯？（剥離）	2			ZAV
Ⅰ－4	壺	頸部	ヘラ多条線の上下を△刺突	1		52図－14	ZBA
Ⅰ－4	壺	頸部	ヘラ多条線の下を△刺突	5	8	52図－15	ZBB
Ⅰ－4	壺	頸部	ヘラ多条線の下をタテ刺突	1	1		ZBD
Ⅰ－4	壺	頸部	ヘラ多条線の下を米粒状刺突？		2		ZBE－d
Ⅰ－4	壺	頸部	ヘラ多条線の上下を○刺突	1			ZBG
Ⅰ－4	壺	胴部	ヘラ多条線の下を竹管状刺突？		2		ZBH－d
Ⅰ－4	壺	胴部	ヘラ多条線の下を米粒状刺突	1			ZBI
Ⅰ－4	壺	胴部	ヘラ多条線の下を○刺突	1	1		ZBJ
Ⅰ－4	壺	胴部	ヘラ多条線の上下を竹管状刺突	1			ZBK
Ⅰ－4	壺	胴部	ヘラ多条線の上下を△刺突	3			ZBM
Ⅰ－4	壺	胴部	ヘラ多条線の下を△刺突	8	14	52図－16	ZBN
Ⅰ－4	壺	頸部	ヘラ多条線の下を二重△刺突	1			ZBQ－d7
Ⅰ－4	壺	頸部	斜行刺突の上下をヘラ多条線	1		52図－17	ZBR－d6＋5
Ⅰ－4	壺	頸部	△刺突の上下をヘラ多条線	1			ZBS－5＋5
Ⅰ－4	壺	頸部	押引き刺突文	1			ZBX
Ⅰ－4	壺	胴部	2条沈線間に米粒状刺突		2		ZBY－d
Ⅰ－4	壺	頸部	削り出し突帯上に押引き刺突	1		52図－18	ZBZ
Ⅰ－2	壺	頸部	1条沈線	15	4	51図－13・14	ZEA
Ⅰ－2	壺	胴部	1条沈線	14	11		ZEB
Ⅰ－2	壺	頸部	口縁下に段	37			ZEC
Ⅰ－2	壺	胴部	肩部に段	92		51図－15	ZED
Ⅰ－2	壺	頸部	2条沈線	4	15	51図－16	ZEE
Ⅰ－2	壺	胴部	2条沈線	8	23	51図－17	ZEF
Ⅰ－2	壺	胴部	貝2条沈線	1			ZEF－s
Ⅰ－2	壺	肩部	段＋1条沈線	6	2	51図－18	ZEG
Ⅰ－2	壺	肩部	逆段＋1条沈線？	1			ZEG－dR
Ⅰ－2	壺	頸部	段＋1条沈線？		3		ZEH－d
Ⅰ－2	壺	頸部	段＋貝1条沈線？		1		ZEH－sd
Ⅰ－2・3	壺	頸部	削り出し突帯中に1条沈線	2		51図－19	ZEI
Ⅰ－2・3	壺	胴部	削り出し突帯	1			ZEJ
Ⅰ－2・3	壺	胴部	削り出し突帯中に1条沈線	2		51図－20	ZEK
Ⅰ－3	壺	頸部	削り出し突帯	2		51図－21	ZEL
Ⅰ－2・3	壺	肩部	段＋2条沈線	18		51図－22	ZEM
Ⅰ－2・3	壺	肩部	段＋貝2条沈線？		1		ZEM－sd
Ⅰ－2・3	壺	頸部	段＋2条沈線？		6		ZEN－d
Ⅰ－3	壺	頸部	3条沈線	8	24		ZEO
Ⅰ－3	壺	胴部	3条沈線	17	38		ZEP
Ⅰ－3	壺	胴部	貝3条沈線	1		51図－23	ZEP－s
Ⅰ－3	壺	頸部	削り出し突帯中に2条沈線	1		52図－1	ZEQ
Ⅰ－3	壺	胴部	段＋3条沈線	12	3	52図－2	ZER
Ⅰ－3	壺	胴部	段＋貝3条沈線	3		52図－3	ZER－s
Ⅰ－3	壺	胴部	段＋貝3条沈線？		1		ZER－sd
Ⅰ－3	壺	頸部	3条沈線＋段	1			ZES
Ⅰ－3	壺	胴部	3条沈線＋逆段	1	5		ZET
Ⅰ－3	壺	胴部	削り出し突帯中に3条沈線	1		52図－5	ZEU
Ⅰ－2	壺	頸部	無文	7			ZEV
Ⅰ－2	壺	胴部	無文	13			ZEW
Ⅰ－2	壺	胴部下半	無文	1		52図－6	ZEW－T
Ⅰ－4	壺	胴部	4条沈線	13	21		ZFA
Ⅰ－4	壺	胴部	貝4条沈線	1			ZFA－s
Ⅰ－4	壺	頸部	4条沈線	9	20	52図－7	ZFB
Ⅰ－4	壺	胴部	段＋4条沈線	4	2	52図－8	ZFC
Ⅰ－4	壺	胴部	4条沈線＋段	2			ZFD
Ⅰ－4	壺	頸部	4条沈線＋段	1	1	52図－9	ZFE
Ⅰ－4	壺	頸部	5条沈線	1	7	52図－10	ZFF
Ⅰ－4	壺	頸部	貝5条沈線？		1		ZFF－sd
Ⅰ－4	壺	胴部	5条沈線	23	13		ZFG
Ⅰ－4	壺	頸部	段＋5条沈線	1	1		ZFH
Ⅰ－4	壺	胴部	段＋5条沈線	1	2		ZFI
Ⅰ－4	壺	胴部	突帯中に4条沈線	1			ZFJ
Ⅰ－4	壺	頸部	6条沈線	8	6	52図－11	ZFK

第16表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（前期壺・頸胴部）の統計〔2〕

時　期	器種	部　位	特　徴	個体数	可能性のある破片	代表例(挿図)	分類記号
Ⅰ－4	壺	胴部	6条沈線	14	9	52図－12	ＺＦＬ
Ⅰ－4	壺	頸部	突帯中に6条沈線	1			ＺＦＭ
Ⅰ－4	壺	胴部	段＋6条沈線？		1		ＺＦＮ－ｄ
Ⅰ－4	壺	頸部	7条沈線	4	4	52図－13	ＺＦＯ
Ⅰ－4	壺	胴部	7条沈線	8	8		ＺＦＰ
Ⅰ－4	壺	胴部	突帯中に7条沈線	1			ＺＦＱ
Ⅰ－4	壺	胴部	7条沈線？＋段		1		ＺＦＲ－ｄ
Ⅰ－4	壺	頸部	7条沈線＋逆段	3			ＺＦＳ
Ⅰ－4	壺	胴部	8条沈線	5	3		ＺＦＴ
Ⅰ－4	壺	頸部	8条沈線	2	2		ＺＦＵ
Ⅰ－4	壺	胴部	貝8条沈線？		1		ＺＦＶ－ｓｄ
Ⅰ－4	壺	頸部	段＋8条沈線	1			ＺＦＷ
Ⅰ－4	壺	頸部	9条沈線	2	1		ＺＦＸ
Ⅰ－4	壺	胴部	9条沈線？		1		ＺＦＹ－ｄ
Ⅰ－4	壺	頸部	10条沈線？		1		ＺＦＺ－ｄ
Ⅰ－4	壺	頸部	13条沈線？		1		ＺＦｄ－ｄ
Ⅰ－4	壺	頸部	14条沈線	1			ＺＦｅ
Ⅰ－4	壺	頸部	11条沈線		1		ＺＦｆ－ｄ
Ⅰ－4	壺	頸部	16条沈線？		1		ＺＦｇ－ｄ
Ⅰ－4	壺	胴部	米粒状刺突と竹管状刺突の繰り返し	1		52図－20	ＺＨＡ
Ⅰ－4	壺	口縁部	ヘラ多条線の下に竹管文	1		52図－19	ＺＨＦ
合　計				541	292		

第17表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（前期・加飾壺）の統計表

頸胴部に綾杉文を施文する個体	縦方向の分割線有無	綾杉文の原体（S＝貝、H＝ヘラ）	複数段に分かれる場合の区画線種	
無軸綾杉文　164	縦分割線有り　29	S・綾杉　21		S・綾杉文のみ　1
				S・小区画　2
			S・大区画　7	S・小区画　7
				H・小区画　0
			H・大区画　11	S・小区画　9
				H・小区画　3
		H・綾杉　4	S・大区画　0	S・小区画　0
				H・小区画　0
			H・大区画　4	S・小区画　0
				H・小区画　4
		H・大小区画のみ　4		
	縦分割線無し　135	S・綾杉　79		S・綾杉文のみ　12
			S・大区画線　24	S・小区画　1
				H・小区画　0
			H・大区画線　25	S・小区画　10
				H・小区画　6
				段・大区画線　1
		H・綾杉　55	S・大区画線　0	
			H・大区画線　45	S・小区画　1
				H・小区画　0
				H・小区画のみ　2
				H・綾杉文のみ　7
		不明・綾杉＋大区画　1		

頸胴部に綾杉文を施文する個体	縦方向の分割線有無	軸線の原体	綾杉文の原体	複数段に分かれる場合の区画線の原体	
有軸綾杉文　19	縦分割線有り　3	S・軸線　1	S・綾杉　1	S・大区画	S・小区画　1
					H・小区画　0
				H・大区画	S・小区画　0
					H・小区画　0
			H・綾杉　0	S・大区画	S・小区画　0
					H・小区画　0
				H・大区画	S・小区画　0
					H・小区画　0
		H・軸線　2	S・綾杉　1	S・大区画	S・小区画　0
					H・小区画　1
				H・大区画	S・小区画　0
					H・小区画　0
			H・綾杉　1	S・大区画	S・小区画　0
					H・小区画　0
				H・大区画	S・小区画　0
					H・小区画　1
	縦分割線無し　16	S・軸線　6	S・綾杉　6	S・大区画　6	
				H・大区画　0	
			H・綾杉　0	S・大区画　0	
				H・大区画　0	
		H・軸線　10	S・綾杉　5	S・大区画　0	
				H・大区画　5	
			H・綾杉　5	S・大区画　0	
				H・大区画　5	

頸胴部に重弧文を施文する個体	原体	内容
重弧文　28	S・5	一重＋S・無軸綾杉　1
		三重＋S・無軸綾杉　1
		二重　3
		一重　1
	H・22	一重　1
		二重　5
		三重　11 縦分割線有り　1
		四重　2
		五重　2
		四重＋五重　1
	竹管　1	

頸胴部に木葉文を施文する個体	原体・線数	
木葉文　10	3本線による木葉文1	
	H・4本線による木葉文2	
	H・5本線による木葉文5	一区画線　1
		二区画線＋S・無軸綾杉　2
		三区画線　1
	H・7本線による木葉文2	H・三区画線　2

その他の施文個体		
S・鋸歯文　6	S・有軸綾杉＋斜格子　1	S・無軸綾杉＋三重弧　1
H・鋸歯文　3	H・有軸綾杉＋斜格子・H小区画　1	H・有軸綾杉＋S三重弧1
S・斜格子文　1	S・沈線　1	S・鋸歯文＋無軸綾杉＋竹管　1
H・斜格子文　1	H・縦分割線・H大区画　1	S・無軸綾杉＋鋸歯文　3
H・斜線　3	H・波状文小区画　S・大区画　1	S・無軸綾杉＋三重弧　1
H・楕円　1	H・斜刺突文・小区画　1	H・四重弧＋H無軸綾杉　1
綾杉突帯　2	S・無軸綾杉＋竹管　3	H・三重弧＋H無軸綾杉　1
流水文　1	S・鋸歯文　＋刺突　1	H・三重弧＋刺突　1
S・斜刺突　2	S・鋸歯文＋無軸綾杉　2	H・三重弧＋H有軸綾杉　1
S・大区画　1	S・有軸綾杉＋鋸歯文　2	H・鋸歯＋H無軸綾杉　2
	S・無軸綾杉＋四重弧　3	H・鋸歯文＋H有軸綾杉　1

第18表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（前期壺、鉢・口縁部）の統計

時　　期	器 種	個体数	可能性のある個体	口縁部・外面調整の特徴	代表例(挿図)	分　類　記　号
Ⅰ－4	壺	2		端部貝キザミ		ＺＣＡ－ｓ
Ⅰ－4	壺	2		端部キザミ	48図－1	ＺＣＡ
Ⅰ－4	壺	6		端部下端キザミ		ＺＣＢ
Ⅰ－4	壺	4		端部下端斜キザミ		ＺＣＣ
Ⅰ－4	壺	1		端部上端キザミ		ＺＣＤ
Ⅰ－4	壺	1		端部鋸歯キザミ		ＺＣＥ
Ⅰ－4	壺	6	3	無軸羽状キザミ（左向き）	48図－2	ＺＣＦ
Ⅰ－4	壺	7	1	無軸羽状貝キザミ（左向き）	48図－3	ＺＣＦ－ｓ
Ⅰ－4	壺	6		無軸羽状貝キザミ（右向き）	48図－4	ＺＣＧ
Ⅰ－4	壺	1		上下両端貝キザミ		ＺＣＨ－ｓ
Ⅰ－4	壺	4		無軸重複羽状キザミ（左向き）	48図－5	ＺＣＩ
Ⅰ－4	壺	1		無軸重複羽状貝キザミ（左向き）		ＺＣＬ－Ｓ＋ＺＢＢ２
Ⅰ－4	壺	16	2	斜格子キザミ	48図－7	ＺＣＪ
Ⅰ－4	壺	1		斜格子キザミ、頸部三角形刺突	48図－6	ＺＣＪ－ＺＢＢ１１
Ⅰ－4	壺	4	5	斜格子貝キザミ	48図－8・9	ＺＣＪ－ｓ
Ⅰ－4	壺	1	1	有軸羽状文（右向き）	48図－10	ＺＣＫ
Ⅰ－4	壺	2		有軸貝羽状文（右向き）	48図－11	ＺＣＫ－ｓ
Ⅰ－4	壺	15	4	有軸羽状文（左向き）	49図－2	ＺＣＬ
Ⅰ－4	壺	3	4	有軸貝羽状文（左向き）	49図－3・5・6	ＺＣＬ－ｓ
Ⅰ－4	壺	1		有軸貝羽状文（左向）頸部三角刺突	49図－4	ＺＣＬ－Ｓ＋ＺＢＢ２
Ⅰ－4	壺	1		有軸貝羽状文（左右両向き）	48図－12	ＺＣＭ－ｓ７α
Ⅰ－4	壺	1		有軸竹管状刺突	49図－1	ＺＣＮ
Ⅰ－4	壺	2	3	有軸タテキザミ	48図－13・14	ＺＣＯ
Ⅰ－4	壺	5	2	有軸斜キザミ	48図－16	ＺＣＰ
Ⅰ－4	壺	1		有軸斜キザミ、頸部削り出し突帯	48図－15	ＺＣＰ－ＺＥＱ
Ⅰ－4	壺	1		有軸・下端キザミ	48図－17	ＺＣＱ
Ⅰ－4	壺	1		米粒状刺突	48図－18	ＺＣＲ
Ⅰ－3・4	壺	28	12	１条沈線	48図－19・20	ＺＣＳ
Ⅰ－3・4	壺	1		１条貝沈線		ＺＣＳ－ｓ
Ⅰ－4	壺	3		２条沈線	48図－21	ＺＣＴ
Ⅰ－4	壺	3		２条貝沈線	48図－22	ＺＣＴ－ｓ
Ⅰ－4	壺	1		有軸・両端キザミ		ＺＣＶ
Ⅰ－4	壺		1	３条沈線		ＺＣＵ－３α
Ⅰ－4	壺	1		２条貝沈線・下端貝キザミ		ＺＣＷ
Ⅰ－4	壺	1		タテキザミ＋有軸羽状文（左向き）	48図－23	ＺＣＸ
Ⅰ－4	壺	1		有軸・下タテ上斜キザミ	48図－24	ＺＣＹ
Ⅰ－3・4	壺	15		口縁面。中型品	50図－1	ＺＤＡ
Ⅰ－3・4	壺	13		口縁面。大型品	50図－2	ＺＤＢ
Ⅰ－3	壺	1		口縁面・削り出し突帯上に４条沈線	50図－3	ＺＤＣ
Ⅰ－3	壺	1		口縁面・４条沈線		ＺＤＤ
Ⅰ－4	壺	1		口縁面・削り出し上に６条以上沈線	50図－4	ＺＤＥ
Ⅰ－2	壺	3		口縁面・頸部に削り出しの段	50図－5	ＺＤＦ
Ⅰ－2	壺	5		口縁丸みのある面・頸部に削り出しの段	50図－6	ＺＤＧ
Ⅰ－3	壺		7	口縁丸みのある面・頸部にヘラ描き沈線	50図－7	ＺＤＨ－ｄ
Ⅰ－4	壺	1		口縁丸みのある面・頸部沈線下に米粒状刺突	50図－8	ＺＤＩ
Ⅰ－2・3	壺	54		口縁丸みのある面。中型品	50図－9	ＺＤＪ
Ⅰ－2・3	壺	11		口縁丸みのある面。大型品	50図－10	ＺＤＫ
Ⅰ－2	壺	2		口縁丸みのある面・頸部に削り出しの段	50図－11	ＺＤＬ
Ⅰ－2	壺	27	9	口縁丸・頸部に削り出しの段	50図－12	ＺＧＡ
Ⅰ－1・2	壺	1		口縁丸・頸部に削り出しの逆向き段	50図－13	ＺＧＡ－Ｒ
Ⅰ－2	壺	3		口縁丸・頸部１条沈線	50図－14	ＺＧＢ
Ⅰ－2・3	壺	1	2	口縁丸・頸部２条沈線		ＺＧＣ
Ⅰ－2・3	壺		1	口縁丸・頸部２条貝沈線？		ＺＧＣ－ｓｄ
Ⅰ－2・3	壺	3	6	口縁丸・頸部３条沈線	50図－15	ＺＧＤ
Ⅰ－2・3	壺		1	口縁丸・頸部段上３条沈線？		ＺＧＥ－ｄ
Ⅰ－3	壺	1	6	口縁丸・頸部４条沈線	50図－16	ＺＧＦ
Ⅰ－3	壺		1	口縁丸・頸部段上４条沈線？		ＺＧＧ－ｄ
Ⅰ－3・4	壺	2	3	口縁丸・頸部５条沈線	50図－17	ＺＧＨ
Ⅰ－3・4	壺	1		口縁丸・頸部６条沈線		ＺＧＩ
Ⅰ－4	壺	1	1	口縁丸・頸部タテキザミ２条突帯	50図－18	ＺＧＪ
Ⅰ－4	壺	1		口縁丸・頸部羽状キザミ２条突帯	50図－19	ＺＧＫ
Ⅰ－4	壺	1		口縁丸・頸部羽状キザミ３条突帯	50図－20	ＺＧＬ
Ⅰ－3・4	壺	51	110	口縁丸・無文	51図－1	ＺＧＭ
Ⅰ－3・4	壺	5		口縁丸・無文。大型品		ＺＧＭ－ａ
Ⅰ－2	壺	1		口縁丸・頸部タテキザミ１条隆帯	51図－2	ＺＧＮ
Ⅰ－2・3	壺	1		口縁丸・無文	51図－8	ＺＧＮ－ｃ
Ⅰ－2	壺	1		口縁丸・肩部に削り出しの段	51図－3	ＺＧＯ
Ⅰ－4	壺	1		肩部に２条沈線＋竹管状刺突	51図－7	ＺＧＰ
Ⅰ－4	壺	1		肩部に２条突帯	51図－10	ＺＧＱ－ＺＡＤ
Ⅰ－4	壺	1		頸部３条・胴部４条沈線	51図－9	ＺＧＲ
Ⅰ－3	壺	1		頸部突帯中４条沈線	51図－4	ＺＧＳ
Ⅰ－3・4	壺	1		斜行口縁	51図－5	ＺＧＴ
Ⅰ－3・4	壺	2		口縁内面に段	51図－6	ＺＧＵ
Ⅰ－2・3	壺	1		口縁部欠。頸・肩・胴部に２条沈線	51図－11	ＺＧＶ
Ⅰ－4	壺	1		口縁部欠。肩部に流水文退化文様	51図－12	ＺＧＷ
Ⅰ－4	壺	19		無頸壺	53図－7・8	ＺＩＡ
Ⅰ－4	壺	10		内彎小型壺		ＺＩＢ
Ⅰ－4	鉢	2		鉢	53図－11・12	ＺＩＣ
Ⅰ－3・4	把手付鉢	4		把手付鉢	53図－10	ＹＧＡ
Ⅰ－4	無頸鉢	1		無頸鉢	53図－9	ＡＹＡ
合　　計		383	140			

第19表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生前期土器（その他器種）の統計

時　　期	器　　種	個　体　数	代　表　例（挿図）	分　類　記　号
Ⅰ－4	人面付土器	1	55図－1	
Ⅰ期	蓋（天井水平タイプ）　大	11	54図－1・2	ＹＢＡ－a
Ⅰ期	蓋（天井水平タイプ）　中	1		ＹＢＡ－b
Ⅰ期	蓋（天井中落ちタイプ）　大	11	54図－3・4	ＹＢＢ－a
Ⅰ期	蓋（天井中落ちタイプ）　小	3	54図－5・6	ＹＢＢ－b
Ⅰ期	蓋（尖天井）	3	54図－9	ＹＢＣ
Ⅰ期	蓋・破片	59	54図－7・8	ＹＢＤ
Ⅰ期	蓋・キザミのある端部	1		ＹＢＥ
Ⅰ期	ミニチュア土器・甕	5	54図－20・21・23	ＹＨＡ
Ⅰ期	ミニチュア土器・甕の下半	13	54図－19	ＹＨＢ
Ⅰ期	ミニチュア土器・壺の一部	9	54図－25	ＹＨＣ
Ⅰ期	ミニチュア土器・甕の上半	16	54図－22	ＹＨＤ
Ⅰ期	ミニチュア土器・壺の上半	10	54図－24	ＹＨＥ
Ⅰ期	ミニチュア土器・鉢	3	54図－12	ＹＨＦ
Ⅰ期	ミニチュア土器・蓋	1	54図－26	ＹＨＧ
Ⅰ期	ミニチュア土器・脚台部	1	54図－27	ＹＨＭ
Ⅰ期	蓋（中実タイプ）	3	54図－13	ＹＨＨ
Ⅰ期	土笛	3	54図－16～18	ＹＩ
Ⅰ期	中空用途不明品	3	54図－14・15	ＹＨＬ
Ⅰ期	小型鉢	2	54図－10	ＹＪＡ
Ⅰ期	中型鉢	9	54図－11	ＹＪＢ
合　計		167		

第20表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器底部の統計

時期・器種	分類記号	底部径（cm）	個体数	器種別個体数	時期別個体数
Ⅰ様式・壷	ＮＡＡ	～5	12	764	2213
	ＮＡＢ	5～8	278		
	ＮＡＣ	8～11	321		
	ＮＡＤ	11～14	67		
	ＮＡＥ	14～	27		
	ＮＡＦ	不　明	59		
Ⅰ様式・甕	ＮＢＡ	～5	57	1271	
	ＮＢＢ	5～8	830		
	ＮＢＣ	8～11	261		
	ＮＢＤ	11～14	12		
	ＮＢＥ	14～	0		
	ＮＢＦ	不　明	111		
Ⅰ様式・不明	ＮＫ		178	178	
Ⅱ様式・壷	ＮＣＡ	～5	5	126	340
	ＮＣＢ	5～8	71		
	ＮＣＣ	8～11	36		
	ＮＣＤ	11～14	4		
	ＮＣＥ	14～	0		
	ＮＣＦ	不　明	10		
Ⅱ様式・甕	ＮＤＡ	～5	25	207	
	ＮＤＢ	5～8	137		
	ＮＤＣ	8～11	21		
	ＮＤＤ	11～14	0		
	ＮＤＥ	14～	0		
	ＮＤＦ	不　明	24		
Ⅱ様式・不明	ＮＬ		7	7	
Ⅲ・Ⅳ様式　壷	ＮＥＡ	～5	30	388	965
	ＮＥＢ	5～8	219		
	ＮＥＣ	8～11	92		
	ＮＥＤ	11～14	15		
	ＮＥＥ	14～	0		
	ＮＥＦ	不　明	32		
Ⅲ・Ⅳ様式　甕	ＮＦＡ	～5	225	564	
	ＮＦＢ	5～8	241		
	ＮＦＣ	8～11	16		
	ＮＦＤ	11～14	0		
	ＮＦＥ	14～	0		
	ＮＦＦ	不　明	82		
Ⅲ・Ⅳ様式　不明	ＮＭ		13	13	
Ⅴ様式・壷	ＮＩＡ		11	11	11
Ⅴ様式・甕	ＮＪＡ		0		
Ⅴ様式・不明	ＮＮ		0		

第21表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（中期Ⅱ期）の統計

時期	器種	部位	個体数	ヘラ描き	クシ描き	刺突文	口縁キザミ	備考	代表例(挿図)	分類記号
Ⅱ－1	甕	口縁欠損	1		○					ＡＰＷ
Ⅱ－1	甕	如意形口縁	2		○	三角形	○	櫛描き沈線。外面ナデ		ＡＵＤ－ｂ
Ⅱ－1	甕	如意形口縁	1		○	三角形	○	4条の櫛描き沈線。外面斜行ハケ		ＡＵＣ－ｂ４
Ⅱ－1	甕	如意形口縁	1		○		○	6条の櫛描き沈線。外面整正ハケ	56図－3	ＡＯＡ－ｂ
Ⅱ－1	甕	如意形口縁	1		○			7条の櫛描き沈線。外面ナデ		ＡＯＦ－ｂｅ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	2		○			8条の櫛描き沈線。外面整正ハケ	56図－2	ＡＲＤ－ｃｅ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○			8条の櫛描き沈線。外面ナデ	56図－4	ＡＲＥ－ｂｅ
Ⅱ－1	甕	如意形口縁	1		○		○	8条の櫛描き沈線。外面ナデ	56図－5	ＡＲＧ－ｃｅ
Ⅱ－1	甕	如意形口縁	1		○		○	8条の櫛描き沈線。外面斜行ハケ	56図－6	ＡＲＬ－ｂｅ
Ⅱ－1	甕	如意形口縁	1		○	三角形		8条の櫛描き沈線。外面整正ハケ	56図－10	ＡＵＭ－ｂ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○	三角形		8条の櫛描き沈線。外面整正ハケ	56図－12	ＡＵＪ－ｃ
Ⅱ－1	甕	如意形口縁	1		○		○	9条の櫛描き沈線。外面ナデ	56図－7	ＡＳＢ－ｂｅ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○			9条の櫛描き沈線。外面ナデ	56図－1	ＡＳＤ－ｂｅ
Ⅱ－1	甕	如意形口縁	1		○			9条の櫛描き沈線		ＡＳＧ－ｄ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○	三角形	○	10条以上の櫛描き沈線。外面斜行ハケ		ＡＵＣ－ｂ１０
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○		○	10条以上の櫛描き沈線。外面斜行ハケ		ＡＴＦ－ｂｅ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○			10条以上の櫛描き沈線。外面斜行ハケ		ＡＴＧ－ｂｅ
Ⅱ－1	甕	強折口縁	2		○		○	10条以上の櫛描き沈線		ＡＴＩ－ｄ
Ⅱ－1	甕	如意形口縁	3		○		○	10条以上の櫛描き沈線		ＡＴＪ－ｄ
Ⅱ－1	甕	如意形口縁	1		○	三角形	○	10条以上の櫛描き沈線	56図－15	ＡＴＫ－ｂ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○		○	10条以上の櫛描き沈線	56図－8	ＡＴＬ－ｂ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	3		○		○	10条以上の櫛描き沈線		ＡＴＬ－ｄ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○			10条以上の櫛描き沈線		ＡＴＭ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○			10条以上の櫛描き沈線		ＡＴＮ
Ⅱ－1	甕	如意形口縁	1		○		○	10条以上の櫛描き沈線。外面ナデ		ＡＴＯ－ａ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○		○	10条以上の櫛描き沈線		ＡＴＰ
Ⅱ－1	甕	口縁欠損	1		○			10条以上の櫛描き沈線		ＡＴＸ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○	三角形		10条の櫛描き沈線。外面斜行ハケ	56図－13	ＡＵＨ－ａ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	4		○	三角形	○	10条以上の櫛描き沈線。外面ナデ	56図－14・16	ＡＵＮ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○	小竹管状		12条の櫛描き沈線	56図－9	ＡＶＹ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○	三角形		12条の櫛描き沈線。外面斜行ハケ	56図－11	ＡＵＩ－ｃ
Ⅱ－1	甕	如意形口縁	1		○	三角形	羽状	12条の櫛描き沈線。外面整正ハケ	56図－17	ＡＵＰ－ａ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○	三角形	斜格子	12条の櫛描き沈線（最下段は波状文）	56図－21	ＡＶＸ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○	三角形	○	16条の櫛描き沈線(最下段は波状文)。外面斜行ハケ	56図－20	ＡＶＷ－ｂ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	1		○	三角形	○	16条の櫛描き沈線(最下段は波状文)。外面整正ハケ	56図－19	ＡＵＲ－ｂ
Ⅱ－1	甕	強折口縁	1		○	三角形	○	32条の櫛描き沈線	56図－18	ＡＵＳ－ｂ
Ⅱ－1	甕	胴部のみ	1		○			胴部に櫛描きによる平行沈線・波状文を施す		ＡＵＴ
Ⅱ－1	甕	胴部のみ	2		○	三角形		胴部に櫛描きによる平行沈線・波状文・三角形状刺突を施す		ＡＵＵ
Ⅱ－1	甕	胴部のみ	2		○	三角形		胴部に櫛描きによる平行沈線・三角形状刺突を施す。外面斜行ハケ		ＡＵＷ
Ⅱ－1	甕	胴部のみ	8		○			胴部に櫛描き文を施す。外面整正ハケ		ＡＵＸ
Ⅱ－1	甕	胴部のみ	12		○			胴部に櫛描き文を施す。外面ナデ		ＡＵＹ
Ⅱ－1	甕	胴部のみ	1		○	縦米粒状		外面ナデ		ＡＶＩ
Ⅱ－1	甕	胴部のみ	1		○	縦米粒状		外面整正ハケ		ＡＶＪ
Ⅱ－1	甕	胴部のみ	2		○	小円形		外面整正ハケ		ＡＶＬ
Ⅱ－1	甕	胴部のみ	3		○	小円形		外面ナデ		ＡＶＮ
Ⅱ－1	甕	胴部のみ	1		○	円形		外面整正ハケ		ＡＶＯ
Ⅱ－1	甕	胴部のみ	1		○	小竹管状		外面ナデ		ＡＶＲ
Ⅱ－1	甕	胴部のみ	2		○	小竹管状		外面整正ハケ		ＡＶＳ
Ⅱ－1	甕	胴部のみ	10		○			波状文を施す		ＡＶＵ
Ⅱ－1	甕	ゆるい口縁	2		○	円形		外面ナデ		ＡＶＶ
Ⅱ－1	甕	胴部のみ	1		○	羽状				ＡＸＷ
Ⅱ－1	甕		2					口縁は幅広の平坦面をもち、外面に突出し、直下にも突帯を有する	59図－8	ＢＡＧ
Ⅱ－1	甕	瀬戸内型系	7		○		○	口縁は幅広の平坦面をもち、外面に突出する	57図－3	ＢＡＭ
Ⅱ－1	甕	瀬戸内型系	2		○	三角形	○	口縁は幅広の平坦面をもち、外面に突出する	57図－1	ＢＡＮ
Ⅱ－1	甕	瀬戸内型系	12		○	三角形		口縁は幅広の平坦面をもち、外面に突出する	57図－2	ＢＡＯ
Ⅱ－1	壺		1		○		羽状(左向)		57図－4	ＺＣＦ－ｓ５ｄ
Ⅱ－1	壺		1		○		羽状(左向)		57図－5	ＺＣＦ－ｓｋ８α
Ⅱ－1	壺		1		○	三角形	羽状(右向)	長頸化している	57図－7	ＺＣＧ－ＺＢＣ－12ｅ
Ⅱ－1	壺		1		○		斜格子			ＺＣＪ－ｅ９ｄ
Ⅱ－1	壺		1		○		斜格子	口縁部はあまり広がらない	57図－6	ＺＣＪ－ｅ14ｄ
Ⅱ－1	壺		1		○		斜格子			ＺＣＪ－ｓｋ10α
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	3		○	三角形		頸部のみ残存		ＺＢＣ－ｄ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	2		○	円形		頸部のみ残存		ＺＢＦ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	1		○	竹管状		胴部のみ残存		ＺＢＬ－ｄ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	14		○	三角形		胴部のみ残存		ＺＢＯ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	1		○			頸部のみ残存。櫛描き波状文のみを施す		ＺＢＰ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	1		○	三角形		頸部が長い	57図－8	ＺＢＴ－ｅ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	1		○	竹管状		頸部のみ残存		ＺＢＵ－６＋６
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	2		○			頸部のみ残存。櫛描き波状文を施す		ＺＢＶ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	1		○			頸部のみ残存。簾状文を施す		ＺＢＷ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	1		○			胴部のみ残存。４条の櫛描き沈線		ＺＦＡ－ｅ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	1		○			胴部のみ残存。５条の櫛描き沈線		ＺＦＧ－ｅｄ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	2		○			胴部のみ残存。６条の櫛描き沈線		ＺＦＬ－ｅ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	3		○			頸部のみ残存。10条の櫛描き沈線		ＺＦＺ－ｅ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	1		○			胴部のみ残存。10条の櫛描き沈線		ＺＦａ－ｄ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	2		○			頸部のみ残存。12条の櫛描き沈線		ＺＦｂ－ｄ
Ⅱ－1	壺		2		○	三角形		直口気味の口縁部に櫛描き沈線と刺突文を交互に施文する		ＺＨＢ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	5		○	三角形		胴部のみ残存。櫛描き沈線と刺突文を交互に施文		ＺＨＣ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	1		○			胴部のみ残存。櫛描き沈線と波状文を交互に施文		ＺＨＤ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	1		○	三角形		頸部のみ残存。櫛描き沈線・波状文・刺突文を施文		ＺＨＥ
Ⅱ－1	壺	口縁欠損	1		○			胴部のみ残存。櫛描き沈線と波状文を多重に施文		ＺＨＧ

第22表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（Ⅲ・Ⅳ期甕等）の統計〔1〕

時　期	器　種	部　位	個体数	口縁キザミ	備　考	代表例(挿図)	記　号
Ⅲ－1	甕	上半部	24		口縁は先端で僅かに内彎し、端部に面はない	57図－9・10	ＢＥＡ－ａ
Ⅲ－1	甕	上半部	20		口縁は直線的で端部は丸い	57図－11・12	ＢＥＡ－ｂ
Ⅲ－1	甕	上半部	17		口縁は緩やかに外反し、端部は丸い	57図－13・14	ＢＥＡ－ｃ
Ⅲ－1	甕	上半部	4		口縁は緩やかに外反し、端部は丸い。前期的	57図－15	ＢＥＡ－ｄ
Ⅲ－1～2	甕	上半部	19		口縁は外反し、端部は立ち上がる	57図－22～24	ＢＥＢ－ａ
Ⅲ－1～2	甕	上半部	41		口縁はやや内彎し、端部に面を持ち、わずかに上に立ち上がる	57図－25・26	ＢＥＢ－ｂ
Ⅲ－1	甕	上半部	9		口縁は外反し、端部は面を持つが肥厚はしない	57図－17～20	ＢＥＣ－ａ
Ⅲ－2	甕	上半部	25		口縁は外反し、端部に面を持ち上下にわすがに肥厚する	58図－1～3	ＢＥＣ－ｂ
Ⅲ－2・Ⅳ－1	甕	上半部	13		口縁は外反し、端部にやや幅広の面を持ち、上に拡張する	58図－4	ＢＥＣ－ｃ
Ⅲ－2	甕	上半部	10		口縁は外反し、端部にやや幅広の面を持ち、上下に拡張する	58図－5	ＢＥＣ－ｄ
Ⅲ－2	甕	上半部	30		口縁は内彎し、端部にやや幅広の面を持ち、上下に拡張する	58図－6・7	ＢＥＣ－ｅ
Ⅲ－2	甕	上半部	2		口縁は短く外反し、端部にやや幅広の面を持ち、上下に拡張する		ＢＥＣ－ｆ
Ⅲ－2	甕	上半部	15		口縁は短く外反し、端部にやや幅広の面を持ち、下に拡張する	58図－8	ＢＥＣ－ｇ
Ⅲ－1～2	甕	上半部	2		口縁は強く外反する	57図－21	ＢＥＣ－ｈ
Ⅲ－2	甕	上半部	1		肩が張り、口縁は水平気味に外側に張る	59図－1	ＢＥＣ－ｉ
Ⅲ－2	甕	上半部	28	○	口縁は若干外反し、端部に面を持ち、わずかに上に立ち上がる	58図－11	ＢＥＤ
Ⅲ－2	甕	上半部	3	斜格子	口縁は外反し、端部にやや幅広の面を持ち、上に拡張する	58図－10	ＢＥＥ
Ⅲ－2	甕	上半部	5		内外面ともに漆塗り	58図－14・15	ＹＦ
Ⅰ－4～Ⅱ－1	甕	上半部	1		擬朝鮮系無文土器。外面はタテハケ調整	58図－16	ＹＣＡ
Ⅲ～Ⅳ期	台形土器	上半部	5		外面は縦位のヘラミガキ	58図－17・18	ＹＡ
Ⅲ～Ⅳ期	蓋形土器		14		把手部分が中実で長い	58図－19	ＹＨＫ
Ⅲ～Ⅳ期	蓋形土器		7		小型品。頂部は磨滅しており形態は判然としない	58図－20	ＹＨＪ
Ⅲ～Ⅳ期	蓋形土器		1		小型品	58図－21	ＹＢＢ－ｃ

第23表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（Ⅲ・Ⅳ期甕）の統計〔2〕

時　期	器種	部　位	個体数	口縁凹線	頸部補強	口縁キザミ	備　考	代表例(挿図)	記　号
Ⅲ－1	甕	上半部	20	2			口縁の上下拡張は小さい	58図－9	ＢＦＡ－ａ
Ⅳ－1	甕	上半部	8	2			口縁端部は上方への拡張が長い	62図－12	ＢＦＡ－ｄ
Ⅳ－1	甕	上半部	23	2			口縁端部は上に突出し、下垂しない	62図－11	ＢＦＡ－ｅ
Ⅳ－2	甕	上半部	4	3			口縁端部は上に突出し、下垂しない		ＢＦＢ－ａ
Ⅳ－2	甕	上半部	14	3			口縁端部は内傾して立ち上がり、下垂しない	62図－13・20	ＢＦＢ－ｂ
Ⅳ－1～2	甕	上半部	12	3			口縁端部は内傾し、上方への拡張が長い	62図－18	ＢＦＢ－ｃ
Ⅳ－2	甕	上半部	18	3			口縁端部は内傾し、上下均等に拡張する	62図－22	ＢＦＢ－ｄ
Ⅳ－2	甕	上半部	4	4以上			口縁端部は内傾し、上方への拡張が長い	62図－19	ＢＦＣ
Ⅳ－1	甕	上半部	11	2		○	口縁端部は上方への拡張が長い	62図－17	ＢＦＤ
Ⅲ－2～Ⅳ－1	甕	上半部	11				口縁端部には幅広の平坦面を持つ	58図－13	ＢＧＡ
Ⅲ－2	甕	上半部	11		○	○	口縁端部には幅広の平坦面を持つ	58図－12	ＢＧＢ
Ⅳ－1	甕	上半部	11	2	○		口縁端部は上下均等に拡張する	62図－15	ＢＧＣ
Ⅳ－2	甕	上半部	10	3以上	○		口縁端部は上方への拡張が長い	62図－16	ＢＧＤ
Ⅳ－1	甕	上半部	2	2	○	○	口縁端部は上下均等に拡張する	62図－14	ＢＧＥ
中期	甕	頸部下のみ	28		○				ＢＧＦ
Ⅳ－2	甕	上半部	1	2	○		口縁端部は上下に拡張し、頸部には指頭圧痕文帯を貼付する。	62図－21	ＣＧＡ
中期	甕	上半部	5				短頸甕	57図－16	ＢＨＡ
中期	甕	頸部下のみ	100				内面はナデ消し		ＢＪＡ
中期	甕	頸部下のみ	40				内面はハケ調整		ＢＪＢ
中期	甕	頸部下のみ	6				内面調整不明		ＢＪＣ
Ⅳ期	甕	胴部のみ	14				胴部に二枚貝原体による押引き刺突を施す	62図－23	ＣＪＢ
Ⅳ期	甕	胴部	7				米粒状刺突文		ＢＺＡ
Ⅳ期	甕	胴部	3				ヘラ刺突文		ＢＺＢ
Ⅳ期	甕	胴部	12				二枚貝刺突文(回転)		ＢＺＣ
Ⅳ期	甕	胴部	1				二枚貝刺突文		ＢＺＤ
Ⅳ期	甕	胴部	4				ハケ刺突文		ＢＺＥ
Ⅳ期	甕	胴部	25				櫛状工具による刺突文		ＢＺＦ
Ⅳ期	甕	胴部	17				押引き刺突文		ＢＺＧ

第24表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（Ⅲ・Ⅳ期壺）の統計〔1〕

時期	器種	部位	個体数	頸部突帯	口縁文様	頸部補強	口縁キザミ	備考	代表例(挿図)	記号
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	1				鋸歯	口縁は外反し、端部にやや幅広の面を持ち、上に拡張する	60図－21	ＢＥＦ
Ⅲ－1・2	広口壺	口縁部	13					やや幅広の面を持ち、口縁端部は上下に僅かに拡張	60図－1・2	ＢＫＡ－a
Ⅲ－1・2	広口壺	口縁部	3					斜め上方に拡張するが無文	60図－6	ＢＫＡ－b
Ⅲ－1・2	広口壺	口縁部	31					端部は下垂し広い面を持つが無文	60図－3・4・8	ＢＫＡ－c
Ⅲ－2	広口壺	口縁部	6		浮文			斜め上方に拡張する	61図－7	ＢＫＡ－d
Ⅲ－1・2	広口壺	口縁部	10					小型で口縁は上方に肥厚し、やや幅広の面を持つ	60図－5	ＢＫＡ－e
Ⅲ－1	小型壺	口縁部	5					短頸で文様を持たず、口縁の面も狭い		ＢＫＡ－f
Ⅲ－1・2	直口壺	口縁部	32					斜め上下方向に肥厚	60図－9	ＢＫＡ－g
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	6				○	口縁端部はあまり拡張しない	60図－11	ＢＫＢ－a
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	1				○貝キザミ	口縁端部はあまり拡張しない	60図－12	ＢＫＢ－b
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	5				○貝キザミ	斜め下方に拡張する	60図－13	ＢＫＢ－c
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	3		ヘラ斜線			口縁は下垂し、幅広の面が形成される	60図－14	ＢＫＢ－d
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	5		複線斜線			口縁は下垂し、幅広の面が形成される	60図－23	ＢＫＢ－e
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	1				○貝キザミ	口縁は上方に長く拡張し、幅広の平坦面を形成する	60図－15	ＢＫＢ－f
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	1		複線斜線			口縁は斜め上下方に拡張し、幅広の平坦面を形成する	60図－25	ＢＫＢ－g
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	5		無軸綾杉			口縁は下垂し、幅広の面が形成される	60図－16	ＢＫＣ－a
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	1	○	複数綾杉			口縁は下垂し、幅広の面が形成される	61図－6	ＢＫＣ－b
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	5		単線斜格子			やや幅広の面を持ち、口縁端部は上下に僅かに拡張	60図－18	ＢＫＤ－a
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	2		単線斜格子			口縁は斜め上下方に拡張し、幅広の平坦面を形成する	60図－19	ＢＫＤ－b
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	3		単線斜格子			斜め下方に拡張する	60図－20	ＢＫＤ－c
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	6		複線斜格子			やや幅広の面を持ち、口縁端部は上下に僅かに拡張	60図－17	ＢＫＤ－e
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	3		複線斜格子			口縁は斜め上方に拡張し、幅広の平坦面を形成する	61図－5	ＢＫＤ－f
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	13		複線斜格子			口縁は下垂し、幅広の面が形成される	60図－31	ＢＫＤ－g
Ⅲ－2	広口壺	口縁部	4	○	複線斜格子			口縁は下垂し、幅広の面が形成される	61図－1	ＢＫＤ－h
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	4		波状文			口縁は下垂し、幅広の面が形成される	60図－22	ＢＫＥ－a
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	1	○	波状文			口縁はあまり下垂せず、外に突出する	61図－3	ＢＫＥ－b
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	4		複線鋸歯文			やや幅広の面を持ち、口縁端部は上下に僅かに拡張	60図－27	ＢＫＦ－a
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	1		単線鋸歯文			やや幅広の面を持ち、口縁端部は上下に僅かに拡張	60図－28	ＢＫＦ－b
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	0		単線鋸歯文			口縁は下垂し、幅広の面が形成される		ＢＫＦ－c
Ⅲ－1	広口壺	口縁部	10		複線鋸歯文			口縁は下垂し、幅広の面が形成される	60図－26・29・30	ＢＫＦ－d
Ⅲ－2～Ⅳ－1	広口壺	口縁部	1	○	複線鋸歯文			口縁はあまり下垂せず、外に突出する	61図－2	ＢＫＦ－e
Ⅲ－2～Ⅳ－1	広口壺	頸部	9			1条		貼り付け突帯	60図－35	ＢＫＧ－a
Ⅲ－2～Ⅳ－1	広口壺	頸部	3			2条		貼り付け突帯	60図－32	ＢＫＧ－b
Ⅲ－2～Ⅳ－1	広口壺	頸部	1			4条		貼り付け突帯	60図－33	ＢＫＧ－c
Ⅲ－2～Ⅳ－1	広口壺	頸部	29			2条＋α		貼り付け突帯		ＢＫＧ－d
Ⅲ－2～Ⅳ－1	広口壺	頸部	62			1条＋α		貼り付け突帯		ＢＫＧ－e
Ⅲ－2～Ⅳ－1	広口壺	頸部	17			3条＋α		貼り付け突帯	60図－34	ＢＫＧ－f
Ⅲ－2～Ⅳ－1	広口壺	頸部	10			4条＋α		貼り付け突帯	61図－4	ＢＫＧ－g
Ⅲ－2～Ⅳ－1	広口壺	頸部	2			5条＋α		貼り付け突帯		ＢＫＧ－h
Ⅲ－2～Ⅳ－1	広口壺	頸部	5			0条		貼り付け突帯	62図－3	ＢＫＧ－i

時期	器種	部位	個体数	頸部突帯	口縁凹線	頸部凹線	口縁キザミ	備考	代表例(挿図)	記号
Ⅲ－2	広口壺		1		2条		○	やや幅広の面を持ち、口縁端部は上下に僅かに拡張		ＢＬＡ－a
Ⅲ－2	広口壺		2		2条		○	口縁はあまり下垂せず、外に突出する		ＢＬＡ－b
Ⅲ－2	広口壺		2		3条		○	口縁端部は上下に僅かに拡張	61図－12	ＢＬＡ－c
Ⅲ－2	広口壺		2		3条		○	口縁は斜め上下方に拡張し、幅広の平坦面を形成する	61図－8	ＢＬＡ－d
Ⅲ－2	広口壺		1		3条		○	口縁は斜め上方に拡張する		ＢＬＡ－e
Ⅲ－2	広口壺		5		3条		○	口縁は斜め下方に拡張する	61図－9	ＢＬＡ－f
Ⅲ－2	広口壺		1		4条		○	口縁は斜め上方に拡張する	61図－14	ＢＬＡ－g
Ⅲ－2	広口壺		4		4条		○	口縁は斜め下方優先に拡張する	61図－16	ＢＬＡ－h
Ⅲ－2	広口壺		1		5条		○	口縁は斜め下方優先に拡張する	61図－15	ＢＬＡ－i
Ⅲ－2	広口壺		1		5条		○	口縁は斜め下方に拡張する	61図－11	ＢＬＡ－j
Ⅲ－2	広口壺		2	○	3～4条		○	口縁は斜め下方優先に拡張する	61図－10	ＢＬＡ－k
Ⅳ－1	広口壺		1		3条	○	○	口縁は斜め上方に拡張する	61図－13	ＢＬＡ－l
Ⅳ－1	広口壺		5		2～4条			口縁は斜め上方に拡張する	61図－27	ＢＬＡ－m
Ⅳ－1	広口壺		9		2～4条			口縁は斜め上方に僅かに拡張する	61図－23	ＢＬＡ－n1
Ⅳ－1	広口壺		1		2～4条	○		口縁は斜め上方に拡張する	61図－22	ＢＬＡ－n2
Ⅳ－1	広口壺		4		2～4条			口縁端部は上下に僅かに拡張・BLA－n1より直角に近い	61図－24	ＢＬＡ－o1
Ⅳ－1	直口壺		1	○	3条			口縁は斜め上下方に拡張する	61図－17	ＢＬＡ－o2
Ⅳ－1	広口壺		3	○	2～4条			口縁はあまり下垂せず、外に突出する	61図－25	ＢＬＡ－p
Ⅳ－1	広口壺		6		3～7条			口縁は下垂し、幅広の面が形成される	61図－18・21	ＢＬＡ－q1
Ⅳ－1	広口壺		1	○	3条			口縁は下垂し、幅広の面が形成される	61図－20	ＢＬＡ－q2
Ⅳ－2	広口壺		3		4～5条			口縁端部は上下に大きく拡張	61図－26	ＢＬＡ－r
Ⅳ－2	広口壺		3		2～4条	○		やや幅広の面を持ち、口縁端部は上下に僅かに拡張	61図－29	ＢＬＡ－s
Ⅳ－2	広口壺		10		2～4条			口縁は斜め上方に拡張する	61図－28	ＢＬＡ－t
Ⅲ－2	広口壺		1		多条			口縁端部は長く下垂させる	61図－19	ＢＬＡ－v
Ⅲ－2	広口壺		1					口縁端部は内彎しながら下垂する	60図－7	ＹＰ
Ⅳ期	直口壺		1					緩い複合口縁状を呈す	62図－2	ＢＭＡ
Ⅲ期	広口壺	胴部	1					小型品	60図－24	ＢＬＢ
Ⅳ－2	広口壺		1		3条			口縁は斜め上方に拡張する。頸部に押引き刺突文	62図－1	ＣＱＡ
Ⅳ－2	壺	胴部	10					クシ描き有軸羽状文	62図－9	ＢＯＢ
Ⅲ期	壺	口縁部	3					見込みに押引き刺突文		ＢＯＣ
Ⅲ期	壺	口縁部	1					見込みに波状文＋複線鋸歯文		ＢＯＤ
Ⅲ期	壺	口縁部	1					見込みに粘土紐でΩ型をつくる		ＢＯＥ
Ⅲ期	壺	口縁部	3					見込みに押引き刺突文＋複線鋸歯文		ＢＯＦ

第25表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（Ⅲ・Ⅳ期壺）の統計〔2〕

時　期	器種	部位	個体数	頸部突帯	口縁文様	頸部補強	口縁キザミ	備　考	代表例(挿図)	記　号
Ⅲ期	壺	胴部	5					複線鋸歯文		BOG
Ⅳ期	壺	頸部	12					凹線文	62図－4・6	BOH
Ⅲ期	壺	頸～肩部	4					複線斜格子文		BOI
Ⅲ期	壺	胴部	14					複線斜格子文		BOJ
Ⅳ期	壺	頸部	3					波状文		BOK
Ⅳ期	壺	胴部	14					波状文		BOL
Ⅳ期	壺	頸部	2					頸部に凹線を施す	62図－5	CR
Ⅳ期	壺	胴部	1					ヘラ描き沈線で区画した文様帯に波状・刺突文を施文する	62図－8	BZH

第26表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（Ⅲ・Ⅳ期鉢・無頸壺）の統計

時　期	器種	部位	個体数	突帯	水平口縁	口縁キザミ	備　考	代表例(挿図)	記　号
中期	無頸壺	上半部	1					59図－6	BHC
Ⅲ－1	鉢	上半部	4				口縁は幅広の平坦面をもち、外面に突出し、直下にも指頭圧痕の入った突帯を有する	59図－9	BAH
Ⅲ期	鉢	上半部	1	○	○		つぶれたタガ状の突帯にキザミを入れる	59図－12	BNA－a
Ⅲ期	鉢	上半部	1				外傾して平坦面を持つ	59図－4	BNA－b
Ⅲ期	鉢	上半部	21		○		内傾	59図－5	BNA－c
Ⅲ期	鉢	上半部	5	1条	○			59図－11	BNA－e
Ⅲ期	鉢	上半部	4	2条	○			59図－13	BNA－f
Ⅲ期	鉢	上半部	3	2条	○		複線鋸歯文・複線斜格子	59図－14	BNA－g
Ⅲ期	無頸壺	上半部	3		○		内傾	59図－2・3	BNA－h
Ⅲ期	鉢	上半部	1	1条	○			59図－10	BNA－i
Ⅲ期	鉢	上半部	1	多条	○		内傾	59図－15	BNA－j
Ⅲ期	鉢	上半部	1		○		内傾・多条沈線	62図－10	BNA－k
Ⅲ－1	鉢	上半部	1		○		口縁上面に複線鋸歯文	59図－7	BNA－M
Ⅲ期	鉢	上半部	1	多条			内彎	59図－16	BNA－m
Ⅲ期	鉢	上半部	1		○	○	内傾	60図－10	BNA－l

第27表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（Ⅲ・Ⅳ期高杯、及びその他器種）の統計

時　期	器種	部位	個体数	口縁キザミ	口縁上凹線	外面凹線	備　考	代表例(挿図)	記　号
Ⅲ－1・2	高杯	杯部	2				口縁は鍔状に外に突出	63図－1	BPA
Ⅲ－1	高杯	杯部	5				口縁は内外面に肥厚	63図－3	BPB
Ⅲ－2	高杯	杯部	1				口縁は鍔状に外に突出し、面を持つ	63図－2	BPC
Ⅲ－2	高杯	杯部	7				口縁は水平平坦面を持ち、外側に突出する	63図－4	BPD
Ⅲ－2	高杯	杯部	6	○			口縁は水平平坦面を持ち、外側に突出する	63図－5	BPE
Ⅲ－2	高杯	杯部	2				口縁は水平平坦面を持ち、外側に突出する。面上には円形浮文	63図－6	BPF
Ⅳ－1	高杯	杯部	3			○	口縁は水平平坦面を持ち、外側に突出する。外面には凹線がめぐる	63図－10	BPG
Ⅳ－1	高杯	杯部	5		○	○	口縁は水平平坦面で、外側に突出する。外面には凹線がめぐる	63図－9	BPH
Ⅳ－1	高杯	杯部	1	○	○	○	口縁は水平平坦面で、外側に突出する。外面には凹線がめぐる	63図－12	BPI
Ⅳ－1	高杯	杯部	2	○		○	口縁は水平平坦面を持ち、外面に凹線と刺突文がめぐる	63図－13	BPJ
Ⅳ－2	高杯	杯部	1				有稜の複合口縁状となり、端部は内傾する面を持つ	63図－11	BPK
Ⅳ－2	高杯	杯部	5	○			杯部外面に稜を作り、内傾して立ち上がる。外面には凹線がめぐる	63図－14・15	BPM
Ⅳ－2	高杯	杯部口縁欠	4				屈曲あり・BPMの口縁欠損個体		BPN
Ⅲ・Ⅳ	高杯	杯基部	2				円盤充填	63図－8	BPO
Ⅲ・Ⅳ	高杯	円盤充填部	8						BPP
Ⅲ－2	高杯	脚部	6				外面タテミガキ	63図－17・19	BPQ
Ⅳ－1	高杯	脚部	1				三角透かし	63図－23	BPS
Ⅳ－2	高杯	脚筒部	4				凹線	63図－25	BPT
Ⅳ－1	高杯	脚筒部	6				ヘラ描き沈線	63図－26	BPU
Ⅴ－1	高杯	脚部	1				端部に面を持つ		BPV
Ⅲ期	高杯	脚部	1				斜格子文	63図－16	BPW
Ⅳ－1	高杯	脚筒部	1				櫛描き沈線	63図－20	BPX
Ⅳ－2	高杯	脚部	1				凹線	63図－24	BPY
Ⅳ－2	高杯	脚部	1				凹線・脚端部は斜め上方に折り返す	63図－29・30	BPZ
Ⅳ－2	高杯	脚部	9				脚端部。外面に面を持ち下方に肥厚	63図－27・28	CPB
Ⅲ期	高杯	脚部残欠	6					63図－7	BPa
Ⅲ・Ⅳ	高杯状土製品		3					63図－22	BPb－a
Ⅲ・Ⅳ	高杯状土製品	杯基部	8					63図－21	BPb－b
Ⅲ・Ⅳ	短脚高杯	脚部	1			○			BPd
合　計			1186						

第28表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生後期土器の統計表

時　　期	器　　種	個体数	口縁部の形態・その他部位の特徴	口縁凹線	代表例(挿図)	分類記号
Ⅴ－1(鬼川市1)	高杯	1	上面に平坦面を持ち、凹線を施文	2条	66図－1	ＢＰＬ
Ⅴ－3(的場・草田3)	高杯	5	大きく外反する		66図－4	ＳＡＢ
Ⅴ－2(九重・草田2)	高杯	5	複合口縁		66図－2・4・5	ＳＸＡ・ＢＰＶ
Ⅴ期	蓋	1	中空で僅かに複合口縁状を呈す		66図－15	ＳＸＢ
Ⅴ期	甕	1	玉縁状		64図－1	ＳＷ
Ⅴ－1(草田1)	甕	25	内傾・上下均等	3以上	64図－20・21	ＣＤＡ
Ⅴ－1(草田1)	甕	22	内傾・上下均等	凹面2以下	64図－8・11	ＣＤＢ
Ⅴ－1(草田1)	甕	7	内傾・上下均等	凸面2以下	64図－16・17	ＣＤＣ
Ⅴ－1(草田1)	甕	8	内傾・上方拡張が優勢	2条	64図－13・14	ＣＩＡ
Ⅴ－1(草田1)	甕	29	内傾・上方拡張が優勢	3条		ＣＩＢ
Ⅴ－1(草田1)	甕	30	内傾・上方拡張が優勢	4条	64図－24～27	ＣＩＣ
Ⅴ－1(草田1)	甕	6	内傾・下垂拡張が優勢	2条	64図－9	ＢＦＡ－ｂ
Ⅴ－1(草田1)	甕	8	内傾・上下均等に拡張	2条	64図－10	ＢＦＡ－ｃ
Ⅴ－1(草田1)	複合口縁甕	4	内傾・上方拡張のみ	4条	64図－29	ＣＥＡ
Ⅴ－1(草田1)	複合口縁甕	12	内傾・上方拡張のみ	2～3条	64図－30・31	ＣＥＢ
Ⅴ－1(草田1)	単純口縁甕	9	内傾・上方拡張のみ	0～1条	64図－2・7・12	ＣＥＣ
Ⅴ－1・2	複合口縁甕	24	やや外傾・稜の突出無し	凹線	64図－32・33	ＣＢＡ
Ⅴ－1(草田1)	複合口縁甕	10	やや外傾・稜の突出無し	凹線不明瞭	64図－5・6	ＣＢＢ
Ⅴ－1(草田1)	甕	1	内傾・稜の突出無し。器壁厚く胎土悪い	無文	64図－3	ＣＦＡ
Ⅴ－1(草田1)	甕	5	内傾・稜の突出無し	2条	64図－15	ＣＦＢ
Ⅴ－1(草田1)	複合口縁甕	3	直立・横に稜が突出	無文	64図－4	ＣＣＡ
Ⅴ期	直口甕	1	内面はヘラケズリ		65図－33	ＢＨＢ
Ⅴ－2(九重・草田2)	複合口縁甕	16	内傾・上方拡張が優勢	5条	64図－22・23	ＣＩＤ
Ⅴ－2(九重・草田2)	複合口縁甕	2	内傾・上方拡張が優勢	6条	64図－41・42	ＣＩＥ
Ⅴ－2(九重・草田2)	複合口縁甕	3	内傾・上方拡張が優勢	不明		ＣＩＦ
Ⅴ－2(九重・草田2)	複合口縁甕	32	やや外傾・稜が横突出	凹線	64図－36・37	ＣＢＣ
Ⅴ－2(九重・草田2)	甕	5	外に面を持ちあまり肥厚しない	凹線		ＣＡＤ
Ⅴ－2(九重・草田2)	複合口縁甕	1	外傾する	凹線	65図－4	ＣＡＡ
Ⅴ－2(九重・草田2)	複合口縁甕	1	やや外傾・稜横突出。頸に指頭圧痕文帯	凹線	64図－18	ＣＧＢ
Ⅴ－2(九重・草田2)	複合口縁甕	2	内傾・稜の突出無し	擬凹線	64図－34・35	ＣＣＢ
Ⅴ－2(九重・草田2)	甕	3	短く直立	凹線	64図－28	ＣＶ
Ⅴ－2(九重・草田2)	複合口縁甕	40	やや内傾か直立・稜は僅かに下垂	凹線	64図－38～40	ＣＨ
Ⅴ－3(的場・草田3)	複合口縁甕	12	稜が下垂。端部丸肥厚	擬凹線	65図－13・14	ＣＡＢ
Ⅴ－3(的場・草田3)	複合口縁甕	2	稜が下垂。端部欠損	擬凹線		ＣＡＢ－ｄ
Ⅴ－3(的場・草田3)	複合口縁甕	8	稜が下垂。端部丸	擬凹線	65図－9・10	ＣＡＣ
Ⅴ－3(的場・草田3)	複合口縁甕	10	稜の突出なし。端部丸肥厚	擬凹線	65図－7・8	ＣＡＥ
Ⅴ－3(的場・草田3)	複合口縁甕	6	稜の突出なし。端部丸	擬凹線	65図－11・12	ＣＡＦ
Ⅴ－2・3	複合口縁甕	4	稜の突出なし。端部細い	擬凹線	65図－3・17	ＣＡＧ
Ⅴ－3(的場・草田3)	複合口縁甕	5	不明	不明		ＣＡＨ
Ⅴ－3(的場・草田3)	複合口縁甕	6	稜の突出なし。端部丸	擬凹線	65図－1・2	ＣＡＩ
Ⅴ－3(的場・草田3)	複合口縁甕	1	稜の突出なし。端部欠	不明		ＣＡＩ－ｄ
Ⅴ－3(的場・草田3)	複合口縁甕	3	稜の突出なし。端部丸	擬凹線	65図－5・6	ＣＡＪ
Ⅴ－3(的場・草田3)	複合口縁甕	5	稜の突出なし。端部丸	擬凹線不明瞭	65図－16	ＣＡＫ
Ⅴ－3(的場・草田3)	複合口縁甕	7	外傾	なし	65図－15	ＣＢＤ
Ⅴ期	甕胴部	15	D字刺突文		65図－18	ＣＪＡ
Ⅴ期	甕胴部	19	櫛状原体刺突文			ＣＪＣ
Ⅴ期	甕胴部	4	ヘラ状原体刺突文		65図－20	ＣＪＤ
Ⅴ期	小型甕胴部	5	貝原体「米」字状文様帯		65図－32	ＣＪＥ
Ⅴ期	小型甕胴部	1	特殊刺突文			ＣＪＦ
Ⅴ期	甕肩部	1	無文			ＣＪＧ
Ⅴ期	甕肩部	1	波状文			ＣＪＨ
Ⅴ期	甕肩部	1	櫛描横線文		65図－19	ＣＫ
Ⅴ－3(的場・草田3)	注口土器	4	二枚貝刺突と勾玉状スタンプ文で装飾する		65図－29・31	ＣＬＡ
Ⅴ－3(的場・草田3)	注口土器	3	把手のみ		65図－30	ＣＬＢ
Ⅴ期	吉備系壺	1	口縁直立	凹線	65図－27	ＣＳ
Ⅴ期	赤彩吉備系壺	1	破片のみ			ＣＵ
Ⅴ期	小型壺	1	口縁部は玉縁状	無文	65図－26	ＣＴ
Ⅴ－1(草田1)	長頸壺	7	口縁端部はあまり拡張しない	凹線2～3条	65図－21	ＢＬＡ－ｕ
Ⅴ－1(草田1)	長頸壺	8	内傾し、上優先に拡張	凹線	65図－22・23	ＣＱＡ
Ⅴ－2(九重・草田2)	長頸壺	9	直立・外傾し、上優先に拡張		65図－24・25	ＣＱＢ
Ⅴ－2	長頸壺	1	玉葱状の胴部にタガ状の突帯。北部九州系		65図－28	ＹＥＡ
Ⅴ－1(草田1)	器台	7	口縁のみ。外側に面を持つが肥厚しない	無文	66図－9	ＣＰＡ
Ⅴ－2(九重・草田2)	器台	11	脚端部。外側に面を持ち上下に若干肥厚	擬凹線	66図－6・7	ＣＰＣ
Ⅴ－2(九重・草田2)	器台	4	口縁のみ。外側に面を持ち、上優先に肥厚	凹線	66図－8	ＣＯＡ
Ⅴ－2(九重・草田2)	器台	3	ＣＯＡと対。脚端部	凹線	66図－11	ＣＯＢ
Ⅴ－2(九重・草田2)	器台	1	脚端部	凹線		ＣＯＰ
Ⅴ－3(的場・草田3)	鼓形器台	4	上部のみ		66図－10	ＣＮＡ
Ⅴ－3(的場・草田3)	鼓形器台	9	典型		66図－13・14	ＣＮＢ
草田4	鼓形器台	2			66図－12	ＣＮＣ
Ⅴ期	匙形土製品	1	平面円形皿形		54図－28	ＹＫ
合　　計		514				

第29表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代前期土器の統計表〔1〕

器種	部位	個体数	備考	代表例(挿図)	分類記号
鼓形器台	口縁のみ欠損	2	稜は横方向に突出・脚台端部が反る	72図－12・14	ＤＡＡ
鼓形器台	筒部	5	稜は横方向に突出	72図－８・９・13	ＤＡＢ
鼓形器台	筒部	1	稜は上下突出	72図－15	ＤＡＣ
鼓形器台	下半部	1	草田７期以降。開地谷型	72図－16	ＤＡＤ
鼓形器台	上半部	2	口縁端部は丸く、稜は横方向に突出	72図－３・７	ＤＡＥ
鼓形器台	上稜部	36	稜は横方向に突出	72図－１	ＤＡＦ
鼓形器台	上稜部	16	稜は中間形態		ＤＡＧ
鼓形器台	上稜部	7	稜は下垂	72図－２	ＤＡＨ
鼓形器台	上稜部	1	稜形態不明		ＤＡＩ
鼓形器台	下半部	1	脚台端部は丸く、稜は横方向に突出	72図－４	ＤＡＪ
鼓形器台	下半部	1	脚台端部は反り、稜は横方向に突出	72図－10	ＤＡＫ
鼓形器台	下半部	1	脚台端部は面で、稜は横方向に突出	72図－11	ＤＡＬ
鼓形器台	下稜部	19	稜は横方向に突出	72図－６	ＤＡＭ
鼓形器台	下半部	3	脚台端部は丸く、稜は中間形態	72図－５	ＤＡＮ
鼓形器台	下稜部	14	稜は中間形態		ＤＡＯ
鼓形器台	口縁部	46	端部が丸い		ＤＡＰ
鼓形器台	口縁部	15	端部に面		ＤＡＱ
鼓形器台	口縁部	17	端部が若干反る		ＤＡＲ
鼓形器台	口縁部	17	端部が反る		ＤＡＳ
鼓形器台	脚台部	19	端部が丸い		ＤＡＴ
鼓形器台	脚台部	6	端部に面		ＤＡＵ
鼓形器台	脚台部	8	端部が反る		ＤＡＶ

器種	部位	個体数	備考	代表例(挿図)	分類記号
複合口縁甕	口頸部	12	草田４	68図－１・２	ＤＢＡ
複合口縁甕	口頸部	34	草田５（口縁は基部から先端まで細い）	68図－３・４	ＤＢＢ
複合口縁甕	稜部のみ	24	草田５（口縁は基部から先端まで細い）		ＤＢＢ－ｄ
複合口縁甕	口頸部	75	草田５（口縁内面にｱｸｾﾝﾄ）	68図－６	ＤＢＣ
複合口縁甕	稜部のみ	33	草田５（口縁内面にｱｸｾﾝﾄ）		ＤＢＣ－ｄ
複合口縁甕	口頸部	2	草田５（稜直上に沈線施文）	68図－７	ＤＢＤ
複合口縁甕	口頸部	34	草田５（口縁の基部が太く～先端は細くなる）	68図－８	ＤＢＥ
複合口縁甕	稜部のみ	22	草田５（口縁の基部が太く～先端は細くなる）		ＤＢＥ－ｄ
複合口縁甕	口縁端部のみ	25	草田５（口縁の基部が太く～先端は細くなる）		ＤＢＥ－ｇ
複合口縁甕	口頸部	28	草田５（口縁の中位が太い）	68図－９・10	ＤＢＦ
複合口縁甕	口頸部	14	草田５（端部に面があるが、全体にＲが残るもの）		ＤＢＧ
複合口縁甕	口縁端部のみ	8	草田５（端部に面があるが、全体にＲが残るもの）		ＤＢＧ－ｇ
複合口縁甕	口頸部	74	草田６	68図－13・14・16	ＤＢＨ
複合口縁甕	稜部のみ	27	草田６	68図－29・30	ＤＢＨ－ｄ
複合口縁甕	口縁端部のみ	35	草田６		ＤＢＨ－ｇ
複合口縁甕	口頸部	7	草田６（複合部は短い）	68図－15	ＣＢＤ
複合口縁甕	口頸部	42	草田７（端部は平坦だが内面側はやや丸い）	68図－21・22	ＤＢＩ
複合口縁甕	口縁端部のみ	20	草田７（端部は平坦だが内面側はやや丸い）		ＤＢＩ－ｇ
複合口縁直口壺	口頸部	3	草田６	68図－18	ＤＢＪ
複合口縁甕	口頸部	66	草田７	68図－23～25	ＤＢＫ
複合口縁甕	口縁端部のみ	37	草田７		ＤＢＫ－ｇ
複合口縁甕	口頸部	5	４世紀中葉（端部が内面に肥厚）	68図－26・27	ＤＢＬ
複合口縁甕	口頸部	11	草田６～７（口縁が内傾）	68図－17	ＤＢＭ
複合口縁甕	口縁端部のみ	1	草田６～７（口縁が内傾）		ＤＢＭ－ｇ
複合口縁甕	口頸部	6	４世紀中葉（端部が内面に肥厚）		ＤＢＮ
注口土器	注口部分のみ	1	草田５～６	72図－35	ＤＢＯ
小型甕	胴部のみ	6		68図－31	ＤＢＰ
タタキ甕	胴部のみ	18	草田５～６（外面は平行タタキ、内面はハケ・ナデ）	68図－19・20	ＣＭＡ
タタキ甕	胴部のみ	4	草田５～６（外面は平行タタキ、内面はヘラケズリ）	68図－21・22	ＣＭＢ
甕	胴部のみ	20	ハケ刺突文	69図－18	ＤＢＱ
甕	胴部のみ	3	有軸綾杉文		ＤＢＲ
甕	胴部のみ	9	無軸綾杉文	73図－14	ＤＢＳ
甕	胴部のみ	43	波状文	68図－28	ＤＢＴ
単純口縁甕	口頸部	16	端部に面を持つ・４Ｃ	69図－７・８	ＤＢＵ
単純口縁甕	口頸部	11	端部に面を持ち、斜め上方に肥厚・４Ｃ	69図－４・５	ＤＢＶ－ａ
単純口縁甕	口頸部	4	端部に沈線を入れ、斜め上方に肥厚・４Ｃ	69図－２・３	ＤＢＶ－ｂ
単純口縁甕	口頸部	34	端部は水平な面・４Ｃ	69図－16・17	ＤＢＷ－ａ
単純口縁甕	口頸部	12	端部は水平な面だが、内側は丸い・４Ｃ末～５Ｃ前半	69図－10・11	ＤＢＷ－ｂ
単純口縁甕	口頸部	5	上方に肥厚するが、外面のエッジが甘い・４Ｃ後半	69図－６	ＤＢＸ
単純口縁甕	口頸部	21	端部は水平な面で、外側に突出する・４Ｃ	69図－15・22	ＤＢＹ
単純口縁甕	口頸部	14	痕跡的な内面肥厚・４Ｃ	74図－６・69図－９	ＤＢＺ
単純口縁甕	口頸部	9	端部は小さく丸く収める・４Ｃ	69図－13・14	ＤＢａ
単純口縁甕	口頸部	3	口縁は外反した後、内彎し、端部は小さく上に肥厚・４Ｃ	69図－12	ＤＢｂ
単純口縁甕	口頸部	8	内面に肥厚・４Ｃ半ば	69図－１	ＤＢｃ
単純口縁甕	口頸部	73	口縁は中間が厚く、先端が細くなる。４世紀末～５世紀	69図－21	ＩＦＡ
単純口縁甕	口頸部	11	口縁外面に屈曲するｱｸｾﾝﾄがあり、端部に面取りする	74図－４・69図－23	ＩＦＢ
単純口縁甕	口頸部	20	口縁は内彎し、端部は丸い	69図－19・20・24	ＩＦＣ
甕	肩部	31	ヨコハケ		ＤＢｄ
甕	複合稜部のみ	53			ＤＢｅ
甕	肩部のみ	83	前期		ＤＢｆ
甕	底部	14	丸底に近い平底		ＤＢｈ
甕	底部	4	尖底		ＤＢｉ

第30表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代前期土器の統計表〔2〕

器種	部位	個体数	備考	代表例(挿図)	分類記号
甑形土器	上端・把手付	3		71図－20	ＤＣＡ
甑形土器	上端のみ	5			ＤＣＢ
甑形土器	タガ部のみ	2		71図－19	ＤＣＣ
甑形土器	タガ付下端	2		71図－17・18	ＤＣＤ
甑形土器	下端のみ	2		71図－16	ＤＣＥ
甑形土器	異形	1	胴部側面に中空状の突起？		ＤＣＦ

器種	部位	個体数	備考	代表例(挿図)	分類記号
複合口縁壺	口頸部	1	草田５	70図－１	ＤＤＡ
複合口縁壺	口頸部	3	草田６	70図－２	ＤＤＢ
複合口縁壺	口頸部	5	草田７	70図－４・５	ＤＤＣ
複合口縁壺	口頸部	4	４Ｃ中葉	70図－６・７	ＤＤＤ
複合口縁壺	口頸部	3	４Ｃ中葉	70図－８・９	ＤＤＥ
複合口縁壺	口頸部	1	草田７（内傾タイプ）	70図－３	ＤＤＦ
複合口縁壺	口頸部	5	４Ｃ中葉・強く開く	70図－10～12	ＤＤＧ
加飾二重口縁壺	口頸部	2	畿内庄内系	70図－19・20	ＤＤＨ
壺	頸部	1	突帯付頸部	70図－16	ＤＤＩ
壺	底部のみ	1	平底	70図－26	ＤＤＪ
壺	口頸部	3	半裁Ｓ字竹管文	70図－23・24	ＤＤＫ
壺	肩部のみ	2	肩部に竹管文	70図－18	ＤＤＬ
壺	頸部	2	頸部に無軸羽状文	70図－13	ＤＤＭ
壺	頸部	3	頸部に有軸羽状文	70図－14	ＤＤＮ
壺	胴部のみ	5	胴部に無軸羽状文		ＤＤＯ
壺	頸部	3	頸部に斜行刺突文		ＤＤＰ
壺	胴部のみ	2	胴部に斜行刺突文		ＤＤＱ
複合口縁壺	稜部のみ	2	草田５		ＤＤＲ
複合口縁壺	稜部のみ	14	草田６・７		ＤＤＳ
複合口縁壺	稜部のみ	10	前期中葉		ＤＤＴ
壺	肩部のみ	3	肩部に有軸羽状文	70図－17	ＤＤＵ
壺	肩部のみ	1	肩部に櫛描き沈線		ＤＤＶ
二重口縁壺	頸部のみ	1	畿内系二重口縁壺	70図－21	ＤＤＷ－ａ
長頸壺	胴部のみ	1	５Ｃ・長頸壺	70図－22	ＤＤＷ－ｂ
壺	胴部のみ	2	前期		ＤＤＸ
壺	底部のみ	2	前期	70図－25	ＤＤＹ
二重口縁壺		1	畿内・山陰折衷タイプ	70図－15	ＤＤＺ

器種	部位	個体数	備考	代表例(挿図)	分類記号
低脚杯	完形	2		72図－17・18	ＤＥＡ
低脚杯	底部	24		72図－21・22	ＤＥＢ
低脚杯	底部	5	脚部がやや大きく高いタイプ	72図－24	ＤＥＣ
低脚鉢	底部	1	脚部大型	72図－25	ＤＥＤ
低脚鉢	底部	1	脚部高台状	72図－23	ＤＥＥ
低脚杯	杯部のみ	41		72図－19・20	ＤＥＦ

器種	部位	個体数	備考	代表例(挿図)	分類記号
高杯形小型器台		3		72図－30	ＤＦＡ
中空小型器台	口縁部欠損	1		72図－29	ＤＦＢ
小型器台Ｂ３	脚部のみ	2	草田６～７期。精製品	72図－27・28	ＤＦＣ
中空小型器台	脚部欠損	1	草田５～６期。精製品	72図－26	ＤＦＤ
有段鉢	胴部の一部のみ	1		72図－34	ＤＧＡ
手焙形土器	胴部の一部のみ	1		72図－36	ＤＧＢ
蓋形土器		1		71図－15	ＤＧＣ

器種	部位	個体数	備考	代表例(挿図)	分類記号
小型丸底壷		15	布留Ⅰ～Ⅱ期。精製品	76図－17～19	ＩＤＡ
小型丸底壷	破片	1	布留Ⅰ～Ⅱ期。精製品		ＩＤＡ－ｄ
小型丸底壷		13	布留Ⅲ期。精製品	76図－20～22	ＩＤＢ
小型丸底壷	破片	3	布留Ⅲ期。精製品		ＩＤＢ－ｄ

器種	部位	個体数	備考	代表例(挿図)	分類記号
高杯	杯部	1	穴付き円盤充填・有稜外反	71図－６	ＤＨＡ
高杯	杯基部	15	穴付き円盤充填	71図－12	ＤＨＢ
高杯	杯基部	6	穴付き円盤充填の後、内側から指押さえ	71図－13	ＤＨＣ
高杯		6	穴付き円盤充填・舟形	71図－８～11	ＤＨＤ
高杯	杯部のみ	53	舟形	71図－３・４	ＤＨＥ
高杯	杯部のみ	3	有稜外反	71図－５・７	ＤＨＦ
高杯	杯部のみ	5			ＤＨＧ
高杯	杯部のみ	3	内面に稜。外反	71図－１・２	ＤＨＪ
低脚高杯	脚部	4		72図－31～33	ＤＨＫ
高杯	脚端部	37			ＤＨＬ
高杯	脚筒部	1			ＤＨＭ
高杯	脚部	1		71図－14	ＤＨＮ
高杯	端部欠損脚部	11			ＤＨＯ
鉢		1			ＤＩＡ
手捏ね土器		1		71図－21	ＤＩＢ
合計		1775			

第31表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代中期土器の統計表〔1〕

器種	部位	個体数	備考	代表例(挿図)	分類記号
椀		1	端部に面を持つ	76図－37	ＩＡＡ
椀		56	口縁は内彎し、端部は丸い	76図－36・38～41	ＩＡＢ
椀		14	口縁は内彎しない	76図－34・35	ＩＡＣ
椀		16	深いタイプ	76図－42～45	ＩＡＤ
椀	底部のみ	16			ＩＡＥ

器種	部位	個体数	備考	代表例(挿図)	分類記号
有稜高杯		4	径が小さく肉厚の円盤充填	75図－7	ＩＢＡ
有稜高杯		6	径が小さく肉厚の円盤充填・稜はあまい	75図－9・14	ＩＢＢ
高杯	杯基部のみ	29	径が小さく肉厚の円盤充填		ＩＢＣ
有稜高杯		9	径が小さく肉厚の円盤充填の後、内側から押さえる	75図－10・12	ＩＢＤ
高杯	杯基部のみ	14	径が小さく肉厚の円盤充填の後、内側から押さえる		ＩＢＥ
高杯	稜部以上は欠損	3	径が小さく肉厚の円盤充填の後、内側から押さえる	75図－11	ＩＢＦ
有稜高杯	有稜高杯	8	径の小さい穴付き円盤充填	75図－2	ＩＢＧ
高杯	稜部以上は欠損	1	径の小さい穴付き円盤充填	75図－3	ＩＢＨ
高杯	杯基部のみ	7	径の小さい穴付き円盤充填の後、内側から指押さえ	75図－4	ＩＢＩ
高杯	稜部以上は欠損	3	径が小さく肉厚の円盤充填	75図－8	ＩＢＪ
有稜高杯		2	径の小さい穴付き円盤充填・稜はあまい	75図－1	ＩＢＫ
椀形高杯		11	杯基部に固定粘土を巻き付ける	75図－15～19・22	ＩＢＬ
有稜高杯	杯基部のみ	4	杯基部に固定粘土を巻き付ける	75図－5	ＩＢＭ
椀形高杯	杯基部のみ	46	杯基部に固定粘土を巻き付ける		ＩＢＮ
有稜高杯	杯基部のみ	5	径が小さく肉厚の円盤充填		ＩＢＯ
高杯	稜部以上は欠損	1	径の小さい穴付き円盤充填の後、内側から指押さえ	75図－6	ＩＢＰ
高杯	稜部以上は欠損	2	径が小さく肉厚の円盤充填・脚に3方向透かし	75図－13	ＩＢＱ
高杯	脚残欠	2	透かし有り		ＩＢＱ－ｄ
高杯	脚のみ	5	3方向透かし		ＩＢＲ
高杯	脚残欠	5	透かし有り		ＩＢＲ－ｄ
高杯	脚のみ	11	透かし有り	76図－9・10	ＩＢＲ－ｇ
高杯	脚残欠	3			ＩＢＲ－ｈ
高杯	脚部完存	1	固定粘土		ＩＢＳ
高杯	全周する脚	14		76図－11～13	ＩＢＴ
高杯	端部の欠損した脚部	12			ＩＢＴ－ｄ
高杯	脚部	190			ＩＢＵ
高杯	端部の欠損した脚部	41			ＩＢＵ－ｄ
高杯	脚部完存	2	固定粘土・孔が上に抜ける		ＩＢＶ－ｄ
有稜高杯	杯部	26	凹線状の稜・内彎した後外反する	75図－24・29	ＩＢＷ
有稜高杯	杯部	6	凹線状の稜・内彎する	76図－1・2	ＩＢＸ
有稜高杯	杯部	7	凹線状の稜・外反する	75図－23	ＩＢＹ
有稜高杯	稜部のみ	61	凹線状の稜		ＩＢＺ
舟形高杯		7	稜はなくｱｸｾﾝﾄのみ	76図－1・75図－2	ＩＣＡ
舟形高杯	杯部	33	浅い	76図－6	ＩＣＢ
有稜高杯	杯部	4	稜は突出しないが急に立ち上がる	75図－25	ＩＣＣ
有稜高杯	稜部のみ	21	稜は突出しないが急に立ち上がる	75図－27	ＩＣＣ－ｄ
有稜高杯	杯部	2	稜は横に突出	75図－28	ＩＣＤ
有稜高杯	稜部のみ	4	稜は横に突出		ＩＣＤ－ｄ
有稜高杯	杯部	14	稜は下垂する	75図－30・31	ＩＣＥ
有稜高杯	稜部のみ	18	稜は下垂する		ＩＣＥ－ｄ
有稜高杯	口縁端部のみ	22	外反タイプ	75図－26	ＩＣＦ
有稜高杯	口縁端部は欠損	2	外反タイプ		ＩＣＦ－ｄ
椀形高杯	杯部	80	浅くて、内彎する	76図－7・8	ＩＣＧ
椀形高杯	杯部	7	深くて、内彎する	76図－5	ＩＣＨ
椀形高杯	杯部	23	巻き込みの大きい内彎タイプ		ＩＣＩ
高杯	口縁端部のみ	127		76図－4	ＩＣＪ
高杯	脚部	1	筒状中空タイプ	76図－14	ＩＣＫ
高杯	杯部残欠	41			ＩＣＬ
高杯	軸部残欠	32			ＩＣＭ
椀形高杯	口縁部のみ	2	内彎タイプ		ＩＣＮ
有稜高杯	稜部のみ	2	貼付の下垂する稜		ＩＣＰ
低脚高杯		7		76図－15・16	ＩＣＱ

器種	部位	個体数	備考	代表例(挿図)	分類記号
小型丸底壺		15	5Ｃ初頭・器壁不整形	76図－23～25	ＩＤＣ
小型丸底壺	胴部のみ	8		76図－26・27	ＩＤＣ－ｄ
小型甕		6		76図－28・29	ＩＤＤ
小型甕	破片	3			ＩＤＤ－ｄ
小型甕	頸肩部	9		74図－23	ＩＦＸ
小型二重口縁壺		1	5Ｃ後半	76図－32	ＩＤＥ
小型壺	胴部	2	5Ｃ	76図－30・31	ＩＤＦ
甑		1	5Ｃ末・須恵器模倣	76図－33	ＩＤＧ
鉢		2		77図－13	ＩＥＡ
椀		1		77図－9	ＩＥＢ

器種	部位	個体数	備考	代表例(挿図)	分類記号
単純口縁甕		16	5Ｃ前半・口縁は内彎し、端部は外に突出する	74図－1	ＩＦＤ
単純口縁甕		55	5Ｃ半ば・直線的口縁	74図－8～10	ＩＦＥ
単純口縁甕		40	5Ｃ後半・口縁は外反し、長い	74図－11～13	ＩＦＦ
単純口縁甕		119	5Ｃ後半～6Ｃ前半・口縁は外反する	74図－14～16	ＩＦＧ
単純口縁甕		69	5Ｃ後半～6Ｃ前半・口縁は僅かに外反する	74図－17・18	ＩＦＨ
単純口縁甕		8	5Ｃ後半・口縁は外反し、端部に水平平坦面をもつ	74図－2	ＩＦＩ
単純口縁甕		19	5Ｃ後半～6Ｃ前半・口縁は外反し、端部に平坦面をもつ	74図－5	ＩＦＪ
単純口縁甕		3	5Ｃ後半・口縁は外反し、端部は平坦で外に突出する		ＩＦＫ

第32表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代中期土器の統計〔2〕

器種	部位	個体数	備考	代表例(挿図)	分類記号
単純口縁甕		3	5C後半・口縁は外反し、端部は内側に肥厚する	74図－3	IFL
単純口縁甕		3	5C後半・口縁は外反し、端部に外向きの平坦面をもつ	74図－7	IFM
甕	胴部	3		74図－20	IFW
甕	肩部	116	外面は雑なハケ調整	74図－22	IFY
甕	肩部	212	外面はハケをナデ消している	74図－21	IFZ
複合口縁甕		1	4C末～5C初頭・やや内彎気味	73図－1	IGA
複合口縁甕		4	4C末～5C初頭・口縁は僅かに外反し、端部は丸い	73図－11	IGB
複合口縁甕	稜部のみ	2	4C末～5C初頭		IGB－d
複合口縁甕		1	4C末～5C初頭・口縁は内彎し、端部は内側に肥厚する	73図－17	IGC
複合口縁甕		4	4C末～5C初頭・稜は僅かに突出し、口縁端部には平坦面がある	73図－6・7	IGD
複合口縁甕		3	5C前半・稜はあまく、口縁端部は外に突出	73図－15	IGE
複合口縁甕		5	4C末～5C初頭・稜は外に突出し、口縁端部は丸い	73図－2・18	IGF
複合口縁甕		6	4C後半～末・稜は外に突出し、口縁端部は面を持ち外に肥厚する	73図－4・5	IGG
複合口縁甕	稜部のみ	1	4C後半～末		IGG－d
複合口縁甕		3	4C末～5C前半・全体に厚く、稜はゆるく端部に面を持つ	73図－16	IGH
複合口縁甕		2	4C末～5C前半・口縁は内彎し、端部は内面に肥厚する	73図－3	IGI
複合口縁甕		1	5C前半・僅かに内彎し、口縁端部は丸い		IGJ
複合口縁甕	稜部のみ	1	5C前半		IGJ－d
複合口縁甕		7	5C前半・全体に厚く、稜はゆるく端部は丸い	73図－12・13	IGK
複合口縁甕		17	5C前半～後半・ゆるい稜があり、口縁端部は内傾する平坦面をもつ	73図－22	IGM
複合口縁甕		6	5C前半～後半・明瞭な稜があり、口縁端部は内傾する平坦面をもつ	73図－9・10	IGN
複合口縁甕		20	5C後半・複合部は短く、指で摘んで外反させる	73図－20・21	IGO
複合口縁甕	稜部のみ	7	5C後半		IGO－d
痕跡的複合口縁甕		1	5C前半・外面は単純口縁だが、内面は強いナデにより段を作る	73図－24	IGP
痕跡的複合口縁甕		8	5C後半・内面は単純口縁だが、外面に痕跡的な稜状の張り出しがある	73図－23	IGQ
複合口縁壺		2	5C前半・稜があり口縁端部は丸い	73図－30	IGL
複合口縁壺		3	4C後半・口縁が大きく開く	73図－19・28	IHA
複合口縁壺		1	4C末～5C前半・口縁は若干内彎視し、端部は内傾する面をもつ	73図－25	IHB
複合口縁壺		5	4C後半～5C初頭・口縁は外反か、直線的に伸び、端部は面を持つ	73図－26・27	IHC
複合口縁壺		1	5C前半・稜はあまく、口縁端部は内傾する面を持つ	73図－29	IHD
直口壺		3	4C後半～5C前半・端部に面を持つ	73図－31・32	IHE

器種	部位	個体数	備考	代表例(挿図)	分類記号
韓式土器	破片	1	5C後半～末・格子タタキ	77図－18	IIA
円筒埴輪		2	6世紀前半？	77図－20	IIB
小型平底壺	口縁は欠損	1		77図－16	IIC
円形把手	1個体のみ	1	甑の把手？	77図－19	IID
粗製鉢		2		77図－12	IIE
台付甕？	底部のみ	3	東海系ではない	77図－17	IIG
手捏ね土器		4		77図－11・15	IIH・YHF
内彎無頸鉢		1		77図－14	III
		2		77図－10	IIJ
合計		1939			

第33表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代後期～古代煮沸具の統計表

器種	部位	備考	個体数	代表例(挿図)	分類記号
6世紀前半	甕	口縁部は大きく外反し、肩部は張る	8	74図－19	EAB
6世紀後半	甕	口縁部はやや短くなり、肩部の張りが弱くなる	25	78図－1～5	EAA
6世紀末～7世紀前半	甕	肩部は張りが無くなる	18	78図－6・7	EAC
7世紀	甕	口径が最大径となる	2	78図－11	EAD
6世紀末～7世紀前半	甕	口縁はほとんど外反しない	4	78図－8・9	EAE
8世紀後半～	甕	口縁は長く外反し、端部は上方に肥厚する	27	78図－12・15	EAF
8世紀後半～	甕	口縁は長く外反し、端部は丸く収める	1	78図－13	EAG
6世紀末～7世紀前半	甕(頸部)		22		EAH
8世紀後半～	甕(頸部)		3		EAI
9世紀	甕	肩は張らず、口縁は直線的に外傾する	1	78図－14	EAJ
7世紀	甕(下半のみ)	下膨れ状	1	78図－10	EAK
9世紀	甕	口縁は内彎し、端部に面を持つ	1	78図－16	EAL
7世紀	移動式竈	付け庇	5	77図－8	EBA
6世紀末～7世紀前半	甑(口縁部)		3	77図－1	EBB
6世紀末～7世紀前半	甑(把手)		4	77図－2・3	EBC
6後半以降	甑(筒抜け底部)		3	77図－6・7	EBD
6世紀前半	甑(一本桟底部)		1	77図－5	EBE
5世紀末～6世紀初	甑(多孔底部)		2	77図－4	EBF
合計			123		

第34表・西川津遺跡Ⅴ区出土・須恵器の統計表

内　　容	数　量	代　表　例（挿　図）	分　類　記　号
5C末～6C初・杯身	12	79図－11～16	FA
5C末～6C初・杯蓋	9	79図－1～10	FB
5C末～7C初・杯蓋天井のみ	36		FC
5C末～6C初・瑞	3	79図－26	FD
5C末～6C初・有蓋高杯の蓋	1	79図－17	FE
5C末～6C初・有蓋高杯	8	79図－18～23	FF
5C末～6C初・コップ型椀	1	79図－24	FG
5C末～6C初・中型甕	8	79図－27	FH
5C末～6C初・甕	17	79図－28	FI
6C前半・杯蓋	7	79図－29	FR
6C前半・加飾壺	1	79図－25	HB
6C・大甕破片	308		FJ
6～7C・大甕	14	81図－5・6	FK
6C・中型甕	8	80図－33～36	FL
6C末～7C前半・横瓶	30	81図－1～4	FM
6C末～7C前半・短頸壺	6	80図－19～22	FN
6C末～7C前半・短頸壺の蓋	1		FO
6C末～7C前半・直口壺	5	80図－15～18	FP
6C後半～7C初頭・杯蓋	78	79図－30～38	FQ
6C後半～7C初頭・杯身	30	79図－39～47	FS
6C末～7C前半・提瓶	5	80図－23～25・31	FT
6C後半～7C前半・長頸壺	22	80図－26～28	FU
6C後半～7C前半・高杯	36	80図－7～14	FV
7C・瑞	7		FW
7C第2四半期・杯蓋	2	80図－1・2	FX
7C前半・杯蓋天井のみ	28		FZ
7C後半・杯蓋	5	82図－1～4	FY
7C・杯身	40	80図－4～6	GA
7C末・杯身	1	82図－5	GB
7C末・高台付椀	6	82図－6～8	GC
7C後半・長頸壺	1	80図－29～30	GD
7C末～8C前半・杯蓋	15	82図－9～12	GE
8C初～前半・高台付椀	16	82図－13～16	GJ
8C中～後半・杯身（口縁外面くびれ）	28	82図－20～23	GF
8C後半・杯身（口縁内肥厚）	6	82図－24～26	GG
8C後半・杯身（口縁無変化）	12	82図－27～30	GH
8C後半・杯身（口縁部欠損）	42		GI
8C後半・高台付椀	14	82図－17～19	GK
8C後半・皿	18	82図－34～37	GL
8C後半・高杯	1	82図－40	GM
8C後半・高台付盤	5	82図－31～33	GN
8C末～9C初・輪状（宝珠）つまみ蓋	4	83図－1～4	GO
8C末～9C初・鉢	2	83図－15・16	GP
8C～9C・鉄鉢型鉢	3	83図－13・14	GQ
9C・椀	143	83図－19～22・84図－1～18	GR
9～10C・三角高台付椀	1	84図－19	GU
9～10C・高台付椀（焼成良好）	9	83図－5～9・11	GV－a
焼成が甘く、断面が白色	5	83図－10	GV－b
焼成がさらに甘く、表面まで白色	3		GV－c
焼成不良で粉っぽいもの	1		GV－d
酸化炎焼成のもの	1		GV－e
9C・皿	2	84図－20	GW
9C・長頸壺	19	83図－17・18	GX
9C・放射状文タタキ甕	3	84図－22	GY
9C・灰釉陶器・段皿	1	84図－21	GZ
10C・皿	20	84図－23～29	HA

第35表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古代～中世土師器・中近世陶磁器の統計表

時　　期	器　　種	個体数	口縁のみ	口縁欠損	底部のみ	備　　考	代表例（挿図）	分類記号
8世紀末～9世紀	杯A	1				内外面赤彩	85図－1	JAA
9世紀	杯A	3				内面赤彩	85図－2	JAB
9世紀	高台付椀				1	高台は真下に垂下し、端部は丸い	85図－18	JAR－h
9世紀	高台付椀	1				須恵器模倣	85図－17	JAS－c
9世紀後半	杯A	2				口縁は直線的。底部回転糸切り。杯部浅い	85図－13	JAE
9世紀後半	椀	15	2	3		口縁は直線的。底部回転糸切り	85図－3～7	JAC
9世紀後半	椀	12	17	4	1	口縁端部外反。底部回転糸切り	85図－8～12	JAD
9世紀後半	椀	5	11	6		全体的に緩やかに外反。底部回転糸切り	85図－15・16	JAG
9世紀後半～10世紀前半	椀	4	2	18	1	口縁端部外反。底部ヘラ切り	85図－19～23	JAF
10世紀	皿	2				須恵器模倣	85図－24・28	JAK・JAQ
10世紀	皿	1			1	底部ヘラ切り。杯部浅い	85図－29	JAP
10世紀	高台付皿	1				断面三角形状高台	85図－25	JAR
10世紀	高台付椀	2				全体に緩やかに内彎するが、端部は外反	85図－26・27	JAT
10世紀後半～11世紀	黒色土器椀		2	1	1	黒色土器・内面に放射状暗文	85図－30	JAU－g
11世紀	足高高台	5		1		高台が発達する	85図－33・34	JAV
11世紀	足高高台	2				高台が発達する		JAV－h
12世紀～13世紀	椀	3	15	12	4	全体に緩やかに内彎。底部回転糸切り	85図－14・35・36	JAH
12世紀～13世紀	柱状高台	1				底部中実。大型	85図－36	JAI－e
12世紀～13世紀	柱状高台	1				底部中実。小型	85図－37	JAI－f
12世紀～13世紀	皿	2				底部ナデ	85図－44	JAb
12世紀～13世紀	皿	2		1	4	底部回転糸切り	85図－41・43	JAM
16世紀	へそ皿	1				ナデ調整	85図－46	JAJ
16世紀	皿	5				全体に緩やかに内彎。底部回転糸切り	85図－45	JAL
16世紀以降	皿	2	1	2		底部回転糸切り	85図－40・42	JAN
時期不詳	高台付底部				14			JAW
時期不詳	糸切り底部				60			JAX
時期不詳	ヘラ切り底部				19			JAY
時期不詳	口縁部片		40					JAZ
16世紀後半	青花皿	1				上田A－Ⅰ類皿C群Ⅰ	86図－5	TAA
12世紀後半～13世紀	青磁椀	1				龍泉窯系青磁椀。内面に劃花文		TAB
16世紀末～17世紀前半	美濃焼	2					86図－7	TAC
16世紀末～17世紀前半	唐津焼	2					86図－6	TAD
10～11世紀	亀山・勝間田系	3				外面：格子目状タタキ。内面ナデ調整	84図－22	TAE
14世紀	備前焼擂鉢	1				摺り目の間隔が広い	86図－4	TAG
16世紀	備前焼大甕	6				玉縁口縁	86図－2・3	TAH
16世紀	備前焼小型壺	3				玉縁口縁	86図－1	TAI
合　　計		92	90	48	106			

第36表・西川津遺跡Ⅴ区出土・漁労具系土製品の統計

時　　期	器　　種	特　　徴	個体数	記　号
古代	土錘	丸型	1	KAA
古代	紡錘形	小型（5㎝程度）	1	KAB
古代	紡錘形	中型（8㎝程度）	2	KAC
古代	紡錘形	大型（9㎝程度）	2	KAD
縄文	土器転用土製円盤		1	KBA
弥生Ⅰ様式	土器転用土製円盤	壺起源	17	KBB
弥生Ⅰ様式	土器転用土製円盤	甕起源	26	KBC
不明	土器転用土製円盤	起源不明	2	KBD
弥生Ⅰ様式	土器片錘	甕起源	9	KCA
弥生Ⅰ様式	土器片錘	甕起源・穿孔途中	4	KCB
弥生中期	土器片錘	甕起源	1	KDA
縄文前期	土器片錘	西川津B－1起源	2	KDC
縄文前期	土器片錘	西川津A－3起源	1	KDD
縄文前期	土器片錘	西川津式起源	7	KDE
縄文晩期	土器片錘		2	KDF
合　計			78	

第37表・西川津遺跡Ⅴ区出土・近世陶磁器の統計表

時　　期　・　器　　種	個体数
1650～1680　碗	1
1680～1740　菊唐草文・皿	1
1680～1740　菊唐草文・中皿	1
1680～1740　二重斜格子文・皿	11
17世紀後半～18世紀前半	14
1750～1810　二重斜格子文・皿	5
1750～1810　菊唐草文・皿	1
1750～1810　菊唐草文・深皿	1
1740～1780　蛇ノ目凹形高台・皿	1
1740～1780　小杯	1
18世紀半ば～19世紀初頭	9
1780～1810　青磁・仏花瓶	1
1780～1830　皿	1
1780～1830　中皿	1
1780～1820　猪口	1
1780～1810　小杯	1
1780～1810　広東碗	2
1800～　仏花器	3
18世紀末～19世紀前半	10
1810～1820　広東碗	4
1810～1820　小杯	1
1820～1860　端反碗	6
1820～1860　椀の蓋	3
1820～1860　二重斜格子文・皿	1
1820～1860　菊唐草文・皿	4
1820～1860　小皿	1
1820～1860　皿	1
19世紀初頭～19世紀半ば	21
時期不明　小杯	1
時期不明　蓋付鉢	1
時期不明　角皿	2
時期不明　皿	11
時期不明　色絵碗	3
時期不明　色絵小碗	1
時期不明　碗	29
時期不明　仏花瓶	2
時期不明　竹形仏花瓶	1
時期不明	51

遺物観察表

西川津遺跡Ⅴ区出土遺物実測図観察表：凡例

挿図番号：各遺物実測図右下の番号と対応する
層　　位：各調査年の層位と出土遺物の年代観は右表を参照
寸　　法：口径欄の標準字体は復原値
　　：口径欄の**太字体**は口縁部が１／２以上残存する場合の絶対値
　　：底径欄の表示も口径欄に準じる
　　：器高欄の標準字体は残存高を示す
　　：器高欄の**太字体**は絶対器高を示す
焼　　成：良好堅緻・良好・やや良好・普通・やや不良・不良の６段階で表示
胎　　土：緻密・密・やや密・普通・やや粗・粗の６段階で表示

西川津遺跡Ⅴ区層位対照表

1998年度（平成10年度）調査区	1999年度（平成11年度）調査区	堆　積　年　代
V-1-1・V-1-2・V-1-3・V-2-1	V-4-1・V-4-2・V-4-3・V-4-4	
	砂レキX・砂レキY・SR01河床	16世紀末～17世紀初頭
砂レキ１・砂レキ２	砂レキA・砂レキB	12世紀～13世紀
砂レキ３		10世紀
砂レキA	砂レキC	８世紀
砂レキC・砂レキD	砂レキD	７世紀
砂レキE	砂レキE・砂レキF	６世紀初頭
	砂レキG・砂レキJ	５世紀前半（須恵器以前）

第38表・西川津遺跡Ｖ－１－２区・貝層出土遺物観察表

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
27図－１	AAK－c－１	甕		16.2	5.1		口縁の屈曲は緩い	やや良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：５条/cmの斜行ハケ 内面：５条/cmのヨコハケ	外面：淡赤褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ期
－２	AAC－b－１	甕		20.6	9.8		口縁の屈曲はやや緩い	やや良好	粗（３㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：タテハケの後ナデ消し 内面：ナデ	外面：灰褐色 内面：灰褐色～淡茶褐色 断面：暗茶褐色～白褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ期 外面全体に煤付着
－３	AAB－c－１	甕		18.0	4.8		如意形口縁	良好	やや粗（１㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：12条/cmのタテハケ 内面：12条/cmのヨコハケ	外面：明黄褐色 内・断面：明褐色	上半部1/6	弥生 Ⅰ期
－４	AAL－a－１	甕		31.0	5.0		口縁の屈曲は緩い	良好	粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：５条/cmのヨコハケ後ナデ	外面：淡灰褐色 内面：白褐色～淡灰褐色 断面：淡灰褐色～白褐色	口縁部1/12	弥生Ⅰ期？
－５	AEU－c－１	甕		16.2	4.0		口縁部は強く屈曲 口縁端部にキザミ	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石等を僅かに含む）	外面：タテハケの後タテミガキ 内面：５条/cmの斜行ハケ	外面：茶褐色 内・断面：淡茶褐色	口縁部1/10	弥生 Ⅱ－1期？
－６	AKC－b－１	甕		25.6	4.0		如意形口縁 ４条のヘラ描き沈線	良好	やや密（３㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：タテハケの後ナデ 内面：斜行ハケの後ナデ	外面：淡茶褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期 外面に僅かに煤付着
－７	BAP－１	甕		27.8	7.2		口縁部は強く屈曲 ５条１セット櫛描沈線が２周	良好堅緻	やや粗（３㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：9条/cmのタテハケ。下半はナデ 内面：斜行ハケの後タテミガキ	表面：淡黄褐色 断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅱ－1期
－８	AUB－１	甕		20.4	6.8		如意形口縁 ８条のヘラ描き沈線 三角形状刺突文	良好	粗（４㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：８条/cmのタテハケ 内面：８条/cmの斜行ハケ	外面：黒褐色 内面：淡橙褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－９	AOC－c－１	甕		19.0	5.3		如意形口縁 ６条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：斜行ハケの後ナデ 内面：ナデ。指頭圧痕	外面：淡茶褐色 内面：明褐色 断面：淡褐色	口縁部1/6	弥生Ⅰ－4期
－10	AMO－d－１	甕		24.2	4.1		如意形口縁（キザミ） ５条以上のヘラ描き沈線	普通	粗（２㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：タテハケの後ナデ 内面：磨滅のため調整不明	外・断面：淡褐色 内面：暗茶褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－11	ASH－b－１	甕		21.8	5.1		如意形口縁（キザミ） ９条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内面：10条/cmのヨコハケ	外面：淡橙褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－4期
－12	AYB－１	甕		24.4	12.0		口縁部は強く屈曲 ６条１セットの櫛描き沈線が４周する。同一工具による波状文	良好	密（１㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	外面：6条/cmのタテハケの後ナデ 内面：ヨコハケの後にタテ指ナデ	外面：淡黄褐色 内面：暗茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅱ－1期
－13	BKB－e－１	広口壺		27.0	2.5		口縁の上面に複線斜格子 側面に複線斜行線文	良好	やや密（１㎜以下の石英・長石等を含む）	ヨコナデ	外面：淡黄褐色 内面：黒褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/10	弥生Ⅲ－１期
－14	BNA－e－１	鉢		17.8	3.9		口縁下にキザミを持つ 貼付突帯	良好	密（１㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：６条/cmのタテハケ 内面：ナデ	表面：淡茶褐色 断面：淡褐色	口縁部1/12	弥生Ⅲ－１期
－15	BPa－１	脚台付鉢			5.2	12.0	三角形の透孔は8方向に開く？	良好	密（１㎜以下の石英・長石等を含む）	ヨコナデ	外面：暗褐灰色 内面：暗灰色 断面：淡褐灰色	脚部1/4	弥生Ⅲ－１期
－16	YDA－１	甕棺			9.4		タガ状の突帯を持つ	良好	やや粗（５㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：明橙褐色 内・断面：淡茶褐色	胴部の一部	弥生中期Ⅲ～Ⅳ 併行 北部九州の搬入品

第39表・西川津遺跡Ⅴ区出土・縄文土器観察表（1）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
28図－1	LAA－1	深鉢	V－1－2 砂レキ3	11.0	7.6			やや不良（やや軟質）	普通（繊維土器・1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：指ナデ 内面：条痕	全面：暗茶褐色	上半部の1/4	早期
－2	LAA－b－1	深鉢	V－1－1		3.7			やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む。繊維土器）	外面：斜行する条痕 内面：斜位の指オサエ	全面：暗灰色	口縁部近くの破片	菱根～長山式
－3	LAB－1	深鉢	V－1－2 暗灰粘	13.4	7.6		口縁頂部にキザミ	普通	普通（1㎜以下の石英・長石・雲母を含む）	外面：縄文 内面：条痕調整の後、斜位の指ナデ	全面：黒茶褐色	上半部の1/5	菱根～長山式 波状口縁？
－4	LAB－b－4	深鉢	V－2－2 SR01北砂層		3.1			普通	普通（繊維土器・1㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	外面：縄文 内面：横方向の条痕	外面：にぶい褐色 内面：淡灰褐色 断面：灰褐色	口縁部近くの破片	菱根～長山式
－5	LAB－b－6	深鉢	V－4－2 砂レキF		5.8			やや良好	やや粗（繊維土器・2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：縄文 内面：横方向の条痕	表面：暗茶褐色 断面：暗褐色	胴部の一部の破片	菱根～長山式
－6	LAC－b－1	深鉢	V－1－3 砂レキD		7.7			普通（やや軟質）	やや粗（繊維土器・1㎜以下の石英・長石・雲母・黒色粒をやや多く含む）	外面：縄文 内面：縄文	外面：暗茶褐色 内・断面：暗灰褐色	胴部の一部の破片	菱根～長山式
－7	LAF－b－1	深鉢	V－1－1 西側溝		6.6			普通	普通（繊維土器・1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：条痕？ 内面：撚糸文	表面：暗茶褐色 断面：黒灰色	胴部の一部の破片	菱根～長山式
－8	LAD－Ⅰ－3	深鉢	V－4－1 砂レキC		6.5		口縁頂部と突帯の側面上にキザミ	良好	やや粗（繊維土器・3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：扇状に展開する条痕文 内面：横方向のケズリ	全面：暗灰褐色	口縁部の一部のみ残存	長山式a 波状口縁？
－9	LAD－Ⅰ－4	深鉢	V－4－3		2.7		口縁頂部と突帯の側面上にキザミ	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：にぶい褐色 内・断面：灰褐色	口縁部の一部のみ残存	長山式a
－10	LAD－Ⅱ－2	深鉢	V－1－3 砂レキE		3.4		突帯の上面にキザミ	やや不良	やや密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：条痕 内面：磨滅のため調整不明	外面：黒灰色 内・断面：暗茶褐色	口縁部の一部のみ残存	長山式a
－11	LAD－Ⅱ－3	深鉢	V－4－2 地山上		4.7		突帯の側面にキザミ	やや不良（粉っぽい）	普通（1㎜以下の石英・長石・雲母を含む）	外面：流水状に展開する条痕文 内面：条痕調整の後、斜位の指ナデ	外面：黒褐色 内・断面：濃茶褐色	口縁部の一部のみ残存	長山式a 外面には煤が付着
－12	LAD－Ⅱ－4	深鉢	V－4－2 砂レキF		6.3		突帯の側面にキザミ	やや良好	やや粗（繊維土器・2㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：扇状に展開する条痕文 内面：横方向の条痕	外・断面：暗灰褐色 内面：暗褐色	口縁部の一部のみ残存	長山式a
－13	LAD－Ⅲ－1	深鉢	V－1－3 砂レキE		4.2		突帯側面に押引き刺突文	普通	普通（1.5㎜以下の石英・長石等を含む。0.5㎜以下の雲母を多く含む）	外面：横方向の条痕 内面：条痕調整の後、斜位の指ナデ	外面：黒褐色 内面：暗茶褐色 断面：暗灰褐色	口縁部の一部のみ残存	長山式a 外面には厚く煤が付着
－14	LAD－Ⅲ－2	深鉢	V－1－3 砂レキD		3.7		突帯側面に押引き刺突文	やや良好	粗（5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：横方向の条痕	外・断面：淡灰褐色 内面：暗褐色	口縁部の一部のみ残存	長山式a
－15	LAE－1	深鉢	V－1－2 砂レキ混細砂		5.2		押引き刺突文を施す	やや良好	普通（2.5㎜以下の石英・長石を含む）	外面：押引き刺突文 内面：斜位の指オサエ	外面：にぶい淡褐色 内面：暗茶褐色 断面：淡灰褐色	口縁部の一部のみ残存	長山式
－16	LAG－1	深鉢	V－1－2 砂レキ3		2.8		扁平な突帯側面に押引き刺突文	普通	普通（1㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内面：横位の指オサエ	全面：暗褐色	口縁部の一部のみ残存	長山～西川津式
－17	LAH－1	深鉢	V－4－3 SR01青灰砂	34.1	7.9		単純口縁	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む。繊維土器）	外面：扇状に展開する条痕文 内面：斜位の指オサエ	全面：淡灰褐色	口縁部1/7	長山式
－18	LAI－1	深鉢	V－2－2 粗砂	20.9	10.8		口縁肥厚帯上にキザミ	良好	密（1㎜以下の石英・長石・雲母等を僅かに含む）	外面：斜行する丁寧な条痕文 内面：横方向の条痕	外面：暗灰褐色 内面：暗褐色 断面：淡灰色	上半部の1/4	西川津式A－1
－19	LAJ－1	深鉢	V－1－1 南暗灰細砂	14.0	4.0		口縁肥厚帯はやや迫り上がる	良好	普通（2㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：刺突による複合鋸歯文 内面：タテの条痕の後、斜位の指ナデ	外面：黒褐色 内・断面：暗灰褐色	口縁部1/8	西川津式A－2 外面に煤付着
－20	LAJ－2	深鉢	V－1－1 南暗灰細砂		4.9		押引き刺突による複合鋸歯文	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：刺突による複合鋸歯文 内面：横位の条痕の後、斜位の指ナデ	外面：黒褐色 内面：灰褐色 断面：淡灰褐色	胴部の一部の破片	西川津式A－2 外面には厚く煤が付着
－21	LAK－1	深鉢	V－1－3 砂レキD		4.8		口縁肥厚帯はやや迫り上がる	やや不良	やや粗（2㎜以下の石英・長石・金雲母等をやや多く含む）	外面：斜行する条痕 内面：斜位の指オサエ	全面：暗茶褐色	口縁部の一部のみ残存	西川津式A－3 波状口縁
－22	LAK－3	深鉢	V－4－1 砂レキC		5.8		肥厚帯は口縁との一体化が進む	普通（やや脆い）	普通（1㎜以下の長石等を含む）	外面：斜行する条痕 内面：斜位の指オサエ	外面：黒茶褐色 内・断面：茶褐色	口縁部の一部のみ残存	西川津式A－3 外面に煤付着
－23	LAK－4	深鉢	V－1－2 砂レキ3		4.6		肥厚帯と本体の境に沈線を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外・断面：暗灰色 内面：にぶい褐色	口縁部の一部のみ残存	西川津式A－3
－24	LAL－Ⅰ－1	深鉢	V－4－2		3.4		口縁肥厚帯はやや迫り上がる	普通	やや粗（繊維土器・2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：斜位の指オサエ	全面：暗茶褐色	口縁部の一部のみ残存	西川津式A－3

第40表・西川津遺跡Ⅴ区出土・縄文土器観察表（２）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
28図－25	LAL－Ⅰ－2	深鉢	Ⅴ－2－2 最下層粗砂	14.0	6.4		肥厚帯は口縁との一体化が進む	普通	普通（1.5㎜以下の石英･長石を含む）	外面：斜行する条痕 内面：斜位の指オサエ	外面：黒褐色 内・断面：暗茶褐色	上半部の1/5	西川津式A－3 外面全体に煤付着
－26	LAL－Ⅱ－1	深鉢	Ⅴ－4－1 砂レキE	18.4	9.7		肥厚帯は口縁との一体化が進む	やや良好	粗（４㎜以下の石英・長石・黒色粒・雲母を多く含む）	外面：斜行する条痕 内面：斜位の指オサエ	外面：黒灰色 内面：黒茶褐色 断面：暗灰色	上半部の1/6	西川津式A－3 波状口縁
－27	LAL－Ⅱ－3	深鉢	Ⅴ－1－3 砂レキD		5.4		肥厚帯は口縁から迫り上がる	やや良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：半裁竹管状工具による押引き刺突 内面：斜位の指オサエ	全面：暗褐色	口縁部の一部のみ残存	西川津式A－3
－28	LAM－1	深鉢	Ⅴ－4－1 砂レキC		4.4		押引き刺突による複合鋸歯文	普通	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：刺突による複合鋸歯文 内面：斜行する条痕	外面：暗茶褐色 内・断面：暗灰褐色	口縁部の一部のみ残存	西川津式A－3′
－29	LGA－1	深鉢	Ⅴ－4－1		4.3		沈線による複合鋸歯文	やや不良（軟質）	やや粗（1.5㎜以下の石英･長石･黒色粒等をやや多く含む）	外面：横位の沈線 内面：ナデ	外面：暗褐色 内・断面：にぶい褐色	胴部の一部	西川津式A
－30	LAV－1	深鉢	Ⅴ－1－1 地山上	30.6	13.5			やや良好	普通（１㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：中段以外は横位の条痕 内面：横位の条痕	表面：暗茶褐色 断面：淡灰褐色	上半部の1/3	西川津AB折衷 補修用の穿孔
－31	LAV－2	深鉢	Ⅴ－4－4 粗砂		6.0		浅い押引き刺突文	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：押引き刺突による複合鋸歯文 内面：斜位の指オサエ	全面：淡灰褐色	口縁部の1/8	西川津AB折衷 波状口縁
－32	LAV－3	深鉢	Ⅴ－4－1 砂レキD	18.7	4.4			普通（やや脆い）	普通（１㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕	外面：暗褐色 内・断面：暗茶褐色	上半部の1/6	西川津AB折衷
－33	LAV－8	深鉢	Ⅴ－1－1 暗灰細砂	10.3	6.4		28図－30の矮小化したもの	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石･黒色粒等をやや多く含む）	外面：肩部以外は横位の条痕 内面：横位の条痕	表面：淡灰褐色 断面：灰褐色	上半部の1/6	西川津AB折衷
－34	LAX－1	深鉢	Ⅴ－1－2 砂レキ３		5.1		沈線による複合鋸歯文	やや良好	密（0.5㎜以下の石英･長石等を含む）	外面：沈線による複合鋸歯文 内面：横位の条痕	外面：黒褐色 内面：暗褐色 断面：にぶい褐色	口縁部の一部のみ残存	西川津AB折衷
－35	LAX－2	深鉢	Ⅴ－1－1		4.7		沈線による複合鋸歯文	普通	普通（２㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：沈線による複合鋸歯文 内面：横位の条痕	外面：黒褐色 内・断面：黒茶褐色	胴部の一部	西川津AB折衷 外面は煤付着
29図－１	LAO－1	深鉢	Ⅴ－1－2 暗灰細砂		8.2		口縁肥厚帯の下端にキザミ	普通（やや脆い）	普通（１㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕	表面：黒茶褐色 断面：暗茶褐色	口縁部の一部のみ残存	西川津式B－1
－２	LAO－b－1	深鉢	Ⅴ－4－1 砂レキE		4.1		押引き刺突による複合鋸歯文	普通（やや脆い）	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：暗茶褐色 内・断面：黒褐色	胴部の一部	西川津式B－1
－３	LAP－1	深鉢	Ⅴ－1－1		7.4		胴部の微隆帯上にキザミ	普通（やや脆い）	普通（１㎜以下の石英・長石・雲母を含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕	外・断面：暗褐色 内面：黒褐色	胴部の一部	西川津式B－1
－４	LAP－2	深鉢	Ⅴ－4－2 砂レキF		5.8		胴部に３条以上の微隆帯	普通	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕	表面：黒茶褐色 断面：暗灰褐色	胴部の一部	西川津式B－1 外面全体に煤付着
－５	LAQ－2	深鉢	Ⅴ－1－3 砂レキC		5.4		微隆帯の上下に押引き刺突文	普通	普通（１㎜以下の石英・長石・雲母を含む）	外面：ナデ 内面：斜行する条痕	外・断面：黒茶褐色 内面：暗茶褐色	胴部1/6	西川津式B－1 器壁が薄い
－６	LAR－1	深鉢	Ⅴ－1－3 砂レキC		2.8		押引き刺突文	普通	普通（１㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ナデ 内面：横位の条痕	外・断面：黒褐色 内面：にぶい褐色	口縁部の一部のみ残存	西川津式B－2 器壁が薄い
－７	LAS－2	深鉢	Ⅴ－4－3 砂レキB		6.1		器高が低い	普通	やや粗（繊維土器・２㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕	外・断面：淡茶褐色 内面：暗褐色	胴屈曲部1/8	西川津式B－2
－８	LAT－1	深鉢	Ⅴ－1－2 粗砂		5.3		器高が低い	やや不良（やや脆い）	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：屈曲より上部は横位の条痕 内面：横位の条痕	外面：暗褐色 内面：黒茶褐色 断面：黒褐色	胴屈曲部1/6	西川津式B－3
－９	LAT－5	深鉢	Ⅴ－4－3 砂レキA		3.8		器高が低い	やや不良（やや脆い）	やや粗（２㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕	外・断面：暗褐色 内面：淡灰褐色	胴屈曲部の一部	西川津式B－3
－10	LAU－2	深鉢	Ⅴ－2－2 SR01青灰砂		6.1		微隆帯にキザミを入れる	普通	やや粗（２㎜以下の石英・長石・雲母を多く含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕	外面：暗茶褐色 内・断面：にぶい褐色	胴屈曲部の一部	西川津式B
－11	LAU－1	深鉢	Ⅴ－1－3 砂レキD		4.4		微隆帯にキザミを入れる	普通（やや脆い）	普通（２㎜以下の石英・長石・雲母をやや多く含む）	外面：斜行する条痕 内面：横位の条痕の後、斜位の指ナデ	全面：黒茶褐色	胴部の一部	西川津式B
－12	LAU－9	深鉢	Ⅴ－4－2 砂レキF		4.7		沈線文	普通	粗（３㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	内面：横位の条痕	表面：淡灰褐色 断面：暗灰色	胴屈曲部の一部	西川津式B
－13	LAW－1	深鉢	Ⅴ－1－1 南砂レキ		7.1		胴部にヘラ描きの鋸歯文	普通（やや脆い）	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内面：横位の条痕	外面：黒灰色 内・断面：暗褐色	胴部1/8	口縁部の一部
－14	LAW－3	深鉢	Ⅴ－1－1 細砂		6.4		口縁肥厚帯に押引き刺突による複合鋸歯文	やや良好	普通（２㎜以下の石英・長石・雲母をやや多く含む）	外面：扇状に展開する条痕文 内面：斜位の指オサエ	外面：黒褐色 内・断面：暗茶褐色	口縁部の一部	口縁部の一部

第41表・西川津遺跡Ⅴ区出土・縄文土器観察表（３）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
29図－15	LAY－b－3	深鉢	Ⅴ－4－3 砂レキA		3.9		押引き刺突文	普通（やや脆い）	普通（１㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕	全面：黒茶褐色	胴部の一部	西川津式～羽島下層Ⅱ式
－16	LBA－1	深鉢	Ⅴ－4－3 砂レキX		3.6		押引き刺突文	やや良好	普通（繊維土器・１㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：暗灰褐色 内・断面：暗茶褐色	口縁部の一部	羽島下層Ⅰ式
－17	LBB－b－1	深鉢	Ⅴ－4－3 砂レキB		5.0		D字押引き刺突文	やや良好	やや密（0.5㎜以下の石英・長石等を含む）	内面：横位の条痕	全面：黒茶褐色	胴部下半の一部	羽島下層Ⅱ式
－18	LBB－b－2	深鉢	Ⅴ－1－2 砂レキ３		4.2		D字刺突文	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内面：横位の条痕	外面：暗茶褐色 内・断面：黒茶褐色	口縁部の一部	羽島下層Ⅱ式
－19	LBD－b－1	深鉢	Ⅴ－4－1		6.2		C字爪形文	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内面：横位の条痕	全面：暗灰褐色	口縁部の一部	北白川下層Ⅰb式
－20	LBD－b－2	深鉢	Ⅴ－4－2 砂レキF		4.8		C字爪形文	普通	やや粗（３㎜以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む）	内面：ナデ	全面：黒褐色	胴部の一部	北白川下層Ⅰb式
－21	LBD－b－3	深鉢	Ⅴ－4－2		3.4		C字爪形文	普通	やや粗（１㎜以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む）	内面：ナデ	外・断面：暗褐色 内面：黒褐色	胴部の一部	北白川下層Ⅰb式
－22	LBD－b－5	深鉢	Ⅴ－1－3 砂レキD		7.3		押引き状のC字爪形文	やや不良（やや脆い）	やや粗（３㎜以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む）	内面：ナデ	表面：暗茶褐色 断面：濃茶褐色	胴部の一部	北白川下層Ⅰb式
－23	LBE－1	深鉢	Ⅴ－4－3 砂レキB		3.0		口縁頂部にキザミ	普通	普通（１㎜以下の石英・長石等を含む）	内面：丁寧なナデ 外面：横位の条痕	表面：黒褐色 断面：暗茶褐色	口縁部の一部	北白川下層Ⅰb式
－24	LBE－5	深鉢	Ⅴ－4－3 砂レキB		5.7		口縁頂部にキザミ	普通	普通（１㎜以下の石英等を含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕	全面：黒褐色	口縁部の一部	北白川下層Ⅰb式
－25	LBG－1	深鉢	Ⅴ－4－1		5.1		口縁頂部にキザミ円形刺突	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内面：横位の条痕	表面：暗茶褐色 断面：黒褐色	口縁部の一部	北白川下層Ⅱa式 波状口縁
－26	LBI－1	深鉢	Ⅴ－1－3 砂レキC		8.5		微隆帯の上下に半裁竹管で連続刺突を施す	やや良好	粗（２㎜以下の石英・長石・金雲母等をやや多く含む）	外面：縄文 内面：磨滅のため不明	外・断面：濃灰色 内面：暗褐色	胴部の一部	大歳山式
－27	LBO－1	深鉢	Ⅴ－4－2 砂レキJ		4.1		波状口縁	普通	やや粗（２㎜以下の石英・長石・金雲母等をやや多く含む）	外面：条痕調整の後、粗いナデ 内面：ナデ	表面：黒茶褐色 断面：暗灰色	口縁部の一部	前期初頭 波状口縁
－28	LBP－1	深鉢	Ⅴ－1－3 砂レキE		5.1		やや厚手	やや良好	普通（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕調整後、ナデ	外面：黒褐色 内面：にぶい褐色 断面：にぶい淡褐色	口縁部の一部	羽島下層Ⅱ式
－29	LBQ－1	深鉢	Ⅴ－4－2 砂レキJ		7.6			普通	やや粗（繊維土器・２㎜以下の石英・長石等を含やや多く含む）	外面：粗いナデ 内面：横位の条痕	外・断面：黒灰色 内面：暗茶褐色	口縁部の一部	北白川下層Ⅱa式？ 波状口縁
－30	LBR－2	深鉢	Ⅴ－4－2		3.8			普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕	外面：黒茶褐色 内・断面：暗茶褐色	口縁部の一部	羽島下層Ⅱ式？
－31	LBS－5	深鉢	Ⅴ－2－2 SR01		7.7			やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英等をやや多く含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕	表面：暗茶褐色 断面：淡灰褐色	胴部の一部	前期初頭
－32	LBT－1	深鉢	Ⅴ－4－2 砂レキE		7.5			普通	やや粗（繊維土器・３㎜以下の石英・長石等を含やや多く含む）	外面：横位の条痕 内面：ナデ	内・断面：黒褐色 外面：淡灰褐色	胴部の一部	前期初頭
－33	LBU－1	深鉢	Ⅴ－4－1 砂レキC		6.6			普通	やや粗（繊維土器・２㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含やや多く含む）	外面：横位の条痕 内面：粗いナデ	外面：暗灰褐色 内面：にぶい褐色 断面：暗茶褐色	胴部の一部	前期初頭
－34	LBY－1	深鉢	Ⅴ－4－2 暗灰粘土		6.1			やや良好	やや粗（４㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：斜位の条痕 内面：ケズリ	表面：暗褐色 断面：灰褐色	胴部1/7	前期初頭
30図－１	LCA－1	深鉢	Ⅴ－4－2 砂レキF		3.1		口縁内面に肥厚	普通	粗（２㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：縄文？ 内面：磨滅のため調整不明	全面：暗灰褐色	口縁部の一部	船元式 外面に煤付着
－２	LCA－b－1	深鉢	Ⅴ－4－3 砂レキY		3.6			普通	粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：縄文 内面：ナデ	外・断面：にぶい褐色 内面：暗灰褐色	胴部の一部	船元式
－３	LCB－1	深鉢	Ⅴ－1－2 細砂		5.8			やや良好	やや粗（１㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：細縄文 内面：丁寧なナデ	外面：暗灰色 内・断面：暗茶褐色	胴部の一部	里木Ⅱ式
－４	LCC－1	深鉢			3.4		半裁竹管状工具による波状文	やや不良	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内面：ナデ	外・断面：灰褐色 内面：淡褐色	口縁部の一部	里木Ⅱ式
－５	LCC－Ⅱ－1	深鉢	Ⅴ－4－1 砂レキA		4.1		波状沈線の間に刺突を施す	やや良好	粗（８㎜以下の石英・長石等を多量に含む）	内面：ナデ	外・断面：暗灰褐色 内面：濃褐色	口縁部の一部	里木Ⅲ式

第42表・西川津遺跡Ⅴ区出土・縄文土器観察表（4）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
30図－6	LCD－1	浅鉢	Ⅴ－1－1 西細砂		5.6		磨消縄文？	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	内面：ナデ	外・断面：にぶい橙褐色 内面：にぶい褐色	口縁部の一部	中津Ⅰ式
－7	LCD－b－1	深鉢	Ⅴ－1－2 砂レキ3		2.7		磨消縄文	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	内面：磨滅のため調整不明	全面：淡灰褐色	口縁部の一部	中津Ⅰ式
－8	LCE－b－1	深鉢	Ⅴ－1－3 砂レキD		3.8		磨消縄文	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内面：ナデ	外面：暗褐色 内・断面：灰褐色	胴部の一部	中津Ⅱ式
－9	LCF－2	深鉢	Ⅴ－1－2 砂レキ3		4.8		磨消縄文	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内面：ナデ	外・断面：濃灰色 内面：暗褐色	口縁部の一部	中津Ⅲ式
－10	LCF－5	浅鉢	Ⅴ－4－1		4.2		口縁下に2条の沈線	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	内面：ナデ	外面：にぶい褐色 内面：淡橙褐色 断面：暗灰色	口縁部の一部	中津Ⅲ式
－11	LCG－4	深鉢	Ⅴ－4－3 砂レキX		3.5			やや不良	粗（3㎜以下の石英・長石等を多くを含む）	内面：磨滅のため調整不明	全面：暗褐色	口縁部の一部	晩期の可能性あり
－12	LCG－b－3	深鉢	Ⅴ－4－3 砂レキA		6.1			やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外・断面：黒褐色 内面：暗褐色	口縁部の一部	後期末？
－13	LCH－b－1	深鉢	Ⅴ－1－2 砂レキ3		4.1			やや不良	やや粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	内面：ナデ	外面：淡赤褐色 内・断面：黒褐色	胴部の一部	中津Ⅲ式
－14	LCI－1	深鉢	Ⅴ－1－3 砂レキE	20.7	3.4		口縁下の屈曲部にキザミ	やや不良	粗（2㎜以下の石英・長石等を多くを含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：ナデ	外面：暗褐色 内・断面：暗茶褐色	口縁部1/12	後期前葉
－15	LCJ－1	深鉢	Ⅴ－4－2 砂レキD		11.3		磨消縄文	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・雲母を多く含む）	内面：横位の粗いケズリ	外面：暗茶褐色 内・断面：淡茶褐色	胴部の一部	彦崎KI式
－16	LCK－1	深鉢	Ⅴ－4－1 砂レキB		3.0		ヘラ描き沈線の条間に刺突を施す	やや良好	粗（2㎜以下の石英・長石・雲母等を多く含む）	内面：ナデ	外面：暗褐色 内・断面：黒灰色	胴部の一部	元住吉山Ⅰ式
－17	LCK－3	深鉢	Ⅴ－4－3 砂レキA		4.3			やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	内面：条痕調整の後、ナデ消し	外面：暗褐色 内・断面：黒灰色	胴部中央付近の1/10	元住吉山Ⅰ式
－18	LCL－1	注口土器	Ⅴ－4－2 砂レキF		4.1		注口の上面に文様	やや良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	表面：ナデ	全面：暗褐色	注口部分のみ	元住吉山式
－19	LCL－2	注口土器	Ⅴ－4－1 砂レキB		3.3		18と同一個体か	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：ヘラミガキ？	外・断面：暗灰色 内面：黒褐色	胴上半の1/5	元住吉山Ⅰ式
－20	LCM－1	深鉢	Ⅴ－1－3 砂レキA		5.4		凹線を施す	やや不良	やや粗（1㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	全体的に磨滅しており調整不明	外・断面：灰褐色 内面：暗灰褐色	口縁下の一部	宮滝式
－21	LCM－2	深鉢	Ⅴ－1－2 砂レキ3		4.8		凹線を施す	やや良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：暗黄褐色 内面：黒褐色 断面：暗灰色	口縁下の一部	宮滝式
－22	LDA－1	深鉢	Ⅴ－4－2 砂レキF	18.6	8.2		突帯は口縁より下がった位置につく	やや良好	普通（1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕	全面：にぶい褐色	上半部1/8	山陰突帯文Ⅰ期
－23	LDB－1	深鉢	Ⅴ－1－3 砂レキC	15.0	7.4		突帯は口縁より下がった位置につく	やや良好	普通（1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	全面：暗褐色	上半部1/5	山陰突帯文Ⅰ期
－24	LDD－1	深鉢	Ⅴ－4－2 砂レキF		6.0		突帯は口縁より下がった位置につく	良好	普通（2㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：縦位の条痕 内面：横位の条痕調整の後、ナデ	外・断面：黒茶褐色 内面：暗茶褐色	口縁部の一部	山陰突帯文Ⅰ期 西川津式の可能性あり
－25	LDC－2	深鉢	Ⅴ－4－1 砂レキB	34.8	8.8		断面三角形の突帯にキザミを入れる	良好	粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：横位のケズリ 内面：横位のケズリ	全面：灰褐色	口縁部1/8	山陰突帯文Ⅱ期
－26	LDE－1	深鉢	Ⅴ－1－1 砂レキ2	29.7	6.2		突帯は高く突出する	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：斜行する条痕 内面：横位の条痕	外面：にぶい灰褐色 内面：にぶい褐色 断面：暗褐色	上半部1/10	山陰突帯文Ⅱ期
－27	LDF－1	深鉢	Ⅴ－4－2 砂レキF		3.3		突帯は端面上向き三角形	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：横ナデ	外面：暗褐色 内・断面：暗灰褐色	口縁部の一部	山陰突帯文Ⅱ期
－28	LDG－1	深鉢	Ⅴ－1－3 砂レキD		5.0		突帯は断面上向き三角形でキザミ有り	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：粗いナデ 内面：横位の条痕	外面：にぶい褐色 内面：淡黄褐色 断面：淡灰褐色	口縁部の一部	山陰突帯文Ⅱ期
－29	LDH－2	深鉢	Ⅴ－1－2 砂レキ3		4.8		断面丸形の突帯で口縁と一体化する	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕	外面：にぶい淡褐色 内面：にぶい淡灰褐色 断面：灰褐色	口縁部の一部	山陰突帯文Ⅱ期

第43表・西川津遺跡Ⅴ区出土・縄文土器観察表（５）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
30図－30	LDH－3	深鉢	V－1－2 砂レキ3		12.3		断面が低い三角形の突帯にキザミ	普通（やや脆い）	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含み、砂っぽい）	外面：斜行する粗い条痕 内面：横ナデ	外面：にぶい淡褐色 内面：にぶい褐色 断面：濃灰色	口縁部の一部	山陰突帯文Ⅱ期
－31	LDL－1	深鉢	V－1－2 砂レキ3		7.8		突帯は口縁端部より迫り上がる	やや良好	普通（１㎜以下の石英・長石等を含む）		外面：にぶい淡褐色 内・断面：淡灰褐色	上半部1/12以下	山陰突帯文Ⅲ期
－32	LDI－2	深鉢	V－4－1 砂レキB	24.8	11.1		突帯は口縁端部より迫り上がって一体化	やや良好	やや粗（１㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：横位のケズリ 内面：ナデ	外面：暗茶褐色 内面：暗灰褐色 断面：黒褐色	上半部1/5	山陰突帯文Ⅱ期 （沢田式併行）
31図－１	LDI－3	深鉢	V－4－1 砂レキB	27.7	6.5		突帯は口縁端部より迫り上がって一体化	良好	やや粗（１㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：斜行する粗い条痕 内面：横位の条痕	外面：白褐色 内・断面：にぶい褐色	上半部1/8	山陰突帯文Ⅱ期 （沢田式併行）
－２	LGD－1	深鉢	V－4－1 砂レキB		4.3		胴部に断面台形の突帯をつける	やや良好	粗（２㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：横位のケズリ	外面：淡灰褐色 内面：にぶい褐色 断面：暗褐灰色	胴部の一部	山陰突帯文Ⅱ期 （沢田式併行）
－３	LDJ－2	深鉢	V－1－2 砂レキ3		7.9		低平になった突帯は口縁と一体化している	やや良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：斜行する粗い条痕 内面：粗いナデ	外面：にぶい褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：黒褐色	口縁部の一部	山陰突帯文Ⅲ期 外面に煤付着
－４	LDK－1	深鉢	V－1－2 砂レキ3	36.9	10.2		突帯は口縁と一体化し、頂部に平坦面を形成する	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：粗いナデ 内面：横位の粗い条痕	外面：淡褐色 内・断面：淡橙褐色	口縁部の1/6	山陰突帯文Ⅲ期
－５	LDK－3	深鉢	V－1－1 砂レキ		10.3		突帯は口縁と一体化器壁は薄い	良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：横位の粗い条痕 内面：横位の粗い条痕	外・断面：淡灰褐色 内面：淡褐色	上半部の一部	山陰突帯文Ⅲ期
－６	LDL－2	深鉢	V－4－1 砂レキD	29.2	7.6		突帯は口縁と一体化している	やや良好	普通（２㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：やや粗い横方向の指ナデ 内面：丁寧なナデ	外面：淡灰白色 内・断面：淡褐色	上半部1/8	山陰突帯文Ⅲ期
－７	LDM－1	深鉢	V－4－1 砂レキB		2.3		口縁内面を竹管状工具で刺突する	普通	やや粗（２㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	全面：灰褐色	口縁部の一部	晩期 孔列土器
－８	LDN－1	深鉢	V－4－1 砂レキC	30.5	7.5		突帯は微隆帯状になっている	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：粗いナデ 内面：粗いナデ	外面：黒褐色 内・断面：暗茶褐色	上半部1/5	山陰突帯文Ⅲ－新期
－９	LDO－1	深鉢	V－4－2 砂レキF	30.5	5.7		口縁端部に上方からキザミを入れる	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石・黒色粒・金雲母をやや多く含む）	外面：やや粗い横方向の条痕 内面：浅い横位の条痕	外面：暗茶褐色 内・断面：黒茶褐色	上半部1/6	滋賀里Ⅳ
－10	LDP－1	深鉢	V－1－1 砂レキ		4.1		粗製	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：斜行する粗い条痕 内面：粗いナデ	外面：暗灰褐色 内面：暗黄褐色 断面：黒褐色	口縁部の一部	晩期
－11	LDQ－1	深鉢	V－1－2 砂レキ3	31.0	5.2		粗製	普通	粗（２㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：粗いナデ 内面：粗いナデ	外・断面：淡灰褐色 内面：にぶい褐色	口縁部1/8	晩期
－12	LDR－1	深鉢	V－4－2 砂レキF	29.7	6.1		粗製	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：横位のケズリ 内面：ナデ	外・断面：暗灰色 内面：黒灰色	上半部1/8	晩期
－13	LDS－1	深鉢	V－1－2 砂レキ3		5.8		突帯は痕跡的な微隆帯状になっている	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：粗いナデ 内面：粗いナデ	外・断面：暗褐色 内面：黒褐色	口縁部の一部	山陰突帯文Ⅲ－新期
－14	LDT－1	深鉢	V－1－1 南砂レキ		5.7		粗製	普通	やや粗（１㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：粗いナデ 内面：横位の条痕	外・断面：暗褐色 内面：淡灰褐色	口縁部の一部	晩期 補修用の穿孔がある
－15	LDV－3	深鉢	V－4－3 砂レキY		3.5		粗製	やや良好	やや粗（１㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含み、砂っぽい）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：黒褐色	口縁部の一部	晩期
－16	LDW－3	深鉢	V－1－3		7.1		粗製	普通	普通（２㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：粗いナデ 内面：粗いナデ	外面：暗茶褐色 内・断面：暗灰褐色	口縁部の一部	晩期 波状口縁？ 外面被熱
－17	LDW－4	深鉢	V－4－2		7.6		粗製	やや不良（軟質）	粗（２㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：粗いナデ 内面：粗いナデ	外面：暗褐色 内・断面：暗灰色	口縁部の一部	晩期
－18	LDX－1	深鉢	V－4－1 砂レキC		5.9		粗製	普通	やや粗（２㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：粗いナデ 内面：横位のケズリ	全面：淡灰褐色	口縁部の一部	晩期
－19	LDY－1	深鉢	V－1－1 砂レキ2	23.0	8.1		粗製	良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：横位の条痕 内面：横位の条痕	外・断面：淡灰褐色 内面：淡黄褐色	上半部1/6	晩期
－20	LEQ－3	深鉢	V－1－1 砂レキ		4.2		突帯は口縁部と一体化している	やや良好	やや粗（４㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：横位の条痕 内面：非常に丁寧なナデ	外面：淡灰色 内・断面：淡灰褐色	口縁部の一部	縄文晩期～弥生Ⅰ期 突帯文系

第44表・西川津遺跡Ⅴ区出土・縄文土器観察表（6）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
31図－21	LEQ－4	深鉢	Ⅴ－1－3 砂レキC		2.5		器壁が薄い	やや良好	普通（1㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：非常に丁寧なナデ	全面：淡褐色	口縁部の一部	縄文晩期～弥生Ⅰ期 突帯文系
－22	LEQ－6	深鉢	Ⅴ－4－2 砂レキF	24.3	3.8		口縁端部にキザミを入れる	良好	普通（2㎜以下の石英・長石・赤色粒等を含む）	外面：タテハケ後にナデ 内面：ナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/10	縄文晩期～弥生Ⅰ期 突帯文系 外面に煤付着
－23	ZEX－1	深鉢	Ⅴ－1－1	36.8	16.1		外傾接合	やや良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	全面：淡黄灰色	上半部1/8	縄文晩期～弥生Ⅰ期 突帯文系
32図－1	LEK－1	深鉢	Ⅴ－1－1 砂レキ		7.1		粗製	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒・金雲母等をやや多く含む）	外面：ケズリ 内面：ナデ	外面：淡灰褐色 内面：にぶい褐色 断面：褐灰色	胴部の一部	晩期
－2	LEA－1	深鉢	Ⅴ－1－1 砂レキ2		8.7		粗製	やや良好	普通（2㎜以下の石英・長石・黒色粒・金雲母等をやや多く含む）	外面：斜行する条痕 内面：ナデ	全面：暗黄褐色	胴部中央1/6	晩期
－3	LEP－1	注口土器	Ⅴ－1－3 砂レキC	孔径 1.2	残長 7..8			普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	表面：やや幅広のミガキ	全面：灰褐色	注口部分のみ	晩期
－4	LFA－1	浅鉢	Ⅴ－1－2 砂レキ3		3.2		口縁部直下に沈線	普通	粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	磨滅のため調整不明	外・断面：暗灰褐色 内面：暗褐色	口縁部の一部	滋賀里Ⅰ式
－5	LFB－1	浅鉢	Ⅴ－1－2 砂レキ3		4.5		山形文の一部	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内面：ナデ	外面：にぶい褐色 内・断面：淡灰褐色	胴部の一部	滋賀里Ⅱ式 被熱
－6	LFC－2	浅鉢	Ⅴ－1－2 砂レキ3		4.7		長頸	普通	普通（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：上半は丁寧なナデ。下半は粗ナデ 内面：丁寧なナデ	外面：灰褐色 内・断面：暗茶褐色	胴部の一部	滋賀里Ⅲb式
－7	LFD－1	浅鉢	Ⅴ－1－3 砂レキE		3.1		口縁の一部が突起状に張り出す	良好	普通（1㎜以下の石英・長石等を含む）	表面：丁寧に研磨される	外面：暗茶褐色 内・断面：黒褐色	口縁部の一部	滋賀里Ⅲb式
－8	LFD－2	浅鉢	Ⅴ－1－3 砂レキC	18.9	3.8		複合口縁状を呈す	良好	普通（1㎜以下の石英・長石等を含む）	表面：ヨコナデ	外面：灰褐色 内・断面：淡灰褐色	口縁部1/8	滋賀里Ⅲb式
－9	LFE－1	浅鉢	Ⅴ－1－2 細砂	26.9	2.3		口縁端部を内外に肥厚させる	やや良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	表面：丁寧に研磨される	表面：黒褐色 断面：褐灰色	口縁部1/12	滋賀里Ⅲa式
－10	LFF－1	浅鉢	Ⅴ－1－3 砂レキD		3.6		口縁内側に沈線を施す	やや良好	粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	全面：暗褐色	口縁部の一部	滋賀里Ⅱ式
－11	LFG－1	浅鉢	Ⅴ－1－3 砂レキD	13.1	2.6		口縁の内側に突帯	普通	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：ヨコナデ	外面：灰褐色 内・断面：暗灰色	口縁部1/7	滋賀里Ⅳ式？
－12	LFH－1	浅鉢	Ⅴ－1－2 砂レキ3	36.0	4.6		口縁部は内傾、外反する	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	外面：横位の条痕 内面：ナデ	外面：褐灰色 内・断面：灰褐色	口縁部1/8	口酒井・船橋式併行
－13	LFI－1	浅鉢	Ⅴ－1－3 砂レキE	14.0	2.9		口径も小さく浅い	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：丁寧なナデ 内面：強いナデ	全面：黒褐色	口縁部1/6	長原式併行 山陰突帯文Ⅲ－古期
－14	LFJ－2	浅鉢	Ⅴ－1－2	23.3	3.3		口径も小さく浅い	やや良好	普通（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：灰褐色 内面：暗褐色 断面：濃灰色	口縁部1/10	晩期
－15	LDZ－2	浅鉢	Ⅴ－4－3		2.8	10.8	高台状の突帯	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：にぶい淡褐色 内・断面：にぶい褐色	底部1/5	晩期
－16	KDD－1	土器片錘	Ⅴ－4－3 砂レキB	全長 5.6	幅 6.9		押引き刺突による複合鋸歯文	やや良好	普通（1㎜以下の石英・長石等を含む）	内面：条痕	外面：黒褐色 内面：黒茶褐色 断面：暗茶褐色	完形	西川津式A－3転用 外面には煤付着
－17	KDE－1	土器片錘	Ⅴ－1－1 南細砂	7.7	7.1			普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・雲母をやや多く含む）	外面：条痕 内面：条痕	全面：黒茶褐色	完形	西川津式転用
－18	KDC－1	土器片錘	Ⅴ－2－2 SR01暗灰砂	7.7	6.2		キザミを伴う微隆帯が2条以上	普通	普通（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	内面：条痕	外面：黒茶褐色 内面：暗茶褐色 断面：淡褐色	完形	西川津式B－1転用 外面には煤付着
－19	KBA－1	土器片錘	Ⅴ－4－3 砂レキX	6.5	5.6			やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：条痕 内面：磨滅のため調整不明	外面：にぶい淡褐色 内・断面：淡灰褐色	完形	晩期粗製深鉢転用
－20	KDF－1	土器片錘	Ⅴ－4－3 砂レキA	7.6	7.3			やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・金雲母をやや多く含む）	外面：条痕 内面：条痕	全面：灰褐色	ほぼ完形	晩期粗製深鉢転用

第45表・西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器観察表（１）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
33図－1	AAA－a－2	甕	Ｖ－1－2 砂レキ3	30.2	13.0		如意形口縁	普通	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ヨコハケ？ 内面：3～4条/cmのヨコハケ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅰ期
－2	AAA－b－33	甕	Ｖ－4－1 砂レキD	21.2	9.3		如意形口縁	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：9条/cmのタテハケ 内面：6条/cmの斜行ハケ	外面：黒褐色 内面：茶褐色 断面：淡茶褐色	口縁部1/6	弥生Ⅰ期 口縁直下に煤が厚く付着
－3	AAB－a－4	甕	Ｖ－1－1 南砂レキ	30.4	8.4		如意形口縁	普通	粗（3㎜以下の石英・長石・金雲母・赤色粒を多く含む）	外面：5条/cmの斜行ハケ 内面：5条/cmの斜行ハケ	外面：にぶい褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/8	弥生前期Ⅰ－2～4 外面全体に煤が付着
－4	AAB－b－44	甕	Ｖ－1－3 砂レキ3	26.0	10,1		如意形口縁	普通	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：8条/cmのタテハケ後、斜行ハケ 内面：5条/cmの斜行ハケ	外面：淡褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/8	弥生前期Ⅰ－2～4 外面に黒斑
－5	AAB－b－45	甕	Ｖ－1－1 南砂レキ	28.4	5.9		如意形口縁	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：5条/cmの斜行ハケ 内面：ナデ	外：断面：淡茶褐色 内面：暗茶褐色	上半部1/8	弥生前期Ⅰ－2～4 胴部外面に煤付着
－6	AAA－c－10	甕	Ｖ－1－3 砂レキC	16.3	11.3		如意形口縁	普通	粗（5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：5条/cmのタテハケ 内面：ナデ？	外・断面：淡褐色 内面：淡赤褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ期
－7	AAC－b－4	甕	Ｖ－1－2 砂レキ3	24.2	6.6		如意形口縁	普通	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：4条/cmのタテハケ 内面：4条/cmの斜行ハケ	外面：橙褐色 内面：淡褐色 断面：淡橙褐色	口縁部1/12	弥生Ⅱ期?
－8	AAC－a－10	甕	Ｖ－2－2 SR01	31.2	5.3		如意形口縁	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：横方向のヘラミガキ	外・断面：淡褐色 内面：淡桃褐色	口縁部1/10	弥生Ⅰ期
－9	AAB－c－5	甕	Ｖ－1－3 砂レキD	16.0	7.5		如意形口縁	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	外面：8条/cmのタテハケ 内面：ナデ	全面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅰ～Ⅱ期
－10	AAC－c－1	小型甕	Ｖ－1－3 砂レキA	14.4	7.6		如意形口縁	良好	粗（3㎜以下の石英・長石を含む）	外面：器壁剥離のため不明 内面：ナデ	表面：暗褐色 断面：黒褐色	口縁部1/3	弥生Ⅰ～Ⅱ期
－11	AAE－b－12	甕	Ｖ－4－2 砂レキF	22.0	4.6		如意形口縁 口縁内面にアクセント	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：7条/cmの斜行ハケ 内面：6条/cmの斜行ハケ後、指オサエ	外面：黒褐色 内・断面：淡茶褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－2～3期 外面全体に煤が付着
－12	AAE－c－1	甕	Ｖ－1－2 砂レキ3	17.6	10.9		如意形口縁 口縁内面にアクセント	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：5条/cmのタテハケ 内面：6条/cmの斜行ハケ後、指オサエ	外面：淡茶褐色 内面：淡橙褐色 断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－2～3期
－13	AAF－a－1	甕	Ｖ－1－3 砂レキE	38.5	7.6		如意形口縁 口縁内面にアクセント	やや良好	やや粗（4㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：8条/cmのタテハケ後、ナデ 内面：8条/cmの横ハケ	外面：灰褐色 内面：淡黄褐色 断面：暗褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ期 外面全体に煤が付着 内面に黒斑
－14	AAF－b－16	甕	Ｖ－4－3 砂レキB	24.0	9.7		如意形口縁 口縁内面にアクセント	良好	普通（2㎜以下の石英・長石・等を含む）	外面：4条/cmのタテハケ後、ナデ 内面：4条/cmの横ハケ	外面：暗茶褐色 内面：淡茶褐色 断面：黒褐色	上半部1/8	弥生前期Ⅰ－2～4
－15	AAF－c－1	甕	Ｖ－4－1 暗灰粗砂	18.3	6.9		如意形口縁 口縁内面にアクセント	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	全面：にぶい淡褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ期
－16	AAG－b－1	甕	Ｖ－4－1 砂レキB	25.9	15.0		口縁は強く屈曲し、受け口状になる	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：5条/cmのタテハケ 内面：ナデ	外面：にぶい褐色 内面：暗茶褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/4	弥生Ⅰ期 外面全体に煤が付着
－17	AAH－c－1	甕	Ｖ－1－3 砂レキD	18.5	4.7		口縁は強く屈曲する	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石をやや多く含み、金雲母を僅かに含む）	外面：タテハケの後ナデ 内面：5条/cmの斜行ハケ後、指オサエ	表面：暗茶褐色 断面：淡橙褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ期 外面全体に煤が付着
－18	AAH－b－1	甕	Ｖ－1－1 砂レキ2	23.3	6.6		口縁は強く屈曲する	普通	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：3条/cmの粗い横ハケ 内面：ナデ	外・断面：暗灰褐色 内面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ期
－19	AAI－b－1	甕	Ｖ－1－2 砂レキ3	29.1	7.4		口縁は強く屈曲する	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石を含む）	外面：磨滅しているがナデか？ 内面：磨滅しているがナデか？	全面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ～Ⅱ期
－20	AAG－c－6	甕	Ｖ－1－2 砂レキ3	14.5	9.9		口縁は強く屈曲する	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	外面：5条/cmのタテハケ 内面：不定方向のナデ	外面：淡褐色 内面：淡橙褐色 断面：明褐色	口縁部1/5	弥生Ⅰ～Ⅱ期 外面全体に煤が付着

第46表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表（2）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
34図－1	AAJ－8	甕	Ⅴ－1－3 砂レキA	26.8	7.6		口縁の屈曲は緩い	普通	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：5条/cmのタテハケ 内面：ナデ	内面：暗橙褐色 外面：橙褐色 断面：暗紫褐色	口縁部1/6	弥生Ⅰ期
－2	AAJ－9	甕	Ⅴ－1－2	20.8	8.6		口縁の屈曲は緩い	普通	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：6条/cmのタテハケ 内面：4条/cmの斜行ハケ	表面：淡茶褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/6	弥生Ⅰ期 外面全体に煤付着
－3	AAJ－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	13.3	9.0		口縁の屈曲は緩い	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：8条/cmのタテハケ 内面：ナデ	内面：暗茶褐色 外・断面：淡茶褐色	口縁部1/6	弥生Ⅰ～Ⅱ期
－4	AAK－b－20	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	28.1	6.2		口縁の屈曲は緩い	普通	粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：6条/cmの斜行ハケ 内面：5条/cmの斜行ハケの後、指オサエ	内面：にぶい褐色 外面：黒褐色 断面：灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ期 外面全体に煤付着
－5	AAL－b－4	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	24.6	10.1		口縁の屈曲は緩い	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：斜行ハケ後、ナデ 内面：3条/cmの斜行ハケ	内面：淡褐色 外・断面：白褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ期 外面全体に煤付着
－6	AAL－a－3	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	42.7	7.9		口縁の屈曲は緩い	普通	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	内・断面：淡灰褐色 外面：白褐色(黒斑あり)	上半部1/8	弥生Ⅰ期
－7	AAL－c－19	小型甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	17.3	**14.2**	**5.7**	口縁の屈曲は緩い	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石を含む）	外面：上半はナデ。下半は斜位ミガキ 内面：下半はナデ。上半は横ミガキ	全面：淡褐色(黒斑あり)	1/3程度	弥生Ⅰ期 外面に煤付着
－8	AAL－c－20	小型甕	Ⅴ－1－2 細砂	8.2	**9.7**	4.5	口縁の屈曲は緩い	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：指ナデ 内面：強い縦ナデ	内面：淡灰褐色 外面：黒褐色 断面：灰褐色	1/4程度	弥生Ⅰ期
－9	AAN－c－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	15.0	4.7		長頸	普通	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：5条/cmのタテハケ 内面：ナデ	全面：白褐色	口縁部1/5	弥生Ⅰ期
－10	AAP－b－5	甕	Ⅴ－1－2 粗砂	21.8	9.0		口縁は短く反る	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石を含む）	外面：8条/cmのタテハケ 内面：ナデ	全面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ～Ⅱ期 外面には煤付着
－11	AAP－c－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	12.1	10.1		口縁は短く反る	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：5条/cmのタテハケ 内面：5条/cmの斜行ハケ	内・断面：淡灰褐色 外面：暗褐色	上半部1/3	弥生Ⅰ期
－12	AAQ－c－1	甕	Ⅴ－1－2	17.7	5.4		口縁は短く反る	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：5条/cmの斜行ハケ 内面：粗い斜行ハケ	内・断面：淡褐色 外面：暗褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ期
－13	AAQ－c－3	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	12.1	7.3		口縁は短く反る	良好	粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：5条/cmの斜行ハケ 内面：ナデ	内・断面：暗茶褐色 外面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ期 外面全体に煤付着
－14	AAR－b－11	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	29.9	5.8		口縁は短く反る	良好	粗（5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：6条/cmの斜行ハケの後、ナデ 内面：6条/cmの斜行ハケ	内面：淡褐色 外面：淡灰褐色 断面：暗灰色	上半部1/8	弥生Ⅰ－3～4期
－15	AAR－c－5	甕	Ⅴ－1－3 砂レキC	17.3	5.4		口縁は短く反る	普通	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ？ 内面：横ミガキ	全面：白褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ期
－16	AAS－b－1	甕	Ⅴ－1－2 細砂	22.1	12.2		口縁は短く折れる	やや良好	普通（2㎜以下の石英・長石・金雲母・黒色粒を含む）	外面：4条/cmの浅いタテハケ 内面：縦方向のナデ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/4	弥生Ⅰ期 外面には煤付着
－17	AAT－c－3	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	19.7	6.7		口縁は短く折れる	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒等をやや多く含む）	外面：12条/cmの浅い斜行ハケ 内面：ナデ	内面：白褐色 外面：淡灰褐色 断面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ～Ⅱ期
－18	AAT－c－1	甕	Ⅴ－1－2 粗砂	16.5	8.5		口縁は短く折れる	良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：6条/cmの斜行ハケ 内面：縦方向のナデ	内面：暗褐色 外面：淡褐色 断面：淡灰色	上半部1/5	弥生Ⅰ期
－19	AAU－b－15	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	21.8	8.1		口縁は短く直線的に折れる	良好	やや粗（2.5㎜以下の石英・長石・赤色粒等を含む）	外面：タテハケの後、ナデ 内面：縦方向の指ナデ	全面：淡橙褐色	口縁部1/12	弥生Ⅰ～Ⅱ期
－20	AAU－c－8	甕	Ⅴ－1－2 暗灰砂	13.6	10.0		口縁は短く直線的に折れる	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒等を含む）	外面：ナデ？ 内面：ナデ	内・断面：橙褐色 外面：暗橙褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ～Ⅱ期
－21	AAU－a－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	30.4	8.2		口縁は短く直線的に折れる	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：丁寧なナデ 内面：縦方向の丁寧な指ナデ	内・断面：にぶい淡褐色 外面：黒褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ～Ⅱ期
－22	AAY－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	15.6	4.5		口縁は短く反る	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ヨコナデ	表面：暗灰褐色 断面：にぶい褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ期
－23	ZIB－1	直口甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	12.5	6.4		口縁は屈曲しない	やや不良	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：7条/cmの浅い斜行ハケ	内面：白褐色・一部暗褐色 外面：暗灰褐色 断面：淡褐色	上半部1/3	弥生Ⅰ～Ⅱ期

第47表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表（3）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
35図－1	ABA－a－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	42.1	8.0		如意形口縁 口縁端部に面を持つ	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：5条/cmのタテハケ 内面：ナデ	全面：白褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ期
－2	ABA－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	21.9	6.9		如意形口縁 口縁端部に面を持つ	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：幅の狭い原体でひっかくようなタテハケ 内面：12条/cmの浅い斜行ハケ	外面：にぶい淡褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ期
－3	ABA－c－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	19.5	10.8		如意形口縁 口縁端部に面を持つ	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石をやや多く含み、黒色粒を僅かに含む）	外面：7条/cmの斜行ハケ 内面：器壁剥離のため調整不明	外面：にぶい褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/4	弥生Ⅰ期 外面には煤付着
－4	ABB－b－15	甕	Ⅴ－1－1 南細砂	29.0	6.8		如意形口縁 口縁端部に面を持つ	良好	粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：6条/cmの斜行ハケ 内面：6条/cmの斜行ハケ	外面：暗茶褐色 内面：黒褐色 断面：茶褐色	口縁部1/10	弥生Ⅰ期 外面全体に煤付着
－5	ABB－b－3	甕	Ⅴ－1－1 西砂レキ	20.8	5.3		如意形口縁 口縁端部に面を持つ	良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：6条/cmの斜行ハケ 内面：横ナデ	外面：暗褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ期 外面全体に煤付着
－6	ABC－b－47	甕	Ⅴ－1－2 暗灰シルト	27.4	8.9		如意形口縁 口縁端部に面を持つ	良好	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：ヘラミガキ？ 内面：磨滅のため調整不明	外面：明褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/10	弥生Ⅰ期 鉢の可能性あり
－7	ABC－b－1	甕	Ⅴ－1－1 砂レキ2	29.4	6.4		如意形口縁 口縁端部に面を持つ	普通	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ？ 内面：斜行ハケ	外面：淡褐色 内面：淡灰褐色 断面：暗橙褐色	口縁部1/10	弥生Ⅰ期
－8	ABC－c－3	甕	Ⅴ－4－3 砂レキY	16.9	4.5		如意形口縁 口縁端部に面を持つ	やや良好	粗（2㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：ナデ？ 内面：磨滅のため調整不明。ナデ？	全面：暗灰色	上半部1/4	弥生Ⅰ期
－9	ABD－b－2	甕	Ⅴ－4－3 砂レキB	28.7	5.7		如意形口縁 口縁端部に面を持ち、内面の屈曲にアクセントがある	良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：6条/cmのタテハケ 内面：横方向のヘラミガキ	外面：黒褐色 内・断面：にぶい褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ期 外面全体に煤付着
－10	ABE－b－7	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	29.4	6.3		如意形口縁 口縁端部に面を持ち、内面の屈曲にアクセントがある	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：6条/cmの斜行ハケ 内面：8条/cmの斜行ハケの後、指オサエ	外面：暗褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ期 外面全体に煤付着
－11	ABE－c－1	甕	Ⅴ－1－2 地山上 砂レキ3	18.9	10.1		如意形口縁 口縁端部に面を持ち、内面の屈曲にアクセントがある	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：縦ナデ 内面：横位の板ナデ	表面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ期
－12	ABF－b－3	甕	Ⅴ－4－1	20.2	6.9		如意形口縁 口縁端部に面を持ち、内面の屈曲にアクセントがある	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：タテハケの後、ナデ 内面：ナデ	外面：暗茶褐色 内・断面：淡灰褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ期 外面全体に煤付着
－13	ABG－b－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキE	20.3	4.2		口縁部は強く屈曲 口縁端部に面を持つ	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：4条/cmのタテハケ 内面：ナデ	外面：黒褐色 内・断面：灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ期 外面全体に煤付着
－14	ABI－b－1	甕	Ⅴ－1－2 細砂	21.5	3.2		口縁部は強く屈曲 口縁端部に面を持つ	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：暗褐色 内・断面：灰褐色	口縁部1/10	弥生Ⅰ期 外面は被熱
－15	ABY－c－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	11.6	5.6		口縁は屈曲せず、上面に平坦面を持つ	普通	やや密（1.5㎜以下の石英・長石を含む）	外面：12条/cmのタテハケ 内面：ナデ?	外面：黒褐色 内面：淡褐色 断面：灰褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ期
－16	BAB－1	鉢	Ⅴ－1－2 暗灰粘	33.4	7.2		瀬戸内型系	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒雲母を含む）	外面：斜行ハケの後、ナデ 内面：ヨコハケの後、横ミガキ	外・断面：淡褐色 内面：明白褐色	口縁部1/6	弥生Ⅰ～Ⅱ期
－17	BAC－2	甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ	17.7	4.6		瀬戸内型系	やや不良	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を含む）	器壁の剥離が激しく調整不明	外面：淡茶褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－4期
－18	BAE－1	甕	Ⅴ－1－2 暗灰砂	21.9	5.1		瀬戸内型系	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石を含むが、表面では見えない）	外面：7条/cmのタテハケ後、ナデ 内面：ナデ	全面：淡橙褐色	口縁部1/10	弥生Ⅰ－4期
－19	BAD－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	27.4	2.5		瀬戸内型系 口縁端部に側面からキザミを入れる	普通	粗（1.5㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：3条/cmの斜行ハケ	表面：淡灰褐色 断面：淡褐色	口縁部1/10	弥生Ⅰ－4期

第48表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表（４）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
36図－１	AEA－b－1	甕	Ⅴ－1－2 粗砂	24.4	15.3		如意形口縁だが、端部にキザミを施すため、やや内彎する	やや良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：４条/cmのタテハケ 内面：指ナデ後、４条/cmの斜行ハケ	外・断面：淡褐色 内面：暗灰褐色	上半部1/4	弥生Ⅰ－３～４期
－２	AEC－b－2	甕	Ⅴ－4－1 砂レキD	24.7	4.1		如意形口縁の端部にキザミを施す	良好	粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：５条/cmのタテハケ後、ナデ 内面：ナデ	外面：にぶい淡褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅰ－３～４期 外面に被熱痕あり
－３	AED－a－1	甕	Ⅴ－1－2 粗砂	33.0	4.9		如意形口縁の端部にキザミを施す	やや良好	粗（３㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：５条/cmのタテハケ 内面：４条/cmのヨコハケ後、指オサエ	外面：淡茶褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/12	弥生Ⅰ－３～４期 外面全体に煤付着
－４	AEE－a－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキC	30.3	7.6		如意形口縁の端部にキザミを施す	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：４条/cmの斜行ハケ 内面：ナデ	外・断面：淡褐色 内面：にぶい褐色	口縁部1/8	弥生Ⅰ－３～４期 外面には煤付着
－５	AEF－b－9	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ2	23.8	9.0		如意形口縁の端部にキザミを施す	良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	外面：9条/cmの斜行ハケ後、ナデ 内面：ヨコハケの後、ナデ	全面：淡褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－３～４期 外面には煤付着
－６	AEF－c－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキE	18.2	3.8		如意形口縁の端部にキザミを施す	普通	普通（２㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：5条/cmのタテハケ後、ナデ 内面：ナデ	外面：暗褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/10	弥生Ⅰ－３～４期
－７	AEG－b－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	22.5	8.3		如意形口縁の端部にキザミを施す。口縁端部には面を持つ	良好	粗（４㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：13条/cmの細かなタテハケ 内面：13条/cmのタテハケ後、ナデ	外面：黒褐色 内面：茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/4	弥生Ⅰ－３～４期 外面全体に煤付着
－８	AEI－b－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキC	26.5	14.3		如意形口縁の端部にキザミを施す。口縁端部には面を持つ	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石をやや多く含み、黒色粒・赤色粒を含む）	外面：ハケ痕跡を残さない丁寧なナデ 内面：縦位の指ナデ	外面：明褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡灰色	上半部1/4	弥生Ⅰ－３～４期 外面全体に煤付着
－９	AEK－a－1	甕	Ⅴ－1－1 砂レキ2	35.3	6.3		口縁は屈曲が緩く、端部は平坦面を持ち、キザミを入れる	普通	粗（３㎜以下の石英・長石・金雲母・黒色粒を多く含む）	外面：６条/cmのタテハケ後、ヨコハケ 内面：ナデ	外・断面：淡赤褐色 内面：淡灰褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－３～４期
－10	AEL－b－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	25.6	4.9		口縁は屈曲が緩く、端部は平坦面を持ち、キザミを入れる	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：3条/cmの斜行ハケ後、ナデ 内面：5条/cmの斜行ハケ	全面：淡灰褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－３～４期
－11	AEL－b－3	甕	Ⅴ－1－3 砂レキC	20.4	5.7		口縁は屈曲が緩く、端部は平坦面を持ち、キザミを入れる	やや良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ヨコハケ後、縦位の指オサエ	外面：暗茶褐色 内面：淡橙褐色 断面：淡赤褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－３～４期 外面全体に煤付着
－12	AEO－b－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	20.7	5.0		如意形口縁だが、内面の屈曲にｱｸｾﾝﾄがある。口縁端部に平坦面をもちキザミを入れる	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：ナデ？ 内面：ナデ	外面：淡褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：淡灰色	上半部1/10	弥生Ⅰ－３～４期
－13	ACC－a－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキC	34.2	7.8		如意形口縁。口縁下に接合線を利用した段を設ける	良好	粗（３㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を多く含む）	外面：タテハケ後にナデ？ 内面：斜行ハケ後、ナデ	表面：にぶい淡褐色 断面：灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－２期 外面には煤付着
－14	ACC－a－2	甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ	31.1	11.9		如意形口縁。口縁下に接合線を利用した段を設ける	やや良好	粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：縦位の指ナデ	外面：暗茶褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－２期
－15	ACA－b－1	甕	Ⅴ－1－2 地山上	26.0	4.2		如意形口縁。口縁下に接合線を利用した段を設ける	良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	外面：４条/cmのタテハケ 内面：斜行ハケ後、ナデ	外・断面：暗褐色 内面：淡褐色	口縁部1/10	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－16	ACI－b－3	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	27.4	13.3		如意形口縁。口縁下に接合線を利用した段を設ける。口縁端部には沈線・キザミを施す	良好	粗（２㎜以下の石英・長石・金雲母・黒色粒を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	全面：明褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－17	ACG－b－1	甕	Ⅴ－1－1 砂レキ2	25.7	4.6		如意形口縁。口縁下に接合線を利用した段を設ける。口縁端部にはキザミを施す	普通	粗（２㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：12条/cmのタテハケ 内面：ナデ	外面：淡茶褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－２期 外面は被熱している
－18	ACX－1	甕	Ⅴ－1－1 東砂レキ		9.2		如意形口縁。口縁下に接合線を利用した段を設ける	良好	粗（2.5㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	外面：８条/cmの斜行ハケ 内面：７条/cmの斜行ハケ後、ナデ	外面：暗灰褐色 内面：淡茶褐色 断面：白褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着 推定口径32.6cm
37図－１	AFA－b－2	甕	Ⅴ－1－3	21.4	6.4		如意形口縁。胴部に１条のヘラ描き沈線	良好	粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：６条/cmのタテハケ後、ヨコハケ 内面：３条/cmの斜行ハケ	外面：暗褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－２	AFA－b－7	甕	Ⅴ－1－3 砂レキC	27.5	6.1		如意形口縁。胴部に１条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（2.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：８条/cmのタテハケ 内面：縦位の指ナデ	外面：暗橙褐色 内・断面：淡灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－３	AFB－b－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキE	26.2	8.3		如意形口縁。胴部に１条のヘラ描き沈線	良好	粗（３㎜以下の石英・長石・金雲母を多く含む）	外面：６条/cmの斜行ハケ 内面：７条/cmの斜行ハケ	外面：暗褐色 内・断面：淡茶褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－４	AFB－c－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	15.2	6.2		如意形口縁。胴部に１条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石・黒雲母を含む）	外面：７条/cmの斜行ハケ 内面：８条/cmの斜行ハケ	表面：暗茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－２期 外面には煤付着

第49表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表（５）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
37図－５	AFC－a－1	甕	Ⅴ－1－2 地山上	31.7	11.2		如意形口縁。胴部に１条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ハケの後、ナデ 内面：５条/cmの斜行ハケ後、一部ナデ	外面：明褐色 内面：淡灰色 断面：淡褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－２期 外面には煤付着
－６	AFC－b－19	甕	Ⅴ－1－2 細砂	25.4	7.6		如意形口縁。胴部に１条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（４㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	外面：ハケの後、ナデ 内面：４条/cmの斜行ハケ後、指ナデ	全面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－７	AFE－b－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	20.3	10.4		如意形口縁で、口縁端部にはラ面を持つ。胴部に１条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：８条/cmの斜行ハケ 内面：指ナデ	外面：暗茶褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－８	AFG－b－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	20.2	7.2		口縁は強く屈曲する。胴部には１条のヘラ描き沈線	良好	粗（４㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：６条/cmのタテハケ 内面：縦位の指ナデ	外面：暗灰褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－２期 外面には煤付着
－９	AFH－b－4	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ３	27.4	6.0		口縁は強く屈曲する。胴部には１条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：６条/cmの斜行ハケ 内面：４条/cmの斜行ハケ後、指ナデ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－２期
－10	AFH－b－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	29.4	5.6		口縁は強く屈曲する。胴部には１条のヘラ描き沈線	良好	粗（３㎜以下の石英・長石・金雲母・黒色粒等を多く含む）	外面：３条/cmの粗い斜行ハケ 内面：３条/cmの粗い斜行ハケ	外面：暗灰褐色 内面：暗褐色 断面：淡茶褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－11	AFI－b－2	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	22.6	6.6		口縁は強く屈曲する。胴部には１条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石を含む）	外面：ナデ 内面：指ナデ	外面：暗茶褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－12	AFM－a－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ３	32.5	8.7		口縁の屈曲は緩い。胴部には１条のヘラ描き沈線	普通	粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：７条/cmのタテハケ 内面：指ナデ	外面：にぶい淡褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－13	AFM－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ３	23.4	15.6		口縁の屈曲は緩い。胴部には１条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（3.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：４条/cmのタテハケ 内面：４条/cmのヨコハケ	外面：茶褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－２期 被熱により器壁が剥落
－14	AFN－a－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキC	30.7	12.3		口縁の屈曲は緩い。胴部には１条のヘラ描き沈線	普通	やや粗（３㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：５条/cmの斜行ハケ 内面：指ナデ	外・断面：白褐色 内面：暗灰色	上半部1/7	弥生Ⅰ－２期
－15	AFN－b－2	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	25.9	10.4		口縁の屈曲は緩い。胴部には１条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（４㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：５条/cmの斜行ハケ 内面：斜行ハケ後、指ナデ	外面：淡褐色 内・断面：白褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－16	AFN－c－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキD	19.8	6.8		口縁の屈曲は緩い。胴部には１条のヘラ描き沈線	普通	やや粗（２㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：６条/cmの斜行ハケ 内面：５条/cmのヨコハケ	外面：淡褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－17	AFO－b－1	甕	Ⅴ－1－1 細砂	20.7	8.4		口縁の屈曲は緩い。胴部には１条のヘラ描き沈線	普通	粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：タテハケ後、ナデ？ 内面：５条/cmのヨコハケ	外面：にぶい淡褐色 内面：暗褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－18	AFO－c－1	甕	Ⅴ－1－2	13.1	8.6		口縁部は屈曲しない。口縁下には１条のヘラ描き沈線。	やや良好	やや粗（４㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：器壁剥落のため調整不明 内面：下半は指ナデ。上半はヨコハケ	外面：暗茶褐色 内面：明褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/4	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
38図－１	ADA－b－1	甕	Ⅴ－1－1 細砂	20.2	9.5		如意形口縁の端部に側面から部にキザミを入れる。端部には平坦面を持つ。胴部に１条の沈線	普通	粗（４㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	外面：６条/cmのタテハケ 内面：指ナデ	外面：淡茶褐色 内面：茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－２	ADB－b－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	23.0	8.5		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる。１条沈線	やや不良	粗（４㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	外面：６条/cmの斜行ハケ 内面：６条/cmのタテハケ後、指ナデ	表面：淡灰褐色 断面：暗灰色	上半部1/6	弥生Ⅰ－２期
－３	ADC－c－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキA	18.5	8.2		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる。端部には平坦面を持つ。１条沈線	やや良好	やや粗（2.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	外面：剥離と硫黄の付着のため不明 内面：指ナデ	外面：暗褐色 内面：暗茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/4	弥生Ⅰ－２期
－４	ADE－a－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	32.5	6.1		如意形口縁の端部に上方からキザミを入れる。端部には平坦面を持つ。１条沈線	良好	粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：８条/cmのヨコハケ 内面：指ナデ後、11条/cmの斜行ハケ	外面：黒褐色 内：断面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－５	ADE－b－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキ3	25.4	8.3		如意形口縁の端部には平坦面を持ち、その下端にキザミを入れる。１条沈線	やや良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：６条/cmの斜行ハケ 内面：指ナデ	表面：暗褐色 断面：暗褐灰色	上半部1/7	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－６	ADH－b－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキE	25.7	11.7		口縁は強く屈曲し、端部に側面からキザミを入れる。１条沈線	やや良好	粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：５条/cmの斜行ハケ 内面：３条/cmのヨコハケ	表面：淡褐色 断面：淡茶褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－２期

第50表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表（6）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
38図－7	ADH－c－1	甕	Ⅴ－4－3 砂レキA	18.9	5.7		口縁はやや強く屈曲し、端部に側面からキザミを入れる 1条沈線	やや不良	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：5条/cmの斜行ハケ 内面：3条/cmの斜行ハケ	外面：黒褐色 内面：淡黄褐色 断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－2期
－8	AGA－b－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキE	22.2	7.2		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる。2条半の沈線が施される	良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：5条/cmのタテハケ 内面：5条/cmの斜行ハケ後、指ナデ	外面：暗褐色 内面：茶褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－2期 外面全体に煤付着
－9	AGB－b－1	甕	Ⅴ－1－1 南西砂レキ	22.8	13.1		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる。2条沈線	普通	粗（4㎜以下の石英・長石・金雲母・黒色粒等を多く含む）	外面：4条/cmの斜行ハケ 内面：斜行ハケ後、指ナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－2期 外面全体に煤付着
－10	AGC－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	26.1	10.1		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる。2条沈線	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：6条/cmの浅い斜行ハケ	外面：暗灰褐色 内面：茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－2期 外面全体に煤付着
－11	AGD－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	29.1	6.1		如意形口縁の端部に平坦面を持ち、側面からキザミを入れる。2条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：7条/cmのタテハケ 内面：指ナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：淡黄褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－2期
－12	AGG－b－1	甕	Ⅴ－1－1 砂レキ3	22.2	6.8		口縁は強く屈曲し、端部には側面からキザミを入れる。2条のヘラ描き沈線	良好	粗（4㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：5条/cmのタテハケ 内面：斜行ハケ	外面：黒褐色 内面：淡茶褐色 断面：灰褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－2期 外面全体に煤付着
－13	AGI－b－1	甕	Ⅴ－4－3 砂レキA	28.0	9.1		口縁は強く屈曲し、端部には側面からキザミを入れる。2条のヘラ描き沈線	良好	粗（3㎜以下の石英・長石・赤色粒・金雲母を多く含む）	外面：7条/cmの斜行ハケ後、指ナデ 内面：斜行ハケ後、指ナデ	外面：明褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－2期 外面には煤付着
－14	AGL－b－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	28.0	10.1		口縁は強く屈曲し、端部には平坦面を持ち、側面からキザミを入れる。2条のヘラ描き沈線	良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：7条/cmのタテハケ後、ナデ 内面：指ナデ	外面：黒褐色 内面：暗褐色 断面：暗灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－2期 外面全体に煤付着
－15	AGN－c－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	19.8	6.6		口縁の屈曲は緩く、端部にはキザミを入れる。2条のヘラ描き沈線の後、一部をナデ消している	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：4条/cmの斜行ハケ 内面：斜位の指ナデ	外面：暗褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－2期 外面全体に煤付着
－16	AGO－b－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	20.5	5.7		口縁の屈曲は緩く、端部にはキザミを入れる。2条のヘラ描き沈線	普通	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：ナデ 内面：縦位の指ナデ	外面：淡茶褐色 内面：淡灰白色 断面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－2期 外面全体に煤付着
－17	AGP－b－1	甕	Ⅴ－4－2	25.4	9.3		口縁の屈曲は緩く、端部には平坦面を持ち、側面からキザミを入れる。2条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を多く含む）	外面：4条/cmのタテハケ 内面：7条/cmの横ハケ後、縦位のナデ	外・断面：白褐色 内面：暗茶褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－2期 外面全体に煤付着
－18	AGQ－b－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	20.6	5.1		口縁の屈曲は緩く、端部には平坦面を持ち、下方からキザミを入れる。2条のヘラ描き沈線	普通	粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：6条/cmの斜行ハケ 内面：6条/cmの横ハケ	外面：淡褐色 内・断面：白褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－2期
－19	AGQ－a－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキD	46.7	8.6		口縁の屈曲は緩く、端部には平坦面を持ち、側面からキザミを入れる。2条のヘラ描き沈線	良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：3条/cmの横ハケ 内面：3条/cmの斜行ハケ後、指ナデ	外面：黒褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－2期
39図－1	AHA－b－1	甕	Ⅴ－4－3 砂レキY	23.5	9.1		如意形口縁 2条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：4条/cmのタテハケ 内面：7条/cmの斜行ハケ後、縦ナデ	外面：にぶい褐色 内面：淡褐色	上半部1/4	弥生Ⅰ－2期 外面全体に煤付着
－2	AHB－b－4	甕	Ⅴ－1－2 粗砂	24.7	6.6		如意形口縁 1条半のヘラ描き沈線	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：8条/cmの斜行ハケ 内面：斜行ハケ後、縦ナデ	外面：暗茶褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡灰色	上半部1/8	弥生Ⅰ－2期 外面全体に煤付着
－3	AHC－b－2	甕	Ⅴ－1－3 砂レキC	24.8	8.4		如意形口縁 2条のヘラ描き沈線 器壁が薄い	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：タテハケ後、ナデ 内面：ナデ	表面：暗茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－2期 外面全体に煤付着
－4	AHC－c－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	18.6	8.4		如意形口縁 2条のヘラ描き沈線 頸部が締まる	良好	やや粗（2.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：4条/cmの斜行ハケ	全面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－2期
－5	AHE－b－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキG	21.1	7.7		如意形口縁で端部は平坦面となる。2条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	外面：8条/cmの斜行ハケ 内面：斜行ハケ後、ナデ	外面：黒褐色 内面：暗褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－2期 外面全体に煤付着

第51表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表（７）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
39図－6	AHF－b－1	甕	Ⅴ－1－2 粗砂	29.6	6.9		如意形口縁で端部は平坦面となる。２条のヘラ描き沈線	良好	粗（４㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：3条/cmの横ハケ後、ナデ 内面：ナデ	外・断面：淡褐色 内面：暗褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－7	AHG－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	20.4	12.4		口縁は強く屈曲する ２条のヘラ描き沈線	良好	粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：８条/cmのタテハケ 内面：丁寧なナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/3	弥生Ⅰ－２期 被熱のため器壁剥離
－8	AHG－c－1	甕	Ⅴ－1－1 砂レキ	19.0	8.1		口縁は強く屈曲する ２条のヘラ描き沈線	良好	粗（４㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：６条/cmのタテハケ 内面：斜行ハケ後、ナデ	外・断面：灰褐色 内面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－２期
－9	AHI－b－1	甕	Ⅴ－1－1 細砂	24.7	8.5		口縁は強く屈曲する ２条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	外面：斜行するナデ 内面：縦ナデ	全面：淡褐色	上半部1/3	弥生Ⅰ－２期
－10	AHN－b－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	20.0	10.3		口縁の屈曲は緩い ２条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：６条/cmの斜行ハケ 内面：６条/cmの斜行ハケ後、指オサエ	表面：暗茶褐色 断面：にぶい褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
－11	AHO－a－1	甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ	30.8	13.6		口縁の屈曲は緩い 粘土の接合線を利用した段の上に1条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	粗（３㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	外面：ナデ 内面：指ナデ	外・断面：にぶい褐色 内面：上半は淡橙褐色 下半は黒褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－２期
－12	AH0－b－1	甕	Ⅴ－1－1 南細砂	24.0	6.0		口縁の屈曲は緩い ２条のヘラ描き沈線 器壁が薄い	良好	粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：10条/cmの斜行ハケ後、ナデ 内面：ナデ	外：にぶい褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－２期 外面には煤付着
－13	AHR－b－1	甕	Ⅴ－1－2 暗灰砂	23.6	10.7		口縁の屈曲は緩く、端部には平坦面を持つ。器壁が厚い ２条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（５㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	外面：タテハケ後、ナデ 内面：ナデ	外面：淡褐色 内・断面：白褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－２期 外面には煤付着
－14	AHS－c－1	小型甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	9.9	4.7		口縁は短く外反する ２条のヘラ描き沈線	普通	粗（２㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：黒褐色 内・断面：暗褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－２期 外面全体に煤付着
40図－1	AIA－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	29.3	8.0		如意形口縁 ３条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：５条/cmのタテハケ 内面：ナデ	外面：明褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－３期
－2	AIB－a－1	甕	Ⅴ－4－3 砂レキY	34.0	6.3		如意形口縁 ３条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（３㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：６条/cmの斜行ハケ 内面：ナデ？	内・断面：淡茶褐色 外面：暗橙褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－３期 外面には煤付着
－3	AIB－b－3	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	28.5	6.8		如意形口縁 ３条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：６条/cmの斜行ハケ 内面：６条/cmの横ハケ後、指オサエ	外面：暗灰褐色 内・断面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－３期 外面全体に煤付着
－4	AIC－a－1	甕	Ⅴ－4－3 砂レキA	34.4	9.4		如意形口縁 ３条のヘラ描き沈線	良好	粗（４㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	外面：４条/cmの斜行ハケ後、ナデ 内面：斜位の指ナデ	全面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－３期 外面全体に煤付着
－5	AIC－b－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	22.2	9.0		如意形口縁 ３条のヘラ描き沈線	普通	やや粗（2.5㎜以下の石英・長石・黒雲母・黒色粒を含む）	外面：タテハケ後、ナデ 内面：斜行ハケ後、部分的に指ナデ	外面：暗茶褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－３期 外面全体に煤付着
－6	AIH－b－1	甕	Ⅴ－1－1 砂レキ	25.0	7.6		口縁は強く屈曲する ３条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（４㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：４条/cmの斜行ハケ 内面：縦位の丁寧な指ナデ	外・断面：灰褐色 内面：淡黄褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－３期
－7	AIL－b－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキC	27.1	2.8		口縁は強く屈曲し、端部には平坦面を持つ。３条のヘラ描き沈線	良好	粗（３㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	表面：淡茶褐色 断面：淡褐色	口縁部1/10	弥生Ⅰ－３期
－8	AIN－b－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	21.3	9.1		口縁の屈曲は緩い ３条のヘラ描き沈線 器壁は薄い	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：７条/cmの斜行ハケ 内面：６条/cmの斜行ハケ、下半はナデ	表面：暗茶褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－３期 外面全体に煤付着
－9	AIO－b－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	23.2	9.0		口縁の屈曲は緩い ３条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（４㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：斜行ハケ後、丁寧なナデ 内面：指ナデ	外面：淡橙褐色 内・断面：黒褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－３期 外面全体に煤付着
－10	AIQ－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	24.8	8.6		口縁の屈曲は緩く、端部には平坦面を持つ。３条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（４㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：３条/cmの斜行ハケ 内面：ナデ	外面：淡褐色 内・断面：淡灰褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－３期
－11	AIW－1	甕	Ⅴ－4－3 砂レキB		9.2		瀬戸内型系？ ３条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：指ナデ 内面：縦位の指ナデ	全面：灰褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－３期 推定口径13.4cm
－12	AJA－b－1	甕	Ⅴ－1－1 砂レキ	23.0	13.4		如意形口縁で端部には側面からキザミを入れる ３条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（５㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：12条/cmのタテハケ 内面：磨滅のため調整不明	外面：暗茶褐色 内・断面：淡茶褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－３期 外面全体に煤付着

第52表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表（8）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
40図－13	AJA－b－3	甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ	22.0	7.9		如意形口縁で、端部にはやや上方からキザミを入れる 3条のヘラ描き沈線	良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：9条/cmのタテハケ後、ナデ 内面：6条/cmの斜行ハケ後、ナデ	外面：黒褐色 内・断面：淡橙褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－3期 外面全体に煤付着
－14	AJA－c－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	15.7	5.0		如意形口縁で端部には側面からキザミを入れる 3条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：6条/cmのタテハケ 内面：ナデ	外面：黒褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：淡茶褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－3期
－15	AJB－b－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキD	29.2	13.1		如意形口縁で端部には側面からキザミを入れる。3条のヘラ描き沈線だが、最下線は細い	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：4条/cmの斜行ハケ 外面：上半は8条/cm、下半は4条/cmの斜行ハケ	外面：白褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－3期 外面には煤付着
－16	AJC－b－2	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	22.1	5.7		如意形口縁で端部には側面からキザミを入れる 3条のヘラ描き沈線	良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：斜行ハケ後、ナデ 内面：ナデ	外面：黒褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－3期
－17	AJC－c－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	18.4	10.8		如意形口縁で端部には側面からキザミを入れる 3条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	外面：上半は4条/cmのタテハケ。下半は斜位のやや雑なヘラミガキ 内面：磨滅のため調整不明	表面：淡褐色 断面：明褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－3期 外面には煤付着
－18	AJF－c－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキE	17.2	5.1		如意形口縁で端部には平坦面を持ち側面からキザミを入れる。3条のヘラ描き沈線	やや不良	やや粗（2.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：8条/cmのタテハケ後、ナデ 内面：ナデ	表面：暗茶褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－3期
－19	AJG－b－1	甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ	26.0	11.0		口縁は強く屈曲し、端部には側面からキザミを入れる 3条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	外面：6条/cmのタテハケ 内面：ナデ	外面：暗褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－3期
－20	AJI－b－1	甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ	23.6	5.1		口縁は強く屈曲し、端部には側面からキザミを入れる 3条のヘラ描き沈線	良好	粗（4㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	外面：ナデ 内面：縦位の指ナデ	全面：明褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－3期
－21	AJO－b－1	甕	Ⅴ－1－1 砂レキ2	21.7	5.4		口縁の屈曲は緩く、端部には側面からキザミを入れる 3条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：タテハケ後、ナデ 内面：ナデ	表面：暗褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－3期 外面全体に煤付着
－22	AJP－c－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキE	17.9	5.5		口縁の屈曲は緩く、端部には僅かに平坦面があり、側面からキザミを入れる。3条沈線	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：6条/cmの斜行ハケ後、同一原体でタテハケ 内面：6条/cmの斜行ハケ後、指オサエ	外面：黒褐色 内面：茶褐色 断面：淡茶褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－3期 外面全体に煤付着
41図－1	AKA－c－2	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	19.8	7.8		如意形口縁 4条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：6条/cmのタテハケ 内面：ナデ	外面：暗灰褐色 内・断面：暗褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－3期 外面全体に煤付着
－2	AKC－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ	24.9	7.3		如意形口縁 4条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：斜行ハケ後、ナデ 内面：丁寧なナデ	外面：黒褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－3期 外面全体に煤付着
－3	AKC－c－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキ3	18.9	14.5		如意形口縁 4条のヘラ描き沈線	良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：タテハケ後、ナデ 内面：ナデ	外・断面：淡褐色 内面：明褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－3期 外面には煤付着
－4	AKG－c－1	甕	Ⅴ－1－2 粗砂	19.6	12.0		口縁はやや強く屈曲している 4条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：6条/cmのタテハケ 内面：6条/cmのヨコハケ	外面：暗褐色 内面：淡茶褐色 断面：にぶい淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－3期 外面全体に厚く煤付着
－5	AKM－c－1	甕	Ⅴ－1－1 細砂	16.1	4.2		口縁の屈曲は緩い 4条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：8条/cmのタテハケ 内面：8条/cmの斜行ハケ後、ナデ	外面：にぶい褐色 内・断面：にぶい淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－3期
－6	AKO－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	23.5	4.3		口縁の屈曲は緩い 4条のヘラ描き沈線	やや不良	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：縦位の指ナデ	外面：暗茶褐色 内面：茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－3期
－7	AKO－c－1	甕	Ⅴ－1－2 粗砂	12.1	4.0		口縁は僅かに外反する 4条のヘラ描き沈線	普通	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：3条/cmのタテハケ後、ナデ 内面：磨滅のため調整不明	外面：淡褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－3期
－8	ALA－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ	22.0	5.2		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる 4条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：8条/cmのタテハケ 内面：斜行ハケ後、指ナデ	外・断面：にぶい褐色 内面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－3期 外面全体に煤付着

第53表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表（９）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法(cm) 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
41図－9	ALA－c－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	19.6	10.4		如意形口縁の端部にやや下方からキザミを入れる ４条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：４条/cmのタテハケ 内面：縦位の指ナデ	外面：暗茶褐色 内面：茶褐色 断面：淡茶褐色	上半部1/4	弥生Ⅰ－３期 外面全体に煤付着
－10	ALB－b－3	甕	Ⅴ－1－2 粗砂	24.9	6.1		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる ４条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（３㎜以下の石英・長石を多く含み、赤色粒を含む）	外面：５条/cmの斜行ハケ 内面：８条/cmの斜行ハケ後、ナデ	外面：淡茶褐色 内・断面：にぶい淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－３期 外面全体に煤付着
－11	ALB－a－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキA	35.4	11.6		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる ４条のヘラ描き沈線	良好	粗（３㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：５条/cmの斜行ハケ 内面：丁寧な指ナデ	外面：にぶい淡褐色 内面：淡黄褐色 断面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－３期 外面全体に煤付着
－12	ALC－b－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキC	20.5	6.6		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる ４条のヘラ描き沈線	良好	粗（３㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：暗茶褐色 内・断面：淡灰褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－３期 外面全体に煤付着
－13	ALD－b－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	20.8	7.7		如意形口縁の端部は平坦面を持ち、下端にキザミを入れる ４条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	外面：６条/cmのタテハケ 内面：ヨコハケ後、ナデ	全面：淡茶渇色	上半部1/10	弥生Ⅰ－３期 外面全体に煤付着
－14	ALD－c－2	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	15.9	5.1		如意形口縁の端部は平坦面を持ち、下端にキザミを入れる ４条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：タテハケ 内面：ナデ	外面：にぶい淡褐色 内・断面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－３期 外面全体に煤付着
－15	ALI－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ2	20.5	4.1		口縁は強く屈曲し、端部には側面からキザミを入れる ４条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（３㎜以下の長石・赤色粒・石英を多く含む）	外面：５条/cmのタテハケ後、ナデ 内面：４条/cmの斜行ハケ	外面：黒褐色 内面：茶褐色 断面：淡茶褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－３期 外面全体に煤付着
－16	ALO－b－2	甕	Ⅴ－4－3 砂レキZ	27.8	9.5		口縁の屈曲は緩やかで、端部には側面からキザミを入れる ４条のヘラ描き沈線	普通	粗（４㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：磨滅しており不明。ナデ？ 内面：ナデ	外面：暗茶褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－３期 外面は被熱している
－17	ALN－b－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキD	22.2	8.5		口縁の屈曲は緩やかで、端部には側面からキザミを入れる ４条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：４条/cmの斜行ハケ 内面：４条/cmの斜行ハケ	外面：灰褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－３期 外面全体に煤付着
－18	AJT－b－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	24.4	8.8		瀬戸内型系。口縁端部には側面からキザミを入れる ３条のヘラ描き沈線	普通	やや粗（５㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：６条/cmの斜行ハケ 内面：縦位の丁寧な指ナデ	外面：暗茶褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－３～４期 外面全体に煤付着
－19	BAA－1	甕	Ⅴ－1－2 暗灰粘	17.5	5.5		瀬戸内型系。 ４条のヘラ描き沈線	良好	粗（３㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：斜位のナデ 内面：斜行ハケ	表面：暗茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－３～４期 外面には煤付着
42図－1	ANA－b－2	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	25.5	7.4		如意形口縁 ５条のヘラ描き沈線	普通	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：10条/cmのタテハケ 内面：斜行ハケ後、ナデ	外面：淡褐色 内・断面：白褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－３～４期 外面は被熱している
－2	ANB－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	21.6	5.5		如意形口縁 ５条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：６条/cmの斜行ハケ 内面：ナデ	外面：暗褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：白褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－３～４期 外面全体に煤付着
－3	ANC－b－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキE	23.6	7.5		如意形口縁 ５条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（３㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：タテハケ後、ナデ 内面：ナデ	外面：明褐色 内・断面：白褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－３～４期
－4	AND－a－1	甕	Ⅴ－1－1 南西砂レキ	35.0	8.8		如意形口縁の端部には平坦面を持つ。５条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（４㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	外面：７条/cmのタテハケ 内面：縦位の指ナデ。下半はナデ	外面：淡橙褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－３～４期
－5	ANI－c－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	18.4	6.2		口縁は強く屈曲する ５条のヘラ描き沈線	やや不良	粗（３㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：磨滅のため不明。ナデ？ 内面：ナデ	全面：淡灰褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－３～４期
－6	ANM－b－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	21.4	10.6		口縁の屈曲は緩やか ５条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（４㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：５条/cmのタテハケ 内面：縦位の指ナデ	外面：にぶい褐色 内・断面：淡灰色	上半部1/5	弥生Ⅰ－３～４期 外面全体に煤付着
－7	ANM－c－2	甕	Ⅴ－1－3 砂レキA	18.9	7.6		口縁の屈曲は緩やか ５条のヘラ描き沈線	良好	粗（４㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：５条/cmのタテハケ 内面：縦位の指ナデ	外面：淡灰褐色 内面：明褐色 断面：淡褐色	上半部1/4	弥生Ⅰ－３～４期
－8	ANM－c－1	甕	Ⅴ－1－2 細砂	18.4	13.7		口縁の屈曲は緩やか ５条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（３㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：10条/cmの目の細かいタテハケ 内面：縦位の指ナデ	外面：淡褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡灰色	上半部1/4	弥生Ⅰ－３～４期

第54表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表（10）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
42図－9	ANN－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ2	26.2	9.5		口縁の屈曲は緩やか 5条のヘラ描き沈線	普通	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：斜行ハケ 内面：斜行ハケ後、指ナデ	全面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－3～4期 内外面に煤付着
－10	ANN－c－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ2	12.4	5.0		口縁の屈曲は緩やか 5条のヘラ描き沈線	やや不良	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：6条/㎝の斜行ハケ 内面：縦位の指ナデ	表面：暗茶褐色 断面：暗褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－3～4期
－11	ANO－b－2	甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	27.7	4.2		口縁の屈曲は緩やか 5条のヘラ描き沈線	良好	粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：5条/㎝のヨコハケ	全面：淡褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－3～4期
－12	ANS－c－1	甕	Ⅴ－1－2 細砂	16.6	7.0		無頸の甕。口縁端部は平坦面になる。5条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：4条/㎝のタテハケ 内面：上半は指ナデ、下半は斜行ハケ	外面：暗灰褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－3～4期
－13	AMA－b－1	甕	Ⅴ－1－2 暗灰砂	26.5	11.6		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる 5条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：9条/㎝のタテハケ 内面：ナデ	外・断面：白褐色 断面：暗茶褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－3～4期 外面全体に煤付着
－14	AMB－a－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキA	32.7	7.3		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる 5条のヘラ描き沈線	良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：6条/㎝の斜行ハケ 内面：8条/㎝の浅い斜行ハケ	外面：暗灰褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－3～4期 外面全体に煤付着
－15	AMC－b－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキA	23.4	6.3		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる 5条のヘラ描き沈線	良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：縦位のナデ 内面：丁寧な指ナデ	外面：暗褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－3～4期 外面全体に煤付着
－16	AME－a－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	31.1	8.9		如意形口縁の端部には平坦面持ち、側面からキザミを入れる 5条のヘラ描き沈線	良好	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含み、金雲母・黒色粒を僅かに含む）	外面：8条/㎝の斜行ハケ 内面：5条/㎝のタテハケ	外面：明褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－3～4期
－17	AME－b－1	甕	Ⅴ－1－2 細砂	23.2	9.2		如意形口縁の端部には平坦面持ち、側面からキザミを入れる 5条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	外面：10条/㎝の斜行ハケ 内面：7条/㎝のタテハケ後、ナデ	外面：灰褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－3～4期 外面全体に煤付着
－18	AMI－a－2	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	33.9	4.4		口縁は強く屈曲し、端部にはやや下方からキザミを入れる 5条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ？ 内面：4条/㎝の斜行ハケ後、指ナデ	外面：灰褐色 内・断面：白褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－3～4期
－19	AML－a－1	甕	Ⅴ－4－3 砂レキX	38.6	7.6		口縁は強く屈曲し、端部には平坦面を持ち、その下端にキザミを入れる。5条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：暗褐色 内面：淡灰褐色 断面：暗茶褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－3～4期 外面は被熱
－20	AMO－c－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	14.6	7.5		口縁の屈曲は緩やかで、端部には側面からキザミを入れる 5条のヘラ描き沈線	普通	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：斜行ハケ後、指ナデ 内面：縦位のナデ	外面：暗灰褐色 内面：淡灰褐色 断面：灰褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－3～4期
43図－1	APA－b－2	甕	Ⅴ－1－2 暗灰砂	22.0	6.6		如意形口縁 6条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：6条/㎝のタテハケ 内面：ナデ	外面：にぶい褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－4期 外面には煤付着
－2	APA－c－1	甕	Ⅴ－1－2 細砂	17.2	6.4		如意形口縁 6条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：6条/㎝のタテハケ 内面：ナデ	外面：暗褐色 内・断面：にぶい淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－3	APB－b－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキC	21.5	6.2		如意形口縁 6条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：5条/㎝の斜行ハケ 内面：ナデ	外面：にぶい褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期 外面には煤付着
－4	APB－a－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキA	41.7	20.1		如意形口縁 6条のヘラ描き沈線	良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含み、金雲母を僅かに含む）	外面：タテハケ後、7条/㎝の斜行ハケ 内面：5条/㎝の浅い斜行ハケ	外面：黒灰色～白褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－5	APC－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ2	27.6	11.0		如意形口縁 6条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：8条/㎝のタテハケ後、ナデ 内面：ナデ	外面：暗褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－4期 外面には煤付着
－6	APG－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	29.9	6.1		口縁はやや強く屈曲する 6条のヘラ描き沈線	良好	粗（4㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：6条/㎝のタテハケ 内面：縦位の指ナデ	外・断面：にぶい淡褐色 内面：淡褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－4期
－7	APN－c－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	18.8	6.4		口縁の屈曲は緩い 6条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：タテハケ後、6条/㎝の斜行ハケ 内面：8条/㎝のヨコハケ	外面：にぶい淡褐色 内・断面：暗赤褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期
－8	APO－c－1	甕	Ⅴ－1－1 南西砂レキ	19.0	4.7		口縁の屈曲は緩い 6条のヘラ描き沈線	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：暗茶褐色 内面：茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着

第55表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表（11）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
43図－9	APV－b－1	甕	V－1－2	24.0	12.2		口縁は短く折れる 6条のヘラ描き沈線	良好	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：6条/cmの斜行ハケ 内面：ナデ	外面：淡褐色 内・断面：にぶい淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期 外面には煤付着
－10	AOB－c－1	甕	V－1－3 砂レキC	17.3	10.0		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる 6条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石を含む）	外面：6条/cmのヨコハケ 内面：7条/cmの斜行ハケ後、ナデ	全面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－4期 外面には煤付着
－11	AOC－c－1	甕	V－4－1 砂レキD	18.2	9.3		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる 6条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：6条/cmの斜行ハケ後、ナデ 内面：斜行ハケ後、ナデ	外面：暗茶褐色 内面：にぶい褐色 断面：暗褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－4期 外面は被熱している
－12	AOC－b－1	甕	V－1－2 砂レキ3	27.1	11.1		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる 6条のヘラ描き沈線	良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	表面：淡褐色 断面：にぶい淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期 外面には煤付着
－13	AOF－c－1	甕	V－4－1 砂レキC	18.0	5.4		如意形口縁の端部には平坦面持ち、側面からキザミを入れる。6条のヘラ描き沈線	やや不良	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ？ 内面：ナデ	外面：明褐色 内面：黒褐色 断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－4期
－14	AOG－a－1	甕	V－1－2 砂レキ3	34.0	11.6		口縁は強く屈曲し、端部には側面からキザミを入れる 6条のヘラ描き沈線	良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：6条/cm・10条/cmのタテハケ 内面：8条/cmの斜行ハケ後、指ナデ	外面：淡褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－4期 外面には煤付着
－15	AOM－c－1	甕	V－4－1 砂レキD	12.8	5.7		口縁の屈曲は緩やかで、端部には側面からキザミを入れる 6条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：5条/cmのタテハケ 内面：ナデ	外面：暗褐色 内面：白褐色 断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－16	AOO－b－6	甕	V－1－2 砂レキ	28.9	17.7		口縁の屈曲は緩やかで、端部には側面からキザミを入れる 6条のヘラ描き沈線	良好	粗（4㎜以下の石英・長石を多く含み、金雲母・黒色粒を少量含む）	外面：タテハケ後、ナデ 内面：丁寧なナデ	外面：白褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－17	BAI－2	甕	V－1－2 砂レキ3	26.6	7.1		瀬戸内型系 6条のヘラ描き沈線	やや不良	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：器壁が剥離しているため不明 内面：ナデ	表面：暗褐色 断面：暗茶褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期 外面は被熱している
44図－1	AQG－b－1	甕	V－1－2 砂レキ	23.8	9.0		如意形口縁 7条のヘラ描き沈線 器壁が薄く丁寧な作り	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：7条/cmのタテハケ 内面：縦位の指ナデ	表面：淡褐色 断面：淡褐灰色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期
－2	AQH－a－1	甕	V－1－3 砂レキC	32.8	7.6		如意形口縁 7条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	外面：5条/cmの斜行ハケ 内面：斜位の指ナデ	全面：白褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期
－3	AQH－c－1	甕	V－1－2 砂レキ	17.0	6.6		如意形口縁 7条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（2.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：12条/cmの斜行ハケ 内面：ナデ	外面：淡茶褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－4	AQI－a－1	甕	V－1－1 南砂レキ	39.7	11.8		如意形口縁 7条のヘラ描き沈線	普通	粗（4㎜以下の石英・長石を多く含み、赤色粒を含む）	外面：磨滅のため調整不明。ナデ？ 内面：ナデ？	外・断面：淡褐色 内面：にぶい褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期
－5	AQJ－a－1	甕	V－1－3	34.0	8.3		口縁の屈曲は緩い 7条のヘラ描き沈線	普通	粗（4㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外・断面：淡橙褐色 内面：橙褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－4期
－6	AQJ－b－1	甕	V－1－2 砂レキ3	20.2	8.2		口縁の屈曲は緩い 7条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多量に含む）	外面：丁寧なナデ 内面：ヨコナデ	外面：暗茶褐色 内・断面：にぶい褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期
－7	AQJ－c－1	甕	V－4－1 砂レキC	17.9	10.6		口縁の屈曲は緩い 7条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：丁寧なナデ 内面：ナデ	外・断面：黒褐色 内面：暗茶褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－8	AQK－b－1	甕	V－1－2 暗灰砂	22.4	8.0		口縁の屈曲は緩い 7条のヘラ描き沈線	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：8条/cmの斜行ハケ 内面：縦位のナデ	外面：黒褐色 内面：暗褐色 断面：暗茶褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－4期
－9	AQL－c－1	甕	V－1－2 粗砂	15.7	10.5		口縁の屈曲は緩い 7条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：5条/cmのタテハケ 内面：横方向のヘラミガキ	外面：淡茶褐色 内・断面：白褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－10	BAL－1	甕	V－1－2 暗灰砂	13.3	3.6		瀬戸内型系 7条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石を含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：黒褐色 内面：茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－11	AQC－a－1	甕	V－4－2	36.6	5.1		口縁はやや強く屈曲し、端部には下方からキザミを入れる 7条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：8条/cmの斜行ハケ 内面：ヨコナデ	全面：淡褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－4期

第56表・西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器観察表（12）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
44図－12	AQB－a－1	甕	Ｖ－1－2 砂レキ3	49.5	10.9		口縁の屈曲は緩やかで、端部には側面からキザミを入れる 7条のヘラ描き沈線	普通	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：7条/cmの斜行ハケ 内面：ナデ	外面：淡褐色 内面：白褐色 断面：淡白灰色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期
－13	AQA－b－1	甕	Ｖ－1－2 砂レキ3	26.7	6.5		口縁の屈曲は緩やかで、端部には側面からキザミを入れる 7条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	外面：ナデ？ 内面：ナデ	外・断面：淡褐色 内面：淡灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期
－14	ARA－b－1	甕	Ｖ－1－2	30.7	4.7		如意形口縁 8条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（6㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：8条/cmのタテハケ 内面：縦位のナデ	外面：明褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－4期
－15	ARB－b－1	甕	Ｖ－1－2 粗砂	25.1	11.4		如意形口縁 8条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：8条/cmの斜行ハケ 内面：10条/cmの斜行ハケ	外面：淡灰褐色 内面：明褐色～暗褐色 断面：白褐色	上半部1/4	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－16	ARC－b－1	甕	Ｖ－4－2 砂レキF	26.8	4.9		如意形口縁 8条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含むが、前期的ではない）	外面：ナデ 内面：指ナデ	外面：暗褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－17	ARF－b－2	甕	Ｖ－1－2 砂レキ3	27.7	5.6		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる 8条のヘラ描き沈線	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石・金雲母等をやや多く含む）	外面：8条/cmのタテハケ 内面：6条/cmのタテハケ後、ナデ	全面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－18	ARJ－a－1	甕	Ｖ－1－2 砂レキ3	30.5	12.3		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる 8条のヘラ描き沈線	普通	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：6条/cmのヨコハケ後、軽いナデ	外面：淡茶褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
45図－1	ARH－a－1	甕	Ｖ－4－3 SR01	44.4	10.4		口縁は強く屈曲し、端部には平坦面を持ち、側面からキザミを入れる。8条のヘラ描き沈線	良好	粗（3㎜以下の石英・長石・金雲母・黒色粒を多く含む）	外面：8条/cmのタテハケ 内面：指ナデ	全面：にぶい淡褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－4期
－2	ASA－b－1	甕	Ｖ－1－2 粗砂	21.4	4.3		如意形口縁 9条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：12条/cmの斜行ハケ 内面：4条/cmの斜行ハケ	外面：黒褐色 内・断面：暗褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－3	ASB－a－1	甕	Ｖ－1－3 砂レキD	36.3	12.8		如意形口縁の端部に無軸矢羽状にキザミを入れる。 9条のヘラ描き沈線	普通	粗（3㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	外面：タテハケ後、ナデ 内面：ヨコハケ後、軽いナデ	外・断面：白褐色 内面：暗褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期
－4	ASC－b－1	甕	Ｖ－1－2 砂レキ3	22.5	5.3		口縁の屈曲は緩い 9条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：8条/cmのタテハケ 内面：指ナデ	外面：淡褐色 内・断面：白褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－5	ASE－a－1	甕	Ｖ－4－1 砂レキB	30.7	11.0		口縁は強く屈曲し、端部には平坦面を持つ。 9条のヘラ描き沈線	良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：ナデ 内面：丁寧なナデ	外・断面：白褐色 内面：淡褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－4期 外面には煤付着
－6	ATA－a－1	甕	Ｖ－4－1 砂レキC	40.7	10.4		如意形口縁。6条・5条の沈線帯を2㎝ほど離して施文。	普通	粗（4㎜以下の石英・長石を多く含み金雲母を含む）	外面：ナデ？ 内面：ヨコハケ後、縦位のナデ	外面：淡褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：灰褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－4期
－7	ATO－a－1	甕	Ｖ－1－3 砂レキC	35.1	7.0		如意形口縁の端部に斜格子状のキザミを入れる。 13条のヘラ描き沈線	普通	やや密（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	外面：ナデ 内面：6条/cmの斜行ハケ	外面：明褐色 内面：白褐色 断面：暗灰色	上半部1/12	弥生Ⅰ－4期
－8	ATD－b－1	甕	Ｖ－1－2 砂レキ3	28.7	18.0		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる。 13条のヘラ描き沈線	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：5条/cmのタテハケ 内面：5条/cmの斜行ハケ	外面：明褐色 内・断面：にぶい淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－4期
－9	AUK－1	甕	Ｖ－1－2 砂レキ	18.2	8.1		口縁の屈曲は緩く、端部にはキザミを入れる。8条のヘラ描き沈線の直下に三角形刺突を施す	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：4条/cmの粗いタテハケ 内面：ヨコハケ後、縦位のナデ	外面：淡灰褐色 内面：淡褐色 断面：白褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－10	AUA－b6－1	甕	Ｖ－1－3 砂レキC	24.1	6.4		如意形口縁 6条のヘラ描き沈線の直下に三角形刺突を施す	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：タテハケ後、ナデ 内面：指ナデ	全面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期 外面には煤付着
－11	AUF－a10 －1	甕	Ｖ－1－2 砂レキ3	34.2	7.9		如意形口縁の端部に平坦面を設け、押引き状のキザミを入れる。10条のヘラ描き沈線の直下に三角形刺突を施す	やや不良	粗（3㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	外面：6条/cmのタテハケ 内面：縦位の指ナデ	外・断面：淡灰褐色 内面：淡橙褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期

第57表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表（13）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
45図－12	AUG－b6－1	甕	V－1－2 砂レキ3	22.1	6.1		口縁の屈曲は緩く、端部には側面からキザミを入れる。6条のヘラ描き沈線の直下に三角形刺突を施す	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：4条/cmの斜行ハケ 内面：斜行ハケ後、ナデ	外面：にぶい褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－13	AUL－a－1	甕	V－1－3 砂レキC	33.4	9.0		如意形口縁の端部にやや下方からキザミを入れる。9条のヘラ描き沈線の直下に三角形刺突を施す	良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	表面：暗橙褐色 断面：橙褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
46図－1	AVA－b6－1	甕	V－4－1 砂レキB	21.7	10.4		口縁の屈曲は緩い。6条のヘラ描き沈線の直下に米粒状刺突を施す	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒・金雲母を多く含む）	外面：13条/cmのタテハケ 内面：ヨコハケ後、縦位のナデ	外面：暗茶褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－4期
－2	AVC－a8－1	甕	V－4－1 砂レキD	31.4	15.9		口縁はやや強く屈曲し、端部にはキザミを入れる。8条のヘラ描き沈線の直下には二枚貝によるキザミを入れる。	良好	粗（5㎜以下の石英・長石を含む）	外面：6条/cmの斜行ハケ 内面：丁寧な縦位の指ナデ	外面：黒褐色 内面：暗褐色 断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－3	AVE－a7－1	甕	V－4－1 砂レキC	30.1	4.8		如意形口縁の端部にキザミを入れる。7条のヘラ描き沈線の直下に竹管状工具による刺突	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：7条/cmの斜行ハケ 内面：ヨコハケ後、ナデ	外面：黒褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－4	AVF－b6－1	甕	V－1－1 砂レキ2	24.2	7.2		口縁の屈曲は緩く、端部には斜格子状のキザミを入れる。6条のヘラ描き沈線の直下に竹管状工具による刺突を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：タテハケ後、ナデ 内面：指ナデ	外面：淡黄褐色 内面：淡灰褐色 断面：淡褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－4期
－5	AVG－b5－1	甕	V－1－2 砂レキ3	25.9	4.8		口縁はやや強く屈曲する。5条のヘラ描き沈線の上下に竹管状工具による円形刺突を施す	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：縦位の指ナデ	外面：茶褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期
－6	AWA－a－1	甕	V－1－3 砂レキA		6.4		如意形口縁の端部にやや下方管状からキザミを入れる。2条のヘラ描き沈線間に米粒状刺突	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：指ナデ	表面：にぶい淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/12 以下	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－7	AWC－c－1	甕	V－1－3 砂レキD	17.4	8.8		如意形口縁。2条のヘラ描き沈線間に円形刺突を施す	良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：4条/cmの斜行ハケ後、ナデ 内面：ナデ	全面：にぶい褐色	上半部1/5	弥生Ⅰ－4期
－8	AWD－c－1	甕	V－4－2 砂レキF	14.1	4.1		如意形口縁の端部には平坦面を持つ。2条のヘラ描き沈線間に米粒状刺突を施す	良好	粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：斜行ハケ後、ナデ 内面：7条/cmのヨコハケ	外面：白褐色 内・断面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－9	AWF－b－1	甕	V－1－2 細砂	28.0	8.4		如意形口縁の端部に側面からキザミを入れる。2条のヘラ描き沈線間に縦長状刺突を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	外面：4条/cmのタテハケ後、5条/cmのヨコハケ 内面：4条/cmの斜行ハケ後、縦ナデ	外面：白褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期 外面には煤付着
－10	AWH－a－1	甕	V－1－3 砂レキC		8.9		口縁の屈曲は緩く、端部にはキザミを入れる。2条のヘラ描き沈線間には縦長の刺突を施す	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：淡褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/12 以下	弥生Ⅰ－4期
－11	AWJ－a－1	甕	V－4－1		7.2		口縁の屈曲は緩く、端部にはキザミを入れる。2条のヘラ描き沈線間には米粒状刺突を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含み、金雲母・黒色粒を含む）	外面：ナデ 内面：指ナデ	外・断面：淡灰褐色 内面：にぶい淡褐色	上半部1/12 以下	弥生Ⅰ－4期
－12	AWK－a－1	甕	V－4－3 砂レキA		6.2		口縁の屈曲は緩く、端部にはキザミを入れる。3条のヘラ描き沈線間には米粒状刺突を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：にぶい淡褐色 内面：淡灰褐色 断面：白褐色	上半部1/12 以下	弥生Ⅰ－4期
－13	AWL－b－1	甕	V－1－3 砂レキD	24.4	6.4		口縁は強く屈曲する。2条のヘラ描き沈線間には略三角形刺突を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を多く含む）	外面：4条/cmのタテハケ 内面：4条/cmの斜行ハケ	外面：暗褐色 内面：淡茶褐色 断面：明褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－14	AWN－b－1	甕	V－4－3 砂レキB	21.8	6.6		口縁は強く屈曲し、端部は面を指向する。2条のヘラ描き沈線間に米粒状刺突を施す	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：6条/cmの斜行ハケ 内面：6条/cmの斜行ハケ後、ナデ	外・断面：暗褐色 内面：淡茶褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着

第58表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器観察表（14）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
46図－15	AWO－c－1	甕	V－4－1 砂レキA	18.7	14.8		口縁は強く屈曲し、端部には側面からキザミを入れる。3条のヘラ描き沈線間に米粒状刺突を施す	普通	粗（3㎜以下の石英・長石・金雲母を多く含む）	外面：タテハケ後、ナデ 内面：斜行ハケ後、ナデ	外面：白褐色 内面：暗褐色 断面：淡褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－16	AWV－b－1	甕	V－4－2 砂レキF		7.7		瀬戸内型系？　6条のヘラ描き沈線の第2・4条間に円形刺突を施す	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：タテハケ後、ナデ 内面：8条/㎝の斜行ハケ	外面：白褐色 内面：にぶい褐色 断面：黒灰色	上半部1/6	弥生Ⅰ－4期 推定口径25.1㎝
－17	AWW－b－1	甕	V－1－2 細砂	21.0	6.8		口縁は外に折れ、端部には平面を持ち、キザミを施す。7条のヘラ描き沈線の第2・5条間に竹管状刺突を施す	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：指ナデ	外面：淡茶褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－18	AWX－b－1	甕	V－1－3 砂レキC	23.2	6.7		口縁は大きく屈曲する。8条のヘラ描き沈線の第5条間に円形刺突を施す	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：タテハケ後、ナデ 内面：指ナデ	外・断面：淡褐色 内面：にぶい褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－4期
－19	AWY－b－1	甕	V－4－1 砂レキB	28.8	7.5		如意形口縁の端部に側面から円形浅いキザミを入れる。7条のヘラ描き沈線の第3条間から3段に渡って円形刺突を施す	良好	粗（3㎜以下の石英・長石・金雲母を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：淡褐色 内・段面：にぶい褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期 外面には煤付着
－20	BAK－1	甕	V－1－3 砂レキA	28.8	5.3		瀬戸内型系？　8条のヘラ描き沈線の第5条間に二枚貝刺突による鋸歯文を施す	良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：ナデ 内面：指ナデ	表面：淡橙褐色 断面：橙褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－4期
47図－1	AWD－a－1	甕	V－4－3 砂レキB	35.7	12.4		如意形口縁の端部には平坦面を施す。2条のヘラ描き沈線間に米粒状刺突を施す	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒等をやや多く含む）	外面：5条/㎝の斜行ハケ 内面：5条/㎝のヨコハケ	外面：白褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：淡灰色	上半部1/8	弥生Ⅰ－4期 外面全体に煤付着
－2	AWG－a－1	甕	V－1－1 南砂レキ	57.3	9.4		口縁内面にｱｸｾﾝﾄを持つ如意形口縁で、端部に平坦面を持つ。3条のヘラ描き沈線間に米粒状の刺突を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：指ナデ	全面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期
－3	AWM－a－1	甕	V－4－2 砂レキF	33.8	6.2		口縁は強く屈曲し、端部には平坦面を持つ。2条のヘラ描き沈線間に米粒状刺突を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：黒褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期 外面には煤付着
－4	AWI－a－1	甕	V－1－2 砂レキ3	40.6	7.2		口縁の屈曲はやや緩く、やや上方からキザミを入れる。2条のヘラ描き沈線間に縦長刺突を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：7条/㎝のタテハケ 内面：ナデ	外面：暗灰褐色 内面：淡褐色 断面：灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅰ－4期
－5	AWP－a－1	甕	V－4－1 砂レキB	48.0	8.3		口縁はやや強く屈曲し、端部にはやや下方からキザミを入れる。3条のヘラ描き沈線間に円形刺突を施す	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	内面：7条/㎝のヨコハケ 内面：9条/㎝のヨコハケ	外・断面：白褐色 内面：淡褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－4期
－6	AWZ－a－1	甕	V－1－3 砂レキD	33.2	10.5		如意形口縁の端部に平坦面を持ち、上方と側面からキザミを入れる。11条のヘラ描き沈線の第6条間から2段に渡って円形刺突を施す	良好	やや粗（4㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内面：7条/㎝のタテハケ 内面：斜行ハケ後、ナデ	表面：にぶい褐色 断面：淡褐色	上半部1/7	弥生Ⅰ－4期

第59表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（壺）遺物観察表（15）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
48図－1	ZCA－8d－1	壺	V－1－3 砂レキD	15.1	6.6		口縁端部にキザミを入れる 8条のヘラ描き沈線	やや不良	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含み、黒色粒を含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：磨滅のため調整不明	表面：淡褐色 断面：淡灰色	上半部1/5	弥生Ⅰ－4期
－2	ZCF－5α－1	壺	V－4－2 砂レキF	21.6	6.2		口縁端部の幅広の平坦面に無軸羽状のキザミを入れる 5条以上のヘラ描き沈線	良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ヨコナデ後、5条/㎝のタテハケ 内面：横位のヘラミガキ？	外面：白褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡灰色	口頸部1/6	弥生Ⅰ－4期
－3	ZCF－s－6	壺	V－1－2 砂レキ3	23.7	2.5		口縁端部に無軸羽状のキザミを入れる。口縁見込には三角形刺突を施す	普通	粗（3㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒等を多く含む）	外面：10条/㎝のタテハケ後、ナデ 内面：ナデ	表面：暗褐色 断面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅰ－4期
－4	ZCG－1	壺	V－1－1 細砂	37.5	4.7		口縁端部の平坦面の上下端にキザミを入れる。	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：縦位の指ナデ	全面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅰ－4期
－5	ZCI－1	壺	V－1－2 暗灰砂	18.9	5.2		口縁端部の平坦面に無軸羽状のキザミを入れる 1条以上のヘラ描き沈線	良好	普通（2㎜以下の石英・長石を含む）	外面：口縁直下は横位のミガキ 頸部はヨコナデ 内面：横位のヘラミガキ	外面：にぶい褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡褐色	口頸部1/7	弥生Ⅰ－4期
－6	ZCJ－ZBB11－1	壺	V－1－2 砂レキ3	17.2	14.8		口縁端部に斜格子状のキザミを入れる。頸部に11条のヘラ描き沈線を施し、直下に三角形刺突を施す	良好	やや粗（4㎜以下の石英・長石をやや多く含み、金雲母を僅かに含む）	外面：口縁直下は縦位のミガキ。肩部はミガキと思われるが不明 内面：口頸部はナデ。胴部は横位のヘラミガキ	外面：白褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡灰色	上半部1/5	弥生Ⅰ－4期
－7	ZCJ－10d－1	壺	V－1－2 地山上 砂レキ3	23.9	8.0		口縁端部に斜格子状のキザミを入れる。頸部に10条以上ヘラ描き沈線を施す	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：口縁直下は横位のミガキ。頸部は4条/㎝のタテハケ後、ナデ 内面：横位のヘラミガキ	表面：にぶい褐色 断面：にぶい淡褐色	口頸部1/5	弥生Ⅰ－4期
－8	ZCJ－s10d－1	壺	V－4－2 砂レキF	12.8	3.7		口縁端部に斜格子状のキザミを入れる。頸部に10条以上ヘラ描き沈線を施す	良好	普通（2㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：口縁直下は7条/㎝の斜行ハケ後、指ナデ 内面：ヨコナデ	表面：白褐色 断面：暗灰色	口頸部1/7	弥生Ⅰ－4期
－9	ZCJ－s8d	壺	V－1－2 粗砂	24.8	8.1		口縁端部に斜格子状のキザミを押引き状に入れる。頸部に4条の浅い凹線と5条以上のヘラ描き沈線を施す	良好	やや密（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	外面：ヨコナデ 内面：口縁部は横位のヘラミガキ頸部はナデ	全面：淡褐色（一部に黒斑あり）	口頸部1/4	弥生Ⅰ－4期
－10	ZCK－3α－1	壺	V－4－1 砂レキB	24.3	8.1		口縁端部に有軸羽状のキザミを施す。頸部に3条以上のヘラ描き沈線を施す	やや不良	粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒等を多く含む。在地の胎土ではない）	外面：ナデ？ 内面：口縁部はナデ。頸部は縦位の指ナデ	全面：暗茶褐色	口頸部1/8	弥生Ⅰ－4期
－11	ZCK－s1－1	壺	V－1－2 砂レキ	36.8	3.2		口縁端部に有軸羽状のキザミを施す。頸部境には段を設ける	良好堅緻	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：横位のヘラミガキ	外面：明淡橙褐色 内面：明褐色 断面：淡褐色	口縁部1/10	弥生Ⅰ－4期
－12	ZCM－s7α－1	壺	V－4－1 砂レキB	24.9	7.3		口縁端部に向きが逆転する有軸羽状のキザミを施す。頸部に7条以上のヘラ描き沈線を施す	良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：口縁部は横位のヘラミガキ。頸部はナデ	表面：淡灰褐色 断面：灰褐色	口頸部1/5	弥生Ⅰ－4期
－13	ZCO－1	壺	V－4－1 砂レキB	20.0	3.7		口縁端部に沈線を施した後、縦長刺突を施す。内面には装飾用の粘土紐が残る	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	表面：淡褐色 断面：灰褐色	口縁部1/6	弥生Ⅰ－4期
－14	ZCO－6α－1	壺	V－1－2 砂レキ3	22.7	6.5		口縁端部に沈線を施した後、縦長刺突を施す。頸部には5条以上のヘラ描き沈線を施す	良好	普通（2㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：4条/㎝のタテハケ後、ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：灰褐色 内・断面：淡褐色	口頸部1/7	弥生Ⅰ－4期
－15	ZCP－ZEQ－1	壺	V－1－2 砂レキ3	24.8	6.8		口縁端部に沈線を施した後、縦長刺突を施す。頸部は削り出しにより突帯を形成し、帯上に2条、帯の上下に各1条の沈線を施す。	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ？	表面：白褐色 段面：淡灰色	上半部1/5	弥生Ⅰ－4期
－16	ZCP－1	壺	V－1－2 砂レキ3	32.4	3.6		口縁端部に沈線を施し、その上下にそれぞれキザミを入れる。口縁見込みには2条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：横位のヘラミガキ？ 内面：横位のヘラミガキ？	表面：にぶい淡灰色 断面：黒灰色	口縁部1/12	弥生Ⅰ－4期

第60表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（壺）遺物観察表（16）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
48図－17	ZCQ－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキE	13.8	2.8		口縁端部に沈線を施し、下端にキザミを入れる。	普通	普通（1㎜以下の石英・長石・黒色粒赤色粒を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	全面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅰ－4期
－18	ZCR－1	壺	Ⅴ－4－3 砂レキA	17.1	3.2		口縁端部に幅広の平坦面を持ち、大振りの米粒状刺突を施す	良好	粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：6条/cmのタテハケ後、ヨコナデ 内面：ナデ	全面：淡褐色	口縁部1/7	弥生Ⅰ－4期
－19	ZCS－3－1	壺	Ⅴ－1－2 砂レキ3	19.0	10.9		口縁端部に1条のヘラ描き沈線を施す。頸部には3条のヘラ描き沈線	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：口縁部はナデ。頸部は4条/cmの斜行ハケ後、縦位の指ナデ	外面：白褐色 内面：淡褐色 断面：暗灰色	口頸部1/3	弥生Ⅰ－4期
－20	ZCS－5－1	壺	Ⅴ－1－2 砂レキ3	12.8	5.1		口縁端部に1条のヘラ描き沈線を施す。頸部には5条のヘラ描き沈線	普通	普通（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	外面：口縁部はヨコナデ。頸部は9条/cmのタテハケ 内面：口縁部は横位のミガキ。頸部はヨコナデ	表面：にぶい茶褐色 断面：淡灰色	口頸部は完存	弥生Ⅰ－4期
－21	ZCT－1	壺	Ⅴ－4－2 砂レキE	15.3	3.9		口縁端部に2条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：磨滅のため調整不明	表面：暗灰褐色 断面：にぶい褐色	口縁部1/6	弥生Ⅰ－4期
－22	ZCT－s－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキB	23.4	4.9		口縁端部に2条の二枚貝沈線を施す	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：磨滅のため調整不明	外面：白褐色 内面：灰褐色 断面：黒灰色	口縁部1/10	弥生Ⅰ－4期
－23	ZCX－1	壺	Ⅴ－1－2 砂レキ3	21.4	2.5		口縁端部には縦長の刺突を施すが、途中で有軸羽状文に変わる	良好	普通（2㎜以下の石英・長石を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	全面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅰ－4期
－24	ZCY－1	壺	Ⅴ－1－2 細砂	16.8	2.1		口縁端部に沈線を施し、その上下にキザミを入れる	良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ。一部横位のヘラミガキ 内面：横位のヘラミガキ	全面：白褐色	口縁部1/8	弥生Ⅰ－4期
49図－1	ZCN－1	壺	Ⅴ－1－1 南砂レキ	65.3	13.4		口縁端部の幅広の平坦面の中央に沈線を施し、その上下に竹管状刺突を施す。頸部の突帯は中央に深いヘラ描き沈線を入れ、キザミを施す	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む）	外面：ナデ 内面：口縁部は横位のヘラミガキ。胴部は6条/cmのヨコハケ	表面：にぶい褐色 断面：明灰色	口頸部1/10	弥生Ⅰ－4期
－2	ZCL－9d－1	壺	Ⅴ－1－2 砂レキ3	17.9	5.5		口縁端部に有軸羽状のキザミを施す。頸部に9条以上のヘラ描き沈線を施す	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：横位のヘラミガキ	外面：橙褐色 内・断面：淡褐色	口頸部1/5	弥生Ⅰ－4期
－3	ZCL－s7α－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキC	17.7	5.5		口縁端部に有軸羽状のキザミを施す。頸部に7条以上のヘラ描き沈線を施す	やや不良	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ？	全面：橙褐色	口頸部1/5	弥生Ⅰ－4期
－4	ZCL－s＋ ZBB2－1	壺	Ⅴ－1－2 砂レキ3	25.6	13.5		口縁端部に有軸羽状のキザミを施す。頸部に7条＋8条のヘラ描き沈線を施し、それぞれの直下には三角形刺突を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：口縁部は縦位のヘラミガキ。頸部は磨滅のため調整不明 内面：口縁部はナデ？　頸部は磨滅のため調整不明	外面：淡橙褐色 内面：淡赤褐色 断面：黒灰色	口頸部1/5	弥生Ⅰ－4期
－5	ZCL－s1α－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキC	40.0	8.3		口縁端部に有軸羽状のキザミを施す。頸部に2条以上のヘラ描き沈線を施す	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を多く含む）	外面：3条/cmのタテハケ 内面：ヨコハケ後、ナデ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/10	弥生Ⅰ－4期
－6	ZCL－s1－1	壺	Ⅴ－1－3 砂レキC	38.1	10.0		口縁端部に有軸羽状のキザミを施す。頸部に1条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：横位のヘラミガキ	外面：にぶい淡褐色 内面：淡褐色 断面：灰白色	口頸部1/3	弥生Ⅰ－4期
50図－1	ZDA－1	壺	Ⅴ－1－3 砂レキC	20.0	3.3		口縁端部に平坦面を持つ	良好	粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	全面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅰ期
－2	ZDB－1	壺	Ⅴ－1－2 砂レキ3	29.5	5.7		口縁端部の平坦面中央に浅い凹線を持つ	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：口縁部はヨコナデ。頸部は6条/cmのタテハケ 内面：横位のヘラミガキ	表面：淡褐色 断面：灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅰ～Ⅱ期
－3	ZDC－1	壺	Ⅴ－1－1 南砂レキ	22.6	9.9		口縁端部には平坦面を持つ頸部の貼付け突帯上に4条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：口縁部の横位のヘラミガキ。頸部は縦位の指オサエ・ヨコナデ	外面：淡褐色 内・断面：淡灰褐色	口頸部1/6	弥生Ⅰ－4期
－4	ZDE－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキB	27.6	8.4		口縁端部には平坦面を持つ頸部の削り出し突帯上に4条以上のヘラ描き沈線を施す	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：斜位のヘラミガキ 内面：横位のヘラミガキ	外面：にぶい淡褐色 内面：淡灰褐色 断面：白褐色	口頸部1/4	弥生Ⅰ－4期

第61表・西川津遺跡Ｖ区出土・弥生土器（壺）遺物観察表（17）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
50図－5	ZDF－1	壺	Ｖ－4－2 砂レキJ	42.0	5.2		口縁端部に平坦面を持つ 頸部境に2条以上のヘラ描き沈線を施す	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	表面：にぶい白褐色 断面：淡褐色	口縁部1/12	弥生Ⅰ－2～3期
－6	ZDG－1	壺	Ｖ－1－2 砂レキ3	23.2	3.7		口縁端部には浅い沈線を施す 頸部境には削り出しの段を設けるが、両者とも赤彩が残る	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：口縁部はヘラミガキ？ 頸部は指ナデ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/6	弥生Ⅰ－2～3期
－7	ZDH－3d－1	壺	Ｖ－1－2 砂レキ3	15.4	3.9		口縁端部に幅広の平坦面を持つ。頸部には3条以上のヘラ描き沈線を施す	普通（やや粉っぽい）	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：指ナデ後、9条/cmのタテハケ 内面：指ナデ	全面：淡褐色	口縁部1/6	弥生Ⅰ－3期
－8	ZDI－1	壺	Ｖ－4－1 砂レキC	14.9	4.8		口縁端部に平坦面を持つがエッジが丸い。2条のヘラ描き沈線の条間に刺突を施す	やや良好	粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：口縁部は横位のヘラミガキ。頸部は縦位の指ナデ	外面：茶褐色 内・断面：明褐色	口頸部1/8	弥生Ⅰ－4期
－9	ZDJ－1	壺	Ｖ－4－3 砂レキB	16.4	8.1		口縁端部に平坦面を持つ	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を含み、赤色粒をやや多く含む）	外面：10条/cmのタテハケ後、横位のヘラミガキ 内面：横位のヘラミガキ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	口頸部1/4	弥生Ⅰ－2～3期
－10	ZDK－1	壺	Ｖ－1－2 砂レキ3	29.5	4.1		口縁端部に僅かな平坦面を持つ	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含み、金雲母を含む）	外面：6条/cmのタテハケ後、横位のヘラミガキ 内面：横位のヘラミガキ	表面：白褐色 断面：淡灰色	口縁部1/6	弥生Ⅰ期
－11	ZDL－1	壺	Ｖ－4－2 砂レキF	42.9	5.6		口縁端部に僅かな平坦面を持つ。頸部境は削り出しによる段を設けている	良好	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：幅広の横位のヘラミガキ 内面：横位のヘラミガキ？	表面：白褐色 断面：暗灰色	口縁部1/10	弥生Ⅰ－2～3期
－12	ZGA－1	壺	Ｖ－1－1 南西砂レキ	14.7	6.9		頸部境には粘土の接合線を利用した段を設ける	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石を含む）	外面：口縁部はヨコナデ。頸部は調整不明 内面：口縁部はヨコナデ。頸部は8条/cmのヨコハケ	外面：白褐色 内・断面：淡褐色	口頸部1/5	弥生Ⅰ－2～3期
－13	ZGA－R－1	壺	Ｖ－4－1 砂レキC	14.0	11.1		口縁端部には沈線を施す 内傾接合のため頸部境の段は逆転している。	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：横位のヘラミガキ	外面：暗赤褐色 内・断面：淡橙褐色	口頸部1/5	弥生Ⅰ－1～2期
－14	ZGB－1	壺	Ｖ－1－3	13.6	5.6		頸部に1条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：口縁部は横位のヘラミガキ頸部はナデ	表面：暗褐色 断面：にぶい淡褐色	口頸部1/5	弥生Ⅰ－2～3期
－15	ZGD－1	壺	Ｖ－1－1 南砂レキ	9.8	6.7		小型品で頸部に3条のヘラ描き沈線を施す	普通	普通（3㎜以下の石英・長石を若干含む）	外面：口縁部は指ナデ。胴部は磨滅のため調整不明 内面：口縁部は横位のヘラミガキ胴部は磨滅のため調整不明	外面：暗茶褐色 内・断面：淡茶褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ－3期
－16	ZGF－1	壺	Ｖ－1－2 細砂	17.8	8.8		やや長頸となる頸部に4条のはヘラ描き沈線を施す	やや不良（ローリング）	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	内外面とも磨滅している	表面：淡褐色 断面：黒灰色	口頸部1/5	弥生Ⅰ－3期
－17	ZGH－1	壺	Ｖ－1－2 砂レキ2	18.5	11.3		やや長頸となる頸部に5条のヘラ描き沈線を施す	やや不良（ローリング）	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：頸部は縦位の指ナデ	外面：淡橙褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡灰褐色	口頸部1/4	弥生Ⅰ－3～4期
－18	ZGJ－1	壺	Ｖ－1－1 南砂レキ	19.6	7.7		頸部に粘土紐を貼り付け、中央に凹線を入れ、2条突帯を形成し、キザミを入れる。	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：口縁部は横位のヘラミガキ	外面：淡褐色 内・断面：淡灰褐色	口頸部1/4	弥生Ⅰ－4期
－19	ZGK－1	壺	Ｖ－4－3 砂レキY	21.1	7.7		頸部に粘土紐を貼り付け、中央に凹線を入れ、2条突帯を形成しキザミを入れるが、下の突帯は部分的な施文	普通	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	内外面とも磨滅しているため調整不明	外面：淡灰褐色 内面：白褐色 断面：黒灰色	口頸部1/4	弥生Ⅰ－4期
－20	ZGL－1	壺	Ｖ－4－1 砂レキB	28.2	7.6		頸部に粘土紐を貼り付け、ヘラ状工具により2条の沈線を入れることにより形成した3条突帯に綾杉状の刺突を施す	普通	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	内外面とも磨滅しているため調整不明	外面：淡褐色 内・断面：暗灰色	口頸部1/6	弥生Ⅰ－4期
51図－1	ZGM－1	壺	Ｖ－4－2 砂レキJ	15.8	8.5		頸胴境に1条のヘラ描き沈線を施す	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：8条/cmのタテハケ後、横位のヘラミガキ 内面：丁寧な横位のヘラミガキ	外面：白褐色 内面：淡茶褐色 断面：白褐色～灰褐色	口頸部1/3	弥生Ⅰ－2～3期

第62表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（壺）遺物観察表（18）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
51図－2	ZGN－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキD	14.3	4.8		頸部の貼り付け突帯にキザミを入れる	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：斜位のヘラミガキ	表面：暗茶褐色 断面：淡褐色	口頸部1/5	弥生Ⅰ－2～3期
－3	ZGO－1	壺	Ⅴ－1－3 砂レキC	18.5	17.8		頸胴境に削り出しによる段を設ける	やや良好	粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：口頸部は磨滅のため調整不明。肩部はヨコハケ後、横ミガキ 内面：口縁部はヨコナデ。頸部は指ナデ	全面：にぶい淡褐色	上半部1/3	弥生Ⅰ－2期
－4	ZGS－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキB	40.7	9.6		頸部の削り出し突帯上に4条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石を多く含み、赤色粒・黒色粒を含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：磨滅のため調整不明	外・断面：淡橙褐色 内面：淡赤褐色	口頸部1/6	弥生Ⅰ－3期
－5	ZGT－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキB	5.5	4.9		斜口縁	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：口縁部はヨコナデ。肩部はナデ 内面：口縁部はヨコナデ。胴部は指ナデ	外面：暗褐色 内・断面：にぶい淡褐色	上半部1/4	弥生Ⅰ期
－6	ZGU－1	壺	Ⅴ－1－3 砂レキD	12.6	1.6		口縁内面に段を持つ	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：口縁部はヨコナデ。段下は横位のヘラミガキ	全面：淡赤褐色	口縁部1/8	弥生Ⅰ期
－7	ZGP－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキB	**8.4**	**11.1**	**4.4**	頸肩境に2条のヘラ描き沈線を施し、その条間に竹管状工具で円形刺突を施す	普通	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：頸部は縦ナデ。胴部は横の指ナデ	全面：淡褐色	口縁部の1/2のみ欠損	弥生Ⅰ－4期 最大径10.6cm
－8	ZGN－c－1	壺	Ⅴ－1－1 南細砂	6.8	8.5		口縁は強く屈曲する	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：粗いハケメ 内面：指ナデ	外面：淡褐色 内面：黒褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/3	弥生Ⅰ期
－9	ZGR－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキC	**6.7**	**11.7**	**4.6**	口縁は短く直立する 頸部に3条のヘラ描き沈線 胴部に5条のヘラ描き沈線	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：肩部は横位のヘラミガキ 内面：ナデ？	外面：淡黄褐色 内面：淡褐色	ほぼ完形	弥生Ⅰ－4期 最大径11.7cm
－10	ZGQ－ZAD－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキB	**7.7**	**14.3**	**5.3**	胴部に2条の断面三角形の突帯を持つ	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：横位のヘラミガキ 内面：頸部は縦位の指ナデ。胴部は横位のヘラミガキ	表面：淡灰褐色 断面：淡褐色	口縁部の1/3程度が欠損	弥生Ⅰ－4期 最大径12.1cm
－11	ZGV－1	壺	Ⅴ－1－2	8.8	12.9	**5.6**	頸・肩・胴部に各2条のヘラ描き沈線を施し、肩部の沈線の直下に羽状刺突を施す	良好	やや粗（2.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：頸部は縦位の指ナデ。胴部はナデ	外面：淡褐色 内面：淡茶褐色 断面：暗灰色	2/3残存	弥生Ⅰ－2～3期 最大径14.0cm
－12	ZGW－1	壺	Ⅴ－4－2 砂レキF		18.0	**5.9**	頸部に削り出しによる2条の小突帯を持つ。肩部には4段の区画内に流水文が崩れた紡錘形状の文様を充填する	良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：頸部は縦位のヘラミガキ。胴部上半は横位のヘラミガキ。下半は斜位のヘラミガキ。 内面：頸部は横位のヘラミガキ	外面：白褐色（黒斑） 内・断面：淡褐色	口縁端部は欠損	弥生Ⅰ－4期 最大径16.4cm
－13	ZEA－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキB		8.3		頸肩部境に1条のヘラ描き沈線を施す	良好	粗（2㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：丁寧なナデ 内面：5条/cmのヨコハケ後、横位のヘラミガキ	外面：にぶい褐色 内面：明褐色 断面：黒灰色	頸肩部1/4	弥生Ⅰ－2期
－14	ZEB－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキD		8.2		頸肩部境に1条のヘラ描き沈線を施す	良好	やや粗（4㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	外面：横位の丁寧なヘラミガキ 内面：頸部は縦位の指ナデ。胴部はナデ	外面：淡橙褐色 内・断面：淡褐色	頸肩部1/5	弥生Ⅰ－2期
－15	ZED－1	壺	Ⅴ－1－2 砂レキ		5.2		頸肩部境に削り出しによる段を設ける	普通	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：丁寧なナデ 内面：磨滅のため調整不明	全面：にぶい白褐色	肩部1/6	弥生Ⅰ－2期
－16	ZEE－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキC		7.6		頸部に2条のヘラ描き沈線を施す	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：口縁部は6条/cmのタテハケ後横位のヘラミガキ。 内面：縦位の指ナデ	表面：にぶい褐色 断面：淡灰褐色	頸部1/5	弥生Ⅰ－3期
－17	ZEF－1	壺	Ⅴ－4－2 砂レキF		7.5		頸肩部境に2条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：頸部は5条/cmのタテハケ。肩部はナデ？ 内面：ナデ	外面：明褐色 内・断面：淡灰色	頸肩部1/5	弥生Ⅰ－3期
－18	ZEG－1	壺	Ⅴ－4－2 砂レキJ		7.0		頸肩部境に削り出しによる段を設け、その直下に1条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：頸部は横位のヘラミガキ。胴部は指ナデ	外面：淡褐色（黒斑） 内面：白褐色 断面：暗灰色	頸肩部1/5	弥生Ⅰ－2～3期

第63表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（壺）遺物観察表（19）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
51図－19	ZEI－1	壺	V－4－2 砂レキE		4.8		頸肩部境に削り出しによる突帯を設け、帯上に1条のヘラ描き沈線を施す	良好	粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	外面：タテハケ 内面：ナデ	外・断面：白褐色 内面：淡灰褐色	頸部1/12以下	弥生Ⅰ－3期
－20	ZEK－2	壺	V－1－2		5.9		肩部に削り出しの突帯を設けその直下に1条のヘラ描き沈線を施す	良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：胴部は横位のヘラミガキ 内面：ナデ	外面：暗茶褐色 内面：茶褐色 断面：淡茶褐色	肩部1/7	弥生Ⅰ－3期
－21	ZEL－1	壺	V－4－2 砂レキF		7.4		頸部に削り出し突帯を設ける	良好	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：ナデ 内面：横位のヘラミガキ	外面：淡橙褐色 内面：白褐色 断面：淡褐色	頸部1/12以下	弥生Ⅰ－2～3期
－22	ZEM－1	壺	V－4－1 砂レキD		13.9		肩部に削り出しの段を設け、その直下に2条のヘラ描き沈線を施す	良好	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：横位・斜位のヘラミガキ 内面：頸部は指ナデ後、横位のヘラミガキ。胴部は横位のヘラミガキ	全面：淡灰褐色	胴部1/6	弥生Ⅰ－3期 外面に煤付着
－23	ZEP－s－1	壺	V－1－2 粗砂		6.0		肩部に2枚貝による3条の沈線を施す	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：斜位のヘラミガキ 内面：ナデ	外面：にぶい白褐色 内面：灰褐色 断面：淡灰色	胴部上半の約1/5	弥生Ⅰ－3期
52図－1	ZEQ－1	壺	V－1－2 砂レキ3		5.6		頸部に削り出し突帯を設け、帯上に2条のヘラ描き沈線を施す	普通	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：横位のヘラミガキ	外面：白褐色 内面：黒褐色 断面：暗灰色	頸部1/10以下	弥生Ⅰ－3期 推定頸径24.4㎝
－2	ZER－1	壺	V－1－2 砂レキ3		6.2		肩部に削り出しの段を設け、直下に3条のヘラ描き沈線を施す	普通	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：ナデ	表面：淡褐色 断面：暗灰色	肩部1/7	弥生Ⅰ－3期
－3	ZER－s－3	壺	V－1－2 砂レキ3		4.8		頸部に削り出しの段を設け、直下に3条のヘラ描き沈線を施す	良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：頸部は横位のヘラミガキ 胴部はヨコナデ	表面：暗灰褐色 断面：淡灰褐色	頸部1/5	弥生Ⅰ－3期
－4	ZES－1	壺	V－4－2 砂レキE		9.5		頸部に削り出しの段を設け、直上に3条のヘラ描き沈線を施す	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：指ナデ 内面：指ナデ	表面：灰褐色 断面：黒灰色	頸肩部1/7	弥生Ⅰ－3期
－5	ZEU－1	壺	V－1－2 砂レキ3		14.7		頸部・肩部にそれぞれ削り出突帯を設け、3条のヘラ描き沈線を施す	普通	粗（4㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：胴部は横位のヘラミガキ。頸部は磨滅のため調整不明 内面：頸部はヨコナデ。胴部は横位のヘラミガキ	表面：にぶい淡褐色 断面：暗灰色	上半部1/4	弥生Ⅰ－3期
－6	ZEW－T－1	壺	V－4－3 砂レキA		8.6	5.6	無文	普通	粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：磨滅のため調整不明	外面：白褐色 内面：淡灰色	胴部下半	弥生Ⅰ期
－7	ZFB－1	壺	V－4－3 砂レキY		12.3		頸部に4条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：先端が2条に分かれる工具による調整	外面：淡褐色 内・断面：にぶい淡褐色	頸胴部1/3	弥生Ⅰ－3期 頸径10.7㎝ 胴径18.3㎝
－8	ZFC－1	壺	V－1－3 砂レキ4		12.8		頸部に削り出しの段を設け、直下に4条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：頸部は縦位の指ナデ。胴部は横位のヘラミガキ	外面：白褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：黒褐色	頸肩部1/5	弥生Ⅰ－3期 推定胴径24.4㎝
－9	ZFE－1	壺	V－4－3 砂レキA		7.1		頸部に削り出しの段を設け、直上に4条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：4条 /㎝のタテハケ 内面：ナデ	外面：白褐色 内面：淡灰白色 断面：淡褐色	頸部1/8	弥生Ⅰ－3期 頸径15.4㎝
－10	ZFF－1	壺	V－4－2 砂レキE		5.9		頸部に5条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	粗（7㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：9条 /㎝のタテハケ 内面：縦位の指ナデ	外面：にぶい白褐色 内・断面：淡橙褐色	頸部1/5	弥生Ⅰ－3期 推定頸径15.0㎝
－11	ZFK－8	壺	V－4－2 砂レキF		6.5		頸部に6条のヘラ描き沈線を施す	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を多含む）	外面：沈線より上は縦位のヘラミガキ沈線より下は横位のヘラミガキ 内面：口縁部は横位のヘラミガキ頸部はナデ	外面：淡黄白色 内面：淡灰色 断面：淡灰褐色	頸部1/7	弥生Ⅰ－4期 推定頸径16.1㎝
－12	ZFL－1	壺	V－4－3 砂レキB		15.9		頸部に5条以上、胴部に6条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	粗（5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明。ナデ？ 内面：指ナデ	外面：にぶい褐色 内面：淡赤褐色 断面：淡灰褐色	頸胴部1/4	弥生Ⅰ－4期 推定頸径13.8㎝
－13	ZFO－1	壺	V－4－1 砂レキB		8.3		頸部に7条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：やや斜位のヘラミガキ 内面：横位のヘラミガキ	全面：明褐色	頸部1/3	弥生Ⅰ－4期 推定頸径13.8㎝

第64表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（壺）遺物観察表（20）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
52図－14	ZBA－1	壺	V－4－1 砂レキB		10.0		頸部に9条のヘラ描き沈線を施し、その上下に三角形刺突を施す	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：縦位の指ナデ	外・断面：白褐色 内面：にぶい淡褐色	頸部1/4	弥生Ⅰ－4期 推定頸径21.2cm
－15	ZBB－3	壺	V－1－3 砂レキD		7.1		頸部に10条のヘラ描き沈線を施し、その直下に三角形刺突を施す	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：口縁部は5条/cmのタテハケ胴部は磨滅のため調整不明 内面：横位のヘラミガキ	外面：淡褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡灰色	頸部1/3	弥生Ⅰ－4期 推定頸径11.3cm
－16	ZBN－1	壺	V－1－2 砂レキ3		13.0		頸部から胴部にかけて9・10条のヘラ描き沈線を施し、その直下に三角形刺突を施す	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：11条/cmのタテハケ後、沈線を施し、その後横位のヘラミガキ 内面：指オサエ	外面：淡灰褐色 内面：黒褐色 断面：暗灰色	頸肩部1/4	弥生Ⅰ－4期
－17	ZBR－d6＋5	壺	V－4－1 砂レキD		4.4		頸部の6条以上と5条以上のヘラ描き沈線間に斜行する刺突を施す	やや良好	普通（2㎜以下の石英・長石等を含む）	内面：横位のヘラミガキ	表面：にぶい白褐色 断面：淡灰白色	頸部1/6	弥生Ⅰ－4期
－18	ZBZ－1	壺	V－1－2 砂レキ3		9.2		頸部に削り出し突帯を設け、帯上に2段に渡って、米粒状刺突を施す	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：明褐色 内面：暗褐色 断面：淡灰色	頸部の一部	弥生Ⅰ－4期
－19	ZHF－1	壺	V－1－2 暗灰粗砂	11.2	8.0		口縁は大きく屈曲し、端部にキザミを入れる。頸部には9条のヘラ描き沈線を施し、その下に三角形状刺突を施す	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：斜位のヘラミガキ 内面：ナデ	外面：白褐色 内・断面：淡褐色	口頸部1/4	弥生Ⅰ－4期
－20	ZHA－1	壺	V－4－2		6.0		頸肩境に削り出しの段を設けその直下に4条以上の文様帯を設け、勾玉状刺突・竹管状刺突を施す	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	内面：ナデ	外面：白褐色 内・断面：淡褐色	胴部 上半1/10	弥生Ⅰ－4期
53図－1	ZAC－1	壺	V－1－3 砂レキD		4.3		胴部に粘土紐を貼り付け、2条の突帯とし、横長の刺突を入れる	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：淡褐色 内・断面：黒褐色	胴部の一部	弥生Ⅰ－4期
－2	ZAF－2	壺	V－1－1 南砂レキ		8.7		胴部に粘土紐を貼り付け、2条の突帯とし、羽状にキザミを入れる	普通	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：磨滅が進んでいるが、ナデか？ 内面：磨滅のため調整不明	全面：淡褐色	胴部下半の約1/4	弥生Ⅰ－4期
－3	ZAH－1	壺	V－1－2 砂レキ3		11.7		肩部に3条の貼り付け突帯を施し、羽状のキザミを入れる	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：頸部は縦位のヘラミガキ胴部は横位のヘラミガキ 内面：5条/cmの斜行ハケ	外面：にぶい淡褐色 内・断面：淡褐色	肩部1/5	弥生Ⅰ－4期
－4	ZAK－9	壺	V－1－3 砂レキD		2.2		肩部に突出度の小さい突帯を設ける	普通	やや密（0.5㎜以下の石英・長石・金雲母等を含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	表面：暗褐色 断面：暗灰色	肩部1/8	弥生Ⅰ－4期
－5	ZAN－3	壺	V－4－1 砂レキD		9.8		肩部に3条の突帯を施す	普通	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：頸部は縦位の指ナデ、胴部はナデの後、6条/cmの斜行ハケ	外面：暗褐色 内・断面：淡黄褐色	胴部1/6	弥生Ⅰ－4期
－6	ZAM－2	壺	V－4－3 砂レキX		8.3		肩部にやや細目の2条の貼付け突帯を設ける	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：磨滅のため調整不明	外面：にぶい淡褐色 内面：淡灰褐色 断面：黒灰色	肩部1/7	弥生Ⅰ－4期
－7	ZIA－2	無頸壺	V－1－1 砂レキ2	8.5	**10.5**	13.4	口縁直下の孔の有無は不明	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：磨滅のため調整不明	全面：明橙褐色	約1/3	弥生Ⅰ期
－8	ZIA－1	無頸壺	V－1－2 砂レキ3	11.2	10.8		口縁直下に2個1セットの孔を2カ所設ける	やや不良	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：口縁直下は指オサエ。胴部は横位のヘラミガキ	外面：明褐色 内面：暗茶褐色 断面：白褐色	約1/3	弥生Ⅰ期
－9	AYA－b－1	鉢	V－4－3 砂レキB	29.8	11.3		口縁端部を水平に仕上げる	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：指ナデ 内面：指ナデ	外・断面：灰褐色 内面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ期
－10	YGA－3	把手付鉢	V－4－1 砂レキC	30.1	6.3		口縁下に1条沈線を施文した後、一対の把手を貼り付ける	良好	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：横位のヘラミガキ	外・断面：白褐色 内面：淡橙褐色	上半部1/8	弥生Ⅰ期
－11	ZIC－1	鉢	V－4－3 砂レキB	27.9	5.5		口縁の屈曲は緩い	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：斜行ハケ後、横位のヘラミガキ	外面：淡茶褐色 内・断面：にぶい褐色	上半部1/6	弥生Ⅰ期
－12	ZIC－2	鉢	V－4－1 砂レキC	38.2	6.5		口縁下に2条のヘラ描き沈線を施し、条間に2段に渡って米粒状刺突を施す	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：横位のヘラミガキ 内面：横位のヘラミガキ	全面：白褐色	上半部1/12	弥生Ⅰ－4期

第65表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（蓋）観察表（21－1）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
54図－1	YBA－a－3	蓋	Ⅴ－1－2 砂レキ3		7.2	5.1	上部外面は平坦となる	普通	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：粗い縦ケズリ 内面：比較的丁寧なナデ	外面：黒褐色 内面：暗褐色	約1/3	弥生Ⅰ期
－2	YBA－a－4	蓋	Ⅴ－1－2 砂レキ3		5.4	4.4	上部外面は平坦となる	普通	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：ヘラミガキ	外面：灰褐色 内面：淡橙褐色（一部黒斑あり）	端部は欠損	弥生Ⅰ期
－3	YBB－a－1	蓋	Ⅴ－1－2 砂レキ3		9.9	6.6	上部外面は僅かに窪む	普通	粗（2.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：横位のヘラミガキ？上面はナデ 内面：上半はタテハケ後、ナデ 下半は横位のヘラミガキ	外面：淡橙褐色 内面：暗茶褐色 断面：暗灰色	約1/5	弥生Ⅰ期
－4	YBB－a－2	蓋	Ⅴ－1－1 砂レキ		8.4	6.5	上部外面は窪む	普通	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：上部はクモの巣状のハケ調整。下半は8条/cmのヨコハケ	全面：淡褐色	約1/3	弥生Ⅰ期
－5	YBB－b－1	蓋	Ⅴ－1－3 砂レキC	11.2	5.2	3.2	つまみ部分は高台状に張り出す	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：縦位のヘラミガキ。つまみの部分はナデ 内面：上半は指ナデ。下半は横～斜位のヘラミガキ	全面：白褐色	口縁端部は約1/4程度残存	弥生Ⅰ期
－6	YBB－b－2	蓋	Ⅴ－1－2	10.0	3.9	1.1	つまみ部分は噴火口状に窪む	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：ヘラミガキ 内面：煤が付着しているため不明	外面：淡橙褐色 内面：黒褐色 断面：淡灰褐色	約1/2	弥生Ⅰ期
－7	YBD－45	蓋	Ⅴ－1－1 南砂レキ	23.8	6.2		口縁端部は丸く収める	やや不良	粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：磨滅のため調整不明	外面：淡褐色 内面：暗灰褐色 断面：淡橙褐色	約1/4程度	弥生Ⅰ期
－8	YBD－1	蓋	Ⅴ－1－1 南砂レキ	20.1	5.0		口縁端部に沈線を施す	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：ヨコナデ	外面：淡褐色 内面：明白褐色	約1/4程度	弥生Ⅰ期
－9	YBC－1	蓋	Ⅴ－1－2	10.4	2.9		突起状のつまみ。2個一対の孔を両端に持つ	普通	粗（3㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：ナデ	外面：淡灰褐色 内面：淡橙褐色	完形	弥生Ⅰ期

第66表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（小型鉢・特殊品）観察表（21－2）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
54図－10	YJA－1	小型鉢	Ⅴ－4－2 砂レキF	8.5	4.6		口縁端部にキザミを入れる	良好	粗（5㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外・断面：灰褐色 内面：淡橙褐色	約2/5	弥生Ⅰ期
－11	YJB－1	小型鉢	Ⅴ－4－2 砂レキG	13.3	6.6		口縁端部はやや立ち上がり気味に内傾する	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	表面：暗灰褐色 断面：灰褐色	約1/5	弥生Ⅰ期
－12	YHF－4	小型鉢	Ⅴ－4－1 砂レキB	16.3	5.3		口縁端部は丸く収める	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ヨコナデ	表面：白褐色（黒斑あり） 断面：白褐色	口縁部1/8	弥生Ⅰ期
－13	YHH－1	用途不明土製品	Ⅴ－4－3 砂レキZ		5.6	10.0	内部は中実	普通	やや粗（4㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ナデ	表面：淡褐色 断面：暗灰褐色	約1/3	弥生Ⅰ期
－14	YHL－1	用途不明土製品	Ⅴ－1－2 砂レキ		6.0		内部は中空	普通	普通（2㎜以下の石英・長石を含む）	外面：指ナデ	外面：淡灰白色 内・断面：淡褐色	筒部の一部	弥生Ⅰ期
－15	YHL－3	用途不明土製品	Ⅴ－4－2 砂レキE		3.4	8.4	内部は中空 端部には平坦面を持つ	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	全面：褐灰色	図下範囲の約1/3	弥生Ⅰ期

第67表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（土笛）観察表（21－3）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
54図－16	YI－2	土笛	Ⅴ－4－3 砂レキB	3.3	4.8		孔の配置・数は不明	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：指ナデ 内面：指ナデ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	約1/4	弥生Ⅰ期
－17	YI－3	土笛	Ⅴ－4－2		5.1		孔の配置・数は不明	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：縦位のヘラミガキ 内面：指ナデ	外面：淡褐色 内面：暗灰色 断面：淡灰色	約1/6	弥生Ⅰ期

第68表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（土笛）観察表（22－1）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
54図－18	YI－1	土笛	Ⅴ－4－3 SR01川床	4.3	6.6		正面の4孔は確認できるが背面は不明	やや良好	普通（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：指ナデ 内面：指ナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：淡褐色	約1/4	弥生Ⅰ期

第69表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（ミニチュア土器）観察表（22－2）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
54図－19	YHB－3	ミニチュア甕	Ⅴ－1－2 細砂		2.6	2.4		普通 普通	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：指ナデ 内面：指ナデ	外面：明褐色 内・断面：淡桃褐色	下半部のみ	弥生Ⅰ期
－20	YHA－2	ミニチュア甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	4.5	4.3	2.6～3.7		普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む	外面：指ナデ 内面：指ナデ	表面：淡褐色 断面：灰褐色	約1/2	弥生Ⅰ期
－21	YHA－1	ミニチュア甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	5.7	4.3	3.1	口縁は直線的に伸び外反しない	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石を含む）	外面：上半は斜行ハケ。下半はナデ 内面：指ナデ	外面：淡灰褐色 内面：白褐色 断面：黒灰色	約1/2	弥生Ⅰ期
－22	YHD－3	ミニチュア甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	6.1	6.1		口縁端部は僅かに外反する	良好	粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：口縁は指オサエ。胴部は8条/cmのタテハケ 内面：5条/cmのヨコハケ。下半は指ナデ	外面：にぶい淡褐色 内・断面：淡褐色	約1/4	弥生Ⅰ期
－23	YHA－5	ミニチュア甕	Ⅴ－1－2	9.0	7.9	4.9	如意形口縁を指向する	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む）	外面：指ナデ。指頭圧痕多数 内面：ヨコナデ	表面：淡褐色 断面：黒褐色	約1/3	弥生Ⅰ期
－24	YHE－2	ミニチュア壺	Ⅴ－1－3 砂レキD	5.5	4.0		口縁は大きく開く	やや良好	普通（1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：指ナデ 内面：指ナデ	表面：灰褐色 断面：淡灰色	約1/5	弥生Ⅰ期
－25	YHC－9	ミニチュア壺	Ⅴ－1－2 砂レキB		4.8	5.6	底部は上げ底となる	良好	粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：指ナデ。底部は指オサエ 内面：ヘラミガキ	外面：淡橙褐色 内面：明褐色 断面：灰褐色	底部の約1/3	弥生Ⅰ期
－26	YHG－1	ミニチュア蓋	Ⅴ－4－2 砂レキG	5.8	3.7	2.9	天井部外面は窪む	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：指ナデ 内面：指ナデ	全面：淡褐色	約2/3	弥生Ⅰ期
－27	YHM－1	ミニチュア土器	Ⅴ－4－2 砂レキF		3.0	4.8	脚台部のみ残存	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：胴部は5条/cmの斜行ハケ。脚部は粗い指ナデ 内面：丁寧な指ナデ	外面：淡褐色 内・断面：淡灰褐色	脚台部の約1/2	弥生Ⅰ期
－28	YK－1	匙形土製品	Ⅴ－1－2 地山上		残長 8.4	幅 5.9	比較的忠実に匙を模している	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	外面：指ナデ 内面：指ナデ。指頭圧痕を残す	外面：灰褐色 内面：暗橙褐色 断面：茶褐色	柄部は欠損	弥生Ⅴ期

第70表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生土器（人面付土器）観察表（22－3）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
55図－1		人面付土器	Ⅴ－1－2 砂レキ	残高 顔長 顔幅	10.2 5.0 4.2		斜め上方を仰ぐ人物像を頂部に取り付けた土器。壺形か蓋になると考えられる。右肩部には2カ所に穿孔がある。頭部の突起は鶏冠状に後ろに続くが、端部は欠損している。目・鼻孔はヘラ状工具による刺突で表現するが、口は柔らかい表現である。両耳は破損しているが両方とも穿孔が確認できる。	良好	粗（5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	大半が指ナデであるが、頭部突起の付け根・首筋には、ハケ痕跡が見られる。	外・断面：淡褐色 内面：黒褐色	人物像部分のみ	弥生Ⅰ－3期～Ⅱ－1期

第71表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生（Ⅱ期）土器観察表（23）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
56図－1	ASD－be－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	24.2	6.0		口縁の屈曲は緩く、口縁下には3条1セットの櫛描き沈線を3周施す	やや不良	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：ナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：灰褐色	上半部1/12	弥生Ⅱ－1期
－2	ARD－ce－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	18.0	11.3		口縁の屈曲は緩く、口縁下には4条1セットの櫛描き沈線を2周施す	やや不良	やや粗（4㎜以下の石英・長石・黒色粒・雲母を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：5条/cmのタテハケ 内面：5条/cmの斜行ハケ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/5	弥生Ⅱ－1期 外面には煤付着
－3	A0A－b－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキ3	22.0	12.2		口縁は大きく屈曲し、口縁下には3条の櫛描き沈線を2周施す。口縁端部にはキザミを入れる	普通	やや粗（2.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：5条/cmのタテハケ後、ナデ 内面：指ナデ	表面：淡茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅱ－1期
－4	ARE－be－1	甕	Ⅴ－4－3 砂レキY	21.0	12.1		口縁の屈曲は緩く、口縁下には4条1セットの櫛描き沈線を2周施す。口縁端部にはキザミを入れる	やや良好	やや粗（4㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：タテハケ後、ナデ 内面：上半は斜行ハケ後、指オサエ。下半はナデ？	表面：暗茶褐色 断面：茶褐色	上半部1/6	弥生Ⅱ－1期
－5	ARG－ce－1	甕	Ⅴ－1－2 粗砂	18.2	10.4		如意形口縁の端部にキザミを入れる。4条1セットの櫛描き沈線を2周施す。	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：4条/cmのタテハケ後、ナデ 内面：縦位の指ナデ	外面：黒褐色 内面：明褐色 断面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅱ－1期 外面全体に煤付着
－6	ARL－be－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	25.3	12.3		如意形口縁の端部に「×」状キザミを入れる。4条1セットの櫛描き沈線を2周施す	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒・金雲母を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：8条/cmの浅いタテハケ 内面：ハケ調整後、ナデ	外面：淡茶褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅱ－1期 外面には煤付着
－7	ASB－be－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキD	21.7	4.3		口縁はやや強く屈曲し、端部にはキザミを入れる。 5条1セットの櫛描き沈線を2周施す。	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：斜行ハケ 内面：4条/cmの斜行ハケ	外面：白褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅱ－1期 外面には煤付着
－8	ATL－b－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキD	21.8	4.2		如意形口縁の端部にキザミを入れる。5条1セットの櫛描き沈線を3周施す	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む	口縁部：ヨコナデ 外面：斜行ハケ 内面：ナデ	外面：にぶい白褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/12	弥生Ⅱ－1期
－9	AVY－1	甕	Ⅴ－1－1 南細砂	13.1	5.6		口縁の屈曲は緩く、口縁下に4条1セットの櫛描き沈線を5条施し、4段目は波状文とする。直下に竹管状刺突	やや不良	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	口縁内面：ヨコナデ 内面：指ナデ	表面：にぶい褐色 断面：にぶい淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅱ－1期 外面全体に煤付着
－10	AUM－b－2	甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ	22.6	5.2		如意形口縁の直下に4条1セットの櫛描き沈線を2周施す。直下に三角形状刺突を施す	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：6条/cmのタテハケ 内面：ナデ	外面：白褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅱ－1期 外面全体に煤付着
－11	AUI－c－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	16.7	8.2		口縁の屈曲は緩く、口縁直下に4条1セットの櫛描き沈線を3周施す。直下に三角形状刺突を施す	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：5条/cmのタテハケ後、4条/cmの斜行ハケ 内面：ナデ	外面：暗褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅱ－1期
－12	AUJ－c－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキG	19.8	5.6		口縁の屈曲は緩く、口縁直下に4条1セットの櫛描き沈線を2周施す。直下に三角形状刺突を施す	普通	普通（2㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：10条/cmのタテハケ 内面：ヨコハケ後、ナデ	外面：暗褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅱ－1期
－13	AUH－a9－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキA	45.5	10.2		如意形口縁の端部に「×」状にキザミを入れる。5条1セットの櫛描き沈線を2周施す。直下に三角形状刺突を入れる	良好	粗（3㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	口縁内面：ヨコナデ 外面：7条/cmの斜行ハケ 内面：ヨコハケ後、ナデ	外面：にぶい白褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/7	弥生Ⅱ－1期
－14	AUN－3	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	17.2	8.5		口縁の屈曲は緩く、端部にキザミを入れる。5条1セットの櫛描き沈線を2周施す。直下に三角形状刺突を施す	やや良好	やや粗（2.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁内面：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：横位のヘラミガキ？	全面：にぶい淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅱ－1期
－15	ATK－b－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	21.3	5.1		口縁は大きく屈曲し、端部には、沈線とキザミを施す。 6条1セットの櫛描き沈線を3周施す。直下に三角形状刺突を施す	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁内面：ヨコナデ 内面：縦位の指ナデ	外面：白褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅱ－1期

第72表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生（Ⅱ・Ⅲ期）土器観察表（24）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
56図－16	AUN－2	甕	Ⅴ－1－1 砂レキ2	17.3	10.8		口縁の屈曲は緩く、端部にキザミを入れる。6条1セットの櫛描き沈線を4周施す。直下に三角形状刺突を施す	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石を含む）	口縁内面：ヨコナデ 外面：10条/cmのタテハケ後、ナデ 内面：上半は4条/cmの斜行ハケ 下半はナデ	全面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅱ－1期
－17	AUP－a－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキG	31.0	10.5		如意形口縁の端部に無軸羽状のキザミを入れる。四条1セットの櫛描き沈線を3周施す。直下に三角形状刺突を施す	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：7条/cmのタテハケ 内面：ナデ	外面：黒褐色 内面：暗褐色 断面：灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅱ－1期 外面全体に煤付着
－18	AUS－b－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキC	22.7	8.5		口縁は短く急折し、端部には側面からキザミを入れる。4条1セットの櫛描き沈線を8周施す。直下に三角形状刺突を施す	良好	やや粗（4㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 内面：ナデ	外面：黒褐色 内・断面：茶褐色	上半部1/8	弥生Ⅱ－1期 外面全体に煤付着
－19	AUR－b－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキE	19.8	17.5		口縁の屈曲は緩く、端部にキザミを入れる。4条1セットの櫛描き沈線を4周施すが、最下段は波状文となる。直下に三角形状刺突を施す	良好	やや粗（4㎜以下の石英・長石・金雲母を含む。中期的）	口縁部：ヨコナデ 外面：6条/cmのタテハケ 内面：上半は斜位の指ナデ。下半は縦位のヘラミガキ	外・断面：淡褐色 内面：白褐色	上半部1/5	弥生Ⅱ－1期 外面には煤付着
－20	AVW－b－1	甕	Ⅴ－1－2	21.2	7.2		口縁の屈曲は緩く、端部にキザミを入れる。4条1セットの櫛描き沈線を4周施すが、最下段は波状文となる。	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：7条/cmの斜行ハケ 内面：8条/cmの斜行ハケ	全面：暗褐色	上半部1/7	弥生Ⅱ－1期 外面全体に煤付着
－21	AVX－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3		4.5		口縁の屈曲は緩く、端部に「×」状のキザミを入れる。4条1セットの櫛描き沈線を3周施すが最下段は波状文となる	やや良好	普通（2㎜以下の石英・長石を含む）	口縁内面：ヨコナデ 内面：ナデ	外面：白褐色 内面：淡橙褐色 断面：淡褐色	上半部1/12以下	弥生Ⅱ－1期
57図－1	BAN－1	甕	Ⅴ－1－2 粗砂	17.2	7.2		瀬戸内型系。口縁端部にはキザミを入れる。5条1セットの櫛描き沈線を2周施し、直下には三角形状刺突を施す	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：7条/cmのタテハケ 内面：口縁部は横位のヘラミガキ 胴部は縦位のヘラミガキ	外面：淡褐色 内面：白褐色 断面：暗灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅱ－1期
－2	BAO－1	甕	Ⅴ－1－1 南細砂	22.6	9.2		瀬戸内型系。7条1セットの櫛描き沈線を2周施し、直下には三角形状刺突を施す。	やや良好	やや粗（4.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：不明 内面：丁寧なナデ	外・断面：淡褐色 内面：淡橙褐色	上半部1/6	弥生Ⅱ－1期 外面全体に煤付着
－3	BAM－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	25.0	13.6		瀬戸内型系。口縁端部にはキザミを入れる。7条1セットの櫛描き沈線を3周施す	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：9条/cmのタテハケ後、ナデ 内面：丁寧なナデ	外面：灰褐色 内面：明茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅱ－1期 外面全体に煤付着
－4	ZCF－s5d－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキB	18.3	5.8		口縁の屈曲は短く、端部には幅広の面を持ち、無軸羽状のキザミを入れる。頸部には5条以上の櫛描き沈線を施す。	普通	粗（5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒など角の丸い砂粒を多く含む）	外面：7条/cmのタテハケ後 ヨコナデ 内面：ナデ	外面：淡褐色 内・断面：暗褐色	口頸部1/4	弥生Ⅱ－1期
－5	ZCF－sk8α －1	壺	Ⅴ－1－2 粗砂	16.6	5.1		口縁の屈曲は緩く、端部には羽状のキザミを入れる。頸部に4条の櫛描き沈線を2周施す	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：頸部は5条/cmのタテハケ 内面：器壁の剥離のため調整不明	表面：明褐色 断面：淡褐色	口頸部1/8	弥生Ⅱ－1期
－6	ZCJ－e14d－1	壺	Ⅴ－4－2 砂レキG	23.8	5.5		口縁の屈曲は緩く、端部には「×」状のキザミを入れる。肩部に4条の櫛描き沈線を4周施す	良好	普通（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：口縁部はヨコミガキ 胴部はナデ	外面：白褐色 内・断面：明褐色	上半部1/8	弥生Ⅱ－1期
－7	ZCG－ZBC －e12	壺	Ⅴ－4－1 砂レキC	12.3	13.5		口縁端部に無軸羽状のキザミを入れる。長頸気味の頸部に4条1セットの櫛描き沈線を3周施し、直下に三角形状刺突を施す。	普通	粗（3㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明 内面：磨滅のため調整不明	外・断面：淡褐色 内面：灰褐色	上半部1/4	弥生Ⅱ－1期

第73表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生（Ⅲ期）土器観察表（25－1）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
57図－8	ZBT－e－1	壷	Ⅴ－4－1 砂レキE		7.4		頸部に4条1セットの櫛描き沈線と三角形状刺突を交互に施文する。	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内面：幅広のヨコミガキ	外・断面：白褐色 内面：淡褐色	頸部1/5	弥生Ⅱ－1期

第74表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生（Ⅲ期）土器観察表（25－2）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
57図－9	BEA－a－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	17.6	4.2		口縁は強く外傾するが、先端付近では内彎する。端部は丸い	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明	外面：淡褐色 内・断面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅲ－1期
－10	BEA－a－25	甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ	24.8	5.0		口縁は強く外傾するが、先端付近では内彎する。端部は丸く、キザミを入れる	やや不良	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：磨滅のため調整不明	外面：淡橙褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅲ－1期
－11	BEA－b－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキC	20.2	4.4		口縁は強く外傾し、直線的に伸びる。端部は丸く収める	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：7条/cmのタテハケ 内面：8条/cmのタテハケ	全面：明褐色	上半部1/6	弥生Ⅲ－1期
－12	BEA－b－20	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	19.5	5.8		口縁は強く外傾し、直線的に伸びる。端部は丸く収める	やや良好	やや密（1㎜以下の石英・長石等を僅かに含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：7条/cmのタテハケ後、ヨコナデ 内面：丁寧なナデ	外・断面：暗灰褐色 内面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅲ－1期 外面全体に煤付着
－13	BEA－c－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキ	22.2	8.7		口縁は強く外傾し、やや外反して終わる。端部は丸く収める	やや不良	やや密（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：タテハケ？ 内面：磨滅のため調整不明	外面：明褐色 内・断面：淡灰褐色	上半部1/5	弥生Ⅲ－1期
－14	BEA－c－18	甕	Ⅴ－1－2 細砂	13.5	6.8		口縁は強く外傾し、やや外反して終わる。端部は丸く収める	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明 内面：縦位のナデ	外・断面：黒褐色 内面：淡灰褐色	上半部1/6	弥生Ⅲ－1期
－15	BEA－d－3	甕	Ⅴ－4－2 砂レキE	13.6	4.0		口縁は強く外傾し、やや外反して終わる。端部は丸く収める	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：6条/cmのタテハケ 内面：6条/cmの斜行ハケ	外面：暗茶褐色 内・断面：にぶい淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅲ－1期 外面全体に煤付着
－16	BHA－5	甕	Ⅴ－1－2 暗灰砂	11.4	6.1		口縁の屈曲は緩い	やや良好	やや密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：口縁部は横位のヘラミガキ。胴部はナデ？ 内面：ナデ	全面：白褐色	上半部1/4	弥生Ⅲ期
－17	BEC－a－11	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ	17.6	7.2		口縁は強く外傾し、やや外反して終わる。端部に小さな面を持つ	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：ヨコナデ	外面：暗褐色 内面：暗茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅲ－1期
－18	BEC－a－10	甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	20.8	7.8		口縁は強く外傾し、やや外反して終わる。端部に小さな面を持つ。器壁は薄い	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：6条/cmのタテハケ 内面：6条/cmのタテハケ後、一部ナデ	外・断面：淡灰褐色 内面：淡褐色	上半部1/8	弥生Ⅲ－1期
－19	BEC－a－5	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	9.8	2.6		口縁は緩く外反し、端部には平坦面を持つ	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・金雲母・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ	表面：明褐色 断面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅲ期
－20	BEC－a－6	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	14.9	7.7		口縁は外傾し、直線的に伸び、端部には小さな平坦面を持つ	やや不良	密（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明 内面：ナデ	全面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅲ－1期
－21	BEC－h－2	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	13.7	4.2		口縁は強く外傾し、端部は丸く納める	やや良好	普通（1㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：7条/cmのタテハケ 内面：ナデ	外面：にぶい淡褐色 内・断面：淡灰褐色	上半部1/5	弥生Ⅲ－1～2期
－22	BEB－a－1	甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ	33.0	6.2		口縁は強く外傾し、端部には平坦面を持つ	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：9条/cmのタテハケ 内面：磨滅のため調整不明	外面：明褐色 内・断面：淡灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－1～2期
－23	BEB－a－2	甕	Ⅴ－1－1 砂レキ2	19.9	5.7		口縁は強く外傾し、外反気味に伸び、端部には平坦面を持つ	良好	密（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：指ナデ。内面側の一部は11条/cmの斜行ハケ 外面：10条/cmのタテハケ 内面：指ナデ	外面：淡橙褐色 内・断面：淡橙灰色	上半部1/5	弥生Ⅲ－1～2期

第75表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生（Ⅲ・Ⅳ期）土器観察表（26）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
57図－24	BEB－a－3	甕	Ⅴ－1－2 粗砂	18.7	3.5		口縁は強く外傾し、外反気味に伸び、端部には平坦面を持つ	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：タテハケ？ 内面：9条/cmの斜行ハケ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅲ－1期
－25	BEB－b－2	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	17.4	6.7		口縁は強く外傾するが、内彎気味に伸び、端部は平坦面を形成し、やや上方につまみ上げる	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：6条/cmの斜行ハケ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/5	弥生Ⅲ－1～2期
－26	BEB－b－1	甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ	19.7	5.7		口縁は強く外傾するが、内彎気味に伸び、端部は平坦面を形成し、やや上方につまみ上げる	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明 内面：磨滅のため調整不明	外面：淡褐色 内面：淡灰褐色 断面：灰褐色	上半部1/6	弥生Ⅲ－1～2期
58図－1	BEC－b－4	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	16.1	5.5		口縁は外反し、端部に平坦面を持つ。肩部が張り気味になる	普通	やや密（1.5㎜以下の石英・長石を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：タテハケ後、ナデ 内面：縦位のヘラケズリ後、ナデ	表面：淡茶褐色 断面：暗灰色	上半部1/5	弥生Ⅲ－2期
－2	BEC－b－2	甕	Ⅴ－1－3 砂レキC	16.6	4.3		口縁は外反し、端部にやや幅広の平坦面を持つ。肩部が張り気味になる	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明 内面：磨滅のため調整不明	外面：淡灰褐色 内面：淡灰色	上半部1/6	弥生Ⅲ－2期
－3	BEC－b－3	甕	Ⅴ－1－2 暗灰砂	16.6	4.2		口縁はやや外反し、端部にはやや幅広の平坦面を持つ。	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ヨコナデ 内面：ナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：淡灰色	口縁部1/10	弥生Ⅲ－2期
－4	BEC－c－10	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	12.5	5.7		口縁はやや外反し、端部にはやや幅広の平坦面を持つ。	普通	やや密（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：10条/cmのタテハケ 内面：斜行ハケ後、ナデ	外面：淡灰褐色 内面：暗灰色 断面：灰褐色	上半部1/3	弥生Ⅲ－2期
－5	BEC－d－1	甕	Ⅴ－1－2 細砂	16.8	6.0		口縁端部は玉縁状に肥厚し、上端にキザミを入れる。	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：タテハケ 内面：ナデ	外面：淡褐色 内面：淡灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－2期
－6	BEC－e－7	甕	Ⅴ－4－1 砂レキC	15.7	5.7		口縁端部は幅広の凹面状になる。	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：ナデ	表面：淡褐色 断面：淡灰色	口縁部1/5	弥生Ⅲ－2期
－7	BEC－e－1	甕	Ⅴ－1－3	24.5	5.0		口縁は外傾するが内彎指向。端部は平坦面を持ち、僅かに上方につまみ上げる	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：ナデ	表面：白褐色 断面：淡灰色	口縁部1/10	弥生Ⅲ－2期
－8	BEC－g－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	16.9	11.5		口縁部は緩やかに外反し、端部には平坦面を持ち、外側に肥厚する	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：8条/cmのタテハケ 内面：横位のヘラミガキ	外・断面：淡褐色 内面：淡茶褐色	上半部1/5	弥生Ⅲ－2期
－9	BFA－a－3	甕	Ⅴ－1－1 砂レキ2	28.0	6.7		口縁は強く外傾し、端部には浅い凹線を1条施す。肩は張らない	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒・黒雲母を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明 内面：磨滅のため調整不明	全面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－1期
－10	BEE－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	22.4	2.8		幅広の口縁端部に2条1セットの複線斜格子文を施す	良好	普通（1㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ	外面：暗褐色 内面：淡茶褐色 断面：暗茶灰色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－2期
－11	BED－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	16.2	8.8		幅広の口縁端部には二枚貝によるキザミを入れる。肩部下方には、押引き刺突文を施す	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明 内面：丁寧なナデ	外面：淡褐色 内面：暗灰色 断面：淡褐灰色	上半部1/4	弥生Ⅲ－2期
－12	BGB－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキD	18.0	6.1		幅広の口縁端部は凹面状になり、二枚貝によるキザミを入れる。頸部には立体感のある指頭圧痕文帯を施す	普通	やや密（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：6条/cmのタテハケ 内面：斜行ハケ	外面：白褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰白色	口縁部1/10	弥生Ⅲ－2期
－13	BGA－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	18.7	5.4		口縁端部は上方へ肥厚する。頸部には立体感のある指頭圧痕文帯を施す	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ナデ？ 内面：ナデ	外・断面：淡灰色 内面：淡灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－2～Ⅳ－1期
－14	YF－2	甕	Ⅴ－4－1 砂レキC	12.0	5.7		口縁は大きく外反し、端部は上下に肥厚して平坦面を形成する。頸部の穿孔は1カ所のみ確認。内外面とも漆塗り	普通	密（0.5㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	口縁部：ヨコナデ 内面：7条/cmのヨコハケ	漆の面は漆黒色 断面：にぶい淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅲ－2期

第76表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生中期（Ⅱ・Ⅲ期）土器観察表（27）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
58図－15	YF－1	甕	V－4－3 SR01		4.0		内外面とも漆塗り	やや良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石を含む）	外面：タテハケ 内面：ナデ	漆の面は漆黒色 断面：淡灰色	頸肩部1/6	弥生Ⅲ－2期
－16	YCA－1	甕	V－1－2 暗灰砂	20.8	15.0		口縁端部の外側に粘土紐を貼付し、玉縁状の口縁とする	良好	やや粗（4㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：7条/cmのタテハケ 内面：指ナデ	外面：暗褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡褐色	約1/6	弥生Ⅱ～Ⅲ期 擬朝鮮系無文土器
－17	YA－1	台形土器	V－4－1 砂レキC		8.2	上径15.6	上面は比較的平坦で、鍔状の突出は小さい	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	頂部外面：ヨコナデ 外面：縦位のヘラミガキ 内面：横位のヘラミガキ 内面頂部：ナデ	外面：暗褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡褐灰色	上半部1/4	弥生Ⅱ～Ⅲ期
－18	YA－4	台形土器	V－4－2 砂レキE		3.5	上径11.4	上面は比較的平坦で、鍔状の突出は小さい	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石を含む）	頂部外面：ヨコナデ 外面：縦位のヘラミガキ 内面：指ナデ	外・断面：白褐色 内面：黒灰色	頂部1/5	弥生Ⅱ～Ⅲ期
－19	YHK－4	蓋？	V－4－3 砂レキA		6.0		中実部分が多い	やや良好	やや密（1㎜以下の石英・長石を含む）	外面：縦位の指ナデ 内面：指ナデ	表面：暗灰褐色 断面：淡灰白色	軸部のみ	弥生Ⅱ～Ⅲ期？
－20	YHJ－1	用途不明土器	V－1－2 細砂		5.7	7.9	高杯の脚状	やや良好	普通（1㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	外面：6条/cmのタテハケ 端部：ヨコナデ 内面：工具による抉り	外面：にぶい淡褐色 内面：にぶい褐色	図下部分は完存	弥生Ⅱ～Ⅲ期？
－21	YBB－c－1	用途不明土器	V－4－1 砂レキB		5.3	6.9	高杯の脚状	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：縦位の指ナデ 内面：工具による抉り	全面：淡灰褐色	図下部分は完存	弥生Ⅱ～Ⅲ期？
59図－1	BEC－I－1	無頸壺	V－1－2 砂レキ3	11.8	3.8		口縁の外側に粘土紐を添付し、鍔状にする	良好	密（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：12条/cmのタテハケ後、ナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅲ－1期
－2	BNA－h－2	無頸壺	V－1－2 粗砂	12.7	6.2		口縁は一端直立した後、内側に肥厚して終わる。口縁部の穿孔は1カ所のみ確認できる	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：8条/cmのタテハケ 内面：4条/cmのタテハケ後、ナデ	表面：にぶい褐色 断面：淡褐色	上半部1/10	弥生Ⅲ－1期
－3	BNA－h－1	無頸壺	V－4－1 砂レキB	20.6	4.1		口縁は内傾して、端部は内側に折り返して肥厚させる	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：5条/cmのタテハケ 内面：ナデ	表面：にぶい褐色 断面：暗灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅲ－1期 鉢の可能性もあり
－4	BNA－b－1	甕	V－1－2 砂レキ3	14.7	3.7		端部に幅広の平坦面を持つ	良好	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	表面：ナデ	外・断面：淡灰褐色 内面：淡褐色	口縁部1/6	弥生Ⅲ期
－5	BNA－c－7	無頸壺	V－1－2 砂レキ3	14.2	5.4		口縁は内傾し、頂部に平坦面を形成する。	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ナデの後、縦位のヘラミガキ 内面：5条/cmの斜行ハケ	外面：暗茶褐色 内面：黒褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/6	弥生Ⅲ期
－6	BHC－1	無頸壺	V－1－2 砂レキ3	14.9	2.8		口縁部は内傾し、端部は丸く収める	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ	全面：淡灰褐色	口縁部1/6	弥生Ⅲ期
－7	BNA－M－1	甕	V－1－2 細砂	19.1	4.9		口縁端部に幅広の面を作り、3条1セットの櫛描きによる複線鋸歯文を施す	良好	やや密（2㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：8条/cmのタテハケ 内面：ナデ	外面：明茶褐色 内面：淡褐色 断面：灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅲ－1期 鉢の可能性もあり
－8	BAG－1	甕	V－4－3 砂レキY	36.9	5.9		口縁端部の外側に粘土紐を添付し、2条突帯とする	やや不良	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明 内面：縦位の指ナデ	外面：淡橙褐色 内・断面：淡灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅲ－1期 鉢の可能性もあり
－9	BAH－1	鉢	V－1－1 南西砂レキ	29.3	6.6		口縁の上面には幅広の面を持ち大きく外に肥厚させる。直下の突帯には大振りのキザミを入れる	やや不良（粉っぽい）	普通（1㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明 内面：丁寧なナデ	全面：白褐色	上半部1/10	弥生Ⅲ－1期
－10	BNA－I－1	鉢	V－1－2 砂レキ2	21.8	4.9		口縁は内傾し、端部は内外に肥厚して、広い平坦面を形成する。外面には指頭圧痕文帯を施す	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	内外面：ヨコナデ	表面：淡褐色 断面：淡灰色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－1期
－11	BNA－e－1	鉢	V－1－2 砂レキ3	16.5	5.3		口縁は僅かに内傾し、上端に平坦面を形成する。外面にはキザミを持つ突帯を添付する。	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：口縁内面は指オサエ。胴部はヨコナデ	全面：暗茶褐色	上半部1/10	弥生Ⅱ～Ⅲ期
－12	BNA－a－1	鉢	V－1－3 砂レキC	25.2	8.0		口縁端部・貼付突帯にはキザミを入れる。	やや良好	密（1㎜以下の石英・長石・黒色粒を僅かに含む）	口縁部・内面：ヨコナデ 外面：7条/cmのタテハケ	外面：暗褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/8	弥生Ⅲ－1期

第77表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生（Ⅲ・Ⅳ期）土器観察表（28）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
59図－13	BNA－f－1	鉢	V－1－2 砂レキ3	23.9	3.9		口縁端部と2条の貼り付け突帯上にはキザミを入れる	やや良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	内面：ナデ	外・断面：淡褐色 内面：淡茶褐色	上半部1/10	弥生Ⅲ－1期
－14	BNA－g－2	鉢	V－4－1	21.9	6.2		口縁外面には3条1セットの櫛描き沈線による複線鋸歯文・キザミを持つ2条突帯・複線斜格子文を施す	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・金雲母を多く含む）	内面：ナデ	外面：灰褐色 内面：淡褐色 断面：濃灰色	上半部1/10	弥生Ⅲ－2期
－15	BNA－j－1	無頸壺	V－4－2 砂レキD	28.4	5.5		口縁端部は内側に肥厚し、広い平坦面を形成する。外面には4条の貼り付け突帯を施し、棒状浮文を添付する	やや不良	やや粗（1㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	内面：磨滅のため調整不明	全面：淡灰褐色	上半部1/10	弥生Ⅲ期
－16	BNA－m－1	無頸壺	V－4－2 砂レキE	26.7	5.0		口縁下に4条の貼り付け突帯を設け、縦位の棒状浮文を添付する	普通	密（1㎜以下の石英・長石・金雲母等を含む）	表面：ナデ	全面：黒褐色	口縁部1/10	弥生Ⅲ期
60図－1	BKA－a－1	広口壺	V－1－1 南砂レキ	27.6	3.0		口縁内面に3条の貼付突帯を添付する。口縁端部は僅かに上方に肥厚する	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	表面：ヨコナデ	外面：淡橙褐色 内面：明褐色 断面：淡茶褐色	上半部1/5	弥生Ⅲ－1期
－2	BKA－a－2	広口壺	V－4－1 砂レキD	22.0	1.4		口縁端部は面を持ち、上下にわずかに肥厚する	良好	普通（1㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む	表面：ヨコナデ	外面：淡灰褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰色	口縁部1/6	弥生Ⅲ－1期
－3	BKA－c－3	広口壺	V－1－2 砂レキ3	17.0	1.6		口縁端部は斜め下方に下垂する	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石を含む）	表面：ヨコナデ	表面：明褐色～淡橙褐色 断面：白褐色	上半部1/5	弥生Ⅲ－1期
－4	BKA－e－1	広口壺	V－4－1 砂レキB	16.0	3.9		口縁端部に面を持つが上下の肥厚は少ない	やや不良	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：磨滅のため調整不明	外面：暗褐色 内・断面：暗灰褐色	口縁部1/6	弥生Ⅲ－1期
－5	BKA－c－1	広口壺	V－1－2 細砂	35.9	6.8		口縁端部には面を持ち、斜め下方に下垂する	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：6条/cmのタテハケ 内面：6条/cmの浅い斜行ハケ	外面：淡褐色 内面：淡灰褐色 断面：淡灰色	口縁部1/4	弥生Ⅲ－1期
－6	BKA－b－1	広口壺	V－4－3 SR01	30.6	3.3		口縁端部に面を持ち、やや内側上方に肥厚する	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ヨコナデ 内面：ナデ	外・断面：暗褐色 内面：暗黄褐色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－1～2期
－7	YP－1	広口壺	V－1－1 細砂	25.5	3.3		口縁端部は巻き込むように下垂する	普通	普通（2㎜以下の石英・長石等を含む）	表面：ヨコナデ	全面：淡灰褐色	口縁部1/7	弥生Ⅲ－1期
－8	BKA－c－2	広口壺	V－1－2 暗灰砂	16.1	5.7		口縁端部には広い面を持ち、若干下垂する	良好	密（1㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：頸部はタテハケ 内面：横位のヘラミガキ	表面：淡茶褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/3	弥生Ⅲ－2期
－9	BKA－g－1	直口壺	V－4－2 砂レキF	8.6	5.3		口縁端部は水平に近い平坦面を持つ。頸部に指頭圧痕文帯を添付する	やや良好	普通（0.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 内面：縦位の指ナデ	表面：にぶい白褐色 断面：暗灰色	口縁部1/5	弥生Ⅲ－1期
－10	BNA－L－2	直口壺	V－4－3 粗砂	11.2	4.6		口縁端部の外面にキザミを施す	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：縦位の指ナデ	外面：淡褐色 内面：暗灰褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/5	弥生Ⅲ－1期
－11	BKB－a－1	広口壺	V－4－2 砂レキE	17.2	1.8		口縁端部の平坦面に縦長のキザミを入れる	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	表面：ヨコナデ	表面：白褐色 断面：淡灰色	口縁部1/5	弥生Ⅲ－1期
－12	BKB－b－1	広口壺	V－4－3 砂レキA	21.0	1.6		口縁端部の平坦面に縦長の二枚貝によるキザミを入れる	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む	表面：ヨコナデ	外面：淡褐色 内面：暗褐色 断面：暗茶褐色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－1期
－13	BKB－c－1	広口壺	V－4－2 砂レキE	18.6	2.5		口縁端部の平坦面は若干下方に拡張し、二枚貝による縦長のキザミを入れる	やや良好	やや密（1㎜以下の石英・長石を含を多む）	表面：ヨコナデ	全面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－1期
－14	BKB－d－1	広口壺	V－1－3 砂レキA	24.2	1.6		口縁端部は僅かに下垂し、平坦面にはヘラ状工具による鋭い刺突が入れられる	良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石等く含む）	表面：ヨコナデ	表面：淡灰褐色 断面：淡灰色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－1期
－15	BKB－f－1	広口壺	V－4－1 砂レキD	27.1	3.1		口縁端部は上方への肥厚が大きく、平坦面には二枚貝による刺突を施す	やや良好	密（1㎜以下の石英・長石・黒雲母等を含む）	表面：ヨコナデ	外面：灰褐色 内・断面：茶褐色	口縁部1/10	弥生Ⅲ－1期

第78表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生（Ⅲ期）土器観察表（29）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
60図－16	BKC－a－1	広口壺	Ⅴ－1－2 粗砂	19.5	1.8		口縁外面に粘土紐を添付して、下垂口縁とする。平坦面には無軸羽状キザミを施す	良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：タテハケ 内面：ヨコナデ	表面：淡褐色 断面：灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－2期
－17	BKD－e－1	広口壺	Ⅴ－1－2 細砂	26.8	1.6		口縁端部は上下に僅かに肥厚し平坦面には「×」状のキザミを施す	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	内外面：ヨコナデ	外面：淡褐色 内・断面：淡灰褐色	口縁部1/12	弥生Ⅲ－1期
－18	BKD－a－1	広口壺	Ⅴ－4－1 砂レキB	22.0	1.7		口縁端部は上下に拡張して、平坦面には「×」状のキザミを入れて、斜格子文とする	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	内外面：ヨコナデ	外面：灰褐色 内面：淡灰褐色 断面：淡褐灰色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－1期
－19	BKD－b－1	広口壺	Ⅴ－4－1 砂レキB	24.8	3.6		口縁端部は斜め上方に肥厚する平坦面には「×」状のキザミを施し、斜格子文とする	やや良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：8条/cmのタテハケ 内面：ヨコナデ	表面：淡黄褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－1期
－20	BKD－c－1	広口壺	Ⅴ－1－2 粗砂	21.6	2.1		口縁外面に粘土紐を添付し、下垂口縁とする。平坦面にはヘラ描きによる斜格子文を施す	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内外面：ヨコナデ	外面：淡褐色 内・断面：暗褐色	口縁部1/10	弥生Ⅲ－1期
－21	BEF－1	広口壺			1.1		口縁端部の幅の狭い平坦面にヘラ描きによる二重鋸歯文を施す	普通	普通（1.5㎜以下の石英・長石を含む）	内外面：ヨコナデ	外面：黒褐色 内面：暗黄褐色 断面：にぶい褐色	口縁部1/12以下	弥生Ⅲ－1期
－22	BKE－a－2	広口壺	Ⅴ－1－2 砂レキ3	14.2	2.1		口縁外面に粘土紐を添付し、斜め下方に肥厚させる。平坦面には3条の櫛による波状文を施し内面には同一原体で複線鋸歯文を描く	やや良好	やや密（1㎜以下の石英・長石を含む）	内外面：ヨコナデ	表面：淡橙褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－1期
－23	BKB－e－1	広口壺	Ⅴ－1－1	24.7	2.1		口縁端部は僅かに上下に肥厚する。端部には3条の櫛状原体による斜線文、内面には同一原体による無軸羽状文を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	内外面：ヨコナデ	外面：淡茶褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－1期
－24	BLB－1	壺	Ⅴ－4－1 砂レキC		8.0	4.3	胴部のみ	良好	密（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：縦位のヘラミガキ？ 内面：5条/cmのタテハケ 底部はヘラ状工具で調整	外面：暗灰褐色 内・断面：黒褐色	胴部は完存	弥生Ⅲ期 胴部最大径11.6cm
－25	BKB－g－1	広口壺	Ⅴ－4－2 砂レキF	22.2	3.2		口縁の内側に粘土を継ぎ足し、平坦面を広げる。平坦面上には3条の櫛状工具による斜線文、内面には9条の波状文を施す	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒等を含む）	内外面：ヨコナデ	外面：暗黄褐色 内面：淡灰褐色 断面：灰褐色	口縁部1/10	弥生Ⅲ－1期
－26	BKF－d－2	広口壺	Ⅴ－4－1 砂レキB	24.2	1.6		口縁端部は若干下垂し、平坦面には、3条の櫛状工具による複線鋸歯文を、内面にも同様の複線鋸歯文と列点文を施す	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：タテハケ 内面：ヨコナデ	外・断面：淡灰褐色 内面：淡橙褐色	口縁部1/6	弥生Ⅲ－1期
－27	BKF－a－1	広口壺	Ⅴ－1－3 砂レキD	24.6	2.9		口縁端部は上下に肥厚し、平坦面には、4条の櫛状工具による複線鋸歯文を、内面には6条の原体で波状文と押引刺突を施す	良好	密（1㎜以下の石英・長石等を僅かに含む）	内外面：ヨコナデ	外面：白褐色 内・断面：淡灰褐色	口縁部1/5	弥生Ⅲ－1期
－28	BKF－b－1	広口壺	Ⅴ－1－2 砂レキ3	24.2	2.1		口縁端部の平坦面にヘラ描き鋸歯文を、内面には2条の貼り付け突帯を設けキザミを入れ、口縁付近に2条の波状文を施す	良好	密（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	内外面：ヨコナデ	全面：淡褐色	口縁部1/10	弥生Ⅲ－1期
－29	BKF－d－3	広口壺	Ⅴ－1－3 砂レキE	16.4	5.8		口縁外面に粘土紐を添付し、下垂口縁とする。平坦面には3条の複線鋸歯文を施し、頸部には2条の貼り付け突帯を設ける	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	内外面：ヨコナデ 肩部：タテハケ	表面：暗灰褐色 断面：暗褐色	口縁部1/4	弥生Ⅲ－1期
－30	BKF－d－1	広口壺	Ⅴ－1－2 砂レキ3	28.2	2.2		口縁端部は下垂し、平坦面には3条の櫛状工具による複線鋸歯文を、内面には斜格子文を施す円形浮文・押引き刺突文も施文	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：7条/cmタテハケ 内面：ヨコナデ	外面：淡灰褐色 内面：黒褐色 断面：淡褐色	口縁部1/6	弥生Ⅲ－2期

第79表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生（Ⅲ・Ⅳ期）土器観察表（30）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
0図－31	BKD－g－1	広口壺	V－1－2 粗砂	32.3	2.3		口縁端部は斜めに下垂し、平坦面には2条の原体による斜格子文を施す。口縁の上縁には粘土紐を貼り付け山形文とする。	良好	密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：7条/cmタテハケ 内面：ヨコナデ	外面：淡茶褐色 内・断面：淡灰褐色	口縁部1/6	弥生Ⅲ－2期
－32	BKG－b－2	壺	V－4－2 砂レキE		4.9		頸肩部境には2条のキザミを持つ貼り付け突帯を設ける。頸部には4条の波状文を施す	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	外面：白褐色 内面：明灰色 断面：黒灰色	頸肩部1/5	弥生Ⅲ－2期
－33	BKG－c－1	壺	V－1－2 粗砂		5.3		頸肩部境には4条の貼り付け突帯を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：肩部はヨコナデ。頸部は6条/cmのタテハケ 内面：ナデ	外面：淡黄褐色 内・断面：灰褐色	頸部1/8	弥生Ⅲ期
－34	BKG－f－17	壺	V－1－2 砂レキ3		5.8		頸肩部境には3条の貼り付け突帯を施す	普通	粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒・金雲母を多く含む）	頸部外面：8条/cmタテハケ 内面：ヨコナデ。胴部内面はナデ	外面：にぶい褐色 内面：白褐色 断面：黒灰色	頸部1/3	弥生Ⅲ期
－35	BKG－a－1	壺	V－1－2		6.8		頸肩部境には1条のキザミを持つ貼り付け突帯を添付する。	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石・金雲母を含む）	頸部内外面：ヨコナデ 胴部外面：ナデ 胴部内面：縦位の指ナデ	表面：淡橙褐色 断面：淡褐色	頸肩部1/3	弥生Ⅲ期
61図－1	BKD－h－4	直口壺	V－1－2 砂レキ3	17.7	14.3		口縁端部には水平面を持ち、3条単位の複線斜格子文を施文後、円形浮文を添付する。 頸部上半にはキザミを持つ5条の貼り付け突帯を設け、頸部下半には、7条の櫛描き沈線により3段以上に区画された文様帯の中に複線鋸歯・斜格子文を充填する	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 内面：ナデ	外面：淡茶褐色 内面：淡褐色 断面：白褐色	口頸部1/4	弥生Ⅲ－2期
－2	BKF－e－1	直口壺	V－1－1 南砂レキ	15.8	7.2		口縁端部には水平面を持ち、3条単位の複線鋸歯文を施文後、円形浮文を添付する 頸部上半には4条のキザミを持つ貼付突帯を設け、棒状浮文を添付する	やや不良（粉っぽい）	普通（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ヨコナデ 頸部下半は9条/cmタテハケ 内面：磨滅のため調整不明	全面：淡褐色	口頸部1/4	弥生Ⅲ－2期
－3	BKE－b－1	直口壺	V－4－1 砂レキD	22.4	8.6		口縁端部の平坦面には9条の波状文を施す。頸部上半には4条のキザミを持つ貼り付け突帯を施す	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石・金雲母等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部は6条/cmのタテハケ 内面：斜行ハケ後、ナデ	外面：淡灰褐色 内面：暗茶褐色 断面：淡褐色	口頸部1/5	弥生Ⅲ－2期
－4	BKG－g－1	直口壺	V－1－2 砂レキ3		5.3		頸肩部境には4条以上のキザミを持つ凹線突帯を設ける。	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：胴部は4条•cmのタテハケ 内面：ナデ	外面：淡褐色 内面：黒灰色 断面：淡灰色	頸部1/6	弥生Ⅳ－1期
－5	BKD－f－1	直口壺	V－4－2 砂レキF	22.6	2.7		口縁端部は斜め上方に肥厚し、平坦面には2条の斜格子文を施す。頸部にキザミを持つ貼付突帯を巡らせる	良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	内外面：ヨコナデ	外・断面：淡褐色 内面：褐灰色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－2期
－6	BKC－b－1	直口壺	V－1－2 砂レキ3	30.2	3.3		幅広の口縁端部には2条原体による無軸綾杉文を施し、棒状浮文を貼付する。端部は上縁•下縁ともにキザミを入れる	良好	やや粗（2㎜以下の石英•長石•赤色粒・黒色粒をやや多く含む）	内外面：ヨコナデ	外面：明褐色 内・断面：淡灰褐色	口縁部1/6	弥生Ⅲ－2期
－7	BKA－d－1	直口壺	V－1－2 砂レキ2	35.6	6.2		口縁端部の平坦面上には、円形浮文を貼付し、頸部上半には7条以上の貼付突帯を施す	やや不良	普通（1㎜以下の石英・長石・赤色粒等を含む）	口縁部：ヨコナデ 内面：磨滅のため調整不明	外面：明褐色 内・断面：暗灰色	口縁部1/10	弥生Ⅲ－2 ～Ⅳ－1期
－8	BLA－d－1	広口壺	V－4－2 砂レキF	17.2	1.7		口縁端部には3条の凹線を施した後、斜位のキザミを入れ、円形浮文を貼付する	やや良好	普通（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	口縁部：ヨコナデ	全面：にぶい褐色	口縁部1/10	弥生Ⅳ－1期
－9	BLA－f－1	広口壺	V－1－1 砂レキ	16.2	1.5		口縁端部には3条の凹線を施した後、斜位のキザミを入れる	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英•長石を含む）	口縁部：ヨコナデ	全面：淡灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅳ－1期
－10	BLA－k－1	広口壺	V－4－3 SR01	22.5	3.3		口縁端部には3条の凹線を施した後、キザミを入れる。内面には4条以上の波状文を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英•長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ヨコナデ 内面：ナデ	表面：にぶい褐色 断面：淡褐色	口縁部1/7	弥生Ⅳ－1期

第80表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生（Ⅲ・Ⅳ期）土器観察表（31）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
61図－11	BLA－j－1	広口壺	V－1－1 砂レキ2	14.4	2.3		口縁は斜め下方に下垂し、端部には5条の凹線を施した後、斜位のキザミを入れる。内面の2カ所に穿孔が見られる	良好	密（1㎜以下の石英・長石を含む）	内外面：ヨコナデ	全面：淡褐色	口縁部1/5	弥生Ⅳ－1期
－12	BLA－c－1	広口壺	V－4－2 砂レキE	30.6	1.9		口縁端部に3条の凹線を施した後、キザミを入れる。口縁の上端にもキザミを入れる	良好	密（1㎜以下の石英・長石を含む）	内外面：ヨコナデ	表面：黒褐色 断面：灰褐色	口縁部1/10	弥生Ⅳ－1期
－13	BLA－L－1	広口壺	V－4－2 砂レキE	27.3	3.2		口縁端部に3条の凹線を施した後、上下2段に分けてキザミを入れる頸部外面には凹線を施す	普通	普通（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・金雲母を含む）	内外面：ヨコナデ	外・断面：にぶい淡褐色 内面：暗褐色	口縁部1/10	弥生Ⅳ－1期
－14	BLA－g－1	広口壺	V－4－2 砂レキF	31.3	2.3		口縁端部に4条の凹線を施した後上下2段に分けてキザミを入れる	良好堅緻	密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	内外面：ヨコナデ	外面：暗茶褐色 内面：淡灰褐色 断面：灰褐色	口縁部1/12	弥生Ⅳ－1期
－15	BLA－I－1	広口壺	V－4－3 砂レキB	30.6	1.9		口縁端部に5条の凹線を施した後、縦長のキザミを入れ、円形浮文を貼付する	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む）	内外面：ヨコナデ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/10	弥生Ⅳ－1期
－16	BLA－h－1	広口壺	V－1－2 砂レキ3	34.5	5.0		口縁端部は上下に大きく肥厚し、外面に4条の凹線を施した後、3段に分けてキザミを入れる	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	内外面：ヨコナデ 頸部外面：タテハケ後、ナデ	外面：暗褐色 内面：淡橙褐色 断面：褐灰色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－2 ～Ⅳ－1期
－17	BLA－o2－1	広口壺	V－4－3 SR01	12.6	3.7		口縁端部に4条の凹線を施す。頸部には指頭圧痕文帯を巡らせる	やや不良	普通（1.5㎜以下の石英・長石を含む）	内外面：ヨコナデ	外面：淡褐色 内面：暗褐色 断面：灰褐色	口頸部1/4	弥生Ⅲ－2期
－18	BLA－q1－4	広口壺	V－1－2 砂レキ3	26.1	1.9		口縁端部は下垂し、4条の凹線を施す。2本1セットの棒状浮文を貼付する	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内外面：ヨコナデ	外面：淡橙褐色 内面：明淡橙褐色 断面：淡灰色	口縁部1/10	弥生Ⅳ－1期
－19	BLA－v－1	広口壺	V－4－2 砂レキG	48.9	3.8		口縁端部は長く下垂し、7条の凹線を施す。上縁には粘土紐を貼付し、山形にキザミを入れる	良好	普通（1㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内外面：ヨコナデ	外面：黒褐色 内・断面：暗灰褐色	口縁下垂部 約1/10	弥生Ⅲ－2期
－20	BLA－q2－1	広口壺	V－1－3 砂レキA	25.3	2.5		口縁端部の平坦面には3条の凹線を施し、端部にはキザミを入れる頸部外面には貼り付け突帯を貼付	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・金雲母等を多く含む）	内外面：ヨコナデ	外・断面：淡褐色 内面：淡灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅳ－1期
－21	BLA－q1－3	広口壺	V－4－2 地山上	25.9	1.7		口縁端部の平坦面には4条の凹線を施し、端部にはキザミを入れる円形浮文を貼付する	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む）	内外面：ヨコナデ	表面：淡茶褐色 断面：淡褐色	口縁部1/10	弥生Ⅳ－1期
－22	BLA－N2－1	広口壺	V－1－1 砂レキ2	28.4	3.3		口縁端部の平坦面には4条の凹線を施し、円形浮文や3本1セットの棒状浮文を貼付する	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・金雲母等をやや多く含む）	内外面：ヨコナデ	表面：淡橙褐色 断面：褐灰色	口縁部1/5	弥生Ⅳ－1期
－23	BLA－N1－2	広口壺	V－1－2 砂レキ3	19.0	1.8		口縁端部の平坦面には4条の凹線を施し、円形浮文を貼付する	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	内外面：ヨコナデ	全面：淡茶褐色	口縁部1/10	弥生Ⅳ－1期
－24	BLA－o1－1	広口壺	V－4－2 砂レキF	31.2	1.9		口縁端部の平坦面には4条の凹線を施し、内面には8条の波状文を施す	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	内外面：ヨコナデ	表面：灰褐色～淡褐色 断面：淡褐色～淡灰褐色	口縁部1/10	弥生Ⅳ－1期
－25	BLA－p－1	広口壺	V－1－2 粗砂	31.2	3.5		口縁端部には2条の凹線を施し、頸部外面には3条以上の貼り付け突帯を貼付する	やや良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	内外面：ヨコナデ	外面：白褐色 内面：淡褐色 断面：暗灰褐色	口縁部1/5	弥生Ⅳ－1期
－26	BLA－r－1	広口壺	V－1－2 砂レキ3	23.8	4.2		口縁端部は上下斜方向に薄く肥厚し、面上に4条の凹線を施す	良好	密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	内外面：ヨコナデ	外・断面：灰褐色 内面：暗褐色	口縁部1/10	弥生Ⅳ－2期
－27	BLA－M－1	広口壺	V－1－1 南砂レキ	22.4	2.4		口縁端部には3条の凹線を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	内外面：ヨコナデ	全面：淡黄褐色	口縁部1/6	弥生Ⅳ－2期
－28	BLA－t－4	広口壺	V－4－2 砂レキF	16.5	6.7		口縁端部には3条の凹線を施す。器壁は薄い	良好	密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：4条/cmのタテハケ 内面：ヨコナデ	表面：淡褐色 断面：暗灰色	口頸部1/6	弥生Ⅳ－2期
－29	BLA－s－1	広口壺	V－1－1 砂レキ2	26.5	10.9		口縁端部には4条の凹線を施し、円形・棒状浮文を貼付する。頸部には10条以上の凹線を施す	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ	外面：明茶褐色 内・断面：淡黄褐色	口頸部1/3	弥生Ⅳ－2期

第81表・西川津遺跡Ⅴ区出土・弥生（Ⅳ期）土器観察表（32）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
62図－1	CQA－6	広口壺	V－1－2 砂レキ3	21.2	8.6		口縁端部は斜め上下に肥厚し、平坦面に3条の凹線を施す。頸部下位には押引き刺突文を施す	良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・金雲母・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 内面：縦位の指ナデ	全面：淡褐色	口頸部1/4	弥生Ⅳ－2期
－2	BMA－1	広口壺	V－4－3 砂レキA	17.5	7.4		口縁は外傾外反しながら立ち上がるが、端部では直立する	やや不良	粗（3㎜以下の石英・長石を多く含み、黒色粒を僅かに含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ヨコナデ 頸部内面：ナデ	外・断面：淡灰褐色 内面：にぶい淡褐色	口頸部1/4	弥生Ⅳ期？
－3	BKG－I－5	広口壺	V－1－1 南砂レキ		11.9		頸部から胴部への屈曲は緩やかである	やや良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	外面：ヨコナデ 胴部内面：縦位の指ナデ 頸部内面：9条/cmの斜行ハケ後、縦位の指ナデ	外・断面：淡褐色 内面：淡橙褐色	頸部1/3	弥生Ⅳ期
－4	BOH－1	広口壺	V－4－2 砂レキD		10.3		3条以上の浅い沈線を施す	良好	普通（1㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	外面：ヨコナデ。沈線付近は8条/cmのタテハケ 内面：8条/cmのヨコハケ	外・断面：淡灰褐色 内面：暗褐色	頸部1/8	弥生Ⅳ期
－5	CR－2	広口壺	V－4－2 砂レキF		4.4		5条以上の凹線を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む	外面：7条/cmのタテハケ 内面：ヨコハケ後、ナデ	外面：淡褐色 内面：淡灰褐色 断面：暗褐色	頸部1/10	弥生Ⅳ期
－6	BOH－2	広口壺	V－1－3 砂レキD		6.0		5条以上の凹線を施す	やや良好	粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：指ナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：灰褐色	頸部1/10	弥生Ⅳ期
－7	BOA－2	広口壺	V－4－1 砂レキC		8.1		頸肩境にヘラ状工具で有軸羽状文を施す。軸上には円形浮文を貼付する	やや良好	やや密（4㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	外面：6条/cmのタテハケ 内面：剥離のため調整不明	全面：淡灰褐色	肩部1/7	弥生Ⅳ－1期
－8	BZH－1	広口壺	V－1－2 粗砂		6.8		肩部にヘラ描き沈線により文様帯を区画し、押引き刺突文と波状文を施文する	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石を多く含む）	内面：下半は縦ケズリ。上半は横位のヘラケズリ	外面：暗灰色 内面：明褐色 断面：淡褐色	肩部1/10	弥生Ⅳ期
－9	BOB－1	広口壺	V－1－3 砂レキD		8.5		肩部に鋭利な工具による斜線を施し、ヘラ状原体により凹線を引く。直下には斜行するするキザミを入れる	普通	普通（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：タテハケ	外面：淡茶褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：灰褐色	肩部1/10	弥生Ⅳ－1期
－10	BNA－k－3	無頸壺	V－1－1 南細砂	11.0	4.8		口縁外面に6条の凹線を施す。穿孔は1カ所しか確認できない	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：ナデ	外面：淡黄褐色 内・断面：淡灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅳ－1期
－11	BFA－e－23	甕	V－4－1 砂レキB	13.8	9.7		口縁端部は上方に鋭く肥厚し、端部には2条の凹線を施す。器壁は薄い	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明 内面：ナデ	全面：淡茶褐色	上半部1/4	弥生Ⅳ－1期 外面には煤が付着
－12	BFA－d－1	甕	V－4－2 砂レキE	21.5	5.5		口縁端部は上方に肥厚し、端部には2条の凹線を施す。肩は張らない	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：8条/cmのタテハケ 断面：横位のヘラケズリ後、ナデ	外面：黒褐色 内面：淡黄褐色 断面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅳ－2期
－13	BFB－b－14	甕	V－1－2	21.5	1.9		口縁端部は斜め上方に肥厚し、端部には3条の凹線を施す	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石等を僅かに含む）	口縁部：ヨコナデ	表面：白褐色 断面：暗灰色	口縁部1/10	弥生Ⅳ－1期
－14	BGE－1	甕	V－1－1 南砂レキ	18.1	3.4		口縁端部に2条の凹線を施した後、キザミを入れる。頸部外面には立体的な指頭圧痕文帯を貼付する	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ	外面：淡橙褐色 内・断面：淡灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅳ－1期
－15	BGC－1	甕	V－4－1 砂レキB	18.6	6.7		口縁端部は鋭く上方に肥厚し、端部には2条の凹線を施す。頸部外面には立体的な指頭圧痕文帯を貼付する	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：細かいタテハケ 内面：指ナデ	外・断面：淡茶褐色 内面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅳ－1期

第82表・西川津遺跡Ⅴ区・弥生（Ⅲ・Ⅳ期）土器観察表（33）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
62図－16	BGD－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	23.8	4.6		口縁端部は上下に肥厚し、端部に3条の凹線を施す。頸部外面には指頭圧痕文帯を貼付する	やや不良	普通（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：7条/cmのタテハケ 内面：磨滅のため調整不明	外面：淡灰褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰色	口縁部1/6	弥生Ⅳ－2期
－17	BFD－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	17.7	7.2		口縁端部は上方に僅かに肥厚し、端部に2条の凹線を施し、キザミを入れる	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：6条/cmのタテハケ 内面：斜行ハケ	外面：淡灰褐色 内面：淡褐色 断面：灰褐色	上半部1/5	弥生Ⅳ－1期
－18	BFB－c－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	16.4	6.8		口縁端部は上方に肥厚し端部は3条の凹線を施す。器壁は薄い	良好	やや粗（0.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：7条/cmのタテハケ 内面：7条/cmの斜行ハケ	外面：淡褐灰色 内面：淡褐色	上半部1/6	弥生Ⅳ－2期
－19	BFC－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	15.4	6.3		口縁端部は上下に肥厚し、外面に4条の凹線を施す。器壁は薄い	やや良好	普通（1㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：5条/cmのタテハケ 内面：6条/cmの斜行ハケ	外面：暗茶褐色 内面：暗黄茶褐色 断面：暗赤褐色	上半部1/4	弥生Ⅳ－2期
－20	BFB－b－3	甕	Ⅴ－1－1 砂レキ	14.2	3.5		口縁端部は上下に肥厚し、外面に3条の凹線を施す。器壁は薄い	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明 内面：ヨコハケ後、ナデ	表面：淡褐色 断面：暗灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅳ－2期
－21	CGA－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	26.2	7.8		口縁端部に3条の凹線を施す。頸部外面には指頭圧痕文帯を施す。肩部が大きく張る	良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：10条/cmのタテハケ 内面：頸部以下は横位のヘラケズリ	外面：淡褐色 内面：暗褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/10	弥生Ⅳ－2期
－22	BFB－d－1	甕	Ⅴ－1－3	16.5	10.2		口縁端部に3条の凹線を施す	やや不良	やや粗（1㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明 内面：ナデ	全面：暗灰色	上半部1/6	弥生Ⅳ－2期
－23	CJB－3	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3		6.7		胴部上半に押引き刺突文を3段以上に渡って施文する	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	内面：縦位のヘラケズリ	外面：白褐色 内面：灰褐色 断面：黒灰色	胴部上半 約1/12	弥生Ⅳ－2期
63図－1	BPA－1	高杯	Ⅴ－1－2 暗灰粘	28.4	4.8		口縁端部は鍔状に外に突出する	良好	密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：タテハケ後、ナデ？ 内面：ハケ調整後、ナデ	外面：黄褐色 内面：明褐色 断面：淡褐色	口縁部1/5	弥生Ⅲ期
－2	BPC－1	高杯	Ⅴ－1－2	18.8	3.6		口縁端部は鍔状に外に突出し、端部には凹面を持つ	やや不良	普通（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：ヨコナデ？	外・断面：暗灰褐色 内面：暗褐色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－2期
－3	BPB－1	高杯	Ⅴ－4－1 砂レキE	23.2	3.3		口縁端部は内外に肥厚し、水平面を持つ	やや良好	密（0.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：7条/cmの斜行ハケ	外面：暗褐色 内・断面：灰褐色	口縁部1/10	弥生Ⅲ－1期
－4	BPD－1	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	23.2	4.6		口縁端部は外側に肥厚し、水平面を形成する	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：口縁直下は横位のミガキ 杯部は10条/cmの斜行ハケ 内面：横位のヘラミガキ	外・断面：白褐色 内面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－1期
－5	BPE－1	高杯	Ⅴ－1－2 砂レキ3	19.0	7.3		口縁端部は内外に僅かに肥厚して水平面を形成し、端部にキザミを入れる	やや良好	密（1㎜以下の石英・長石等を僅かに含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：5条/cmの浅いタテハケ 内面：ハケ調整後、横位のミガキ	外面：淡灰褐色 内面：淡褐色 断面：白褐色	杯部3/4	弥生Ⅲ－1期
－6	BPF	高杯	Ⅴ－4－3 砂レキY	23.0	5.3		口縁端部は内側に肥厚して水平面を形成する。面上に円形浮文を貼付する	やや不良	やや粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	内外面：磨滅のため調整不明	表面：淡灰褐色 断面：灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅲ－1～2期
－7	BPa－1	高杯	Ⅴ－1－1 南砂レキ		8.9		杯底部の円盤充填は剥離	やや良好	粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	脚部外面：縦位のヘラミガキ 杯部外面：指ナデ？ 脚部内面：絞り痕跡	外面：淡褐色 内・断面：淡灰褐色	杯軸部1/3	弥生Ⅲ期
－8	BPO－1	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF		3.9		杯底部は円盤充填	良好	普通（1㎜以下の石英・長石・赤色粒等を含む）	外面：縦位のヘラミガキ 杯部内面：ナデ 脚部内面：絞り痕跡	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	杯底部のみ	弥生Ⅲ期

第83表・西川津遺跡Ⅴ区・弥生（Ⅲ・Ⅳ期）土器観察表（34）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
63図－9	BPH－1	高杯	V－4－3 砂レキY	26.0	4.3		口縁端部の平坦面と外面にそれぞれ3条の凹線を施す	やや不良	やや粗（1.5mm以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ？	外面：淡灰褐色 内面：明褐色 断面：灰褐色	口縁部1/10	弥生Ⅳ－1期
－10	BPG－1	高杯	V－4－1 砂レキC	16.7	6.2		口縁部外面に3条のヘラ描き沈線を施す	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：軸部から放射状の指ナデ 内面：指ナデ	外面：暗褐色 内・断面：暗茶褐色	杯部1/6	弥生Ⅳ－1期
－11	BPK－1	高杯	V－4－3 砂レキB	15.6	1.9		口縁端部は短く直立し、頂部に平坦面を形成する 口縁部に穿孔あり	普通	やや密（2㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ヨコナデ 内面：浅い斜行ハケ	外面：淡黄褐色 内面：淡褐色 断面：暗灰色	口縁部1/10	弥生Ⅳ期
－12	BPI－1	高杯	V－4－3 SR01 砂レキZ	25.0	4.6		口縁部は大きく内彎し、端部には2条の、外面には4条凹線を施す	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明 内面：6条/cmの浅い斜行ハケ	表面：淡褐色 断面：濃茶褐色	口縁部1/10	弥生Ⅳ－1期
－13	BPJ－1	高杯	V－4－1 砂レキD	18.6	3.1		口縁部は大きく内彎し、端部には1条の、外面には4条凹線を施し、口縁端部と第3間帯にキザミを入れる	やや良好	やや密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：横位のヘラミガキ	外面：黒褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/10	弥生Ⅳ－1期
－14	BPM－1	高杯	V－4－1 砂レキC	22.4	3.6		口縁は杯稜部からやや内傾気味に立ち上がり、端部平坦面に3条、外面に4条の凹線を施す	良好	密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒等を含む）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：4条/cmのヨコハケ 杯部内面：7条/cmのヨコハケ	表面：暗褐色 断面：淡褐色	口縁部1/6	弥生Ⅳ－2期
－15	BPM－2	高杯	V－1－3 砂レキC	20.3	7.1		口縁は杯稜部からやや内傾気味に立ち上がり、端部平坦面に2条、外面に4条の凹線を施す。口縁端部外面にキザミを施す	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・金雲母等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：横位のヘラミガキ 杯部内面：横位のヘラミガキ	外面：淡橙褐色 内面：淡褐色 断面：灰褐色	杯部1/5	弥生Ⅳ－2期
－16	BPW－1	高杯	V－1－2 細砂		3.8	7.8	脚部外面にヘラ状工具で斜格子文を描く	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	内外面：ヨコナデ	表面：淡灰褐色 断面：淡褐灰色	脚部1/4	弥生Ⅲ期
－17	BPQ－2	高杯	V－1－1 東砂レキ		5.9	13.3	脚端はあまり開かない	やや良好	普通（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：縦位のヘラミガキ 内面：指ナデ 脚端部：ヨコナデ	外面：淡褐色 内面：淡灰褐色 断面：淡灰色	脚部1/6	弥生Ⅲ期
－18	BPR－1	高杯	V－1－2 細砂		14.1	14.6	脚端はあまり開かない	やや良好	やや密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：上半は縦位のヘラミガキ。下半は8条/cmのタテハケ 内面：上半は絞り痕を残し、中位に波状のヨコハケと指オサエを施す。端部はヨコナデ	全面：にぶい淡褐色	脚部1/3	弥生Ⅲ－2期
－19	BPQ－1	高杯	V－1－2 砂レキ3		17.6	14.7	脚端部に平坦面を持つ	やや良好	やや粗（1.5mm以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：上半は縦位のヘラミガキ。下半は9条/cmの浅いタテハケ 内面：上半は絞り痕を残し、中位に指ナデを施す。脚端部はヨコナデ	外面：淡灰褐色 内面：淡赤褐色 断面：淡灰色	脚部2/5	弥生Ⅲ－2期
－20	BPX－1	高杯	V－4－1 砂レキE		6.3		脚部に6条1単位の櫛描き文を2段に渡って施す	やや良好	普通（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：横位のヘラケズリ	表面：淡黄褐色 断面：淡灰色	脚基部1/2	弥生Ⅳ－1期
－21	BPb－b－1	高杯	V－1－3		2.4		杯部の形成後、脚部を継ぎ足す	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を多く含む）	全面：ナデ	外・断面：淡橙褐色 内面：暗褐色	軸基部のみ	弥生中期
－22	BPb－a－1	高杯	V－4－1 砂レキD		6.6		円盤充填技法ではない	やや良好	やや密（1.5mm以下の石英・長石を含む）	全面：ナデ	表面：暗茶褐色 断面：淡褐色	軸基部のみ	弥生中期
－23	BPS－1	高杯	V－1－2 砂レキ3		3.6	11.8	脚部下位に三角形の貫通しない透かし孔を22カ所施すと考えられる。上端の沈線は鋭利な工具で施されている	やや不良	やや粗（1㎜以下の石英・長石・雲母をやや多く含む）	内外面：ヨコナデ	表面：淡桃褐色 断面：淡褐灰色	脚端部1/8	弥生Ⅳ－2期
－24	BPY－1	高杯	V－1－2 細砂		3.3	11.6	脚端部には3条以上の凹線を施し、透かし孔を開ける	普通	やや粗（1.5mm以下の石英・長石等をやや多く含む）	内外面：ヨコナデ	表面：淡灰褐色 断面：淡褐灰色	脚端部1/8	弥生Ⅳ期

第84表・西川津遺跡Ⅴ区・弥生（Ⅳ・Ⅴ期）土器観察表（35）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
63図－25	BPT－2	高杯	V－4－3 砂レキA		4.7		脚部に4条以上の凹線文を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	外面：淡褐色 内・断面：暗褐色	脚部中位1/5	弥生Ⅳ－2期
－26	BPU－2	高杯	V－1－3 砂レキD		6.4		脚部に11条の凹線文を施す	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	全面：暗褐色	脚部1/4	弥生Ⅳ－2期
－27	CPB－2	高杯	V－4－2 砂レキE		2.5	13.5	脚端部に凹面を持つ	普通	やや密（2㎜以下の石英・長石等を含む）	脚端部：ヨコナデ 外面：5条/cmの斜行ハケ 内面：5条/cmの斜行ハケ	外面：淡茶褐色 内面：茶褐色 断面：淡褐色	脚端部1/8	弥生Ⅳ－2期
－28	CPB－1	高杯	V－4－2 砂レキF		3.9	11.7	脚端部に凹面を持つ	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石を含む）	脚端部：ヨコナデ 外面：ヨコナデ 内面：横位のヘラケズリ	外・断面：暗褐色 内面：淡灰褐色	脚端部1/6	弥生Ⅳ－2期
－29	BPZ－3	高杯	V－1－3 砂レキD		4.3	12.7	脚端部の平坦面に3条、外面に5条の浅い凹線を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	脚端部：ヨコナデ 外面：ヨコナデ 内面：横位のヘラケズリ	外面：淡褐色 内面：淡灰褐色 断面：灰褐色	脚部1/6	弥生Ⅳ－2期
－30	BPZ－1	高杯	V－1－3 砂レキD		11.8	11.9	脚筒部外面に14条、端部に6条の凹線を施す。端部は平坦面を持ち、上方に肥厚する	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	脚端部：ヨコナデ 外面：ヨコナデ 内面：横位のヘラケズリ	外面：淡褐色 内・断面：淡灰褐色	脚部1/3	弥生Ⅳ－2期
64図－1	SW－1	甕	V－1－1 南砂レキ	16.4	2.6		口縁端部は下垂する	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	内外面：ヨコナデ	全面：淡褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－1期
－2	CEC－9	甕	V－1－1 砂レキ2	17.4	3.6		口縁端部にはやや幅広の平坦面を持つ	普通	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：明褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－1期
－3	CFA－1	甕	V－1－3 砂レキC	18.2	6.7		口縁端部は平坦面を持ち、やや上方へ肥厚する	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：7条/cmのタテハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：暗褐色 内面：淡褐灰色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－1期
－4	CCA－1	甕	V－1－2 暗灰砂	16.9	3.0		複合口縁状を呈す	普通	普通（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ	全面：淡茶褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－1期
－5	CBB－2	甕	V－4－1 砂レキD	11.5	3.2		複合口縁状を呈し、頸部外面にキザミを入れる	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・雲母等を含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ	外面：暗茶褐色 内・断面：茶褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－1期
－6	CBB－1	甕	V－1－2 細砂	17.8	2.5		口縁端部は上方に肥厚し、平坦面上には凹線が1条残る	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石を多く含み、赤色粒・黒色粒を僅かに含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ	全面：淡灰褐色	口縁部1/4	弥生Ⅴ－1期
－7	CEC－2	甕	V－4－2 砂レキG	20.0	5.1		口縁端部は上方に肥厚し、複合口縁状を呈す	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡褐色 内面：淡灰褐色 断面：明褐色	口縁部1/8	弥生Ⅴ－1期
－8	CDB－2	甕	V－4－2 砂レキF	24.5	4.2		口縁端部は上下に肥厚する器壁は比較的薄い	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒・金雲母を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外・断面：明褐色 内面：白褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－1期
－9	CDB－23	甕	V－4－3 砂レキX	13.9	4.6		口縁端部に2条の凹線を施す肩は張らず、器壁は薄い	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：7条/cmの斜行ハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡灰褐色 内面：白褐色 断面：暗灰色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－1期 外面全体に煤付着
－10	CDB－24	甕	V－4－2 砂レキF	12.3	3.8		口縁端部に2条の凹線を施す器壁は薄い	やや良好	やや密（3㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：タテハケ後、ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡灰褐色 断面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅴ－1期
－11	CDB－1	甕	V－1－1 南砂レキ	11.2	4.7		口縁端部に2条の凹線を施す器壁は薄い	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ヨコハケ後、ヨコナデ？ 胴部内面：斜め上方へのヘラケズリ	外・断面：淡褐色 内面：淡茶褐色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－1期
－12	CEC－1	甕	V－1－3 砂レキD	19.3	8.9		複合口縁状を呈す	やや不良	粗（2.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：磨滅のため調整不明 内面：磨滅のため調整不明	外面：暗茶褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡褐色	上半部1/5	弥生Ⅴ－1期
－13	CIA－2	甕	V－4－2	18.2	4.5		複合口縁状の端部に2条の凹線を施す	やや良好	粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：ナデ 胴部内面：斜め上方へのヘラケズリ	外面：淡茶褐色 内面：淡黄褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－1期 外面全体に煤付着

第85表・西川津遺跡Ⅴ区・弥生（Ⅴ期）土器観察表（36）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
64図－14	CIA－1	甕	Ⅴ－1－2 粗砂	17.2	3.3		口縁端部は若干上方へ肥厚し端部には2条の凹線を施す	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡茶褐色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－1期
－15	CFB－1	甕	Ⅴ－1－1 西細砂	19.0	4.2		口縁端部は若干上方へ肥厚し端部には3条の細い凹線を施す	やや不良	やや粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：暗茶褐色 断面：暗灰褐色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－1期
－16	CDC－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	18.4	3.9		口縁端部は上下に肥厚し、3条の凹線を施す。器壁は薄い	普通	やや密（1㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：ナデ	全面：淡灰褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－1期
－17	CDC－2	甕	Ⅴ－1－2 細砂	14.2	3.9		口縁部は上下に肥厚し、4条の凹線を施す。肩部はあまり張らない	良好	粗（2㎜以下の石英・長石を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡褐色 内面：明褐色 断面：淡橙褐色	口縁部1/8	弥生Ⅴ－1期 外面には煤付着
－18	CGB－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	21.4	2.7		複合口縁状を呈し、口縁外面には、3条の凹線を施す。頸部外面にはキザミ入り突帯を施す	良好	普通（1㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ	全面：淡褐色	口縁部1/10	弥生Ⅴ－1期
－19	CBA－25	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	11.1	2.1		複合口縁状を呈し、口縁外面には3条の凹線を施す	普通	普通（1㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：暗茶褐色 内面：淡茶褐色 断面：茶褐色	口縁部1/7	弥生Ⅴ－1期
－20	CDA－2	甕	Ⅴ－1－3 砂レキC	15.8	4.1		口縁端部は上下に大きく肥厚し、外面には4条の凹線を施す	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：硫黄付着のため調整不明	外・断面：淡灰褐色 内面：淡褐色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－1期
－21	CDA－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	26.0	5.7		口縁端部は上下に肥厚し、外面には3条の凹線を施す	良好	普通（1㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡黄灰色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－1期
－22	CID－2	甕	Ⅴ－4－1 砂レキC	29.2	5.2		口縁端部はあまり肥厚しないが、厚みがある。外面に5条の凹線を施す。肩部に二枚貝による刺突を施す	やや不良	やや粗（1㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：磨滅のため調整不明	全面：淡褐色	口縁部1/10	弥生Ⅴ－1期
－23	CID－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	19.3	5.5		複合口縁状を呈し、口縁外面に5条の凹線を施す	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：横位のヘラミガキ 胴部内面：斜め上方へのヘラケズリ	外面：淡橙褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－1期
－24	CIC－2	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	19.3	4.3		口縁端部は上下に肥厚し、外面には4条の凹線を施す	良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：暗茶褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－1期 外面全体に煤付着
－25	CIC－1	甕	Ⅴ－1－2 細砂	15.1	5.2		内傾気味の複合口縁状を呈し口縁外面には4条の凹線を施す。肩は張らない	やや不良	やや粗（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡褐色	口縁部1/4	弥生Ⅴ－1期
－26	CIC－4	甕	Ⅴ－1－3 砂レキC	18.9	4.6		口縁外面に粘土紐を貼付して下垂口縁とする。外面には4条の凹線を施す	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を僅かに含む）	口縁部：ヨコナデ。内面には指頭圧痕を残す 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：明褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅴ－1期
－27	CIC－30	甕	Ⅴ－4－1 砂レキD	18.3	5.2		内傾気味の複合口縁状を呈し口縁外面には4条の凹線を施す	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：タテハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡橙褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－1期
－28	CV－1	甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ	23.1	2.4		口縁端部は若干上方に肥厚して、外面に4条の凹線を施す	やや不良	粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ	外面：淡褐色 内面：淡橙褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅴ－1期
－29	CEA－1	甕	Ⅴ－1－2 細砂	14.6	4.3		内傾する複合口縁状を呈し、外面に4条の凹線を施す	良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅴ－1期 外面には煤付着
－30	CEB－1	甕	Ⅴ－4－3 砂レキA	18.3	5.8		複合口縁状を呈し、口縁外面に2条の浅い凹線を施す	やや不良	やや粗（4㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ 胴部外面：磨滅のため調整不明 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡褐色 内面：黒褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/4	弥生Ⅴ－1期
－31	CEB－2	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	14.7	5.4		複合口縁状を呈し、口縁外面に3条の浅い凹線を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：磨滅のため調整不明 肩部外面：横位のヘラケズリ	表面：淡灰褐色 断面：淡灰色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－1期

第86表・西川津遺跡Ⅴ区・弥生（Ⅴ期）土器観察表（37）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
64図－32	CBA－2	甕	Ⅴ－4－1 砂レキC	12.0	2.7		複合口縁の外面に7条の凹線を施す	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：暗灰褐色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－2期
－33	CBA－1	甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ	19.6	4.6		複合口縁の外面に3条の凹線を施す	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡灰褐色 内面：淡褐色 断面：淡茶褐色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－1期
－34	CCB－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキE	14.4	3.6		複合口縁の外面に4条の凹線を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：指オサエ	全面：淡褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－1期 外面には煤付着
－35	CCB－2	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	14.1	3.1		内傾する複合口縁状を呈し、外面に4条のヘラ描き沈線を施す	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ	全面：淡褐色	口縁部1/10	弥生Ⅴ－2期
－36	CBC－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ2	17.5	4.5		複合口縁の外面に3条の凹線を施す	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：明褐色 断面：淡灰白色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－2期
－37	CBC－5	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	12.9	1.9		複合口縁の外面に5条の凹線を施す	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ	外面：暗赤褐色 内面：淡赤褐色 断面：淡褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－2期 残存する部分は全て赤彩
－38	CH－1	甕	Ⅴ－1－1 東細砂	20.7	9.9		口縁部は上下に肥厚し、外面に3条の凹線を施す。肩部には先端の丸い工具による刺突	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：8条/cmのタテハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡灰色	口縁部1/4	弥生Ⅴ－2期
－39	CH－3	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	16.8	4.1		口縁部は上方に肥厚し、外面には4条の凹線を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部外面：ヨコナデ 口縁部内面：横位のヘラミガキ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－2期
－40	CH－39	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ	18.0	4.4		複合口縁の外面に5条の凹線を施した後、ヨコナデにより消している	良好	やや密（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：明褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－2期 外面には煤付着
－41	CIE－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	26.6	8.4		口縁部は上下に肥厚し、外面に6条の凹線を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：横位のヘラミガキ 胴部内面：横位のケズリ後、ナデ	外面：明褐色 内面：淡灰褐色 断面：淡灰色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－2期
－42	CIE－2	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	18.0	4.7		口縁部は複合口縁状を呈すが稜部は下垂する	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：暗茶褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－2期
65図－1	CAI－2	複合口縁甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	19.6	3.3		口縁の外面に6条のヘラ描き沈線を施す	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・雲母・黒色粒をやや多く含む）	口縁部外面：ヨコナデ 口縁部内面：横位のヘラミガキ	表面：淡褐色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－2期
－2	CAI－1	複合口縁甕	Ⅴ－1－2 貝塚周辺	19.4	4.8		口縁部外面に6条の擬凹線文を施す	良好	やや祖　（1㎜前後の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：横位のヘラミガキ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡灰褐色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－2期
－3	CAG－1	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキC	23.4	5.6		口縁部外面に6条の擬凹線文を施す。肩部にヘラ状工具による刺突を施す	やや不良	粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡茶褐色	口縁部1/4	弥生Ⅴ－2期
－4	CAA－1	複合口縁甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	19.1	3.5		口縁部外面に4条の擬凹線文を施す	やや不良	粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	口縁部外面：ヨコナデ 口縁部内面：磨滅のため調整不明	全面：淡褐色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－2期
－5	CAJ－1	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	17.8	3.4		口縁部外面に9条の擬凹線文を施す	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ	外面：暗茶褐色 内面：茶褐色 断面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅴ－2期 外面全体に煤付着
－6	CAJ－2	複合口縁甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	27.6	4.2		口縁部外面には櫛状工具による沈線が施される	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ	表面：淡褐色	口縁部1/10	弥生Ⅴ－2期 外面には煤付着
－7	CAE－10	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキA	16.5	4.1		口縁部外面に8条の擬凹線文を施す。器壁は薄い	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：暗茶褐色 断面：暗褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－3期
－8	CAE－1	複合口縁甕	Ⅴ－1－2 細砂	19.4	4.4		口縁部外面に9条の擬凹線文を施す。端部がやや丸みをもつ	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：黒灰色 内面：淡茶褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/8	弥生Ⅴ－3期 外面全体に煤付着
－9	CAC－1	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	19.0	4.9		口縁外面に擬凹線を施すが、半分はヨコナデにより消える上	普通	密（0.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ？	全面：淡褐色	口縁部1/10	弥生Ⅴ－3期

第87表・西川津遺跡Ⅴ区・弥生（Ⅴ期）土器観察表（38）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
65図－10	CAC－2	複合口縁甕	Ⅴ－4－2 地山上	18.4	4.2		口縁部外面に11条の擬凹線文を施す。端部は丸味を持つ	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ	外面：暗茶褐色 内面：淡橙褐色 断面：淡褐色	口縁部1/8	弥生Ⅴ－3期 外面全体に煤付着
－11	CAF－7	複合口縁甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	17.9	4.1		口縁部外面に8条の擬凹線文を施す	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－3期
－12	CAF－2	複合口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキY	18.8	5.2		口縁部外面に8条の擬凹線文を施す。器壁は薄い	やや不良	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ	表面：淡赤褐色	口縁部1/8	弥生Ⅴ－3期
－13	CAB－12	複合口縁甕	Ⅴ－1－2 砂レキ2	20.0	6.6		口縁部外面に11条の擬凹線文を施す。端部は丸味を持ち、稜は下垂する。肩部にも擬凹線を施し、直下に貝ガラ刺突	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	口縁部内面：横位のヘラミガキ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：明灰褐色 断面：淡褐色	口縁部1/3	弥生Ⅴ－3期
－14	CAB－2	複合口縁甕	Ⅴ－1－2	19.1	4.4		口縁部外面に7条の擬凹線文を施す。器壁は薄く、稜は下垂する	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：灰褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－3期
－15	CBD－2	複合口縁甕	Ⅴ－4－1 砂レキC	13.9	3.0		擬凹線文は確認できない	良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石を色粒を含む）	口縁部外面：ヨコナデ 口縁部内面：横位のヘラミガキ 胴部内面：斜め上方へのケズリ	外面：淡黄褐色 内面：白褐色 断面：淡褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－3期
－16	CAK－1	複合口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキD	16.2	3.9		口縁部外面に擬凹線文を施す 端部はやや細い	やや不良	粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	内外面とも磨滅・剥離のため調整不明	外面：灰褐色 内面：白褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－3期 外面全体に煤付着
－17	CAG－2	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキC	16.4	4.1		口縁外面に10条の擬凹線を施した後、ナデ消す。端部は細くなる	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石を含む）	外面：ヨコナデ 口縁部内面：横位のヘラミガキ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：暗茶褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/6	弥生Ⅴ－3期 外面全体に煤付着
－18	CJA－4	甕	Ⅴ－4－1 砂レキC		9.2		肩部にヘラ状原体による幅広の刺突を施す	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	外面：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡褐色 内面：淡灰褐色	胴部1/6	弥生Ⅴ期 頸径12.2㎝・胴径18.9㎝
－19	CK－1	甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ		4.8		頸部に4条以上の凹線を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：暗灰褐色 内・断面：淡茶褐色	胴部 上半1/6	弥生Ⅴ期
－20	CJD－3	甕	Ⅴ－1－3 砂レキE		3.3		肩部にヘラ状工具による斜線を施す	普通	普通（1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	外面：淡褐色 内面：暗桃褐色	肩部1/10	弥生Ⅴ期
－21	BLA－u－2	広口壺	Ⅴ－1－1 ¥砂レキ2	21.4	6.2		口縁端部は僅かに上下に肥厚し、2条の凹線を施す	やや不良	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：縦位のヘラケズリ	外・断面：淡茶褐色 内面：黒褐色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－1期
－22	CQA－1	広口壺	Ⅴ－1－3 砂レキ	33.2	8.1		口縁端部に5条の凹線を施す	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	口縁部外面：ヨコナデ 口縁部内面：横位のヘラミガキ	全面：淡灰褐色	口縁部1/5	弥生Ⅴ－1期
－23	CQA－2	広口壺	Ⅴ－1－1	18.0	6.1		口縁部は上下に肥厚し、外面に4条の凹線を施す。肩部は張らない	やや不良	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：磨滅のため調整不明	外面：白褐色 内面：淡灰褐色 断面：暗灰色	口頸部1/4	弥生Ⅴ－1期
－24	CQB－1	複合口縁壺	Ⅴ－1－1 細砂	26.0	5.7		口縁部外面には7条の凹線を施す。稜は下垂する	普通	粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ	表面：淡黄褐色 断面：暗灰色	口頸部1/6	弥生Ⅴ－2期
－25	CQB－9	広口壺	Ⅴ－1－3 砂レキC	11.9	4.1		口縁端部は僅かに上方に肥厚する	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：灰褐色 断面：淡茶褐色	口頸部1/5	弥生Ⅴ期
－26	CT－1	広口壺	Ⅴ－1－2 粗砂	16.6	3.3		口縁端部は僅かに肥厚する	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ	全面：白褐色	口縁部1/8	弥生Ⅴ－1期
－27	CS－1	複合口縁壺	Ⅴ－1－2 暗灰砂	20.8	3.5		口縁部外面に4条の凹線を施す。	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ	外・断面：淡褐色 内面：淡茶褐色	口縁部1/10	弥生Ⅴ期 吉備系？
－28	YEA－1	広口壺	Ⅴ－1－1		9.0		算盤玉状の胴部中央に低いタガ状の突帯を貼り付ける	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・金雲母等を多く含む）	外面：ヘラミガキ？ 内面：指ナデ	外面：淡茶褐色 内・断面：淡褐色	胴部の一部のみ	弥生Ⅴ－2期？ 北部九州の下大隈式
－29	CLA－3	把手付水差（注口土器）	Ⅴ－1－2 砂レキ3		9.4		把手の下方胴部に3条のヘラ描き沈線によって区画した文様帯の条間に、貝殻刺突文と勾玉状のスタンプ文を施す。把手は胴部の器壁を貫通して装着される	やや良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	内面：ヘラケズリ	表面：淡灰褐色 断面：淡赤褐色	把手付近の胴部のみ	弥生Ⅴ－3期 草田3期

第88表・西川津遺跡Ⅴ区・弥生（Ⅴ期）土器観察表（39）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
65図－30	CLB－2	把手付水差（注口土器）	Ⅴ－4－3 SR01		5.3			普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：ナデ。一部5条/㎝のハケ調整	表面：淡褐色 断面：黒褐色	把手のみ	弥生Ⅴ－3期 草田3期
－31	CLA－4	注口土器	Ⅴ－1－3 砂レキD		4.9		基部から先端まで太さは変わらない	普通	普通（2㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：縦位のヘラミガキ 内面：横位のヘラケズリ	全面：淡褐色	注口部のみ	弥生Ⅴ－3期 下面に煤付着
－32	CJE－1	小型壺	Ⅴ－4－2 砂レキF		3.3		3条のヘラ描き沈線により、文様帯を区画し、条間には貝殻による刺突を施す。器壁は極めて薄い	良好堅緻	密（0.5㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	外面：丁寧なヘラミガキ 内面：ヘラケズリ	全面：白褐色	小破片	弥生Ⅴ－3期 草田3期
－33	BHB－1	直口甕	Ⅴ－4－2 地山上	18.3	8.7		口縁部は外傾気味に短く立ち上がる	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：ハケナデ 胴部内面：縦位のヘラケズリ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/6	弥生Ⅴ期 外面には煤付着
66図－1	BPL－1	高杯	Ⅴ－4－1 地山上	20.9	2.8		口縁端部の水平面には2条の凹線を施す。稜は鋭い	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：横位のヘラミガキ 内面：放射状のヘラミガキ	外面：淡橙褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/12	弥生Ⅴ－1期 吉備系
－2	SXA－1	高杯	Ⅴ－1－1 砂レキ2	20.4	3.0		口縁部は複合口縁状を呈し、外面に4条の凹線を施す	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒等をやや多く含む）	全面：ヨコナデ	全面：明褐色	口縁部1/8	弥生Ⅴ－2期
－3	SXA－2	高杯	Ⅴ－1－2 暗灰砂	16.0	9.6		口縁部は複合口縁状を呈し、外面に2条のヘラ描き沈線を施した後横位のヘラミガキ	良好	やや密（1～2㎜の砂粒を含む）	口縁部：横位のヘラミガキ 内面：横位のヘラミガキ 外面：磨滅のため調整不明	全面：淡黄灰色	約2/5	弥生Ⅴ－1期
－4	SAB－1	高杯	Ⅴ－1－2 砂レキ	22.2	5.3		口縁は稜部から大きく外反する	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：横位のヘラミガキ 外面：横位のヘラミガキ 杯部内面：ヨコナデ	表面：淡灰褐色 断面：淡褐灰色	口縁部1/10	弥生Ⅴ期
－5	BPV－1	高杯？	Ⅴ－4－1 砂レキC		10.5	**12.8**	脚端部に3条の凹線を施す 内面には雑然とした刺突痕を多く残す	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を多く含む）	外面：ナデ？ 脚端部内面：横位のヘラケズリ 脚部内面：工具刺突	全面：淡褐色	脚部2/3	弥生Ⅴ－1期
－6	CPC－1	脚台部	Ⅴ－1－2		2.4	10.2	脚端部に3条の凹線を施す	良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：横位のヘラケズリ	全面：淡褐色	脚台部1/4	弥生Ⅴ－1期
－7	CPC－3	器台？	Ⅴ－4－2 砂レキE		4.2	16.0	脚端部に4条の凹線を施す	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	脚端部：ヨコナデ 内面：横位のヘラケズリ	全面：淡褐色	脚部1/6	弥生Ⅴ－2期
－8	COA－1	鼓形器台	Ⅴ－2－2 表土	14.3	3.5		複合口縁状を呈す口縁部外面に5条の擬凹線を施す	普通	粗（2㎜以下の石英・長石を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 内外面：磨滅のため調整不明	表面：白褐色 断面：淡橙褐色	受部1/6	弥生Ⅴ－2期
－9	CPA－2	器台	Ⅴ－1－1 砂レキ	26.4	4.5		口縁端部は上方に肥厚し、外面には3条の凹線を施す	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・雲母をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ	外・断面：淡褐灰色 内面：淡褐色	口縁部1/10	弥生Ⅴ－1期
－10	CAN－1	鼓形器台	Ⅴ－4－1 砂レキD	20.4	4.5		複合口縁状の口縁外面には擬凹線が施されているが、磨滅のため判然としない	やや不良	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	内外面：磨滅のため調整不明	表面：褐灰色	口縁部1/10	弥生Ⅴ－3期
－11	COB－2	鼓形器台	Ⅴ－4－2 砂レキF		6.0	20.2	脚端部外面には3条の凹線を施す	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	脚端部：ヨコナデ 外面：ヨコナデ 内面：横位のヘラケズリ	表面：褐灰色 断面：暗褐灰色	脚台部1/6	弥生Ⅴ－3期
－12	CNC－1	鼓形器台	Ⅴ－1－3 砂レキE		4.7	17.3	脚端部はやや外に折れる	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	脚端部：ヨコナデ 外面：ヨコナデ 内面：横位のヘラケズリ	表面：淡褐灰色 断面：暗灰色	脚台部1/4	弥生Ⅴ－3期
－13	CNB－1	鼓形器台	Ⅴ－1－3 砂レキE	**18.0**	**16.2**	**14.3**	形態的には的場式典型 稜は斜方向に突出する	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒等をやや多く含む）	受部・脚部外面：擬凹線を施した後、ヨコナデ。筒部外面は縦位のヘラミガキ 受部内面：ミガキ。筒部内面はナデ 脚部内面：横位のヘラケズリ	表面：にぶい淡茶褐色 断面：淡灰褐色	約9/10	弥生Ⅴ－3期 的場式
－14	CNB－2	鼓形器台	Ⅴ－1－2 地山上粗砂	13.3	4.3		複合口縁状を呈す受部外面には二枚貝による擬凹線を施す	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部外面：二枚貝による擬凹線 筒部外面：ヘラミガキ 内面：横位のヘラミガキ	表面：明褐色 断面：淡褐色	受部1/4	弥生Ⅴ－3期
－15	SXB－1	蓋？	Ⅴ－4－1	上径 **6.0**	3.8		上端は窪んでおり、中空である	普通	密（1㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	外面：ヨコナデ 内面：工具痕が残る	表面：白褐色 断面：灰褐色	つまみ部1/2	弥生Ⅴ期

第89表・西川津遺跡Ｖ区・弥生土器（底部）観察表（40）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
67図－1	NAB－2	壺	Ｖ－4－2 砂レキF		8.1	**5.8**	底部突出	普通	粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	内外面：磨滅のため調整不明	外面：暗黄褐色 内面：茶褐色 断面：暗茶褐色	底部1/2	弥生Ⅰ期
－2	NAB－3	壺	Ｖ－1－1 砂レキ2		5.8	**7.1**	底部突出	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石をやや多めに混和する）	外面：6条/㎝のタテハケ 内面：指ナデ	全面：淡褐色	底部のみ	弥生Ⅱ～Ⅲ期
－3	NAC－2	壺	Ｖ－4－3 砂レキA		7.5	**8.2**	底部突出	やや良好	粗（4㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：内部付近は横位のヘラミガキ。やや上方では斜行ヘラミガキ	外面：にぶい褐色 内面：淡褐色 断面：暗褐色	底部のみ	弥生Ⅰ期
－4	NAD－2	壺	Ｖ－4－2 砂レキF		8.0	**12.0**	底部突出	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ナデ？ 内面：ナデ	全面：淡褐色	底部のみ	弥生Ⅰ期
－5	NA－N－1	壺	Ｖ－4－1 砂レキC		5.4	6.8	底部は平底	普通	粗（2．5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：幅広の横位のヘラミガキ 内面：漆付着のため不明	外・断面：淡褐色 内面：漆が付着	底部1/3	弥生Ⅰ期 内面に漆付着
－6	NA－T－1	壺	Ｖ－4－1 砂レキB		5.7	11.5	底部付近に1条のヘラ描き沈線を施す	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：磨滅。ヘラミガキ？ 内面：7条/㎝のヨコハケ後、指ナデ	外面：濃灰色 内・断面：淡褐色	底部1/3	弥生Ⅰ期
－7	NA－U－2	壺	Ｖ－4－1 灰色粗砂		5.8	**7.2**	底部外面に高台状の粘土を貼りつける	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面底部：ヨコナデ 外面：斜行ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	全面：明褐色	底部のみ	弥生Ⅰ期
－8	NA－U－1	壺	Ｖ－1－1		3.4	**7.0**	底部はやや上げ底となる	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面底部：ナデ 外面：横位のヘラミガキ 内面：横位のヘラミガキ	内面：明白褐色 外・断面：白褐色	底部のみ	弥生Ⅱ～Ⅲ期
－9	NA－U－3	壺	Ｖ－4－2 砂レキF		3.1	**6.7**	底部はやや上げ底となる	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面底部：ヨコナデ 外面：横位のヘラミガキ 内面：縦位のヘラミガキ	表面：にぶい淡褐色 断面：淡灰褐色	底部のみ	弥生Ⅰ期
－10	NBB－2	甕	Ｖ－4－1 砂レキC		9.8	**6.5**	底部は平底で、胴部は細い	普通	粗（5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を多く含む）	外面下半：縦位の指ナデ 外面上半：4条/㎝のタテハケ 内面：上半はヨコハケ	外面：淡赤褐色 内面：黒茶褐色 断面：淡褐色	底部のみ	弥生Ⅰ期
－11	NBC－4	甕	Ｖ－1－2 砂レキ3		11.9	**8.4**	底部は平底で、胴部は細い	普通	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：剥離のため調整不明 内面：器壁剥離のため調整不明	内面：黒褐色 外面：淡赤褐色 断面：暗褐色	底部1/2	弥生Ⅰ期 外面は被熱
－12	NB－S－1	甕	Ｖ－1－2 砂レキ3		16.7	7.3	底部には直径1.4.㎝の穿孔が見られる	普通	やや粗（4㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒等をやや多く含む）	外面：剥離のため調整不明 内面：ナデ	外面：暗灰褐色 内面：淡灰褐色 断面：にぶい褐色	下半部1/3	弥生Ⅰ期 外面は被熱
－13	NB－U－3	甕	Ｖ－4－1 砂レキB		4.3	**5.6**	底部はやや上げ底となり、指オサエにより高台状とする	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：指ナデ。指オサエ 内面：ナデ	外面：にぶい褐色 内面：淡褐色 断面：灰褐色	底部のみ	弥生Ⅰ期
－14	NB－K－2	壺	Ｖ－4－3 砂レキY		3.2	**6.1**	底部は上げ底となり、高台部分には2カ所一対の穿孔が施される	普通	粗（4㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：ナデ	全面：明褐色	底部のみ	弥生Ⅰ期
－15	NDB－1	甕	Ｖ－4－1 砂レキD		8.9	**8.0**	底部は平底	やや良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ後、6条/㎝のタテハケ 内面：指ナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：淡褐色	底部のみ	弥生Ⅱ期
－16	ND－S－1	甕	Ｖ－4－1 砂レキB		3.7	**5.4**	底部には焼成後に直径9㎜の穿孔を施す	やや良好	やや密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：縦位のヘラミガキ 内面：指ナデ	外面：にぶい褐色 内面：褐灰色 断面：淡灰褐色	底部のみ	弥生Ⅱ期
－17	NEC－2	壺	Ｖ－4－1 砂レキE		8.8	**8.5**	底部は平底	良好	粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	外面：縦位のヘラミガキ 内面：剥離のため調整不明	外面：淡褐色 内面：淡黄褐色 断面：暗灰色	底部のみ	弥生Ⅲ～Ⅳ期
－18	NEC－1	壺	Ｖ－1－1		4.7	**7.8**	底部は平底	良好	粗（2㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：縦位のヘラミガキ 内面：指ナデ	全面：淡褐色	底部のみ	弥生Ⅲ～Ⅳ期
－19	NE－S－1	壺	Ｖ－4－2 暗灰粘		1.8	3.2	底部に鋭利な錐状工具によって、直径3㎜の穿孔を施す	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石等をわずかに含む）	外面：ナデ 内面：ハケナデ	外面：暗赤褐色 内面：淡褐色 断面：暗灰褐色	底部1/4	弥生Ⅲ～Ⅳ期

第90表・西川津遺跡Ⅴ区・弥生（底部）土器観察表（41－1）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
67図－20	NFC－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB		6.4	4.8	底部の器壁は薄い	良好	やや密（0.5㎜以下の石英・長石等をわずかに含む）	外面：縦位のヘラミガキ 内面：縦位のヘラミガキ後、底面は指ナデ	外面：暗褐色 内・断面：にぶい黄褐色	底部のみ	弥生Ⅲ～Ⅳ期
－21	NF－U－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF		3.5	6.6	底部は上げ底となる	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石を等を含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外・断面：暗褐灰色 内面：黒褐色	底部のみ	弥生Ⅲ～Ⅳ期
－22	NF－U－2	甕	Ⅴ－1－3 砂レキE		2.9	4.8	底部は高台状となる	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石含む）	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	表面：暗橙褐色 断面：淡茶褐色	底部のみ	弥生Ⅲ～Ⅳ期
－23	NF－U－3	甕	Ⅴ－1－3 砂レキD		4.2	6.2	底部は高台状となる	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	底部外面：ヨコナデ 外面：ナデ？ 内面：ナデ？	外・断面：淡茶褐色 内面：黒褐色	底部のみ	弥生Ⅲ～Ⅳ期
－24	NF－S－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3		3.9	4.6	底部は焼成後に内外両面から穿孔を行っている	普通	やや密（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	外面：縦位のヘラミガキ 内面：ナデ	外面：灰褐色 内・断面：暗褐色	底部1／3	弥生Ⅲ～Ⅳ期
－25	NF－O－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3		3.7	8.1	底部は高台状となり、脚部外面には5条以上の凹線を施す	普通	やや密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	外面：赤褐色 断面：暗褐色	脚台部1／6	弥生Ⅳ期 外面は被熱
－26	NF－O－2	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3		2.2	5.7	底部は高台状となり、脚部外面には4条以上の凹線を施す	やや不良	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	外面：にぶい淡赤褐色 内面：淡灰褐色 断面：灰褐色	底部2／3	弥生Ⅳ期

第91表・西川津遺跡Ⅴ区・弥生（底部）土器観察表（41－2）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
67図－27	KDA－1	土器片錘	Ⅴ－1－1 南砂レキ	7.3	5.7		片面の繰り込みは明瞭	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石黒色粒・金雲母等をやや多く含む）	内外面：ナデ	外面：暗赤褐色 内・断面：黄褐色	完形	弥生Ⅱ～Ⅳ期 甕転用
－28	KBB－1	土器片錘	Ⅴ－4－3 砂レキY	9.4	7.9		両端の繰り込みは明瞭ではない	やや良好	粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒・金雲母を多く含む）	外面：ヘラミガキ 内面：磨滅のため調整不明	外・断面：白褐色 内面：淡褐色	完形	弥生Ⅰ期 壺転用
－29	KBB－2	土器片錘	Ⅴ－4－3 砂レキB	7.2	6.6		片面の繰り込みは明瞭 2条以上のヘラ描沈線が確認できる	やや良好	粗（3㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ヘラミガキ 内面：指オサエ	外面：淡赤褐色 内・断面：淡灰褐色	完形	弥生Ⅰ期 壺転用
－30	KBB－17	土器転用 円盤状	Ⅴ－1－1 砂レキ	4.3	4.0		繰り込みは確認出来ない	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む。中期的）	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	表面：白褐色 断面：黒灰色	完形	弥生Ⅰ期 壺転用
－31	KBC－1	土器転用 円盤状 土製品	Ⅴ－1－1 西細砂	10.6	11.0		繰り込みは確認出来ない	普通	やや粗（3㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内外面：ナデ	外面：にぶい褐色 内面：淡橙褐色 断面：淡褐色	完形	弥生Ⅰ期 甕転用
－32	KBC－11	土器転用 円盤状	Ⅴ－1－3 砂レキC	4.8	4.6		繰り込みは確認出来ない 3条のヘラ描き沈線	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	内外面：ナデ	外面：淡茶褐色 内・断面：淡褐色	完形	弥生Ⅰ期 甕転用
－33	KCA－1	土器転用 有孔土製品	Ⅴ－4－1 砂レキB	3.2	3.3	6.0	内外両面から穿孔を施す	普通	密（1㎜以下の石英・長石を含む）	内外面：ナデ	全面：淡褐灰色	完形	弥生Ⅰ期 土器片転用 孔径7.0～2.0～6.5㎜
－34	KCA－2	土器転用 有孔土製品	Ⅴ－1－3 砂レキD	3.6	4.2	4.5	内外両面から穿孔を施す	普通	普通（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	内外面：ナデ	外面：黒褐色 内・断面：暗褐色	完形	弥生Ⅲ～Ⅳ期 土器転用 孔径7.0～4.0～8.0㎜
－35	KCA－3	土器転用 有孔土製品	Ⅴ－4－3 砂レキB	3.3		4.8	内外両面から穿孔を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	内外面：ナデ	外・断面：黒褐色 内面：淡褐色	完形	弥生Ⅲ～Ⅳ期 甕転用 孔径7.3～3.2～7.0㎜
－36	KCB－4	土器転用 有孔土製品	Ⅴ－4－1 砂レキB	5.9	5.1		内面からの穿孔途中 外面には刺突文がめぐる	やや良好	普通（1㎜以下の石英・長石を含む）	内外面：ナデ	外面：灰褐色 内面：淡褐色 断面：暗灰色	完形	弥生Ⅲ～Ⅳ期 甕転用。未製品 孔径6.0㎜

第92表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（1）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法(cm) 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
68図－1	DBA－1	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	18.8	5.6		稜はにぶい	やや不良	やや粗（2㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：灰褐色 内面：暗褐色	口縁部1/5	草田4期
－2	DBA－2	複合口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキE	16.4	5.2		稜はほとんど突出しない	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・金雲母・黒色粒等を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	表面：淡茶褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/5	草田4期
－3	DBB－1	複合口縁甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ	14.5	5.3		稜は斜め下方に鋭く突出し口縁端部は細く収める。 全体的にシャープなつくり	やや不良	やや粗（1㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒等を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/8	草田5期
－4	DBB－2	複合口縁甕	Ⅴ－1－1 南細砂	21.6	6.1		稜はあまり突出しないが、器壁は薄くシャープなつくり	やや不良	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	外面・口縁内面：ヨコナデ 頸部内面：指オサエ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡灰褐色	口縁部1/8	草田5期
－5	DBC－3	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	15.8	4.8		口縁部は外反し、内面中間には強いヨコナデによりアクセントをつける	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：暗茶褐色 内面：明褐色 断面：淡褐色	口縁部1/8	草田5期
－6	DBC－2	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	8.7	4.1		口縁部は外反し、内面中間には強いヨコナデによりアクセントをつける	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒等を含む）	外面・口縁内面：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡橙褐色 断面：暗灰色	口縁部1/5	草田5期
－7	DBD－1	複合口縁甕	Ⅴ－4－1	14.7	3.7		稜の上方に沈線を施して稜を強調する	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：明褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/10	草田5期
－8	DBE－1	複合口縁甕	Ⅴ－1－3	18.0	6.8		口縁は緩やかに外反し、端部は丸く収める	やや不良	やや粗（1㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：暗褐色 断面：淡褐灰色	口縁部1/5	草田5期
－9	DBF－2	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	15.5	4.1		口縁は緩やかに外反し、端部は丸く収める	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	全面：淡褐色	口縁部1/5	草田5期
－10	DBF－3	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	16.5	3.9		口縁は緩やかに外反し、端部は丸く収める	やや不良	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	全面：淡褐色	口縁部1/8	草田5期
－11	DBG－1	複合口縁甕	Ⅴ－4－3 砂レキA	21.3	4.2		口縁は若干外反するが、端部には僅かな面がある	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外・断面：灰褐色 内面：淡茶褐色	口縁部1/8	草田5期
－12	DBG－2	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキA	17.2	4.9		口縁は若干外反するが、端部には小さな面を形成している	やや良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：黒褐色 内面：褐灰色 断面：淡褐色	口縁部1/7	草田5期
－13	DBH－8	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキC	14.3	4.2		口縁の立ち上がりは直線化し、端部には平坦面	良好	密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒を僅かに含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	全面：淡褐色	口縁部1/8	草田6期
－14	DBH－9	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキD 地山上	14.7	5.8		口縁の立ち上がりは直線化し、端部には平坦面を持つ。稜は横方向に突出する	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒・雲母をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：明褐色	口縁部1/6	草田6期
－15	CBD－1	複合口縁甕	Ⅴ－4－1 砂レキC	17.9	3.9		口縁部の立ち上がりは短いが、器壁は薄くシャープ	良好	普通(1㎜以下の石英・長石を含む)	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡橙褐色 内面：淡灰褐色 断面：灰褐色	口縁部1/8	草田6期？
－16	DBH－5	複合口縁甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3 地山上	32.8	5.9		口縁の立ち上がりは直線化し、端部には平坦面を持つ	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：暗褐灰色 内・断面：淡褐色	口縁部 1/12以下	草田6期
－17	DBM－1	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	13.8	7.7		口縁は内傾し、端部は丸い。肩部に粗いヨコハケを施し直下に二枚貝刺突を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・雲母を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外・断面：淡灰褐色 内面：褐灰色	上半部1/3	草田6期
－18	DBJ－1	複合口縁直口壺	Ⅴ－1－2 砂レキ2	10.6	6.2		口縁の立ち上がりは長く、稜の部分は細い	普通	密（1㎜以下の石英・長石・金雲母・赤色粒をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	表面：橙褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/6	草田6期
－19	CMA－2	タタキ甕	Ⅴ－1－2 細砂		3.7		右上がりの平行タタキを施す	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：3条/cmの平行タタキ 内面：指ナデ	全面：明褐色	底部の一部のみ	草田6～7期 畿内系。胴径11.5cm
－20	CMA－1	タタキ甕	Ⅴ－4－2 砂レキF		10.7		水平～若干右上がりの平行タタキを施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：2条/cmの平行タタキ。下位は指ナデで、底部はケズリで丸底化している 内面：指ナデ	外面：淡褐灰色 内面：黒褐色 断面：暗灰色	口縁部は欠損	草田6～7期 畿内系
－21	DBI－2	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキA	29.0	10.8		口縁端部は外側に肥厚し頂部に小さな平坦面を形成する	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡茶褐色 断面：明褐色	口縁部1/5	草田6期

第93表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（２）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
68図－22	DBI－1	複合口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	14.8	4.9		口縁部は中間で屈曲し、端部には平坦面を持つ	良好堅緻	やや密（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：白褐色	口縁部1/3	草田６期 外面に煤付着
－23	DBK－1	複合口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	15.6	7.4		口縁部は中間で屈曲し、端部には外側に肥厚する平坦面を持つ。肩部にハケ原体による刺突を１カ所施す	良好	やや粗（１㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：ヨコハケ後、ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外・断面：明褐色 内面：淡赤褐色	口縁部1/8	草田７期
－24	DBK－4	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキC	18.3	7.7		口縁は直線的に立ち上がり、端部は外側に肥厚する肩部に櫛描き状沈線	普通	やや粗（１㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡褐色	口縁部1/12	草田７期
－25	DBK－2	複合口縁甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	22.0	5.6		口縁端部には広い平坦面を形成する	普通	やや粗（１㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒・雲母をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：淡褐色 内面：灰褐色 断面：淡灰色	口縁部1/8	草田７期
－26	DBL－1	複合口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキA	14.3	4.7		口縁端部に平坦面を持ち斜め上方に肥厚させる	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外・断面：淡褐色 内面：淡赤褐色	口縁部1/5	草田７期
－27	DBL－2	複合口縁甕	Ⅴ－4－3 砂レキY	17.1	5.6		口縁部は直線的に立ち上がり、端部は内側に肥厚する	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：明褐色 断面：淡褐色	口縁部1/10	草田７期以降
－28	DBT－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF		5.8		肩部に櫛描き波状文を施す	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒等をやや多く含む）	肩部外面：９条/㎝のタテハケ後、一部ヨコハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：明褐色 内・断面：淡褐色	頸肩部1/5	草田７期
－29	DBH－d－2	複合口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF		6.2		稜は鋭く横方向に突出する	やや良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：ヨコハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡褐色 内・断面：白褐色	頸肩部1/4	草田６～７期 稜径10.2㎝
－30	DBH－d－1	複合口縁甕	Ⅴ－4－2 西暗褐色土		6.2		肩部に米粒状刺突が一カ所施される	良好堅緻	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・金雲母等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：10条/㎝のタテハケ後、一部ヨコハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：灰褐色	頸肩部1/5	草田６～７期 稜径14.6㎝
－31	DBP－2	小型甕	Ⅴ－1－3 砂レキE		4.5		胴部は算盤玉状を呈する	やや良好	密（1㎜以下の石英・長石を含む）	胴部外面：６条/㎝のタテハケ後、ナデ 胴部内面：指ナデ	外・断面：淡灰褐色 内面：淡褐色	胴部1/4	草田６～７期 胴部径10.2㎝
－32	CMB－1	タタキ甕	Ⅴ－1－3		3.8			やや良好	やや粗（１㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：４条/㎝の平行タタキ 内面：ヘラケズリ	全面：淡灰褐色	胴部の一部のみ	草田６～７期 畿内庄内系甕
69図－１	DBc－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	16.6	3.1		口縁端部は内側に肥厚し広い平坦面を形成する	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・金雲母等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：黒褐色 内面：にぶい褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/10	４世紀中葉 布留２式 外面には煤付着
－２	DBV－b－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	14.8	5.2		口縁端部に沈線を入れ、僅かに上方へ摘み出している	良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石・金雲母等を含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：３条/㎝のタテハケ後、ヨコハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡褐色	口縁部1/4	４世紀中～後半
－３	DBV－b－2	単純口縁甕	Ⅴ－4－2	16.8	4.0		口縁端部には凹面を持ち、上方に肥厚させる	良好	やや密（1.5㎜以下の金雲母・石英・長石等を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	表面：暗褐色 断面：淡褐色	口縁部1/8	４世紀中～後半 外面には煤付着
－４	DBV－a－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	16.8	6.2		口縁は僅かに内彎し、端部は若干上方に肥厚する 内面のケズリの開始が高い位置にある	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒等をやや多く含む）	口縁外面：ヨコナデ 肩部外面：５条/㎝のタテハケ 口縁内面：８条/㎝のヨコハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：暗灰色 内面：明褐色 断面：淡灰色	口縁部1/5	４世紀中葉
－５	DBV－a－2	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	15.8	4.3		口縁の傾きは緩く直立気味となり、端部には平坦面を形成する	良好	密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁外面：ヨコナデ 口縁内面：４条/㎝のヨコハケ	表面：黒褐色 断面：淡褐色	口縁部1/6	４世紀後半～５世紀初頭 外面には煤付着
－６	DBX－1	単純口縁甕	Ⅴ－1－2 細砂	14.5	7.3		口縁の傾きは緩く直立気味となり、端部はやや上方に肥厚する	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：磨滅のため調整不明 胴部内面：横位のヘラケズリ	外・断面：淡褐色 内面：淡橙褐色	上半部1/4	４世紀後半～５世紀初頭
－７	DBU－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2	15.2	5.2		口縁部は直線的に外傾し端部は僅かに凹面を持つ	良好	やや粗（2.5㎜以下の石英・長石・金雲母等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：６条/㎝のタテハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：黒褐色 内面：暗褐色 断面：明茶褐色	上半部1/4	４世紀後半～５世紀初頭 外面には煤付着
－８	DBZ－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	15.6	4.7		口縁部は直線的に外傾し端部は僅かに内側に肥厚する	良好	やや密（１㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：にぶい褐色 内・断面：明褐色	口縁部1/5	４世紀後半～５世紀初頭 外面には煤付着

第94表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（３）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
69図－9	DBU－2	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	18.6	3.9		口縁は僅かに内彎し、端部には凹面を持つ	良好	密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：暗茶褐色 内・断面：黒褐色	口縁部1/10	4世紀後半～5世紀初頭 外面には煤付着
－10	DBW－b－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	**15.0**	4.2		口縁は僅かに内彎し、端部には凹面を持つ小さな平坦面を持つ。端部に櫛状工具で刺突した痕跡あり	良好	密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁外面：タテハケ後、ヨコナデ 口縁内面：7条/cmの斜行ハケ後、指オサエ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡褐色 内面：淡灰褐色 断面：淡茶褐色	口縁部1/2	4世紀後半～5世紀初頭 外面には煤付着
－11	DBW－b－2	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	17.7	3.3		口縁は直線的に外傾し、やや厚みがある	良好	やや密（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：黒褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰色	口縁部1/5	5世紀前半 外面には煤付着
－12	DBb－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	11.3	3.1		口縁端部は僅かに摘み上げる。器壁は薄い	普通	密（0.5㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	口縁外面：ヨコナデ 口縁内面：ヨコハケ後、ナデ	外面：にぶい褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡褐色	口縁部1/6	4世紀後半～5世紀初頭
－13	DBa－1	単純口縁甕	Ⅴ－1－2 砂レキ	15.2	3.1		口縁は内彎し、端部は小さな面を持ち、内側に鋭く突出する	良好	密（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	口縁外面：ヨコナデ 口縁内面：ヨコハケ後、ナデ	外面：暗茶褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/10	4世紀後半～5世紀初頭 外面には煤付着
－14	DBa－9	単純口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	14.5	6.3		口縁は内彎し、端部はやや内側に肥厚するが、面を持たない	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：4条/cmのタテハケ後、ヨコハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：灰褐色 断面：淡褐色	口縁部1/3	4世紀後半～5世紀初頭
－15	DBY－2	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	15.0	7.4		口縁は僅かに内彎し、端部は外側に肥厚する	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：ナデ 頸部内面：指オサエ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：白褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/8	4世紀後半～5世紀初頭
－16	DBW－a－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	**15.2**	19.4		口縁は直線的に立ち上がり、端部には水平面をもつ	良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁外面：ヨコナデ 胴部外面：肩部のヨコハケ以外はナデ消される 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡褐色 断面：淡灰色	上半部2/3	4世紀末～5世紀初頭 肩部以外の外面には煤付着 胴部径23.4cm
－17	DBW－a－2	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	**16.0**	20.4		口縁は僅かに内彎し、端部は平坦面を持ち外側に肥厚する	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒・金雲母等をやや多く含む）	口縁外面：ヨコナデ 外面：肩部には4条/cmのヨコハケ。胴部にはそれより粗いハケ調整 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡灰褐色 内面：淡灰色 断面：白褐色	上半部2/3	4世紀末～5世紀前半 胴部径25.0cm
－18	DBQ－20	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキG		5.0		肩部にヘラ状工具による刺突を施す	良好	密（1㎜以下の石英・長石を含む）	外面：12条/cmの細かいヨコハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：にぶい淡褐色 内面：淡灰褐色 断面：暗灰色	胴部上半1/4	4世紀末～5世紀前半
－19	IFC－2	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	**15.2**	17.2		口縁部は内彎し、端部は丸く収める	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：5条/cmのタテハケ 胴部内面：上半の横位のヘラケズリ後、下半はケズリ上げ	表面：白褐色 断面：暗灰色	上半部2/3	4世紀末～5世紀前半 肩部以外の外面には煤付着 胴部径23.6cm
－20	IFC－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	**13.8**	**22.5**		胴部は球胴化が進んでいる。口縁部は内彎し、端部は丸く収める	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：4条/cmのタテハケを肩部→下半部の順に施す 胴部内面：斜行気味のヘラケズリ。底部は指頭圧痕が顕著に残る	表面：白褐色	完形	4世紀末～5世紀前半 胴部外面には煤が付着 胴部径19.1cm
－21	IFA－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	**13.9**	**22.6**		胴部は球胴化し、口縁は直線的に緩く外傾する。端部の平坦面は全周しない	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：7条/cmのヨコハケ→タテハケを施し、最後に肩部にヨコハケを施す 胴部内面：下半の斜行ヘラケズリを上半の横位ケズリが切る	表面：白褐色	4/5残存	4世紀末～5世紀前半 胴部外面中位には煤が付着 胴部径21.0cm
－22	DBY－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	**15.3～16.5**	9.2		口縁部は内彎し、端部は小さな平坦面を持ち、外側に肥厚する	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：縦位の指ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡灰褐色 内・断面：灰褐色	上半部のみ	4世紀末～5世紀前半 外面には煤が付着

第95表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（4）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
69図－23	IFB－1	単純口縁甕	V－4－2 砂レキE	16.1	8.5		口縁部は内彎し、端部に平坦面を持つ	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：磨滅のため調整不明 胴部内面：斜行ヘラケズリ	全面：淡茶褐色	上半部1/4	4世紀末～5世紀前半
－24	IFC－5	単純口縁甕	V－1－3 砂レキE	17.6	6.6		口縁部は短く、内彎する	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・金雲母を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：５条/㎝の斜行ハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡茶褐色 内面：暗褐色	口縁部1/5	4世紀末～5世紀前半
70図－１	DDA－1	複合口縁壺	V－4－2 砂レキE	17.8	9.0		口縁は緩やかに外反し、端部は丸く収める	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外・断面：淡灰褐色 内面：淡茶褐色	口頸部1/8	草田５期
－２	DDB－1	複合口縁壺	V－1－2 砂レキ3	20.0	6.5		口縁は直線的に外傾し、端部には平坦面を持つ	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	全面：淡褐色	口縁部1/6	草田６期
－３	DDF－1	複合口縁壺	V－4－2	18.3	5.3		口縁部は内傾し、端部は丸く収める	良好	やや密（１㎜以下の石英・長石・金雲母等を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	全面：淡褐色	口頸部1/6	草田６期
－４	DDC－1	複合口縁壺	V－1－3 砂レキD	29.6	5.2		口縁端部には面を持ち、外方に肥厚する	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・雲母を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	表面：淡褐色 断面：暗灰色	口縁部1/12	草田７期
－５	DDC－2	複合口縁壺	V－1－3 砂レキE	23.1	4.8		口縁端部には面を持ち、外方に肥厚する。稜は横方向へ鋭く突出する	普通	やや粗（１㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	全面：淡褐色	口縁部1/10	草田７期
－６	DDD－1	複合口縁壺	V－4－1 砂レキC	22.6	10.6		口縁部は大きく外傾し、端部には平坦面を持つ	普通	やや粗（２㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部外面：ヨコナデ 頸部内面：磨滅のため調整不明 胴部内面：横位のヘラケズリ	外・断面：淡茶褐色 内面：淡褐色	口頸部1/3	４世紀中葉
－７	DDD－2	複合口縁壺	V－4－2 砂レキE	22.2	5.9		口縁部は大きく外傾し、端部には平坦面を持つ	普通	粗（３㎜以下の石英・長石・金雲母等を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	表面：暗灰褐色 断面：暗灰色	口縁部1/5	４世紀中葉
－８	DDE－1	複合口縁壺	V－4－1 砂レキE	25.6	3.7		口縁部は大きく外傾し、端部付近でさらに外側に屈曲する	やや良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：淡褐色 内・断面：淡灰褐色	口縁部1/8	４世紀中葉
－９	DDE－2	複合口縁壺	V－4－1 砂レキE	23.8	4.5		口縁端部は大きく外反して端部には凹面を形成する稜はタガ状となる	やや良好	普通（４㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外・断面：暗茶褐色 内面：淡茶褐色	口縁部1/10	４世紀中～後半
－10	DDG－1	複合口縁壺	V－1－3 砂レキE	16.6	10.3		口縁部は大きく開き、内面の段は明瞭ではない。口縁端部は丸い	普通	やや粗（１㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	表面：淡茶褐色 断面：淡灰色	口頸部1/5	４世紀中～後半
－11	DDG－4	複合口縁壺	V－1－3 砂レキD	20.6	6.2		口縁部は大きく開き、端部は内側に肥厚する。稜は大振りとなる	普通	やや粗（１㎜以下の石英・長石を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	全面：暗褐色	口頸部1/5	４世紀中～後半
－12	DDG－5	複合口縁壺	V－1－3 砂レキD	27.1	5.1		口縁部は大きく開き、端部はさらに外反して丸く収める	良好	密（１㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	表面：暗桃褐色 断面：褐灰色	口縁部1/8	４世紀中～後半
－13	DDM－1	複合口縁壺	V－4－2 砂レキF		6.7		頸部に無軸羽状文を幅3.1㎝の工具によって施す	良好	やや密（１㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	外面：ヨコナデ 内面：頸部上半はヨコナデ 頸部下半は縦位のナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡灰褐色 内面：白褐色 断面：灰褐色	頸部1/8	４世紀前半～中頃
－14	DDN－1	複合口縁壺	V－1－3 砂レキD		5.5		頸部に有軸羽状文を施す	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：指ナデ	外面：淡黄褐色 内・断面：灰褐色	頸部1/6	４世紀前半～中頃
－15	DDZ－1	複合口縁壺	V－1－3 砂レキD		5.6		稜はタガ状となる	普通	やや密（１㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ヨコナデ 口縁内面：ヨコナデ 頸部内面：ナデ	頸部：淡褐色 口縁部：暗褐色 断面：淡褐色	口頸部1/8	４世紀中～後半
－16	DDI－1	壺	V－4－2 砂レキF		4.0		頸部に断面台形の突帯を貼り付ける	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 頸部内面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	頸部1/4	４世紀前半～中頃
－17	DDU－1	複合口縁壺	V－4－1 砂レキB		4.5		肩部に有軸綾杉文を施す	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：にぶい淡黄褐色 内面：淡黄褐色 断面：淡灰褐色	肩部1/8	４世紀前半～中頃
－18	DDL－2	壺	V－4－2 砂レキF		5.6		肩部に直径８㎜の竹管文を２段に渡って施す	やや良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：４条/㎝のタテハケ後、肩部のみヨコハケを施す 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：暗茶褐色 内面：灰褐色 断面：淡灰褐色	肩部1/5	４世紀中～後半

第96表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（５）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
70図－19	DDH－1	加飾二重口縁壺	Ⅴ－1－1 砂レキ2		2.1		口縁部外面に雑な波状文を施す	普通	やや粗（0.5㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：淡橙褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/8	草田６～７期？ 畿内系加飾二重口縁壺 20と同一個体か
－20	DDH－2	加飾二重口縁壺	Ⅴ－1－2 砂レキ3		3.4		肩部に６条の波状文・押引き刺突文を施す	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：横位のヘラケズリ	外面：淡褐色 内・断面：淡橙褐色	肩部1/4	草田６～７期？ 畿内系加飾二重口縁壺
－21	DDW－a－1	二重口縁壺	Ⅴ－4－1 砂レキD		4.1		直線的に立ち上がる頸部内外面ともに赤彩を施す	やや良好	やや密（0.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	表面：にぶい褐色 断面：灰褐色	頸部1/4	草田７期 畿内系二重口縁壺
－22	DDW－b－1	小型壺	Ⅴ－1－3		1.9		外面全体に赤彩を施す	普通	密（１㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	頸部内外面：ヨコナデ 胴部外面：ナデ 胴部内面：雑なナデ	外・断面：淡灰褐色 内面：淡茶褐色	肩部1/4	４世紀前半～中頃
－23	DDK－1	加飾複合口壺	Ⅴ－1－1 南砂レキ	36.2	9.6		口縁の外面に直径1.4㎝の半裁竹管状工具と直径７㎜の竹管状工具で「S」字状の文様を施文する	普通	やや粗（3㎜以下の赤色粒・石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	全面：白褐色	口縁部1/8	４世紀前半～中頃
－24	DDK－2	加飾壺	Ⅴ－2－2 SR01		5.9		頸部に半裁竹管状工具を縦方向に反転しながら施文し、連続S字状の文様を施文する	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	全面：淡褐色	頸部1/8	４世紀前半～中頃
－25	DDY－1	壺	Ⅴ－1－2		5.1		底面は平底気味になるが平坦面はない	良好	普通（２㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：放射状の指ナデ 内面：ケズリ上げ	外面：明褐色 内面：淡橙褐色 断面：淡灰色	底部のみ	４世紀？
－26	DDJ－1	壺	Ⅴ－4－2 SX01		5.6	11.6	底部は平底となる	良好	やや粗（１㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：８条/㎝のタテハケ 内面：ケズリ上げ	全面：淡褐色	底部1/5	４世紀
71図－１	DHJ－2	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	27.1	3.9		杯部は内彎しながら立ち上がるが、口縁は外反する内面に稜状のアクセントがつく	良好	緻密（0.5㎜以下の石英・金雲母・長石等を含む）	外面：丁寧な縦位のヘラミガキ 内面：丁寧な縦位のヘラミガキ	外・断面：淡褐色 内面：暗褐色	杯部1/8	草田５～６期
－２	DHJ－1	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキJ	23.3	3.6		杯部は内彎しながら立ち上がるが、口縁は外反する内面に稜状のアクセントがつく	良好	緻密（0.5㎜以下の石英・長石等を僅かに含む）	口縁外面：ヨコナデ後、暗文状の縦位ヘラミガキを加える 杯部外面：10条/㎝の斜行ハケ 内面：単位の見えない丁寧なミガキ	外・断面：淡褐灰色 内面：暗灰色	杯部1/10	草田５～６期
－３	DHE－1	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	24.4	6.0		杯部は緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。口縁端部には凹面を持つ	良好	やや密（1.5㎜以下の金雲母・石英・長石を含む）	口縁外面：斜行放射状のヘラミガキ 杯部外面：横位のヘラミガキ 口縁内面：斜行放射状のヘラミガキ 杯部内面：放射状のヘラミガキ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	杯部1/4	草田６～７期
－４	DHE－2	高杯	Ⅴ－1－2 暗灰砂	23.3	6.7		杯部は緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。口縁端部は丸く収める	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む）	口縁端部：ヨコナデ 外面：縦位のヘラミガキ 内面：単位の見えない丁寧なミガキ	全面：淡褐色	杯部1/6	草田６～７期
－５	DHF－1	高杯	Ⅴ－1－3 砂レキE		3.3		杯部に斜めに下垂する稜を作り出す	やや良好	やや密（２㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ後、放射状に指ナデ	外面：白褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰色	杯部1/5	４世紀後半
－６	DHA－1	高杯	Ⅴ－1－2	18.8	6.0		稜は外側に突出し、口縁は外反しする。杯底部は刺突孔を持つ円盤充填	良好	やや粗（１㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部外面：ヨコナデ 杯部外面：縦位ハケ後、横ミガキ 内面：ヨコナデ	外面：淡褐色 内面：淡灰色 断面：暗灰色	杯部1/2	４世紀後半 （松山氏・接続法α）
－７	DHF－2	高杯	Ⅴ－1－3 砂レキE	20.6	4.2		段状の稜を持ち、口縁端部は僅かに外反する	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	全面：白褐色	杯部1/5	４世紀後半
－８	DHD－2	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	18.4	4.3		杯部に稜を持たず、口縁端部は僅かに外反する	良好	やや密（１㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁外面：ヨコナデ 杯部外面：８条/㎝のタテハケ 内面：ヨコナデ後、斜行放射状ミガキ	外面：黒褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡灰褐色	杯部1/5	４世紀後半 外面に煤付着
－９	DHD－3	高杯	Ⅴ－4－1 砂レキD	15.0	5.3		杯部に稜を持たず、口縁端部は緩やかに外反する	良好	密（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：縦位のハケ調整後、ナデ 杯部内面：斜行放射状のミガキ	全面：淡橙褐色	杯部1/3	４世紀後半～５世紀前半
－10	DHD－1	高杯	Ⅴ－1－3 砂レキC	14.4	4.8		杯部に稜を持たず、口縁端部は緩やかに外反する。杯底面は刺突を持つ円盤充填	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	全面：横位のヘラミガキ	表面：淡橙褐色	杯部のみ	４世紀後半～５世紀前半 （松山氏・接続法α）

第97表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（６）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
71図－11	DHD－5	高杯	V－4－1 砂レキB	13.8	4.2		杯部に稜を持たず、口縁端部は緩やかに外反する	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：放射状のハケ調整 杯部内面：放射状のヘラミガキ	表面：白褐色 断面：灰白褐色	杯部は完存	4世紀後半～5世紀前半 （松山氏・接続法α？）
－12	DHB－1	高杯	V－1－2 砂レキ3		2.9		杯底部は円盤充填とする	良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石・金雲母等を含む）	外面：12条/㎝のタテハケ後、幅2㎜の細かい横位ヘラミガキ 内面：12条/㎝の放射状タテハケ後、幅3㎜の放射状ヘラミガキ	全面：淡褐色	杯軸部のみ	4世紀後半～5世紀前半 （松山氏・接続法α）
－13	DHC－1	高杯	V－1－3 砂レキC		2.1		杯底部は円盤充填とするが脚部内面側からも押圧される	良好	やや密（2㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ナデ 内面：放射状のヘラミガキ	全面：白褐色	杯軸部のみ	4世紀後半～5世紀前半 （松山氏・接続法α）
－14	DHN－1	高杯	V－4－2 砂レキF		5.3	11.3	透孔は3カ所と考えられる	良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	外面：上方は6条/㎝のタテハケ。中位は縦位のナデ。脚端部はヨコナデ後、放射状のハケ 内面：横位のケズリ後、ナデ	全面：白褐色	脚部1/4	4世紀後半～5世紀前半
－15	DGC－1	蓋？	V－4－1		7.6	12.5	端部は広い面を持ち、器壁は厚い	やや良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	筒部外面：縦位のヘラミガキ 端部：ヨコナデ	全面：白褐色	図化部分1/6	4世紀
－16	DCE－1	甕形土器	V－1－2 粗砂	狭口 11.1	7.8	広口	狭口縁端部は丸く収める	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：指ナデ。指頭圧痕	外面：白褐色 内・断面：淡褐色	狭口縁部 約1/3	4世紀前半
－17	DCD－2	甕形土器	V－4－3 砂レキY	狭口 11.6	5.6	広口	狭口縁端部は丸く収め、口縁からやや下がった位置にタガ状の突帯を貼り付ける	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：白褐色 内面：淡褐色 断面：褐灰色	狭口縁部 約1/4	4世紀前半
－18	DCD－1	甕形土器	V－4－2 砂レキF	狭口 15.0	6.9	広口	狭口縁端部はやや外側に肥厚し、やや下がった位置につくタガ状の突帯は高い	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒多くを含む）	外面：ヨコナデ 狭口縁部内面：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：明橙褐色 内面：淡橙褐色 断面：淡褐色	狭口縁部 約1/6	4世紀前半
－19	DCC－1	甕形土器	V－4－2 砂レキF	狭口	13.9	広口	狭口縁のやや下にタガ状の突帯を付ける	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部外面：ヨコナデ 胴部外面：8条/㎝のタテハケ 口縁部内面：指オサエ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	胴部1/8	4世紀前半
－20	DCA－2	甕形土器	V－4－2 暗褐色 粘質シルト	狭口	16.2	広口 51.6	広口縁部には面を持ち、やや下がった位置に縦位一対の把手をつける	やや良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む）	口縁端部：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：7条/㎝のヨコハケ。胴部中位は横位のヘラケズリ	外面：淡褐色 内面：淡灰褐色 断面：淡灰色	広口縁部 約1/5	4世紀前半
－21	DIB－1	手捏ね土器	V－4－2 砂レキF		1.7			良好堅緻	やや密（0.5㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：指ナデ 内面：指ナデ	全面：淡褐色	底部のみ	4世紀
72図－1	DAF－1	鼓形器台	V－4－2 砂レキF		5.6		上稜部は僅かに横方向に突出する	良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ヨコナデ 受部内面：粗いナデ 脚部内面：ヘラケズリ	外面：白褐色 内面：淡褐色	受部1/4	草田4期 筒部径8.0㎝
－2	DAH－1	鼓形器台	V－4－2 砂レキF		5.2		上稜部は下垂する。稜の上方に沈線を施し、稜を強調する	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石・金雲母等を含む）	外面：ヨコナデ 受部内面：ナデ 筒部内面：横位のヘラミガキ	外面：淡褐色 内面：暗茶褐色 断面：暗橙褐色	受部1/5	草田5期 筒部径7.8㎝
－3	DAE－1	鼓形器台	V－4－2	16.5	4.2		上稜部は横方向に突出する口縁端部は丸く収める	やや良好	普通（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：鉄分の付着のため調整不明	表面：白褐色 断面：淡茶褐色	受部1/5	草田5期
－4	DAJ－1	鼓形器台	V－1－3 砂レキD		6.2	18.6	下稜部は横方向に突出する	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	外面・脚端部：ヨコナデ 受部内面：ヘラミガキ 脚部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	脚部1/5	草田6期
－5	DAN－1	鼓形器台	V－1－2 砂レキ3		4.6	20.1	下稜部はやや斜め上方に突出する。脚端部は細くなる	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面・脚端部：ヨコナデ 脚部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡灰色	脚部1/10	草田6期
－6	DAM－1	鼓形器台	V－4－2 砂レキF		3.1		下稜部は横方向ににぶく突出する	良好	普通（1㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：横位のヘラケズリ	全面：明褐色	下稜部1/5	草田6期 下稜径14.0㎝
－7	DAN－2	鼓形器台	V－1－2 粗砂	20.4	5.9		上稜部は僅かに横方向に突出する。口縁端部は細く収める	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 受部内面：横位のヘラミガキ	表面：明褐色 断面：淡褐色	受部1/5	草田5期
－8	DAB－3	鼓形器台	V－4－1 砂レキA		7.4		稜は横方向に突出する 器壁は薄くシャープ	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	外面：ヨコナデ 受部内面：横位のヘラミガキ 筒部内面：ナデ 脚部内面：横位のヘラケズリ	表面：明褐色 断面：淡灰褐色	筒部約1/4	草田5～6期 筒部径10.3㎝

第98表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（7）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
72図－9	DAB－1	鼓形器台	Ⅴ－4－2 砂レキE		7.2		稜は横方向に突出する 器壁は極めて薄くシャープ	良好	密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ヨコナデ 受部内面：ケズリ後、丁寧なヘラミガキ 筒部内面：横位のヘラケズリ 脚部内面：横位のヘラケズリ	外面：白褐色 内・断面：淡褐色	約1/2	草田5～6期 筒部径10.4cm
－10	DAK－1	鼓形器台	Ⅴ－4－2 砂レキF		4.0	19.9	下稜は斜め上方に突出し、脚端部は斜め上方に肥厚する	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	外面：ヨコナデ 脚端部：ヨコナデ 脚部内面：横位のヘラケズリ	全面：白褐色	脚部1/8	草田6～7期
－11	DAL－1	鼓形器台	Ⅴ－1－3 砂レキA		5.0	18.8	下稜は横方向に突出し、脚端部には面を設ける	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	外面・脚端部：ヨコナデ 脚部内面：横位のヘラケズリ 筒部内面：ヨコナデ 受部内面：ヘラミガキ	外面：淡褐色 内面：明褐色 断面：灰褐色	脚部1/5	草田6～7期
－12	DAA－2	鼓形器台	Ⅴ－1－2 細砂		5.6	20.2	下稜は斜め上方に突出する脚端部は丸く収める	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒等をやや多く含む）	外面・脚端部：ヨコナデ 脚部内面：横位のヘラケズリ 筒部内面：ナデ 受部内面：ヘラミガキ	外面：淡灰褐色 内・断面：淡褐色	脚部1/4	草田6～7期
－13	DAB－2	鼓形器台	Ⅴ－4－2 砂レキF		5.1		稜は横方向に突出する。	良好	密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む）	外面：ヨコナデ 受部内面：縦位のヘラミガキ 筒部内面：ナデ 脚部内面：横位のヘラケズリ	表面：白褐色 断面：淡灰色	筒部1/3	草田7期 筒部径7.8cm
－14	DAA－1	鼓形器台	Ⅴ－1－3 砂レキA		5.7	14.2	稜は横方向に突出し、脚端部は斜め上方に反る	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	外面・脚端部：ヨコナデ 脚部内面：横位のヘラケズリ 筒部内面：ナデ 受部内面：ヘラミガキ	表面：淡灰褐色 断面：明褐色	脚部1/4	草田7期
－15	DAC－1	鼓形器台	Ⅴ－4－2 暗褐色 粘質シルト		6.8		稜は各々上下に突出する	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	外面・脚端部：ヨコナデ 脚部内面：横位のヘラケズリ 筒部内面：横位のヘラケズリ後、ナデ 受部内面：横位のヘラミガキ	外面：白褐色 内面：淡灰褐色 断面：淡褐色	筒部1/6	草田5～6期 筒部径8.3cm
－16	DAD－1	鼓形器台	Ⅴ－4－2 砂レキF		4.7	14.7	筒部は消滅している。脚端部には僅かに平坦面を持つ	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面・脚端部：ヨコナデ 脚部内面：横位のヘラケズリ 受部内面：ヘラミガキ	全面：白褐色	脚部1/4	草田7期以降
－17	DEA－2	低脚杯	Ⅴ－4－2 地山上	17.2	**5.2**	**5.4**	口縁端部は沈線状に窪む	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	杯部外面：丁寧なナデ 杯部内面：放射状のヘラミガキ 脚部：ヨコナデ	表面：淡橙褐色 断面：淡灰色	脚部は完存 杯部1/6	草田6～7期
－18	DEA－1	低脚杯	Ⅴ－4－2 砂レキE	**13.3**	**4.5**	**3.5**	口縁端部は丸く収める	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	杯部外面：8条/cmのヨコハケ 杯部内面：斜行放射状のハケ調整後、暗文風の放射状ヘラミガキ 脚部：ヨコナデ	表面：淡橙褐色 断面：淡褐色	約1/2	草田6～7期
－19	DEF－2	低脚杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	16.0	4.5		口縁端部は丸く収める	良好	密（1㎜以下の石英・長石・黒雲母を含む）	杯部外面：細かな縦位のヘラミガキ 杯部内面：9条/cmのヨコハケ後、縦位のヘラミガキ	表面：淡茶褐色 断面：灰褐色	杯部1/4	草田6～7期
－20	DEF－1	低脚杯	Ⅴ－4－1 砂レキD	14.2	3.3		口縁端部は丸く収める	良好	密（1㎜以下の石英・長石・金雲母等をやや多く含む）	杯部外面：8条/cmのタテハケ 杯部内面：10条/cmのヨコハケ後、ナデ	全面：白褐色	杯部1/6	草田6～7期
－21	DEB－3	低脚杯	Ⅴ－1－2 細砂		3.0	**4.9**	脚部に1カ所穿孔を施す	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	杯部外面：ヘラミガキ 杯部内面：ヘラミガキ 脚部：ヨコナデ	外面：淡褐色 内・断面：淡桃褐色	脚部のみ	草田6～7期
－22	DEB－1	低脚杯	Ⅴ－4－2 砂レキF		2.3	**4.2**	脚部は扁平化が進む	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石を含む）	杯部外面：縦位のヘラミガキ 杯部内面：ヘラミガキ 脚部：ヨコナデ	全面：白褐色	脚部のみ	草田6～7期
－23	DEE－1	低脚鉢	Ⅴ－4－2 砂レキF		2.0	**7.9**	高台状に外側に踏ん張る脚がつく	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を多く含む）	杯部外面：ナデ？ 杯部内面：ナデ？ 脚部：ヨコナデ	外・断面：淡灰褐色 内面：淡黄褐色	底部1/2	草田6～7期
－24	DECC－2	低脚杯	Ⅴ－4－2 砂レキF		2.2	**8.2**	脚部に1カ所穿孔を施す	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	脚部外面：ヨコナデ 脚部内面：斜行放射状ハケ後、ヨコナデ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	脚部1/2	草田6～7期

第99表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（８）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
72図－25	DED－1	低脚鉢	Ⅴ－1－3 砂レキC		2.5	20.0	脚部は大きく外側に踏ん張り、端部に面を持つ	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：明褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰褐色	脚部1/3	草田６～７期
－26	DFD－1	小型器台	Ⅴ－4－2 砂レキF		2.3		中空の器台で、口縁端部は上方に摘み上げる	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む）	外面：放射状の細かなヘラミガキ 内面：放射状の細かなヘラミガキ 口縁部：ヨコナデ	外面：淡褐色 内面：白褐色 断面：淡白灰色	杯部1/4	草田７期 畿内系 推定口径8.5㎝
－27	DFC－2	小型器台	Ⅴ－4－2 砂レキF		4.5	11.2	脚部の透孔は３カ所と考えられる	良好	密（３㎜以下の石英・長石・金雲母等を含む）	外面：細かな横位のヘラミガキ 内面：５条/㎝の斜行ハケ後、ナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：灰褐色	脚部1/6	草田７期 畿内系
－28	DFC－1	小型器台	Ⅴ－1－3 砂レキD		3.9	11.0	脚部の透孔は３カ所と考えられる。脚端部に沈線を施文する	普通	やや粗（１㎜以下の石英・長石・黒色粒・金雲母をやや多く含む）	外面：タテハケ 内面：８条/㎝のヨコハケ	外面：明褐色 内面：淡灰色 断面：淡褐灰色	脚部1/6	草田７期以降 畿内系変容
－29	DFB－1	小型器台	Ⅴ－1－2 暗灰砂		6.1	10.2	中空の器台。脚端部は丸く収める	良好	やや粗（１㎜以下の石英・長石・赤色粒等をやや多く含み、精製品ではない）	筒部外面：縦位のヘラミガキ 脚端部：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	表面：淡褐色 断面：褐灰色	口縁部欠損	草田７期以降 畿内系変容
－30	DFA－1	小型器台	Ⅴ－1－3 砂レキC		6.5		高杯状を呈す	良好	やや粗（１㎜以下の石英・長石・雲母をやや多く含む）	外面：ハケ調整後、ナデ 杯部内面：ナデ 脚部内面：絞り目が残る	全面：淡灰褐色	口縁端部と脚端部は欠損	草田７期以降
－31	DECC－1	低脚高杯	Ⅴ－1－3 砂レキC		4.1		脚部は中位で大きく外側に屈曲する	良好	密（１㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	外面：丁寧なナデ 杯部内面：ヘラミガキ 杯部内面：ナデ・指頭圧痕	外面：明褐色 内・断面：淡褐色	脚部1/2	草田７期以降 畿内系
－32	DHK－2	低脚高杯	Ⅴ－1－2 砂レキ		2.2	18.2	脚部は大きく開き、端部には凹面を持つ。透孔は３カ所と考えられる	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を多く含む。甕と同様の胎土）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：淡褐色 内面：白褐色 断面：淡茶褐色	脚端部1/6	草田７期
－33	DHK－1	低脚高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF		3.7	17.8	脚部は大きく開き、端部には凹面を持つ。透孔は３カ所と考えられる	良好	密（１㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：中位はタテハケ。下半はヨコナデ 内面：10条/㎝の斜行ハケ	全面：淡灰褐色	脚部1/4	草田７期以降
－34	DGA－1	有段鉢	Ⅴ－1－3 砂レキC		3.1		口縁部の屈曲は明瞭	良好	緻密（砂粒をほとんど含まない精製品）	外面：ミガキと思われるが磨滅 内面：ミガキと思われるが磨滅	全面：暗橙褐色	約1/8	草田７期 畿内系（搬入品？）
－35	DBO－1	注口土器	Ⅴ－4－2 砂レキJ		5.9		本体の土器にはめ込んであった部分から剥離している	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・金雲母・黒色粒を含む）	外面：縦位のヘラミガキ	全面：白褐色	注口部分のみ	草田５～６期
－36	DGB－1	手焙形土器	Ⅴ－4－1 砂レキC		4.8		口縁部は受け口状になる 天井部・底部は残存しない	良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：横位のヘラミガキ 胴部内面：ナデ	外面：明褐色 内・断面：淡褐色	胴部1/4	草田６～７期
73図－１	IGA－1	複合口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	14.8	11.4		口縁は退化し、稜や内面の段が緩やかになっている 端部は内側に肥厚する	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：肩部は７条/㎝のタテハケ。胴部は斜行ハケ 胴部内面：頸部より下がった位置から斜め上方へのケズリ上げ	外・断面：淡褐色 内面：淡茶褐色	上半部1/4	５世紀前半 外面に煤付着
－２	IGF－1	複合口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキE	13.6	3.4		稜の直上に沈線を施し、稜を強調する	良好	密（１㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：にぶい褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：淡灰色	口縁部1/8	４世紀後半 外面全体に煤付着
－３	IGI－1	複合口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキE	16.0	4.4		口縁は大きく開き、内側の段は不明瞭となる。端部には平坦面を持つ	良好堅緻	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ 頸部内面：ナデ	表面：明褐色 断面：淡褐色	口頸部1/3	４世紀後半
－４	IGG－2	複合口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	13.9	3.8		口縁部は内傾して、端部には平坦面を持つ。稜は大ぶりなものとなる	良好	やや粗（１㎜以下の石英・長石等を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：淡褐色 内・断面：淡灰褐色	口頸部1/6	４世紀後半
－５	IGG－1	複合口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキE	14.4	6.8		口縁部内側の段は、不明瞭となる	普通	やや粗（１㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：７条/㎝のタテハケ 頸部内面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：暗灰褐色	口頸部1/4	4世紀末～5世紀前半
－６	IGD－1	複合口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	17.8	6.6		口縁外面の稜、内面の段は不明瞭になりつつある	良好	やや粗（１㎜以下の石英・長石・黒色粒・金雲母を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：暗褐灰色 断面：淡灰色	口頸部1/5	４世紀後半

第100表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（９）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
73図－７	IGD－２	複合口縁甕	Ⅴ－４－２ 砂レキF	14.8	4.7		口縁外面に２条の沈線を施稜を表現する。端部は丸く収める	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：灰褐色	口頸部1/7	４世紀中頃～後半
－８	DBN－１	複合口縁甕	Ⅴ－４－２ 砂レキF	10.8	6.5		口縁は短く内傾し、端部には面を持つ。器壁はやや厚いが、シャープな作り	良好	やや密（１㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：８条/cmのヨコハケ 頸部内面：指ナデ 胴部内面：下がった位置から横ケズリ	表面：淡灰褐色 断面：灰褐色	上半部1/6	４世紀中頃～後半
－９	IGN－２	複合口縁甕	Ⅴ－４－２ 砂レキF	22.6	5.6		口縁外面に痕跡的に稜を設ける。端部は内側に肥厚する	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石をやや多く含み、黒色粒・金雲母を含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡灰褐色	口頸部1/5	５世紀前半
－10	IGN－１	複合口縁甕	Ⅴ－４－２ 砂レキG	15.8	4.9		複合口縁は短くなり、内面の段は確認できない	良好	やや密（１㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：５条/cmのタテハケ 頸部内面：ナデ 胴部内面：６条/cmの斜行ハケ	表面：淡茶褐色 断面：暗灰褐色	口頸部1/4	4世紀末～5世紀前半 外面に煤付着
－11	IGB－１	複合口縁甕	Ⅴ－１－３ 砂レキE	11.4	6.5		口縁外面の稜や内面の段は緩くなっているが表現される	普通	密（１㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：磨滅のため調整不明 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：褐灰色	上半部1/4	４世紀後半～５世紀初頭
－12	IGK－２	複合口縁甕	Ⅴ－４－２ 砂レキF	13.2	3.0		口縁外面の稜と内面の段は痕跡的になっている	良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外・断面：淡褐色 内面：にぶい淡褐色	口縁部1/5	５世紀前半 外面に煤付着
－13	IGK－１	複合口縁甕	Ⅴ－１－３ 砂レキD	9.6	3.6		口縁部は短く立ち上がり、端部は丸く収める	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ	全面：淡茶褐色	口頸部1/5	４世紀後半～５世紀初頭
－14	DBS－１	甕	Ⅴ－４－２ 砂レキF		8.5		肩部にヘラ描きによる無軸羽状文を施す	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・金雲母等をやや多く含む）	肩部外面：ヨコナデ 肩部内面：横位のヘラケズリ	表面：にぶい淡褐色 断面：暗灰色	肩部1/12	４世紀中頃～後半
－15	IGE－１	複合口縁甕	Ⅴ－１－３ 砂レキE	18.8	5.5		口縁外面の稜は無いが、内面にはナデにより段を表現する	やや不良	普通（１㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部内面：横位のヘラケズリ	外面：にぶい褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/10	５世紀前半 外面全体に煤付着
－16	IGH－１	複合口縁甕	Ⅴ－４－１ 砂レキD	15.1	2.3		口縁部は外側に大きく開く端部には平坦面を持つ	普通	やや粗（１㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外・断面：暗褐色 内面：暗橙褐色	口縁部1/8	５世紀前半
－17	IGC－１	複合口縁甕	Ⅴ－１－３ 砂レキE	16.3	7.7		口縁は内彎するが、外面の稜と内面の段を意識的に作り出している	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：タテハケ後、ヨコハケ 頸部内面：縦位の指ナデ 胴部内面：下がった位置から横ケズリ	全面：淡黄褐色	上半部1/6	５世紀初頭～前半
－18	IGF－２	複合口縁甕	Ⅴ－４－１ 砂レキD	23.0	4.6		口縁外面の稜は痕跡的ではあるが残存する	やや不良	やや粗（１㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：にぶい淡褐色 内・断面：淡灰褐色	口頸部1/6	５世紀初頭～前半
－19	IHA－２	複合口縁甕	Ⅴ－１－２ 細砂	16.2	4.7		口縁外面の稜は明瞭であるが、内面には段はない	普通	普通（１㎜以下の赤色粒・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ	表面：明褐色 断面：淡灰褐色	口頸部1/5	4世紀末～5世紀前半
－20	IGO－２	複合口縁甕	Ⅴ－１－３ 砂レキD	19.8	8.4		口縁端部を摘んで外側に大きく外反させ、複合口縁状に仕上げる	やや不良	やや粗（２㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡黄褐色	上半部1/5	５世紀前半～後半
－21	IGO－４	複合口縁甕	Ⅴ－４－１ 砂レキD	16.6	3.6		口縁端部を摘んで外側に緩く外反させる	普通	密（１㎜以下の石英・長石・金雲母を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：暗灰褐色 内面：暗灰色 断面：淡褐色	口縁部1/6	５世紀前半～後半 外面に煤付着
－22	IGM－１	複合口縁甕	Ⅴ－４－２ 砂レキE	15.6	6.1		口縁の複合部分は短いが明瞭に作り出している	普通	やや粗（２㎜以下の石英・長石・赤色粒等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：ナデ 頸部内面：指ナデ 胴部内面：下がった位置から横ケズリ	外面：淡褐色 内面：淡灰褐色	口頸部1/3	５世紀初頭～前半 外面に煤付着
－23	IGQ－８	複合口縁甕	Ⅴ－４－２ 砂レキF	14.8	3.6		頸部外面を強くなでることによって痕跡的な稜を形成する	良好	やや密（１㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	全面：白褐色	口縁部1/5	５世紀初頭～前半
－24	IGP－１	複合口縁甕	Ⅴ－４－２ 砂レキE	20.4	5.7		口縁端部内面に強いナデを施し、複合口縁状に形成する	やや良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：にぶい淡灰褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：淡褐色	口頸部1/5	５世紀初頭～前半 外面全体に煤付着
－25	IHB－１	複合口縁壺	Ⅴ－４－２ 砂レキF	15.4	6.2		口縁はやや外傾するが、内彎気味に立ち上がる。端部には平坦面を形成する	良好	やや密（１㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	表面：暗灰褐色 断面：灰褐色	口頸部1/5	４世紀後半～５世紀初頭

第101表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（10）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
73図－26	IHC－1	複合口縁壺	Ⅴ－1－2 砂レキ3	22.2	6.1		口縁端部には平坦面を持ち外面の稜や内面の段も表現している	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：暗灰褐色 内面：暗褐色 段面：淡灰褐色	口頸部1/8	4世紀中～後半
－27	IHC－2	複合口縁壺	Ⅴ－4－2 砂レキF	20.6	6.8		口縁の複合部分は短いが外面の稜や内面の段も表現している	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部外面：5条/㎝のタテハケ 頸部内面：指オサエの後、4条/㎝のヨコハケ	表面：暗褐色 断面：暗灰褐色	口頸部1/4	4世紀中～後半
－28	IHA－1	複合口縁壺	Ⅴ－1－1 細砂	20.0	7.8		口縁は大きく外反し、外面の稜や内面の段の表現も大ぶりである	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：タテハケ 頸肩部内面：指ナデ	外面：暗褐色 内面：暗灰褐色 断面：暗褐灰色	口頸部1/5	4世紀末～5世紀前半
－29	IHD－1	複合口縁壺	Ⅴ－4－1 砂レキE	18.4	5.1		口縁外面に僅かに稜状の屈曲を持たせる。端部は広い平坦面を持ち外側に肥厚	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ	全面：白褐色	口頸部1/6	5世紀初頭～前半
－30	IGL－1	複合口縁壺	Ⅴ－4－2 砂レキF	**15.3**	4.7		緩い複合口縁の外面に斜位のハケを施した後、中央をヨコナデして凹線状にする	良好	やや密（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	外面：ヨコナデ。口縁外面は加飾的な斜行ハケ 内面：ヨコナデ	表面：淡褐色 断面：淡灰色	口頸部1/2	5世紀初頭～前半
－31	IHE－2	直口壺	Ⅴ－4－2 砂レキF	21.2	7.0		口縁部は大きく外傾し、端部には僅かに面を持つ	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 頸部内面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外・断面：淡褐色 内面：白褐色	口頸部1/10	5世紀初頭～前半
－32	IHE－1	直口壺	Ⅴ－4－2 砂レキF		10.6		口縁は外傾・外反しながら端部に向かう	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：ナデ 頸部内面：ナデ。指頭圧痕 胴部内面：下がった位置から横ケズリ	表面：淡灰褐色 断面：暗灰褐色	頸部1/5	4世紀後半～5世紀初頭 頸径15.1㎝
74図－1	IFD－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 暗灰砂	15.1	9.0		口縁部は僅かに内彎し、端部は外側に肥厚する	良好堅緻	やや粗（3㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁外面：ヨコナデ 肩部外面：5条/㎝のタテハケ 口縁内面：5条/㎝のヨコハケ 頸部内面：ナデ 胴部内面：下がった位置から横ケズリ	外・断面：淡褐色 内面：暗褐色	上半部1/3	4世紀末～5世紀前半 外面全体に煤付着
－2	IFI－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	14.4	3.7		口縁部は緩やかに外反し、端部に水平面を持つ	良好	普通（1㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁外面：4条/㎝のタテハケ後、ナデ 口縁内面：4条/㎝のヨコハケ後、ナデ	表面：黒褐色 断面：濃灰色	口縁部1/5	5世紀初頭～前半
－3	IFL－1	単純口縁甕	Ⅴ－1－2 砂レキ	19.6	3.9		口縁は大きく外傾し、端部を小さく内側に折り返す	良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部外面：ヨコナデ 口縁部内面：6条/㎝のヨコハケ 肩部内面：横位のヘラケズリ	表面：にぶい淡褐色 断面：暗灰褐色	口縁部1/10	5世紀初頭～前半
－4	IFB－10	単純口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	23.6	6.3		口縁部は直線的に外傾し、端部には平坦面を形成する	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部外面：ヨコナデ 肩部外面：5条/㎝のタテハケ 口縁内面：5条/㎝のヨコハケ 肩部内面：下がった位置から横ケズリ	外面：淡褐色 内・断面：淡茶褐色	口頸部1/8	5世紀後半 口縁外面に煤付着
－5	IFJ－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	**14.4**	4.6		口縁部は緩やかに外反し、端部には平坦面を形成する	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：4条/㎝のタテハケ 肩部内面：横位のヘラケズリ	外面：にぶい褐色 内面：黒褐色 断面：灰褐色	口縁部1/2	5世紀初頭～前半
－6	DBZ－13	直口甕	Ⅴ－1－2 粗砂	10.6	11.2		口縁部は内彎しつつ、直上に立ち上がる	普通	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：粗いハケ調整？ 頸部内面：指ナデ 肩部内面：下がった位置から横ケズリ	外・断面：淡茶褐色 内面：暗褐色	上半部1/4	5世紀後半
－7	IFM－1	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	24.4	3.8		口縁部は外反し、端部はさらに大きく外側に折り返す	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：灰褐色 内・断面：淡灰褐色	口縁部1/10	5世紀後半
－8	IFE－55	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	**16.9**	17.0		口縁部は直線的に外傾し、端部は僅かに外側に肥厚している	良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：2条/㎝のタテ・斜行ハケ 胴部内面：上半は横位のヘラケズリ下半は指オサエ	外面：淡褐色 内面：暗灰褐色 断面：暗灰色	上半部1/2	5世紀後半 外面には煤が厚く付着
－9	IFE－1	直口甕	Ⅴ－1－3 砂レキA	8.4	9.5		口縁は僅かに外反しながら直立する	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：ナデ 胴部内面：斜め下方にケズリ下げ	表面：淡橙褐色 断面：淡茶褐色	上半部1/3	5世紀後半
－10	IFE－5	単純口縁甕	Ⅴ－4－1 砂レキC	12.4	7.4		口縁は短く外反する	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：8条/㎝のヨコハケ 肩部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡褐色 断面：淡灰色	上半部1/5	5世紀後半

第102表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（11）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
74図－11	IFF－1	単純口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	18.3	12.2		口縁部は緩やかに外傾・外反する	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：３条/㎝のタテハケ 肩部内面：横位のヘラケズリ	外・断面：明褐色 内面：淡褐色	上半部1/3	5世紀後半～6世紀初頭 外面全体に煤付着
－12	IFF－12	単純口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキD	16.5	7.1		口縁部は大きく外反し、端部には沈線を施す	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：4条/㎝のヨコハケ後、ナデ 頸部内面：指オサエ 胴部内面：下がった位置から横ケズリ	外面：淡褐色 内面：暗褐灰色 断面：暗桃褐色	上半部1/4	5世紀後半～6世紀初頭
－13	IFF－3	直口甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	10.6	8.7		口縁部は僅かに外傾し、長く伸びる	良好	密（１㎜以下の石英・長石・赤色粒等を含む）	口縁・肩部外面：5条/㎝のタテハケ 胴部外面：ヨコハケ 口縁内面：ヨコハケ 胴部内面：下がった位置から横ケズリ	口縁外面：淡褐色 胴部外面：黒褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡灰褐色	上半部1/3	5世紀後半～6世紀初頭 胴部外面に煤付着
－14	IFG－1	単純口縁甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	18.8	12.5		口縁部は緩やかに外反し、端部は内側に肥厚する。頸部にヘラ描き沈線がめぐる	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：８条/㎝のタテハケ 胴部内面：斜め上方へのケズリ上げ	全面：淡灰褐色	上半部1/8	5世紀後半～6世紀初頭
－15	IFG－2	単純口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	18.1	12.9		口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める	良好	やや粗（１㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：6条/㎝のタテ・斜行ハケ 頸部内面：４条/㎝のヨコハケ後、一部横位のヘラケズリ	外面：淡褐色 内面：淡黄褐色 断面：淡褐灰色	上半部1/4	5世紀末～6世紀初頭
－16	IFG－17	単純口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	**15.5**	10.4		口縁部は直線的に外傾するが、外面には複合口縁の名残の稜痕跡がある	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・金雲母等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：７条/㎝のタテハケ後、一部ヨコハケ 肩部内面：横位のヘラケズリ	外面：灰褐色 内・断面：淡褐色	上半部4/5	5世紀中頃～後半
－17	IFH－2	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキE	14.9	9.6		口縁部は直線的に外傾するが、外面には複合口縁の名残の稜痕跡がある	良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁外面：ヨコナデ 肩部外面：４条/㎝の斜行ハケ 口縁内面：４条/㎝のヨコハケ 胴部内面：下がった位置から横ケズリ	外面：淡褐色 内・断面：暗褐色	上半部1/4	5世紀中頃～後半 外面全体に煤付着
－18	IFH－1	単純口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキE	18.2	15.3		口縁部は緩やかに外反するやや器壁が厚い	良好	普通（２㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：5条/㎝のタテ・斜行ハケ 頸部内面：ナデ 胴部内面：上方へのケズリ上げ	外・断面：白褐色 内面：にぶい淡褐色	上半部1/3	5世紀末～6世紀初頭 外面には煤が付着
－19	EAB－1	単純口縁甕	Ⅴ－2－2 SR01	15.6	9.5		口縁部は大きく外反する 肩部の張りが弱い	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：５条/㎝のタテハケ 胴部内面：斜め上方へのケズリ上げ	表面：淡灰褐色 断面：淡茶褐色	上半部1/3	6世紀前半
－20	IFW－3	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF		8.8		短胴の小型甕	やや良好	普通（１㎜以下の石英・長石等を含む）	肩部外面：ナデ？ 胴部下位：5条/㎝のタテ・斜行ハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡灰褐色	胴部2/3	5世紀前半～中頃 胴径11.5㎝
－21	IFZ－211	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF		5.8		短胴の小型甕	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石等を僅かに含む）	肩部外面：ナデ 胴部外面：斜行ハケ後、ナデ 胴部内面：上半は指オサエ。下半は横位のヘラケズリ	表面：淡灰褐色 断面：にぶい褐色	胴部上半のみ	5世紀後半 頸径8.3㎝。胴径14.5㎝
－22	IFY－116	単純口縁甕	Ⅴ－4－2 砂レキF		11.5		短胴の小型甕	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	肩部外面：６条/㎝のヨコハケ 胴部外面：６条/㎝の斜行ハケ 胴部内面：上半は指オサエ。下半は横位のヘラケズリ	外・断面：灰褐色 内面：淡茶褐色	胴部上半約3/4	5世紀前半～中頃 外面には煤が付着 頸径8.1㎝。胴径17.6㎝
－23	IFX－1	単純口縁甕	Ⅴ－1－3 砂レキD		5.4		短胴の小型甕	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	頸部外面：ヨコナデ 肩部外面：４条/㎝のタテハケ 頸部内面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡灰褐色 断面：にぶい褐色	胴部上半1/3	5世紀前半～中頃 頸径7.8㎝
75図－１	IBK－2	高杯	Ⅴ－4－1 砂レキC	**13.6**	4.8		杯部には明確な稜を持たない。杯底部は刺突痕を持つ円盤充填	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等を多く含む）	外面：磨滅のため調整不明 口縁内面：丁寧なヘラミガキ 杯部底面：渦巻き状のヘラミガキ	表面：淡橙褐色 断面：淡灰色	杯部1/2	4世紀後半～5世紀前半 （松山氏・接続法α）
－２	IBG－1	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF		2.3		杯底部は刺突痕を持つ円盤充填。内外面ともに赤彩	やや良好	密（１㎜以下の石英・長石等を含む）	杯底部：４条/㎝の放射状ハケ 外面：５条/㎝の放射状ハケ	表面：淡褐色 断面：灰白色	杯底部のみ	5世紀前半 外面には煤状の付着物 （松山氏・接続法〔β〕）

第103表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（12）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
75図－3	IBH－1	高杯	Ⅴ－1－2 砂レキ3		9.4	14.3	脚端部には面を持つ。器壁はやや厚いが丁寧な作り 杯底部に刺突痕を持つ円盤充填	やや良好	密（1㎜以下の赤色粒・長石を含む）	杯部外面：5条/㎝の放射状ハケ 脚筒部外面：丁寧な縦位のナデ 脚端部：ナデ 脚部内面：ヨコナデ	外面：淡褐色 内面：淡橙褐色 断面：淡灰褐色	脚部1/3	5世紀前半 （松山氏・接続法〔β〕）
－4	IBI－2	高杯	Ⅴ－1－3 砂レキC		2.2		杯部には明確な稜を持たない。杯底部の刺突痕を持つ円盤充填は内側からも押圧	良好堅緻	密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	杯部外面：横位の細いヘラミガキ 杯部内面：放射状のヘラミガキ	表面：明褐色 断面：淡褐色	杯底部のみ	4世紀末～5世紀前半 （松山氏・接続法〔β〕）
－5	IBM－1	高杯	Ⅴ－4－1 砂レキD		2.1		杯底部に刺突痕を持つ円盤充填。杯部に稜を持つ	良好	密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒を僅かに含む）	外面：ナデ 杯部内面：放射状のヘラミガキ	外面：暗褐色 内面：淡橙褐色 断面：淡褐色	杯底部のみ	4世紀末～5世紀前半 （松山氏・接続法〔β〕）
－6	IBP－1	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF		10.1	12.4	脚端部には面を持つ。器壁は厚いが丁寧な作り。	やや良好	やや粗（4㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	筒部外面：ナデ 脚端部外面：6条/㎝の斜行ハケ 脚端部内面：ヨコナデ 筒部内面：ヘラナデ	全面：淡橙褐色	脚部2/3	4世紀末～5世紀前半 （松山氏・接続法〔β〕）
－7	IBA－1	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	16.3	5.6		杯部には稜を持ち、口縁部は外傾して直線的に伸びる	やや不良	密（0.5㎜以下の石英・長石・赤色粒黒色粒を含む）	口縁部外面：ヨコナデ 杯底部外面：ナデ 杯部内面：放射状ミガキ後、斜行する放射状ミガキ	表面：濃橙褐色 断面：暗赤褐色	杯部1/4	5世紀前半 （松山氏・接続法β）
－8	IBJ－1	高杯	Ⅴ－1－3 砂レキD		6.5	**9.2**	杯底部は刺突の無い円盤充填	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	脚部外面：タテハケ 脚端部：ヨコナデ 脚部内面：ナデ	表面：淡黄褐色 断面：褐灰色	脚部2/3	5世紀前半 （松山氏・接続法β）
－9	IBB－3	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	**14.8**	**12.9**	**10.9**	杯部は明確な稜を持たず、緩やかに外反する。脚端の広がりも緩やか	良好堅緻	密（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	杯部外面：4条/㎝のタテハケ 杯部内面：丁寧な指ナデ 脚部外面：丁寧なナデ 脚部内面：下半は横位のヘラケズリ。上半は絞り痕が残る	表面：白褐色 断面：灰白色	杯部1/2は欠損	4世紀末～5世紀前半 （松山氏・接続法β）
－10	IBD－1	高杯	Ⅴ－1－2 砂レキ3	17.4	5.7		杯部は斜め下方に突出する稜を持つ。口縁部は緩やかに外反する	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を多く含む）	口縁部外面：ヨコナデ 杯底部外面：渦巻き状のナデ 杯部内面：磨滅のため調整不明	全面：淡赤褐色	杯部1/3	5世紀前半 （松山氏・接続法β）
－11	IBF－1	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF		8.1	**14.0**	脚部は中位で屈曲して、外側に大きく開く。外面には赤彩を施す	やや良好	やや密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	杯部内面：ヨコナデ 脚筒部外面：5条/㎝のタテハケ 脚端部：ナデ 脚筒部内面：絞り痕を残す	脚部：明淡橙褐色 杯部内面：白褐色 断面：淡褐色	脚部のみ	5世紀前半 （松山氏・接続法β）
－12	IBD－3	高杯	Ⅴ－1－3 砂レキE	**16.4**	6.3		杯部は痕跡的な稜を持ち、口縁部は内彎気味に立ち上がり、端部付近で外反する	普通	密（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	表面：淡橙褐色 断面：淡茶褐色	杯部のみ	5世紀前半 （松山氏・接続法β）
－13	IBQ－1	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF		7.2	**11.7**	脚筒部に3カ所の透孔を持つ	やや良好	密（1㎜以下の石英・長石を含む）	脚筒部外面：上半は縦位のヘラミガキ下半はタテハケ 脚端部：ヨコナデ 脚部内面：横位のヘラケズリ	表面：にぶい褐色 断面：淡褐色	脚部のみ	5世紀前半 （松山氏・接続法β）
－14	IBB－2	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	13.9	**11.3**	**10.2**	杯部は稜を持たず、基部から直線的に外傾する。全体に丁寧な作り	良好	やや密（4㎜以下の石英・長石を含む）	杯部・脚上部外面：横位のヘラミガキ 脚筒部下半外面：縦位のヘラミガキ 脚筒部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡褐色	杯部1/10 脚端部1/2	4世紀末～5世紀前半 畿内系
－15	IBL－11	高杯	Ⅴ－4－2 暗褐色 粘質土	16.3	**12.9**	9.6	杯部に3条の櫛描き沈線を施して稜を表現する。口縁部は緩やかに内彎する。脚端部の開きは弱い	良好	密（3㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	杯部外面：ヨコナデ後、7条/㎝のタテハケ 杯部内面：口縁はヨコナデ。底面は放射状の指ナデ 脚筒部外面：縦位のヘラミガキ。端部は縦位のナデ 脚部内面：放射状ハケ後、指ナデ	表面：淡明橙褐色 断面：淡褐色	全体の1/3	5世紀中頃～後半 （松山氏・接続法γ）
－16	IBL－1	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	**16.8**	**12.1**	**9.6**	杯部は椀形を呈す	やや良好	密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	杯部内外面：ヨコナデ 杯基部外面：5条/㎝の放射状ハケ 脚筒部外面：縦位のヘラミガキ 脚端部：ナデ 脚筒部内面：絞り痕を残す	表面：淡橙褐色	杯部1/2欠損	5世紀中頃～後半 （松山氏・接続法γ）

第104表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（13）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
75図－17	IBL－9	高杯	Ⅴ－1－3 砂レキE	**13.3**	6.4		杯部は椀形を呈し、口縁端部は、オーバーハング気味に内彎する	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	全面：暗橙褐色	杯部1/2	5世紀中頃～後半 （松山氏・接続法γ）
－18	IBL－8	高杯	Ⅴ－1－3 砂レキD	**14.8**	5.8		杯部は椀形を呈す	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・赤色粒を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	表面：淡灰褐色 断面：淡褐灰色	杯部のみ	5世紀中頃～後半
－19	IBL－6	高杯	Ⅴ－4－2 暗灰粘	**14.2**	6.1		杯部は椀形を呈す	良好	密（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ 杯基部外面：6条/㎝の放射状ハケ	外面：淡灰褐色 内・断面：淡褐色	杯部4/5	5世紀中頃～後半 （松山氏・接続法γ）
－20	ICA－2	高杯	Ⅴ－4－1 砂レキD	**16.0**	6.1		杯部は椀形を呈すが、口縁端部は僅かに外反する	やや良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒等を含む）	外面：剥離のため調整不明 内面：ヨコナデ	全面：淡橙褐色	杯部1/2	5世紀中頃～後半
－21	IBD－2	高杯	Ⅴ－1－2 砂レキ3	14.6	7.3		杯部にはにぶい稜を持ち、口縁は外傾して直線的に伸びる	やや不良	やや粗（1㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒をやや多く含む）	口縁外面：粗いヨコナデ 口縁内面：粗い不定方向ナデ 杯底部外面：不定方向ナデ	表面：淡褐色 断面：淡褐灰色	杯部1/3	5世紀後半
－22	IBL－3	高杯	Ⅴ－1－3 砂レキC	**15.6**	7.1		杯部に2条の沈線を施して稜を表現する。口縁端部は僅かに外反する	やや不良	密（砂粒をほとんど含まない）	外面：磨滅のため調整不明 内面底部：6条/㎝の放射状ハケ	外面：淡褐色 内・断面：淡赤褐色	杯部1/2	5世紀後半～6世紀初頭
－23	IBY－1	高杯	Ⅴ－1－3 砂レキD	21.7	6.6		杯部には痕跡的な稜を設け口縁は緩やかに外反する	やや良好	密（1㎜以下の長石等を僅かに含む）	外面：磨滅のため調整不明 内面：ヨコハケ後、放射状のヘラミガキ	外面：淡灰褐色 内面：灰褐色 断面：橙褐色	杯部1/8	5世紀中頃～後半
－24	IBW－3	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	20.8	6.6		杯部には痕跡的な稜を設け口縁は内彎気味に伸び、端で僅かに外反する	良好	密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒・金雲母を含む）	外面：ナデ 口縁部：ヨコナデ 杯部内面：5条/㎝の斜行ハケ	外面：淡褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡灰色	杯部1/3	5世紀中頃～後半
－25	ICC－1	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキE	22.0	6.4		杯部には痕跡的な稜を設け口縁は緩やかに外反しながら伸びる	良好	密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：7条/㎝の斜行ハケ 内面：粗いヨコナデ後、放射状ヘラミガキ	外面：暗茶褐色 内面：淡褐色 断面：淡灰色	杯部1/6	5世紀中頃～後半
－26	ICF－2	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	23.6	7.2		杯部口縁は僅かに内彎しながら伸びるが、端部では外反する。杯部は深い	良好堅緻	密（2㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	外面：4条/㎝の斜行ハケ後、ナデ 内面：4条/㎝の斜行ハケ後、ナデ	外・断面：淡橙褐色 内面：明褐色	杯部1/4	5世紀中頃～後半
－27	ICC－d－1	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF		4.2		稜部にはしっかりとしたアクセントを持つ	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁外面：ナデ後、斜格子状のミガキ 杯底部：外面ナデ 杯部内面：多重放射状ヘラミガキ	外面：淡灰褐色 内面：淡褐灰色 断面：淡褐色	杯部1/4	5世紀中頃～後半
－28	ICD－3	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	16.8	4.0		杯部の稜は小さいが横方向に突出。口縁は緩やかに外反する。杯部は浅い	やや良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：桃褐色 内面：暗灰褐色 断面：淡褐色	杯部1/5	5世紀中頃～後半
－29	IBW－2	高杯	Ⅴ－4－1 砂レキE	16.4	5.6		杯部の稜は凹線により表現口縁部は緩やかに外反する	普通	密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部外面：ヨコナデ 杯底部外面：ナデ 口縁部内面：斜行放射状のミガキ 杯底部内面：螺旋放射状のミガキ	外面：白褐色 内面：黒褐色 断面：淡褐色	杯部1/4	5世紀中頃～後半
－30	ICE－1	高杯	Ⅴ－4－2	**18.4**	4.1		杯部の稜は斜め下方に短く突出する。口縁は緩やかに外反する。杯部は浅い	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石・黒色粒・金雲母を多く含む）	外面：ヨコナデ 内面：渦巻き状のハケ調整後、放射状のヘラミガキ	外・断面：淡褐色 内面：白褐色	杯部のみ	5世紀中頃～後半
－31	ICE－2	高杯	Ⅴ－1－3 砂レキD	22.2	4.8		杯部は浅く、口縁は大きく開いて外反する	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒をやや多く含む）	口縁部：磨滅のため判然としないがヨコナデか 杯底部外面：4条/㎝の放射状ハケ	表面：褐灰色 断面：淡褐色	杯部1/3	5世紀中頃～後半
76図－1	ICA－1	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	14.5	5.5		杯部に稜は設けられない。口縁は直線的に外傾し、端部は丸く収める	良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	外面：放射状ヘラミガキ 杯部内面：口縁付近は横位のミガキ、下半は放射状ミガキ	外・断面：白褐色 内面：淡灰褐色	杯部2/5	5世紀前半
－2	IBX－2	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	16.9	4.5		杯部は浅い皿状を呈す	やや良好	密（0.5㎜以下の金雲母・赤色粒・石英・長石を含む）	外面：ヨコナデ 内面：5条/㎝の渦巻き状斜行ハケ後放射状のタテヘラミガキ	外面：淡橙褐色 内面：にぶい褐色	杯部1/4	5世紀前半
－3	IBX－1	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキF	18.6	6.3		杯部には痕跡的な稜が表現され、口縁は緩やかに内彎しながら立ち上がる	普通	やや密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：斜行ヘラミガキ 杯底部外面：ナデ 内面：平滑になっているが調整不明	外面：淡橙褐色 内面：淡茶褐色 断面：淡褐色	杯部2/5	5世紀中頃～後半

第105表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（14）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
76図－4	ICJ－1	高杯	V－1－2	18.7	4.1		口縁部は僅かに内彎しなが	良好	密（0.5㎜以下の長石・赤色粒・雲母を僅かに含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ	全面：淡赤褐色	口縁部1/8	5世紀中～後半
－5	ICH－2	高杯	V－1－2 砂レキ3	19.2	4.1		杯部は僅かに内彎するが、口縁端部は若干外反する	良好	密（1㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコハケ後、ヨコナデ	表面：淡褐色 断面：淡灰褐色	口縁部1/8	5世紀中～後半
－6	ICB－2	高杯	V－4－2 SX01	18.6	5.8		杯部は稜を持たず、口縁は外傾して直線的に伸びる	良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石を含む）	外面：7条/㎝のタテハケ後、ヨコナデ 内面：鉄分の付着のため調整不明	外面：明褐色 断面：淡褐色	杯部1/2	4世紀末～5世紀前半
－7	ICG－2	高杯	V－4－2 砂レキF	15.1	4.0		杯部は浅く、皿形を呈す	やや良好	密（1㎜以下の石英・長石・金雲母を含む）	外面：ナデ 内面：ナデ	外面：黒褐色 内面：暗茶褐色 断面：暗褐色	杯部1/5	5世紀中～後半
－8	ICG－1	高杯	V－4－2 砂レキF	16.4	5.5		杯部は椀形を呈す	良好	緻密（0.5㎜以下の石英・長石等を僅かに含む）	口縁外面：ヨコナデ 杯部外面：4条/㎝のタテハケ 内面：丁寧なナデ	外面：淡褐色 内面：暗褐色 断面：暗橙褐色	杯部1/4	5世紀中～後半
－9	IBR－g－1	高杯	V－1－1 表土		3.0	10.1	3箇所に透孔がある	やや不良	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	外面：ナデ 脚端部：ナデ 脚部内面：横位のヘラケズリ	外面：橙褐色 内面：茶褐色 断面：淡橙褐色	脚部1/8	5世紀中～後半
－10	IBR－g－2	高杯	V－1－3 砂レキE		2.3	10.4	3箇所に透孔がある	普通	密（1㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	外面：ナデ 内面：6条/㎝のヨコハケ。指オサエ	表面：淡褐色 断面：褐灰色	脚部1/4	5世紀中～後半
－11	IBT－14	高杯	V－1－2 砂レキ3		8.7	10.8	透孔は見られず、丁寧な形成	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：8条/㎝のタテハケ後、横方向のヘラミガキ 脚部内面：横位のヘラケズリ	外・断面：淡灰褐色 内面：淡褐色	脚部2/3	4世紀末～5世紀前半
－12	IBT－1	高杯	V－4－2 砂レキF		5.8	10.9	脚端部は大きく屈曲し、外側に開く	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒・金雲母をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 脚端部：ヨコナデ 内面：横位のヘラケズリ	表面：暗灰褐色 断面：暗褐色	脚部のみ	5世紀中～後半
－13	IBT－2	高杯	V－1－3 砂レキD		5.8	12.4	脚端部は大きく屈曲し、外側に開く	良好	密（1㎜以下の石英・長石を含む）	外面：ナデ 脚部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡褐灰色	脚部のみ	5世紀中～後半
－14	ICK－1	器台？	V－4－2 砂レキF		6.5		中空で口縁、脚部とも大きく開く	良好	密（1㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁外面：縦位のヘラミガキ 外面：縦位のナデ 内面：ナデ	全面：淡褐色	図下部分のみ	5世紀
－15	ICQ－7	小型高杯？	V－1－3 砂レキD		3.0	7.8	器壁は厚く稚拙	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石・赤色粒等をやや多く含む）	全面：指ナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：淡褐色	脚部のみ	5世紀？
－16	ICQ－2	小型高杯？	V－4－1 砂レキD		4.9	8.2	器壁は厚く稚拙。底部は僅かに上げ底となる	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	全面：ナデ	外面：橙褐色 内面：暗赤褐色 断面：淡茶褐色	脚部のみ	5世紀？
－17	IDA－3	小型丸底壺	V－4－1 砂レキC	9.0	6.4		器壁は薄い。砂粒が多く精製品ではない	普通	粗（1.5㎜以下の石英・長石を含む）	外面：磨滅のため調整不明 口縁内面：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡灰褐色 内・断面：淡褐色	約1/3	4世紀中頃
－18	IDA－1	小型丸底壺	V－1－3	8.8	7.2		器壁はやや厚いが、古態を保ったスタイル	良好	密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	外面：磨滅のため調整不明 口縁内面：放射状ハケ調整 胴部内面：横位のヘラケズリ。底部は指ナデ	全面：淡褐色	ほぼ完形	4世紀中頃
－19	IDA－2	小型丸底壺	V－1－3 砂レキD	10.4	4.7		口縁部は長く伸びる	良好	緻密（1㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ後、6条/㎝の斜行ハケ	外面：暗褐色 内面：暗橙褐色 断面：橙褐色	口縁部1/5	4世紀中頃～後半
－20	IDB－1	小型丸底壺	V－4－2 暗褐色粘	6.3	7.3		口縁は長く伸びるが、あまり開かない	普通	密（0.5㎜以下の石英・長石・雲母等を含む）	口縁部：ヨコナデ 肩部外面：斜行ハケ 胴部外面：ナデ 胴部内面：ナデ	表面：淡灰褐色 断面：黒灰色	約2/3	4世紀後半
－21	IDB－2	小型丸底壺	V－4－2 暗褐色粘	7.3	6.7		頸部の屈曲が緩く、器壁も厚い	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒等を含む）	口縁外面：ヨコナデ 胴部外面：4条/㎝の斜行ハケ 口縁内面：ヨコハケ後、ナデ 胴部内面：ナデ	表面：淡灰褐色 断面：淡茶褐色	口縁部1/2は欠損	5世紀初頭～前半
－22	IDB－3	小型丸底壺	V－4－2 砂レキF		7.1		口縁部の拡張は小さくなり胴部が大型化する	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：ナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡灰褐色 断面：淡褐灰色	上半部1/3	5世紀初頭～前半

第106表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（15）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
76図－23	IDC－1	小型丸底壺	Ⅴ－4－2 砂レキF	5.8	6.7		長胴化し、甕などの調整に近い。成形は丁寧	良好	密（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：7条/cmのタテハケ 胴部内面：指ナデ	全面：淡橙褐色	ほぼ完形	5世紀初頭～前半
－24	IDC－3	小型丸底壺	Ⅴ－1－2 砂レキ3	6.4	6.4		口縁は外反し、甕のミニチュア状となる	良好	密（1㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：ヨコハケ後、ナデ 胴部内面：下がった位置から横ケズリ	全面：灰褐色	上半部1/5	5世紀中頃～後半
－25	IDC－2	小型丸底壺	Ⅴ－4－2 暗灰 シルト	7.5	6.2		長胴化し、甕などの調整に近い。成形は丁寧	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：3条/cmのタテハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：暗灰色	上半部1/6	5世紀初頭～前半
－26	IDC－d－1	小型丸底壺	Ⅴ－4－2 暗灰粘質 シルト		5.6		頸部の屈曲は緩やかで、甕の調整に近い	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・金雲母を多く含む）	頸部：ヨコナデ 胴部外面：ハケ調整後、ナデ 胴部内面：下がった位置から横ケズリ	表面：淡茶褐色 断面：淡灰褐色	胴部1/2	5世紀中頃～後半
－27	IDC－d－2	小型丸底壺	Ⅴ－1－3 砂レキA		6.0		やや算盤玉状の形態	良好	緻密（0.5㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	胴部外面：上半はナデ。下半は平行タタキ後、ナデ 胴部内面：不規則な指ナデ	外面：淡橙褐色 内面：白褐色 断面：淡褐色	胴部1/2	5世紀初頭～前半
－28	IDD－5	小型丸底壺	Ⅴ－1－2 砂レキ	9.9	8.5		頸部はあまり締まらず、口縁は短いが大きく開く	良好	密（2㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：ハケ原体によるナデ 胴部外面：不定方向のナデ 胴部内面：中位は横位のヘラケズり。底部と頸部は指ナデ	表面：淡灰褐色 断面：明黄灰色	口縁の1/2は欠損	5世紀初頭～前半
－29	IDD－2	小型鉢	Ⅴ－4－1 砂レキE	12.8	4.8		口縁は短く外反する	良好	やや密（0.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：肩部はナデ、下半は手持ちヘラケズリ 胴部内面：ヨコナデ	外・断面：灰褐色 内面：濃褐色	上半部1/5	5世紀中頃～後半
－30	IDF－1	小型壺	Ⅴ－4－2 砂レキF		7.2		やや扁平な算盤玉状を呈す	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石を含む）	外面：肩部はヨコナデ。下半は手持ちヘラケズリ 内面：指ナデ。指オサエ	外面：暗灰色 内面：暗茶褐色 断面：淡褐色	胴部3/4	5世紀中頃～後半
－31	IDF－2	小型壺	Ⅴ－4－3 SR01 砂レキY		8.2		やや扁平気味の球胴を呈す器壁が厚くやや稚拙	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	外面：ナデ調整であるがいびつ 内面：中位は横位のヘラケズり。底部は指オサエ	外面：淡橙褐色 内面：にぶい淡褐色 断面：暗褐色	胴部1/2	5世紀中頃～後半
－32	IDE－1	小型複合口縁壺	Ⅴ－4－2 砂レキE	6.8	8.4		小型丸底壺の口縁端部を複合口縁状に作り出す	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石・黒色粒等を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：肩部はナデ、下半は手持ちヘラケズリの後、ナデ 胴部内面：不明	表面：淡褐色 断面：暗赤褐色	口縁の1/2は欠損	5世紀中頃～後半
－33	IDG－1	甕	Ⅴ－4－2 砂レキF	7.9	10.9		須恵器の甕の模倣品。口縁端部は二重口縁を意識する 外面・頸部内面に赤彩	良好	密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：ナデ 胴部内面：ナデ	全面：淡褐色 赤彩部分：暗赤褐色	ほぼ完形	5世紀後半～6世紀初頭
－34	IAC－1	椀	Ⅴ－4－2 砂レキF	17.1	5.7		口縁部は内彎する	やや良好	密（1㎜以下の赤色粒・石英・長石を含む。精製品）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：7条/cmのハケ後、ナデ 杯部内面：放射状のヘラミガキ	表面：淡橙褐色 断面：淡灰褐色	約1/4	5世紀後半
－35	IAC－2	椀	Ⅴ－1－3 砂レキE	14.4	4.6		口縁部は内彎する	普通	緻密（0.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を僅かに含む。精製品）	外面：磨滅のため調整不明 内面：ナデ	外面：暗赤褐色 内面：淡橙褐色 断面：暗桃褐色	口縁部1/6	5世紀後半
－36	IAB－6	椀	Ⅴ－4－1 砂レキE	15.3	5.8		口縁部は内彎する	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む）	口縁部：ナデ 杯部外面：手持ちヘラケズリ 胴部内面：ナデ	外・断面：淡褐色 内面：白褐色	約1/3	5世紀後半
－37	IAA－1	椀	Ⅴ－4－2 砂レキF	11.6	5.7		口縁は大きく内彎し、オーバーハングしている。端部には平坦面を持つ	良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：手持ちヘラケズリ 胴部内面：ヨコナデ	外面：淡灰褐色 内面：淡茶褐色	底部外面の器壁が剥離	5世紀後半
－38	IAB－5	椀	Ⅴ－1－3 砂レキD	12.5	6.3		口縁は内彎し、オーバーハングしている。やや尖底気味	良好	やや密（2㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：手持ちヘラケズリ 内面底部：不定方向のナデ	全面：淡橙褐色	ほぼ完形	5世紀後半
－39	IAB－2	椀	Ⅴ－4－2 砂レキE	12.2	6.0		口縁は内彎し、オーバーハングしている	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む。精製品）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：手持ちヘラケズリ 内面底部：不定方向のナデ	外面：淡橙褐色 内面：橙褐色	ほぼ完形	5世紀後半

第107表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（16）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
76図－40	IAB－1	椀	Ⅴ－4－1 砂レキD	12.1	5.7	4.1	口縁はオーバーハング気味に内彎し、底部はやや上げ底となる	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：手持ちヘラケズリ 内面：ヨコナデ	外・断面：淡褐色 内面：淡褐灰色	約1/2	5世紀後半
－41	IAB－4	椀	Ⅴ－1－3 砂レキD	13.1	4.9		口縁はオーバーハング気味に内彎する 内面には赤彩を施す	普通	やや粗（1㎜以下の石英・長石をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：手持ちヘラケズリ 内面：ヨコナデ	外面：淡茶褐色 内面：暗赤褐色 断面：淡褐色	約1/3	5世紀後半
－42	IAD－1	椀	Ⅴ－4－1 砂レキE	14.8	7.4		口縁はオーバーハング気味に内彎する。杯部は深い	普通	密（1㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 外面：ヨコナデ 内面：ナデ	外・断面：淡灰褐色 内面：淡茶褐色	約1/5	5世紀後半
－43	IAD－2	椀	Ⅴ－4－2 砂レキE	10.0	5.0		小型の椀	良好	やや密（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：指ナデ 杯部内面：ヨコナデ	外面：淡褐色 内面：明褐色	ほぼ完形	5世紀後半
－44	IAD－3	椀	Ⅴ－4－1 砂レキA	9.2	4.9		小型の椀であるが深い	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：指ナデ。指オサエ 杯部内面：ナデ	外面：褐灰色 内面：淡褐色 断面：淡褐灰色	約1/3	5世紀後半
－45	IAD－4	椀	Ⅴ－4－2 砂レキF	10.9	5.9		小型の椀であるが深い	良好	密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒・黒色粒を含む）	口縁部：ヨコナデ 杯部外面：不定方向ハケメ 杯部内面：底部は放射状ハケ。中位は不定方向ナデ	外面：明褐色 内・断面：淡茶褐色	約1/4	5世紀後半
78図－1	EAA－2	甕	Ⅴ－1－3	22.6	22.4		口縁は外反し、肩部の張りは弱くなる	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：上半は8条/cmのタテハケ。下半は斜行ハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	表面：淡褐色 断面：明褐色	胴部上半1/3	6世紀後半～末 最大径29.4cm
－2	EAA－5	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	24.0	12.3		口縁は外反し、肩部の張りはほとんどない	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：8条/cmのタテハケ 胴部内面：斜め上方へのケズリ	外面：暗褐色 内・断面：淡褐色	口縁部1/5	6世紀末～7世紀初頭 口縁部付近に煤付着
－3	EAA－10	甕	Ⅴ－1－1 南西砂レキ	17.7	3.9		口縁内面に円形刺突を施す。肩部は張らない	良好	密（1㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を僅かに含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：黒褐色 内・断面：暗茶褐色	口縁部1/6	7世紀初頭～前半 外面に煤付着
－4	EAA－1	甕	Ⅴ－1－2	20.8	20.6	25.8	口縁部は外反し、肩部はあまり張らない	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：7条/cmのタテハケ 下半は斜行ハケ 胴部内面：ケズリ上げ	外面：黒褐色 内面：暗茶褐色 断面：淡褐色	胴部上半1/3	6世紀末～7世紀初頭 外面全体に煤付着
－5	EAA－4	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	21.1	7.4		口縁は大きく外反するが肩は張らない	良好	やや粗（1.5㎜程度の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：6条/cmのタテハケ 胴部内面：斜め上方へのケズリ	外・断面：淡褐灰色 内面：明褐色	口縁部1/5	7世紀初頭～前半
－6	EAC－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキC	18.0	11.0		口縁部は外反し、肩部は張らない	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：タテハケ 胴部内面：頸部下は横位のヘラケズリ。下半は横ケズリ	外面：黒褐色 内・断面：淡褐色	上半部1/4	6世紀末～7世紀初頭
－7	EAC－2	甕	Ⅴ－1－2 暗灰粗砂	20.0	17.8		口縁部は外反し、肩部は張らない	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石・赤色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：9条/cmのタテハケ 胴部内面：ケズリ上げ	外面：白褐色 内面：暗茶褐色 断面：淡桃褐色	上半部1/5	6世紀末～7世紀初頭 外面に煤付着
－8	EAE－1	甕	Ⅴ－1－1 砂レキ2	17.5	12.9		口縁の外反は弱く、肩部も張らないため、筒状を呈す	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：ナデ？ 胴部内面：ケズリ上げ	全面：明褐色	口縁部1/5	7世紀
－9	EAE－2	甕	Ⅴ－4－1 砂レキD	21.1	7.8		口縁の外反は弱く、肩部も張らないため、筒状を呈す	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：4条/cmのタテハケ 胴部内面：ケズリ上げ	全面：にぶい褐色	口縁部1/8	7世紀
－10	EAK－1	甕	Ⅴ－1－3 砂レキA		10.4		下膨れ状の底部	良好	普通（2㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	胴部外面：5条/cmのタテハケ 胴部内面：上半は6条/cmのタテハケ。下半は横位のケズリ	外・断面：淡褐色 内面：淡茶褐色	胴部下半1/4	7世紀～8世紀 胴径14.5cm

第108表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（17）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
78図－11	EAD－1	甕	Ⅴ－1－2 砂レキ3	30.4	5.8		口縁は大きく外反するが肩部は張らない	良好	やや粗（1㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：6条/cmのタテハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	全面：淡褐色	口縁部1/10	8世紀前後？
－12	EAF－1	甕	Ⅴ－1－1	30.4	6.0		口縁は緩やかに外反し、端部は上方に肥厚させる 頸部の屈曲は鋭い	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：5条/cmのタテハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡橙褐色 内面：淡灰褐色 断面：灰褐色	口縁部1/5	8世紀～9世紀
－13	EAG－1	甕	Ⅴ－4－1 砂レキB	28.1	8.3		口縁は緩やかに外反し、端部は丸く収める。頸部の屈曲は明瞭	良好	粗（3㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：5条/cmの斜行ハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：淡黄褐色 内・断面：淡褐灰色	口縁部1/5	8世紀
－14	EAJ－1	甕	Ⅴ－1－1 南砂レキ	32.4	8.0		口縁は直線的に外傾し、端部は丸く納める肩部は張らない。器壁がやや厚い	良好	やや粗（1.5㎜程度の石英・長石・雲母を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：5条/cmの斜行ハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ後、ナデ	外面：黒色 内面：淡茶褐色 断面：褐灰色	口縁部1/5	9世紀？
－15	EAF－2	甕	Ⅴ－1－2 暗灰粘	33.7	6.2		口縁は緩やかに外反し、端部は僅かに上方に肥厚させる。頸部の屈曲は鋭い	良好	やや粗（3㎜程度の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：タテハケ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：橙褐色 内面：明黄褐色 断面：淡灰色・淡赤褐色	口縁部1/8	8世紀～9世紀
－16	EAL－1	甕	Ⅴ－4－3 砂レキB	28.9	2.8		口縁部は内彎し、端部には面を持つ	良好	緻密（0.5㎜以下の石英・長石等を僅かに含む）	口縁外面：5条/cmのタテハケ 口縁内面：ヨコナデ 頸部内面：ヨコハケ	外面：黒褐色 内面：暗茶褐色 断面：暗灰色	口縁部1/10	9世紀？
77図－1	EBB－1	甑	Ⅴ－4－2 砂レキE	25.8	9.3		牛角状の把手を内側から差し込んでいる	良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁外面：ヨコナデ 胴部外面：6条/cmのタテハケ	外面：淡灰褐色 内面：暗灰褐色 断面：灰褐色	口縁部1/5	6世紀
－2	EBC－1	甑	Ⅴ－4－1 砂レキB		10.3		牛角状の把手を内側から差し込んでいる	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒をやや多く含む）	胴部外面：8条/cmのタテハケ 胴部内面：ケズリ上げ	外・断面：白褐色 内面：淡褐色	把手付近1/5	6世紀
－3	EBC－4	甑	Ⅴ－4－2		6.1		内部が中空となる	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	外面：4条/cmのハケ調整後、ナデ	全面：淡褐色	把手のみ	5世紀末～6世紀
－4	EBF－1	甑	Ⅴ－4－1 砂レキD		3.7		底部が多孔となる	やや良好	やや粗（2㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ナデ 胴部内面：ケズリ上げ	外面：淡灰褐色 内面：灰褐色 断面：淡褐色	底部1/5	5世紀末～6世紀
－5	EBE－1	甑	Ⅴ－4－1 砂レキE		7.4	9.5	底部には一本の桟がわたる	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	狭口縁部：ヨコナデ 外面：4条/cmのタテハケ 胴部内面：ケズリ上げ	全面：淡灰褐色	底部1/6	6世紀前半～中頃
－6	EBD－1	甑	Ⅴ－4－2 砂レキE		11.0	11.0	狭口縁部は筒抜けとなり、と胴部中位が膨らむ	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	狭口縁部：ヨコナデ 胴部外面：5条/cmのタテハケ 胴部内面：斜め下方へケズリ下げ	全面：淡褐色	底部1/3	6世紀後～7世紀
－7	EBD－3	甑	Ⅴ－1－3 砂レキD		5.1	5.6	狭口縁部から胴部にかけて急速に膨らむ	良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石等を多く含む）	狭口縁部：ヨコナデ 胴部外面：タテハケ 胴部内面：ケズリ上げ	表面：淡茶褐色 断面：淡灰褐色	底部1/6	6世紀後～7世紀
－8	EBA－1	移動式竈	Ⅴ－4－1 砂レキB	27.0	15.4		付け底部分は剥離している。口縁部は緩やかに外反する	やや良好	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：5条/cmのタテハケ 胴部内面：緩いヨコナデ	外面：淡黄褐色 内面：淡灰褐色 断面：暗灰色	廂右上部分	7世紀
－9	IEB－1	無頸壺	Ⅴ－4－2 砂レキF	11.0	4.2		口縁は内彎し、オーバーハングする	良好	密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：指ナデ 内面：指ナデ	外面：淡灰褐色 内・断面：淡灰色	口縁部1/4	5世紀～6世紀
－10	IIJ－2	鉢	Ⅴ－4－3 砂レキB	10.6	4.2		口縁は直立し、深い粘土の継ぎ目が見え、調整は粗い	良好	やや密（1㎜以下の石英・長石等を含む）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：濃灰色 内面：褐灰色 断面：淡灰色	口縁部1/4	5世紀～6世紀
－11	IIH－1	小型鉢	Ⅴ－4－1 砂レキD	11.5	4.5		器壁の凹凸があり、粗い調整	良好	やや粗（3㎜以下の石英・長石を含む）	外面：指ナデ 内面：指ナデ	全面：淡茶褐色・黒褐色	約1/6	5世紀～6世紀
－12	IIE－3	鉢	Ⅴ－1－1 南砂レキ	15.7	3.7		口縁は直線的に伸びる	やや不良	やや粗（2㎜以下の石英・長石・黒色粒等をやや多く含む）	外面：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラケズリ	外面：暗灰褐色 内・断面：にぶい淡褐色	口縁部1/7	5世紀～6世紀
－13	IEA－1	鉢	Ⅴ－1－1	11.5	6.6		口縁はやや内彎する	普通	やや粗（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒等をやや多く含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：ナデ 胴部内面：斜め上方へのケズリ	外面：淡灰褐色 内・断面：にぶい淡褐色	約1/4	5世紀～6世紀

第109表・西川津遺跡Ⅴ区出土・古墳時代土師器観察表（18）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm）			形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
				口径	器高	底径							
77図－14	III－1	無頸壺	Ⅴ－4－3 砂レキA	21.8	9.8		口縁は内傾して、オーバーハングする。器壁は厚い	やや良好	やや密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒等を含む）	口縁部：ヨコナデ 胴部外面：ヨコナデ 胴部内面：横位のヘラミガキ	外・断面：淡褐色 内面：明褐色	上半部1/7	
－15	YHF－1	手捏ね土器	Ⅴ－1－3 砂レキD	5.2	2.9		鉢状を呈す	良好	普通（1㎜以下の石英・長石を含む）	全面：指ナデ	表面：暗橙褐色	完形	5世紀～6世紀
－16	IIC－1	小型壺	Ⅴ－4－1 砂レキC		5.1	7.1	底部は若干上げ底となる器壁は厚い	良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石・金雲母等をやや多く含む）	外面：指ナデ。ハケナデ 内面：粗い指ナデ	全面：淡灰褐色	頸部以下	5世紀～6世紀
－17	IIG－2	台付甕？	Ⅴ－4－2 砂レキF		1.8		器壁は薄い	良好	普通（1.5㎜以下の石英・長石を含む）	胴部外面：細かい横位のミガキ 脚部外面：ヨコナデ 胴部内面：ヘラケズリ	外面：黒褐色 内面：淡灰褐色 断面：暗灰褐色	底部1/3	5世紀～6世紀
－18	IIA－1	韓式土器	Ⅴ－1－3 砂レキD		4.6		外面に格子目状のタタキを施す	普通	普通（1.5㎜以下の石英・長石・赤色粒等をやや多く含む）	外面：格子目状タタキ 内面：ナデ	外面：にぶい橙褐色 内面：橙褐色 断面：濃橙褐色	胴部片のみ	5世紀後半
－19	IID－1	甑の把手	Ⅴ－1－1 北砂レキ		9.4		円形の粘土塊状で重量がある。調整は丁寧。本体には貼り付けて接合	やや良好	普通（3㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む）	全面：指ナデ	表面：橙褐色 断面：暗褐灰色	把手のみ	5世紀～6世紀
－20	IIB－1	円筒埴輪	Ⅴ－4－1 噴砂付近		10.7		円形透孔が確認されるため2段目の可能性が強い	やや良好	やや粗（4㎜以下の石英・長石・黒色粒・赤色粒を含む）	外面：斜行する指ナデ 内面：指オサエによる指頭圧痕	全面：淡褐色	2段目約1/4	5世紀末～6世紀 Ⅴ期

第110表・西川津遺跡Ⅴ区出土・須恵器観察表（1）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
79図－1	FB－9	杯蓋	Ⅴ－1－3 砂レキD	**12.1**	**4.6**		稜は横方向に突出し、口縁端部には段を設ける	良好	密（1㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	天井部：2/3は回転ヘラケズリ 口縁部：回転ヨコナデ 天井部内面：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：暗灰色 内面：灰色 断面：明灰色	ほぼ完形	出雲大谷2期 MT－15
－2	FB－5	杯蓋	Ⅴ－1－3 砂レキA	12.4	3.3		稜は横方向に突出し、口縁端部には段を設ける。器壁が薄くシャープ	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：回転ヨコナデ	全面：淡灰色	約1/8	出雲大谷1期 TK－47
－3	FB－7	杯蓋	Ⅴ－1－3 砂レキD	11.7	4.0		稜は横方向に突出し、口縁端部には段を設ける。器壁が薄くシャープ	良好堅緻	緻密（0.5㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	口縁部：回転ヨコナデ	外面：黒褐色 内面：暗紫灰色 断面：淡灰色	口縁部 約1/10	出雲大谷2期 MT－15
－4	FB－3	杯蓋	Ⅴ－1－3 砂レキD		4.4		稜の突出は大きいが、シャープではない	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	天井部：1/2は回転ヘラケズリ 口縁部：回転ヨコナデ	外面：淡褐灰色 内・断面：淡灰色	天井部 約1/4	出雲大谷2期 MT15～TK10
－5	FB－1	杯蓋	Ⅴ－4－1 砂レキD	12.8	4.6		稜はあまり突出せず、口縁端部には段を作り出す。器壁は薄くシャープ	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石を含む）	天井部：2/3は回転ヘラケズリ 口縁部：回転ヨコナデ	外面：暗灰色 内面：淡灰色 断面：暗紫褐色	口縁部 約1/6	出雲大谷2期 MT－15
－6	FB－2	杯蓋	Ⅴ－1－3 砂レキD	13.0	3.7		稜は横方向に突出し、口縁端部の段も丁寧に作り出している	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：回転ヨコナデ	外面：淡灰色 内・断面：淡褐灰色	口縁部 約1/8	出雲大谷1期 TK－47
－7	FR－1	杯蓋	Ⅴ－4－1 砂レキD	13.8	4.3		稜はやや鈍くなり、口縁端部は凹面となる	良好	密（1㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	天井部：2/3は回転ヘラケズリ 口縁部：回転ヨコナデ	外面：暗灰色 内・断面：淡灰色	約1/5	出雲大谷2期 MT15～TK10
－8	FR－6	杯蓋	Ⅴ－4－2 砂レキF		3.2		稜は横方向に突出する	良好堅緻	緻密（0.5㎜以下の石英・長石を含む）	天井部：1/2は回転ヘラケズリ 口縁部：回転ヨコナデ	内面：明灰色 外面：褐灰色 断面：淡灰色	稜部 約1/8	出雲大谷2期 MT15～TK10
－9	FR－5	杯蓋	Ⅴ－4－3 砂レキB	12.7	3.1		稜はシャープさに欠けるが、口縁端部には段を作り出す	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：回転ヨコナデ	外面：淡褐灰色 内・断面：暗青灰色	口縁部 約1/10	出雲大谷2期 MT－15
－10	FR－2	杯蓋	Ⅴ－4－1 砂レキD	13.0	4.0		稜は痕跡的となり、口縁端部には沈線を施し段を表現する	良好	密（1㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：回転ヨコナデ	外・断面：淡灰色 内面：暗灰色	口縁部 約1/5	出雲大谷2期 TK10
－11	FA－3	杯身	Ⅴ－4－2 砂レキE	11.3	4.9		口縁は直立気味に立ち上がり、端部には段を設ける。器壁が薄くシャープ	良好	密（1㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：回転ヨコナデ 底部外面：2/3は回転ヘラケズリ	外面：淡灰色 内面：淡橙褐色 断面：淡橙褐色・淡灰色	約1/5	出雲大谷1期 TK－47
－12	FA－4	杯身	Ⅴ－1－2	11.4	4.3		口縁の立ち上がりは短くなるが端部の段はシャープ	良好	密（2㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	口縁部：回転ヨコナデ 底部外面：2/3は回転ヘラケズリ	外面：淡褐灰色 内面：明灰色 断面：淡灰色	約1/3	出雲大谷2期 MT－15
－13	FA－1	杯身	Ⅴ－1－3	**11.5**	**6.1**		口縁は直線的に立ち上がり、端部には浅い段を持つ。器高が高く器壁が薄い	良好	密（1㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：回転ヨコナデ 底部外面：2/3は回転ヘラケズリ	表面：明橙褐色 断面：橙褐色	ほぼ完形	出雲大谷2期 MT－15
－14	FA－6	杯身	Ⅴ－1－3 砂レキD	12.0	4.3		口縁は直線的に立ち上がり、端には段を設ける	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：回転ヨコナデ	外面：淡褐灰色 内・断面：明褐色	約1/6	出雲大谷2期 TK10
－15	FA－7	杯身	Ⅴ－1－3 砂レキD	13.8	3.3		口縁部はやや内傾気味に立ち上がり、端部には沈線状の段を施す	良好	緻密（0.5㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	口縁部：回転ヨコナデ	外・断面：淡灰色 内面：淡黄灰色	約1/8	出雲大谷2期 TK10
－16	FA－13	杯身	Ⅴ－4－3 砂レキY	11.4	4.0		口縁は直線的に立ち上がり、端には細い段を設ける	普通	密（0.5㎜以下の長石を含む）	口縁部：回転ヨコナデ	外面：淡褐白色 内面：淡灰色 断面：淡褐灰色	約1/6	出雲大谷2期 TK10
－17	FE－1	つまみ付き有蓋高杯蓋	Ⅴ－4－2 砂レキF	**13.1**	4.6		稜は鋭く横方向に突出し、口縁端部には広い段を持つ。つまみ部分は剥離	良好	密（2㎜以下の石英・長石等を含む）	口縁部：回転ヨコナデ 天井部：2/3は回転ヘラケズリ 天井部内面：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：黒褐色 内面：暗灰色 断面：黒灰色	ほぼ完形	出雲大谷1期 TK－47
－18	FF－8	有蓋高杯	Ⅴ－4－2 砂レキE	10.8	5.4		口縁部はやや内傾気味に立ち上がり、端部には平坦面を設ける。器壁が薄くシャープ	良好	密（1㎜以下の石英・長石等を僅かに含む）	口縁部：回転ヨコナデ 底部外面：2/3は回転ヘラケズリ	外面：濁灰色 内面：暗茶灰色 断面：淡褐灰色	杯部 約1/4	出雲大谷1期 TK－47
－19	FF－3	高杯	Ⅴ－1－3 砂レキD		3.7	9.1	脚端部は細くシャープに成形している。	良好	密（1㎜以下の石英・長石を含む）	脚部外面：回転カキメ 脚端部：ヨコナデ 脚部内面：回転ヨコナデ	外・断面：淡青灰色 内面：暗青灰色	脚部 約1/3	出雲大谷1期 TK－47
－20	FF－5	有蓋高杯	Ⅴ－4－1 砂レキB		3.8	10.8	脚端部は厚みがあり、やや鈍い	良好	やや密（1㎜以下の長石をやや多く含む）	脚部外面：回転カキメ 脚端部：ヨコナデ 脚部内面：回転ヨコナデ	表面：暗灰色 断面：淡灰色	脚部 約1/10	出雲大谷2期 MT－15
－21	FF－1	有蓋高杯	Ⅴ－4－2 砂レキE	10.9	**9.7**	7.8	全体的に器壁が薄くシャープ	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：回転ヨコナデ 底部外面：2/3は回転ヘラケズリ 脚部：回転ヨコナデ	全面：淡灰色	約1/3	出雲大谷1期 TK－47
－22	FF－4	有蓋高杯	Ⅴ－4－3 砂レキZ		4.8	8.8	脚端部は細くシャープに成形している	良好堅緻	密（0.5㎜以下の石英・長石を含む）	脚部外面：回転カキメ 脚端部：ヨコナデ 脚部内面：回転ヨコナデ	外面：淡灰色 内面：淡褐灰色	脚部 約1/4	出雲大谷1期 TK－47
－23	FF－2	高杯	Ⅴ－4－2 砂レキE		6.8	9.6	脚端部は細くシャープに成形している。長脚化が進む	やや不良	密（1㎜以下の石英・長石を含む）	脚部外面：回転カキメ 脚端部：ヨコナデ 脚部内面：回転ヨコナデ	外面：淡赤褐色 内面：淡褐灰色 断面：淡橙褐色	脚部 約1/3	出雲大谷2期 MT－15

第111表・西川津遺跡Ⅴ区出土・須恵器観察表（２）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
79図－24	FG－１	ｺｯﾌﾟ型碗	Ⅴ－1－1 南砂レキ		4.0		凹線文でく区画した胴部中位に波状文を施す	良好	密(0.5㎜以下の石英・長石を含む)	外面：回転ヨコナデ 内面：回転ヨコナデ	外面：暗緑灰色 内・断面：暗紫褐色	胴部 約1/６	５世紀末 最大径8.2cm
－25	HB－１	大甕	Ⅴ－1－1 砂レキ２	33.7	6.1		口縁部に竹管文、櫛状工具による刺突文、小口状原体による鋸歯文を施す	普通	密（0.5㎜以下の長石を僅かに含む）	外面：回転ヨコナデ 内面：回転ヨコナデ	外面：淡灰色 内・断面：淡黄灰色	口縁部 約1/８	出雲大谷２期
－26	FD－１	甕	Ⅴ－1－2 暗灰粗砂		2.7		二重口縁で、頸部に櫛状原体による波状文を施す	良好堅緻	緻密（0.5㎜以下の石英・長石を含む）	外面：回転ヨコナデ 内面：回転ヨコナデ	全面：淡褐灰色	頸部下位 約1/６	出雲大谷１期 TK－47
－27	FH－１	中型甕	Ⅴ－4－1		2.2		肩部が大きく張る	良好堅緻	緻密（0.5㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	外面：格子目状タタキ 内面：同心円文状オサエ後、半磨り消し	外面：暗褐灰色 内面：濃灰色 断面：淡灰色・暗紫褐色	頸部 約1/８	出雲大谷１～２期 頸径14.0cm
－28	FI－２	大甕	Ⅴ－4－3 砂レキX		6.9			良好堅緻	密（１㎜以下の石英・長石を含む）	外面：２条/cmの平行タタキ 内面：同心円文状オサエ後、半磨り消し	外面：淡灰白色 内面：濃灰色 断面：淡紫褐色	胴部破片	出雲大谷１～２期
－29	FQ－１	杯蓋	Ⅴ－1－2 砂レキ３	14.2	4.2		稜は凹線により表現され、端部には、浅い段を施す	良好	密（１㎜以下の石英・長石を含む）	天井部：2/3は回転ヘラケズリ 口縁部：回転ヨコナデ 天井部内面：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：暗灰色 内・断面：淡灰色	約４/５	出雲大谷３期 TK－43
－30	FQ－12	杯蓋	Ⅴ－4－1 砂レキB		3.2		稜は甘くなっている	良好堅緻	密(0.5㎜以下の石英・長石を含む)	天井部：2/3は回転ヘラケズリ 口縁部：回転ヨコナデ 天井部内面：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：暗灰色 内面：明灰色 断面：淡褐灰色	天井部 約1/４	出雲大谷３期 TK－43 頸径14.0cm
－31	FQ－２	杯蓋	Ⅴ－1－1 西細砂	11.5	4.2		稜は凹線によって表現し、口縁端部には、凹線を施す	良好	密（1.5㎜以下の石英・長石等を含む）	天井部：2/3は回転ヘラケズリ 口縁部：回転ヨコナデ 天井部内面：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：暗灰色 内面：明灰色 断面：暗紫褐色	約２/５	出雲大谷３期 TK－43
－32	FQ－３	杯蓋	Ⅴ－1－2 砂レキ３	13.0	3.8		稜は緩やかな凹線によって表現し、口縁端部は丸く収める	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	天井部：2/3は回転ヘラケズリ 口縁部：回転ヨコナデ	表面：暗灰褐色 断面：淡紫褐色	約１/５	出雲大谷３期 TK－43
－33	FQ－26	杯蓋	Ⅴ－1－2 粗砂	13.0	3.7		稜は消失し、肩部は丸い	良好	密(0.5㎜以下の石英・長石を含む)	口縁部：回転ヨコナデ	外面：暗灰色 内面：淡灰色 断面：淡褐灰色	口縁部 約1/７	出雲大谷４期 TK－209
－34	FQ－22	杯蓋	Ⅴ－1－1 砂レキ２	13.1	2.8		稜は消失し、肩部は丸い。口縁端部には１条の沈線を施す	良好	密（１㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	口縁部：回転ヨコナデ	外面：淡褐灰色 内面：暗褐灰色 断面：淡灰色	口縁部 約1/７	出雲大谷４期 TK－209
－35	FQ－８	杯蓋	Ⅴ－1－2 砂レキ３	11.5	3.1		大振りで甘い稜となり、口縁部は内彎する	良好	密（１㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：回転ヨコナデ	外面：黒灰色 内面：暗灰色	口縁部 約1/８	出雲大谷５期 TK－217
－36	FQ－７	杯蓋	Ⅴ－1－2 砂レキ２	12.7	2.9		２条の沈線を施して稜を表現する口縁部は内彎する	良好堅緻	緻密（0.5㎜以下の長石を僅かに含む）	口縁部：回転ヨコナデ	表面：濃灰色 断面：暗灰色	口縁部 約1/８	出雲大谷５期 TK－217
－37	FQ－６	杯蓋	Ⅴ－1－3 砂レキC	11.0	3.2		稜は比較的シャープに表現される。口縁端部は丸く収める	良好	緻密（0.5㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：回転ヨコナデ	表面：淡灰色 断面：白灰色	口縁部 約1/８	出雲大谷３～４期
－38	FQ－９	杯蓋	Ⅴ－1－3 砂レキC	10.1	4.2		肩部に１条の沈線を施して稜を表原する。口縁端部は丸く収める	良好	密(0.5㎜以下の石英・長石を含む)	天井部：1/2は回転ヘラケズリ 口縁部：回転ヨコナデ	全面：淡灰色	約１/６	出雲大谷４～５期
－39	FS－１	杯身	Ⅴ－1－2 砂レキ３	11.4	4.4		口縁部は内傾して立ち上がる	やや不良	やや粗（３㎜程度の石英・長石・黒色粒を多く含む）	口縁部：回転ヨコナデ 底部外面：2/3は回転ヘラケズリ 内面底部：ヨコナデ後、不定方向ナデ	全面：淡灰色	約２/３	出雲大谷３期 TK－43
－40	FS－７	杯身	Ⅴ－1－3	11.4	4.2		口縁部は僅かに内傾して立ち上がる	良好堅緻	密(1.5㎜以下の石英・長石を含む)	口縁部：回転ヨコナデ 底部外面：2/3は回転ヘラケズリ 内面底部：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：暗緑灰色 内面：淡青灰色 断面：暗紫褐色	約２/３	出雲大谷３期 TK－43
－41	FS－10	杯身	Ⅴ－1－3 砂レキA	13.0	3.1		口縁は短く内傾して立ち上がる	良好	密（１㎜程度の石英・長石を僅かに含む）	口縁部：回転ヨコナデ	全面：淡灰色	約1/８	出雲大谷４～５期
－42	FS－28	杯身	Ⅴ－1－3 砂レキD		4.4		杯部は深い。立ち上がり部分は欠損している	良好堅緻	緻密（１㎜以下の石英・長石を僅かに含む）	口縁部：回転ヨコナデ 底部外面：1/2は回転ヘラケズリ	外面：明褐灰色 内面：明灰色 断面：淡褐灰色	約1/４	出雲大谷４～５期 最大径14.0cm
－43	FS－３	杯身	Ⅴ－1－3 砂レキA	10.5	3.9		口縁は短く内傾して立ち上がる。底部のケズリは浅いが丁寧である	良好	緻密（0.5㎜以下の石英・長石・赤色粒を含む）	口縁部：回転ヨコナデ 底部外面：2/3は回転ヘラケズリ 内面底部：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：暗灰色 内面：暗紫灰色	完形	出雲大谷４期 TK－209
－44	FS－２	杯身	Ⅴ－1－1 砂レキ２	11.0	4.2		口縁は短く内傾して立ち上がる。底部のケズリは浅いが丁寧である	良好	密（１㎜以下の砂粒を多く含む）	口縁部：回転ヨコナデ 底部外面：1/2は回転ヘラケズリ 内面底部：ヨコナデ後、不定方向ナデ	全面：青灰色	ほぼ完形	出雲大谷４期 TK－209
－45	FS－14	杯身	Ⅴ－1－2 砂レキ２	10.1	3.6		口縁はやや直立気味に短く外反する	良好	密（１㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：回転ヨコナデ 底部外面：ヘラ起こし後、回転ヘラケズリを１周程度施す 内面底部：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：暗灰色 内面：淡褐灰色 断面：淡灰色	約１/６	出雲大谷４期 TK－209
－46	FS－６	杯身	Ⅴ－4－1 砂レキB	10.3	3.8		口縁は短く内傾して立ち上がる。底部のケズリは浅いが丁寧である	良好	密（１㎜以下の石英・長石等を多く含む）	口縁部：回転ヨコナデ 底部外面：1/2は回転ヘラケズリ 内面底部：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：暗灰色 内・断面：淡灰色	約２/３	出雲大谷４期 TK－209

第112表・西川津遺跡Ⅴ区出土・須恵器観察表（３）

挿図番号	分類番号	器種	層位	寸法（cm） 口径	器高	底径	形態文様の特徴	焼成	胎土	調整	色調	残存度	備考
79図－47	FS－４	杯身	Ⅴ－1－3 砂レキC	10.7	3.8		口縁は短く内傾して立ち上がる。底部のケズリは浅いが丁寧である	良好	密（３㎜以下の石英粒・長石をやや多く含む）	口縁部：回転ヨコナデ 底部外面：2/3は回転ヘラケズリ 内面底部：ヨコナデ後、不定方向ナデ	全面：淡褐灰色	完形	出雲大谷４期 TK－209
80図－１	FX－１	杯蓋	Ⅴ－1－2 暗灰粘	9.9	4.0		天井部は丸くなり、口縁端部は細く収める。天井部外面に「×」状ヘラ記号	良好	密（1.5㎜以下の石英・長石を少々含む）	口縁部：回転ヨコナデ 天井部外面：ヘラ起こし 天井部内面：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：淡青灰色 内面：淡褐灰色 断面：淡灰色	約７/１０	出雲大谷6期 TK217
－２	FX－２	杯蓋	Ⅴ－1－2 砂レキ３	9.2	3.2		天井部は丸くなり、口縁部は内彎する	良好	密（１㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：回転ヨコナデ 天井部外面：ヘラ起こし後、ナデ 天井部内面：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：暗灰色 内面：淡灰色	約1/5	出雲大谷6期 TK217
－３	GA－７	杯身	Ⅴ－4－1 砂レキC	8.1	2.7		口縁は短く内傾して立ち上がる	良好堅緻	緻密（0.5㎜以下の石英・長石をわずかに含む）	口縁部：回転ヨコナデ 底部外面：2/3は回転ヘラケズリ	全面：暗青灰色	口縁部 約1/5	出雲大谷6期 TK217
－４	GA－10	杯身	Ⅴ－2－2 SR01	8.3	1.5		口縁は短く内傾して立ち上がる	良好堅緻	緻密（１㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	口縁部：回転ヨコナデ	外面：黒灰色 内面：淡青灰色 断面：暗灰色	口縁部 約1/5	出雲大谷6期 TK217
－５	GA－１	杯身	Ⅴ－4－1 砂レキC	10.9	3.6		口縁は短く内傾して立ち上がる	良好	やや粗（２㎜以下の石英・長石・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：回転ヨコナデ 天井部外面：ヘラ起こし後、ナデ	外面：暗青灰色 内面：暗紫褐色	約1/5	出雲大谷５期 TK209
－６	FO－１	杯身	Ⅴ－4－1 砂レキC	10.2	3.6		口縁部は僅かに内彎する 杯G	良好	密（１㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：回転ヨコナデ 外面底部：回転ヘラケズリ 内面底部：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：黒灰色～暗灰色 内面：暗褐灰色	約1/5	出雲大谷6期 TK217
－７	FV－２	高杯	Ⅴ－1－3 砂レキC	20.2	7.6		杯部は椀形を呈す 脚部には２方向に開く透孔を持つ	良好	密（１㎜以下の石英・長石をごく僅かに含む）	口縁部：回転ヨコナデ 外面底部：回転ヘラケズリ 内面底部：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：暗灰色 内面：褐灰色 断面：淡灰色	杯部 約２/３	出雲大谷４期 TK－209
－８	FV－１	高杯	Ⅴ－1－3 砂レキC	14.6	5.3		杯部は椀形を呈す。脚部には２方向に開く透孔を持つ	良好	密（１㎜程度の石英・長石・赤色粒・黒色粒をやや多く含む）	口縁部：回転ヨコナデ 内面底部：ヨコナデ後、不定方向ナデ	表面：灰褐色 断面：淡灰色	杯部のみ	出雲大谷４～５期
－９	FV－７	高杯	Ⅴ－4－1 砂レキC		3.7	18.0	脚端部は外反してから、下方に摘み出す。脚部には千鳥状に三角形透孔を設ける	良好	密（１㎜以下の石英・長石を含む）	全面：回転ヨコナデ	表面：暗灰色 断面：淡紫灰色	脚部 約１/６	出雲大谷３期 TK－43
－10	FV－９	高杯	Ⅴ－1－2 砂レキ３		2.7	14.0	脚端部は内側に折れる	良好	密（１㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	全面：回転ヨコナデ	表面：淡灰色	脚部 約１/８	出雲大谷４期 TK－209
－11	FV－11	高杯	Ⅴ－1－2 砂レキ３		3.2	9.5	脚部には２カ所三角形の透孔を設ける	良好	密（0.5㎜以下の石英を含む）	全面：回転ヨコナデ	外面：暗褐灰色 内・断面：淡灰色	脚部 約1/5	出雲大谷４期 TK－209
－12	FV－８	高杯	Ⅴ－1－1 西細砂		2.7	9.6	脚端部は外反してから、下方に摘み出して面を持たせる	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石・黒色粒を含む）	全面：回転ヨコナデ	外面：淡灰色 内面：淡黄灰色 断面：淡灰色・暗紫褐色	脚部 約1/5	出雲大谷４期 TK－209
－13	FV－３	高杯	Ⅴ－1－2 細砂		6.0	9.2	脚部には長方形透孔を２カ所設ける	良好	密（１㎜程度の石英・長石・黒色粒・赤色粒を多く含む）	脚部：回転ヨコナデ 杯部内面：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：暗灰色 内面：明灰色 断面：暗紫褐色	脚部 約３/４	出雲大谷４期 TK－209
－14	FV－５	高杯	Ⅴ－1－2 細砂		6.9	推定 10.0	脚部には三角形透孔を２カ所設ける	良好	密（１㎜以下の石英・長石を含む）	脚部：回転ヨコナデ 杯部内面：ヨコナデ後、不定方向ナデ	外面：暗灰色 内面：淡灰色 断面：淡褐灰色	脚部 約１/２	出雲大谷４期 TK－209
－15	FP－４	直口壺	Ⅴ－4－1 砂レキD	6.1	5.6		小型品であるが作りは丁寧	良好	密（0.5mm以下の石英・長石等をわずかに含む）	口縁部：回転ヨコナデ 胴部外面：回転カキメ 胴部内面：回転ヨコナデ	全面：明灰色	約１/６	出雲大谷４～５期
－16	FP－２	直口壺	Ⅴ－1－3 砂レキC	10.9	4.1		口縁端部は細く収める	良好	密（0.5㎜以下の長石・黒色粒を僅かに含む）	口縁部：回転ヨコナデ	外面：黒灰色 内面：暗灰色 断面：暗灰色・橙褐色	口縁部 約1/５	出雲大谷４～５期
－17	FP－３	直口壺	Ⅴ－1－2 砂レキ３	推定 8.4	5.3		口縁は僅かに内彎しながら直立する	良好堅緻	密（0.5㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：回転ヨコナデ	表面：黒灰色 断面：暗灰色	口縁部 約1/３	出雲大谷４～５期
－18	FP－１	直口壺	Ⅴ－1－2 南細砂		7.0		口縁部は僅かに外傾して立ち上がる。肩部が張る	良好堅緻	密（0.5㎜以下の石英・長石を含む）	外面：回転ヨコナデ 内面：回転ヨコナデ	全面：明灰色	上半部1/4	出雲大谷４～５期 胴部最大径11.5㎝
－19	FN－１	短頸壺	Ⅴ－1－3 砂レキC		9.7		頸部が広いため肩部の張りは小さい	良好	密（１㎜以下の石英・長石等をやや多く含む）	胴部外面上半：回転ヨコナデ 胴部外面下半：回転ヘラケズリ 内面：回転ヨコナデ	外・断面：淡褐灰色 内面：淡灰色	約３/４	胴部最大径12.0㎝
－20	FN－６	短頸壺	Ⅴ－1－1 南砂レキ		2.7		口縁はやや内傾しながら立ち上がる	良好	密（0.5㎜以下の石英・長石を含む）	外面：回転ヨコナデ 内面：回転ヨコナデ	外面：暗灰色 内・断面：淡灰色	肩部の1/4	出雲大谷４～５期 胴部最大径11.8㎝
－21	FN－４	短頸壺	Ⅴ－1－1 中細砂	9.2	2.8		口縁部は短く外傾する	やや良好	密（0.5㎜以下の石英・長石を含む）	口縁部：回転ヨコナデ	表面：淡褐灰色	口縁部 約１/６	出雲大谷４～５期
－22	FN－２	短頸壺	Ⅴ－1－2 暗灰粗砂	推定 8.7	11.7		肩部には櫛状工具による押引き刺突文を施す	良好	密（0.5mm以下の石英・長石を僅かに含む）	胴部外面上半：回転ヨコナデ 胴部外面下半：回転ヘラケズリ後、ナデ 内面：回転ヨコナデ	全面：暗灰色	約1/３	出雲大谷４～５期 胴部最大径18.6㎝